令和２年度

ＦＤ活動報告書

埼玉学園大学ＦＤ委員会

令和２年度ＦＤ活動報告書の作成に寄せて

埼玉学園大学ＦＤ委員会では、今後のＦＤ活動の活性化のための基礎資料を整え、「ＦＤ活動報告書」を平成 28 年度以降取りまとめている。

本報告書は、令和２年度のＦＤ活動について記載するとともに、研修会の資料及び学生の授業アンケートに基づく授業改善書を収録している。ＦＤ活動は、授業能力の向上を大きな目標の一つとしており、研究成果を授業に反映させるだけでなく、社会に貢献できる人材の育成、新しい社会問題に対応した大学教育の開発が重要な課題となっている。

令和２年度の研修会においては、「ビジネス教育における実務と学問」についての報告を受け、検討を行った。

これらの資料に授業改善書を加えたＦＤ活動報告書は、膨大なものとなるが、本学のＦＤ活動の記録として保存し、今後のＦＤ活動に活かしていきたい。

ＦＤ委員長　西山　智則

目　　次

１．ＦＤ委員会…………………………………………………… 1
(1)ＦＤ委員会の構成
(2)ＦＤ委員会の開催日及び議題

２．教員の研修会 ………………………………………………… 2
(1)授業に関する研修会

３．学生による授業アンケート………………………………… 2
(1)実施期間
(2)授業改善書

４．令和３年度活動計画………………………………………… 3
(1)教員の講習会・研修会及び研究発表会
(2)ピアレビュー及び授業公開
(3)学生による授業アンケート

＜資料＞
資料 No.01 ………………………… 第１回授業に関する研修会
資料 No.02-1～2 …………………… 学生による授業アンケート(春期)
資料 No.03-1～2 …………………… 学生による授業アンケート(秋期)
資料 No.04 ………………………… 授業改善書(春期)
資料 No.05 ………………………… 授業改善書(秋期)

１．ＦＤ委員会

(1) ＦＤ委員会の構成

・奥山　忠信　（経済経営学科教授、委員長）
・西山　智則　（人間文化学科教授）
・小島　弥生　（人間文化学科准教授）
・古澤　照幸　（心 理 学 科 教 授）
・佐々木　美恵（心 理 学 科 准 教 授）
・三浦　正雄　（子ども発達学科教授）
・杉浦　浩美　（子ども発達学科准教授）
・藤野　好美　（子ども発達学科准教授）
・伊藤　　孝　（経済経営学科教授）
・文　　智彦　（経済経営学科教授）

(2) ＦＤ委員会の開催日及び議題

	開催日	議　題
1	令和２年　４月　８日(水)	【審議事項】 (1)研修会のテーマについて (2)その他 【報告事項】 (1)令和元年度ＦＤ活動報告について (2)その他
2	令和２年　７月　１日(水)	【審議事項】 (1)学生による授業アンケートの実施について (2)その他 【報告事項】 (1)令和元年度活動報告書について (2)その他
3	令和２年 10 月　７日(水)	【審議事項】 (1)第１回授業に関する研修会について (2)その他
4	令和３年　３月　３日(水)	【審議事項】 (1)令和３年度ＦＤ活動について (2)その他

２．教員の研修会

(1)授業に関する研修会

①第 1 回【資料 No.1】
日　時：令和 2 年　11 月　18 日(水)　16:00～17:00
場　所：405 教室
発表者：薄井和夫（経済経営学科教授）
テーマ：「ビジネス教育における実務と学問」
参加者：専任教員 48 名

３．学生による授業アンケート

(1)実施期間

①春期【資料 No.2-1～2】
令和 2 年　7 月 27 日(月)～ 8 月　7 日(金)

②秋期【資料 No.3-1～2】
令和 2 年 12 月　7 日(月)～12 月 18 日(金)

(2)授業改善書

授業アンケートを実施し、各教員に授業改善書の作成(1 科目以上)を依頼している。
提出された改善書は以下の通り。
① 春期：113 科目【資料 No.4】
② 秋期：118 科目【資料 No.5】

４．令和３年度活動計画

(1)教員の講習会・研修会及び研究発表会

①授業に関する研修会

実施日	対　象	内　容
10 月及び 2 月の 2 回予定	専任教員	授業方法の改善について、教員同士の意見交換を行う。

②研究発表会

実施日	対　象	内　容
令和 3 年 10 月 13 日(水)	教員・学生	学内の共同研究費を得た教員が、研究成果を発表する。

(2)ピアレビュー及び授業公開

実施期間	対　象	内　容
令和 3 年　6 月 28 日(月) ～ 7 月　2 日(金)	専任教員 非常勤講師	教員が相互に授業を参観し、授業の改善につなげるようにする。また、保証人に対して授業を公開し、本学の教育に対する関心と理解を深める。
令和 3 年 11 月 29 日(月) ～12 月　3 日(金)		

(3)学生による授業アンケート

＼	実施期間
春期	令和 3 年　7 月　5 日(月)～　7 月 16 日(金)
秋期	令和 3 年 12 月　6 日(月)～ 12 月 17 日(金)

資　料

資料No1

埼玉学園大学FD研修会

ビジネス教育における実務と学問

Agenda

1．大学・大学院レベルでのビジネス教育（ビジネススクール）の歴史的経緯
2．第２次大戦後の普及と日本の特殊性
3．実務と学問 – 体験的社会人大学院生教育 ー

2020年11月18日（水）

経済経営学部　薄井和夫

Agenda 1

経営学とビジネス・スクールの形成

～米・英・独・日における高等商業教育運動の展開～

大学・大学院レベルにおけるビジネス教育は、一般に、

► **1881年設置アメリカのウォートン・スクール（Wharton School of Finance and Economy, University of Pennsylvania）**

が嚆矢とされる

✺ **高等商業教育運動（movement of collegiate education of commerce）**

ほぼ同時期に、イギリス、ドイツ、日本などでも同様の動きが生じていた

► **1901年　Faculty of Commerce, University of Birmingham（B.Com., M.Com.へ接続）**

► **1889年　ドイツのライプチヒ商科大学（Handelshochschule, Leipzig, Sachsen）**

► **1875年　商法講習所　→ 1884年　東京商業学校　→ 1887年　高等商業学校　→ 1902年　東京高等商業学校　→ 1920年　東京商科大学**

【前史】

► 1870年以前のヨーロッパでは、商業高等教育はきわめてマージナルな現象であった（Passant 2016）

► 1919年　パリ高等商業学校（Superior School of Commerce of Paris [École Supérieure de Commerce de Paris] ESCP）

- 著名な経済学者ジャン＝バティスト・セイ（Jean-Baptiste Say）が関与

► 1852年　アントワープ高等商業学校（Superior Institute for Commerce of Antwerp [Institut supérieur de commerce d'Anvers]）（ベルギー）創設

- アントワープ校は、ESCPに比べると「より大学らしい」性格を持っていた(Kaplan p.530).

〔文献〕Kaplan, Andreas (2014), 'European management and European business schools: Insights from the history of business schools', *European Management Journal*, 32, pp.529–534.

Passant, Adrien Jean-Guy (2016), 'Issues in European business education in the mid-nineteenth century: A comparative perspective', *Business History*, 58(7), pp.1118–1145.

アメリカにおけるビジネススクールの歩み

◆ E･D･ジェームズ（Edward D. James）
1883～96年　ウォートン･スクールの初代ディレクター
「私は、アメリカの大学は、未来の法律家、物理学者、エンジニアのプロフェッショナルな教育のために長年とってきたのと同じような態度を、未来の商人、鉄道管理者、保険管理者の高等訓練のために採用すべきであると信じている」（James 1901, pp. 156-157）
James, Edmund J. (1901), 'Relation of the college and university to higher commercial education,' *Publication of the American Economic Association*, 3rd Series, 2 (1), pp. 144-165.

（ドイツ後期歴史学派の影響）

- ジェームズは、ハレ大学の歴史学派の指導者、コンラート（Johannes E. Conrad）の下で博士号を取得した
- ハーバード･ビジネス･スクールのゲイ（Edwin Francis Gay）学部長はベルリン大学の歴史学者シュモラー（Gusutav Schmoller）の下で博士号を取得
- 同大学院のタウシッグ（Frank W. Taussig）もベルリン大学で学んだ
- R･T･イーリィ（Richard T. Ely）･･アメリカにおける「ドイツ歴史学派の最も強力な使徒」。ハイデルベルグ大学でクニース（Karl Knies）に師事して博士号を取得
  - 1885年の「アメリカ経済学会（American Economic Association）」の設立を主導
  - 「レッセ･フェール原理は政治的に危険であり、道徳的に不健全であって、国家と市民の諸関係について適切な説明を示すものではない」

- ●1881年 Wharton School of Finance and Economy, University of Pennsylvania
- ●1898年 College of Commerce and Politics, University of Chicago
  College of Commerce, University of California
- ●1900年 Amos Tuck School of Administration and Finance, Dartmouth College
  Department of Economics and Commerce, University of Vermont
  School of Commerce
  University of Wisconsin School of Commerce
  New York University
- ●1902年 College of Commerce and Business Administration, University of Illinois
- ●1903年 School of Commerce and Finance, James Millikin University
- ●1906年 School of Commerce and Administration, Washington and Lee University
- ●1908年 School of Commerce, Oregon Agricultural College
  Graduate School of Business Administration, Harvard University
  School of Commerce, North-western University
  School of Business Administration, University of Pittsburgh
- ●1909年 School of Commerce, Ohio University
  College of Business Administration, Lehigh University

◆ **1925年初めまでに183以上の大学（universities or colleges）が“business”, “commerce”, “business administration”という名を冠する“departments”, “schools”, “courses” or “divisions”を設置**

イギリス「商学士（B.Com）」の歩み

ドイツ恐怖症（Germanophobia）

「国民能率（national efficiency）」運動

- ドイツ帝国の国内政策が「国民能率という中核概念」に従っているのに対し、イギリスでは「個人の自由という概念」に従っていることへの批判
- 日露戦争における日本の勝利は「古いレッセ・フェール主義に対する集団主義的統制（collective regulation）の勝利」（Searle 1971, p. 57）であると捉えられた

自由主義者
ローズベリー（Archibald Primrose, 5th Earl of Rosebery）、ホールデン（Richard Burdon Haldane）

- **インペリアル・カレッジ**（Imperial College of Science and Technology at South Kensington）設立への勅許状（Royal Charter）

フェビアン協会社会主義者（The Fabian Socialists）
ウェッブ夫妻（Sidney James and Beatrice Webb）

- 1895年　**LSE**（London School of Economics and Political Science）設立
- 1898年　ロンドン大学（University of London）に編入
- 1901年　イギリスの大学初の**経済学士（B.Sc.(Econ)）**

伝統的な自由貿易政策の転換を迫るチェンバレン（Joseph Chamberlain）

- 1875年　メイソン科学カレッジ（Mason Science College）
- 1898年　メイソン・ユニバーシティ・カレッジ（Mason University College）
- 1900年　**バーミンガム大学**（University of Birmingham）
  - **商学部**（Faculty of Commerce）　イギリスで初めて**商学士（B.Com）**
  - バーミン大学商学部初代学部長W・J・アシュリィ（William James Ashley）（1902～1923年）
  - イギリス歴史学派の代表的人物

- **1901年　Faculty of Commerce, University of Birmingham （B.Com、M.Comへと接続可能）**
- 1903年　Faculty of Commerce and Administration, Victoria University of Manchester (University of Manchester)　(Bachelor and Master degrees)
  Commercial Course, Reading University College
- 1904年　University of Leeds
- 1910年　Department of Commerce, University of Liverpool (B.Com.Sc.)
  Faculty of Commerce, Queen's University, Belfast
- 1913年　Commercial Course, Nothingham University College
  Faculty of Commerce, University of Duhram (Armstrong College)
- 1918年　University of Edinburgh (B.Com.)
  Department of Commerce, University of Abadeen (B.Com.)
- 1919年　Southhampton University College… London University の degree（B.Com. B.Sc.（economics））の準備コース
- London School of Economics and Political Science（設立1895年）
  … B.Sc.(economics)に加え、B.Com.の授与を開始
- 1920年　Exeter University College

バーミン大学商学部初代学部長
W・J・アシュリィ（William James Ashley）（1902～1923年）

- イギリス歴史学派の代表的人物
- 社会改良を情熱的に志向した歴史家A・トインビィ（Arnold Toynbee）の薫陶を受け、自身もドイツの歴史学者たちと深い交流を有していた
- 経済学研究の目的は、国家が、平和裏に、秩序ある「社会化された資本主義（socialized capitalism）」へと進んでいくことを指導することにある」と主張する「イギリス講壇社会主義者（the English socialist of the chair）」であった（Koot 1987, p. 102）
- 1891～1901年　アメリカのハーヴァード大学で初の経済史教授を務め、そこで近代産業と高等教育機関の密接な結びつきを知る
- 企業家精神と経営・政府のプロフェッショナルな訓練とが結びつかなければ、来るべきアメリカとの競争でイギリスが後塵を拝するであろうことに危機感を抱き、バーミンガム大学商学部のカリキュラムをデザインした。
- アシュリィは、また、自ら「経済学の拡張（The Enlargement of Economics）」という論稿を執筆し、「経営経済学（business economics）」ないし「商業学（science of commerce）」を確立することを提唱

  戦前わが国で、イギリス経営学の代表として受容された
  - ☞ 論稿「経済学の拡張」は、発表翌年に伊藤述史「商事経営学トハ何ゾヤ」として『国民経済雑誌』に訳出（伊藤 1909）
  - ☞ その著作も、刊行2年後には『アッシュレー経営学』として邦訳が出版された（油谷 1928）
  - ☞ 平井泰太郎「アシュレーの経営学は英国流の経営学としては一つの代表的なものである」（平井（1932）『経営学文献解説』（商学[illegible]ージ）
    参照：平井泰太郎（1936）『アシュリィ経営学概説』（平井泰太郎選経営学名著研究第2冊）、同文舘。

わが国経営学の祖、上田貞次郎はアシュレーのもとで学ぶ（留学）

西沢保『マーシャルと歴史学派の経済思想』岩波書店、2007年

- ◆ バーミンガム大学商学部の試みは、同時代の諸外国（ドイツ、アメリカ、あるいは日本）と比べて、「相対的に『失敗』」であった（西沢 1991, p. 154, 1994, p. 353）
- ◆ バーミンガム大学の実験は、「同時代の諸外国におけるような加速度的な進展をみせなかった」
- ◆ 東京高商の卒業生が、大学に昇格した1920年だけでも238名を数えていたのに対して、バーミンガム大学商学部の卒業生は、1902～1920年の間でわずかに70名足らずであった（西沢 1991, p. 166）。

西沢保（1991）「アシュリィ、マーシャルによる経済学・商学教育の制度化 —— 創設期のバーミンガム大学商学部を中心に —— 」『経済研究』42（2）、4月、153～174ページ；同（1994）「イギリス経済衰退の軌跡 —— 思想と制度の膠直性 —— 」『経済研究』45（4）、10月、343～363ページ。

ドイツにおける商科大学

1895年 「ドイツ商業教育協会」成立

（Deutchsher Verband für kaufmännisches Unterrichtswessen）

商科大学設立運動 → 1889年　ライプチヒ商科大学（Handelshochschule, Leipzig）

リハルト・エーレンベルク (Richard Ehrenberg)の建白書（1987年）

- ドイツの商人には、大経営の管理者になるような人材が不足している
- 国民経済学に対する「私経済学」の必要性を主張
- 後年、私経済学の存立を否定
  ――ドイツ後期歴史学派（講壇社会主義派）から、大企業の利益 の擁護であるとの批判

教授する内容の形成 （いわゆる第一次方法論争）

リントブルム

1866年『国民経済学と私経済学の原理』・・・私経済学の自立を説く
（Lindwurm, Arnold (1866), *Grundzuge der Staat – und Privatwirtshaftslehre*, Braunschweig）

シェーア

1911年『一般商業経営学』
（Schär, J. Freidrich (1911), *Allgemeine Handelsbetriebslehre*, Leipzig）
・・・金儲けの手引きを示すリントブルムらの私経済学を排する
商業を通して社会改良を目指す。倫理的価値判断による合目的性と経済性を追求する商業経営学を国民経済学の一分野とする

ワイヤーマンとシェーニッツ

1912年『科学的私経済学』
・・・シェーアの「後期歴史学派」に対抗し、実証主義的・没価値的理論科学を目指すウェーバーなどに依拠し、技術論を拝し、収益性を追求する企業者を経済人の具体化（理念型）として、私経済学の（理解）科学化を目指す

ブレンターノ

1912年 論文「私経済学と国民経済学」
・・・「後期歴史学派」の立場から社会改良の客観性を主張し、ワイヤーマンらの議論を特殊的・抽象的な議論であると拝し、歴史的・現実的学派を目指すとする

シュマーレンバッハ

1912年 論文「技術論としての私経済学」
・・・認識の自由主義。私経済学の国民経済学からの自立性・独立性を主張
処理規則による経済行動の合目的性と技術論的私経済学の優位性を主張

- 1989年　Handelshochschule, Leipzig, Sachsen
  Kursus für Handelswissenshaften,
  Technische Hochschule, Aachen, Preußen
- 1901年　Handelshochschule, Köln, Preußen
  Handelshochschule, Frankfurt am Main, Preußen
- 1903年　Handelshochschule, Aachen, Preußen
- 1906年　Handelshochschule, Berlin, Preußen
- 1907年　Handelshochschule, Mannheim, Baden
- 1910年　Handelshochschule, München, Bayern
- 1915年　Handelshochschule, Königsberg, Preußen
- 1919年　Handelshochschule, Nürnberg, Bayern

1900年前後ほぼ20年間に、ドイツで９つの商科大学（単科大学）が設立され、オーストリアとスイスをあわせると合計１１の商科大学が誕生

1914年 戦争により論争は中断

ニクリシュ

商科大学も戦争に協力すべき
ドイツの理想主義的精神による価値理念としての「義務感」

ドイツにおける商科大学運動の我が国への影響

1889年　ライプチヒ商科大学（Handelshochschule, Leipzig, Sachsen）

わが国の高等商業教育運動を主導する人物が、ドイツに集結

福田徳三

- 河上肇と並び、国経済学研究の「福田・河上時代」（飯田 1984, pp. 71-73）
- わが国社会政策学会の創始

高商の講師であった1898年からミュンヘン大学に留学し、ブレンターノ（Lujo Brentano）に師事して博士号を取得

関一

1898年　ベルギーのアントワープ高商に留学
1900年　ベルリン大学に転じてワグナー（Adolph Wagner）とシュモラーを聴講

石川文吾

同様に、アントワープからベルリンに転じる

「商業に関する学術を大学程度にて教授し、国民経済に経営者商業界に枢要に立つ可き青年を養成することの必要なる」こと

福田、関、石川を含め、高商出身の8名の研究者
1901年1月、ベルリンで「商科大学設立ノ必要」という宣言（いわゆる「ベルリン宣言」）を発する

- 1989年　Handelshochschule, Leipzig, Sachsen
  Kursus für Handelswissenshaften,
  Technische Hochschule, Aachen, Preußen
- 1901年　Handelshochschule, Köln, Preußen
  Handelshochschule, Frankfurt am Main, Preußen
- 1903年　Handelshochschule, Aachen, Preußen
- 1906年　Handelshochschule, Berlin, Preußen
- 1907年　Handelshochschule, Mannheim, Baden
- 1910年　Handelshochschule, München, Bayern
- 1915年　Handelshochschule, Königsberg, Preußen
- 1919年　Handelshochschule, Nürnberg, Bayern

1900年前後ほぼ20年間に、ドイツで９つの商科大学（単科大学）が設立され、オーストリアとスイスをあわせると合計１１の商科大学が誕生

日本の大学レベルのビジネス教育

■ 1901年（明治34年）　「商科大学設立に関する意見書」
・・・福田徳三、関一、石川巌、石川文吾、神田乃武、
滝本美夫、津村秀松、志田太郎

■ 1901年（明治34年）
佐野善作（視学官）商業大学の必要性を主張

■ 1907年（明治40年)～08年（明治41年）
「商科大学設立の建議」可決（貴族院、衆議院）

■ 1908年（明治41年)～09年（明治42年）
東京高等商業学校「辛酉事件」

文部省東京高商の大学昇格を否定
- 東京帝国大学法科大学に経済・商業2学科を新設、
- 東京高商専攻部を廃止してこの２学科に吸収
- 高商側はこの決定に激しく反発し、学生も総退学の意思を表明
- 東京高商の商議員でもあった渋沢栄一が調停

文部省が折れ、東京高商専攻部は存続が決定

■ 1918年（大正７年）「大学令」
・・・「国家ノ須要ニ応ズル」帝国大学に加え、公私立大学を公認

■ 1919年（大正８年）東京帝国大学経済学部商業学科（法科大学商業学科から分離独立）

■ 1920年（大正９年）東京商科大学（東京高等商業学校から昇格）

☞ 1930年（昭和５年）には、商業・経済・政経関係学部を要する大学は20校（うち国立４校、公立１校）となる

● 1904年（明治37年）大阪市1875年（明治８年）　商法講習所（「小松塾」）開校

● 1884年（明治17年）　東京商業学校（農商務省、商法講習所を直轄下
・・・アントワープ高等商業学校（1851年設立）がモデル
16歳以上（初等中学校卒業程度の学力）

● 1885年（明治18年）東京外国語学校、東京商業学校、合併
第一部　外国語学校附属高等商業学校〔→1886年「高等部」〕
第二部　東京商業学校〔→1886年「普通部」〕
第三部　旧東京外国語学校の課程〔→1886年「語学部」〕

● 1887年（明治20年）東京商業学校を「高等商業学校」へ改称
高等商業学校「専攻部」（１年）設置

● 1901年（明治34年）「商業学士（後に商学士）」の称号を授与

● 1902年（明治35年）高等商業学校を「東京高等商業学校」と改称
神戸高等商業学校設置に伴う措置
☞ 1925年（大正14年）までに、高等商業学校は18校に拡大

● 1907年（明治40年)～08年（明治41年）
「商科大学設立の建議」可決（貴族院、衆議院）

● 1918年（大正７年）「大学令」
・・・「国家ノ須要ニ応ズル」帝国大学に加え、公私立大学を公認

● 1919年（大正８年）東京帝国大学経済学部商業学科
・・・法科大学商業学科から分離独立

● 1920年（大正９年）東京商科大学（東京高等商業学校から昇格）

〔私立〕

◆ 1903（明治 36 ）年「専門学校令」 付則　東京専門学校を早稲田大学と称すること認める
☞ 1918（大正 7）年までに、慶応、法政、中央、明治、日大等29 の専門学校も、大学を自称することを認めた

◆ 1920年（大正９年）　慶應、早稲田が大学令（1919年施行）により大学となる
☞ 以後、大学令による私立大学が成立

1930年（昭和５年）には、商業・経済・政経関係学部を要する大学は20校（うち国立４校、公立１校）となる

20世紀初頭～前半期の大学でのビジネス教育

アメリカ

ビジネススクール
アメリカ経営学、マーケティング論
私的利益を合理的に追求しうる専門経営者・管理者の育成
（弁護士や医師と同様の専門家という位置づけ）

イギリス

B.Com　バーミンガム大学商学部など
- イギリス・ビジネスの家族経営的性格
- 大学と実務は別であるとの風潮が支配

ドイツ

商科大学
- ドイツ経営学、ドイツ商業学
- シェアの商業経営学を期に、第一次方法論争

日本

高等商業学校から大学へ
- ドイツ経営学からの影響
- 商業学か経営学か（論争）
- **「国家有意のビジネスマンの育成」**
  ― 国家利益を重視する「書生派」の優位

20世紀初頭～前半期の大学でのビジネス教育

アメリカ

ビジネススクール
アメリカ経営学、
私的利
（弁護
・管理者の育成
け）

イギリス

が支配

停滞傾向（？）

ドイツ

商業学
経営学を期に、第一次方法論争

日本

専商業学校から大学へ
◆ ドイツ経営学からの影響
◆ 商業学か経営学か（論争）
◆ **「国家有意のビジネスマンの育成」**
― 国家利益を重視する「書生派」の優位

高等教育機関で
私的利益を合理的に追求できる
専門家の育成
↓
最もフィットしたはアメリカ

1893年
実学派（「前垂れ派」）の矢野次郎校長を排斥

Agenda 2

「アメリカの大学は、未来の法律家、物理学者、エンジニアのプロフェッショナルな教育のために長年とってきたのと同じような態度を、未来の商人、鉄道管理者、保険管理者の高等訓練のために採用すべきであると信じている」（James 1901, pp. 156-157）

第２次大戦前

ビジネススクールの形成 → アメリカ経営学 マーケティング論等の形成

第２次大戦後

ヨーロッパに アメリカ型の ビジネススクールが普及

典型的なキャリアパス

大学卒業 → 会社で働く（３～５年） → 退職 → MBAで学ぶ（昼間フルタイム） → キャリアアップ → 条件の良い管理職の仕事

世界の認証評価機関に認証されている日本のMBAはわずか

AACSB（The Association to Advance Collegiate Schools of Business）—— USA
1916年～　870校
- 慶應義塾大学大学院経営管理研究科（KBS）
- 名古屋商科大学大学院（NUCB）
- 立命館アジア太平洋大学経営管理研究科（APU）
- 国際大学国際経営学研究科（IUJ）
- 早稲田大学大学院経営管理研究科（WBS）

QUIS（European Quality Improvement System）—— ベルギー、世界80国800校
- 慶應義塾大学大学院経営管理研究科（KBS）
- 早稲田大学大学院経営管理研究科（WBS）

米・欧比較
- アメリカのMBAは98%修士論文を書かない
  ヨーロッパの多くのMBAは修士論文を書かせる
- アメリカのMBAは原則2年
  ヨーロッパのMBAは1年～15ヶ月
- 学費はアメリカも、ヨーロッパも高い

日本的特徴
- 日本はこのキャリアパスが描けない
  → フルタイムの夜間大学院という世界にも稀な制度

AMBA（the Association of MBAs）—— UK、240校
- 名古屋商科大学大学院（NUCB）

アメリカ上場企業管理者等の最終学歴（1997年）（%）

	人事部長	営業部長	経理部長
PhD取得	14.0	5.4	0.0
大学院修了	**61.6**	**45.6**	**43.9**
4年制大学卒業	35.4	43.5	56.1
4年制大学卒業未満	3.0	9.8	0.0
MBA取得（全体中）	38.4	38.0	40.9

日本の企業役員の最終学歴（従業員500人以上）（2007年）

	比率（人数）
大学院卒	**5.9%（6,200人）**
大卒	61.4%（64,900人）
短大・高専・専門学校	7.4%（7,800人）
高卒	23.6%（24,900人）
中卒	1.7%（1,800人）

（資料）文部科学省
教育再生実行会議「第三次報告書」2013年
https://www.kantei.go.jp/jp/singi/kyouikusaisei/pdf/dai3_1.pdf

修士号取得者数の国際比較(2019年)

国名	修士号取得者数（人）					人口
	年度	計	人文・社会科学	自然科学	その他	（千人）
日本	2008	74,796	15,983	48,298	10,515	128,084
	2016	72,256	**14,380**	48,187	9,689	126,933
米国	2008	662,082	314,663	151,588	195,831	304,543
	2016	804,684	**360,329**	273,879	170,476	323,668
ドイツ	2008	161,619	66,778	54,439	40,402	80,764
	2016	202,984	**71,448**	82,309	49,227	82,349
フランス	2008	100,012	67,951	30,873	1,188	64,361
	2016	138,268	**95,246**	40,930	2,092	66,721
英国	2008	186,900	91,600	56,400	38,900	61,824
	2016	242,475	**115,615**	80,430	46,370	65,648
韓国	2008	72,924	31,241	22,570	19,113	49,055
	2017	83,519	**39,649**	27,856	16,014	51,446
中国	2008	298,937	-			1,328,020
	2016	505,421	-			1,382,710

（資料）科学技術・学術政策研究所
https://www.nistep.go.jp/sti_indicator/2019/RM283_35.html#:~:text=%E4%B8%BB%E8%A6%81%E5%9B%BD%E3%81%AE%E4%BF%AE%E5%A3%AB%E5%8F%B7,%E3%81%A7366%E4%BA%BA%E3%81%A7%E3%81%82%E3%82%8B%E3%80%82

Agenda 3

実務と学問 ～体験からみる社会人大学院教育～

典型的なキャリアパス

大学卒業 → 会社で働く（3～5年） → 退職 → 昼間フルタイム MBAで学ぶ → キャリアアップ → 条件の良い管理職の仕事

米・欧比較

- アメリカのMBAは98%修士論文を書かない
  ヨーロッパの多くのMBAは修士論文を書かせる
- アメリカのMBAは原則2年
  ヨーロッパのMBAは1年～15ヶ月
- 学費はアメリカも、ヨーロッパも高い

日本的特徴

- 日本はこのキャリアパスが描けない
  → フルタイムの夜間大学院という世界にも稀な制度

社会人大学院教育体験から見るターゲットとなる学生層の違い

（Aタイプ）税理士などの資格を狙う学生
（Bタイプ）これからキャリアアップを目指す比較的若い学生
　　── コンサルタント的な話もありがたく聞く学生
（Cタイプ）ある程度仕事の実績があり、自分で考えることを好む学生（仕事のヒント、キャリアの変更）
　　── コンサルタント的な話は仕事で聞く機会が多く、大学にはそれとは異なるタイプの知識を求める学生
（Dタイプ）定年間際または定年後で、自分の行ってきたことを「合理化」するための理論を求める学生

- ► コンサルタント的言説の批判
- ► 実務界でも流布している通説の批判的検討

反対説

Suchman, Lucy (1987), *Plans and Situated Actions: The Problem of Human-Machine Communication*, NY: Cambridge University Press. サッチマン著、佐伯胖監訳『プラントと状況的行為』産業図書、1999年

ルーシー・サッチマン
ゼロックス社パルアルト研究所（Xerox Palo Alto Research Center）の文化字類学者
ゼロックスのマニュアルに関する観察研究

■ 人間行為の「プランニング・モデル」への批判
- ▶ プランニング・モデル —— プランが人間の頭の中にあり、それが、人間の行動を方向付けているとする考え方

■ 「状況的行為（situated action）」概念の提唱
- ▶ すべての行為は、本質的に、物質的・社会的な周辺環境に依存している
- ▶ 行為は、本質的に状況に埋め込まれたものであり、その都度なされるものであり、即興的なものである
- ▶ 行為は、働きかける対象の状態によってきまる。次に何をなすべきかは、その都度ごとに、対象の状態に応じて具体的に決まってくる

（サッチマン）急流のカヌー下りの例

- ❖ プランは、状況的行為のためのリソース（資源）である
- ❖ プラン自体は、行為の実際のコースを決定もしなければ、説明もしない
- ❖ プランは「行為をもっともらしく説明する先行条件」と、「行為の結果の形式化」にすぎない
- ❖ 人は、望ましいように見える出来事の状態に出会った後で、それ以前の行為を、回想的に、「その間中ずっと」、あるいは「結局のところ」、そのプラン＝ゴールに向かっていたのだということを、事後的（post hoc）に跡づけるだけである

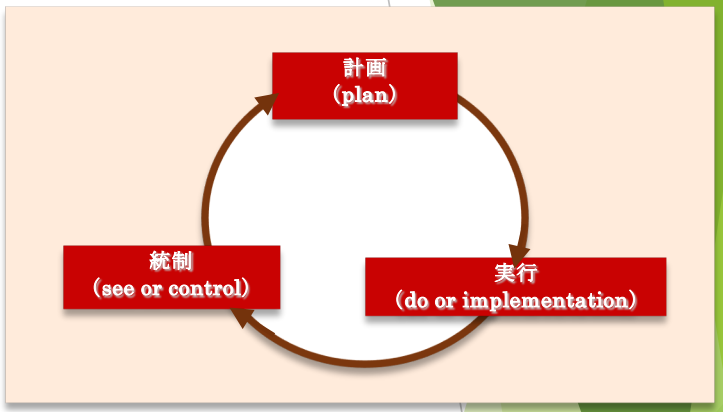
行為（実践）は即興に満ちている

通説：管理の概念

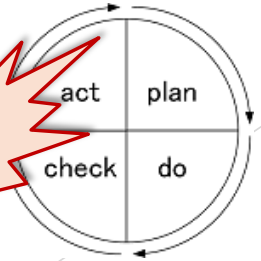
Case 1

管理過程学派に基づく考え方

管理サイクル論・・1920～30年代に展開



PDCAサイクル
・・1950年代デミング（日科技連）による普及
- シューハート（Walter Andrew Shewhart）・・1930年代
- デミング（William Edwards Deming）



- Plan （計画）
- Do （実施・実行）
- Check （点検・評価）
- Act （処置・改善）

× PDSAサイクル（plan-do-study-act cycle）

いわゆるナレッジマネジメント（knowledge management）

Case 2

＊ ナレッジマネジメント（知識経営学）で世界をリードしたのは、野中郁次郎氏を中心とする研究グループであった

- Nonaka, Ikujiro (1991), 'The knowledge-creating company', *Harvard Business Review*, Nov-Dec.: 96-104.
- _____ (1994), 'A dynamic theory of organizational knowledge creation', *Organizational Science*, 5 (1): 14-37.
- _____ and Takeuchi, H. (1995), *The Knowledge Creation Company*, Oxford: Oxford University Press.
- _____ and Kono, N. (1998), 'The concept of "Ba": building a foundation for knowledge creation', *California Management Review*, 40 (3): 14-37.

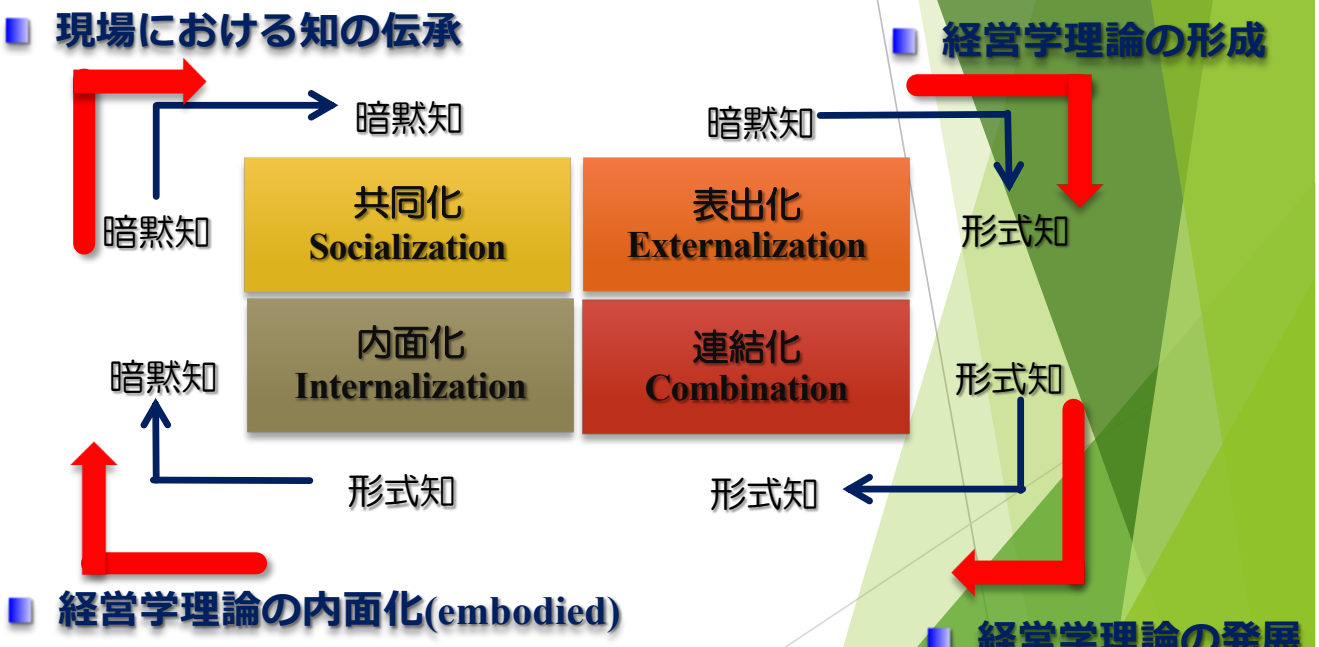
理論の特徴

- 「暗黙知（tacit knowledge）」概念への着目
- 「形式知（explicit knowledge）」と「暗黙知」の峻別

Michael Polanyi, *The Tacit Dimension*, 1966, Reprint, 1983, p. 4.

「我々は語ることができる以上のことを知ることができる」（We can know more than we can tell.）

野中氏による著名な「SECI（セキ）モデル」



反対説

- 英語文献には、野中批判はかなり存在する

[Ex]
Hislop, Donald (2009), *Knowledge Management in Organizations: A Critical Introduction* 2nd ed., Oxford: Oxford University Press.

知の認識論（epistemology of knowledge）

知識の客観主義的理解	知識の実践論的理解
知識は客観的である	知識は実践に埋め込まれている
暗黙知は形式知に転換しうる	暗黙知と形式知は分離不能である
知識は客体ないし実在へと分離しうる	知識は人々に体現される
知識は伝達可能である	知識は文化的に埋め込まれている

暗黙知はどのようにして共同化できるのか？

暗黙知はすべて形式知化できるのか？
暗黙知として残る部分はないのか？

野中氏による著名な「SECI（セキ）モデル」

- SECIサイクルは本当に回るのか？
- 暗黙知、形式知の理解の仕方への疑問

社会理論の実践論的転回（The practice turn）

Schatzki, T. R., Cetina, K. K. and Von Savigny, E. eds.(2001), *The Practice Turn in Contemporary Theory*, London and New York: Routledge.

Såklén, P. and Hackley, C. (2011), “Marketing-as-practice: introduction to the special issue”, *Scandinavian Journal of Management*, 27, pp. 189–195.

実践理論に直接関連する理論資源

①ピエール・ブルデュー（Pierre Bourdieu）、アンソニー・ギデンス（Anthony Giddens）、ミシェル・フーコー（Michel Foucault）、ミシェル・ド・セルトー（Michel de Certeau）などの社会理論
②状況的学習論（situated learning）
③センスメーキング（sensemaking）
④アクター・ネットワーク論（actor-network theory, ANT）
⑤活動理論（activity theory）エンゲストローム（Yrjö Engeström）

実践の社会理論家たちは・・・**ローカルな活動（local activity）**と**大きな構造（large structures）**との相互依存性に関心を当てる

（１）巨大で画期的な活動だけでなく、微細でルーティンな活動も含むあらゆる種類の活動への関心

（２）こうした活動を、社会的実践の場 ── 人間の行為者は、そこで、広い社会に関する共通理解や、スキル、言語、技術を利用する ── の内部で捉える

（Johnson, G., Langley, A., Melin, L. and Whittington, R. (2007), Strategy as Practice: Research Directions and Resources, Cambridge: University of Cambridge Press, pp. 35. 邦訳、40ページ）

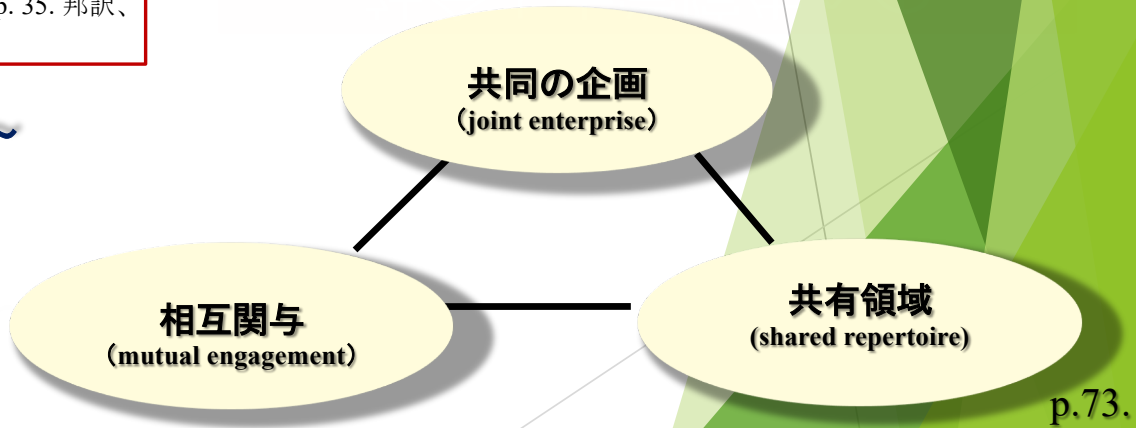
社会人大学院生への「現場」の質的分析の勧め

経営・マーケティングの現場の実践論的分析

～分析の一手がかりとしての「実践コミュニティ」概念～
（communities of practice）

- われわれは社会的存在である（p. 4 ）
- 実践の概念は、実行（doing）を示唆するが、それだけではない。・・・実践とは、つまるところ、我々が世界を経験し、意味あるものとして世界に関与するプロセスである（pp. 47 and 51）

実践コミュニティの３側面



p.73.

Wenger, Etienne (1998), *Communities of Practice: Learning, Meaning, and Identity*, Cambridge and NY: Cambridge University Press.

小結

Teaching method targeting the Type 3 adult graduate students

ターゲットとなる学生層の違い

（Aタイプ）税理士などの資格を狙う学生

（Bタイプ）これからキャリアアップを目指す比較的若い学生

—— コンサルタント的な話もありがたく聞く学生

（Cタイプ）ある程度仕事の実績があり、自分で考えることを好む学生（仕事のヒント、キャリアの変更）

—— コンサルタント的な話は仕事で聞く機会が多く、大学にはそれとは異なるタイプの知識を求める学生

（Dタイプ）定年間際または定年後で、自分の行ってきたことを「合理化」するための理論を求める学生

❖ 手がかりとしての「クリティカル」

► 英国、北欧における Critical management, Critical marketing 潮流の隆盛

〔社会人DCの事例〕

❖ 通説、コンサルタント的言説の批判

► SPA（speciality store retailer of private label apparel）を「製造小売」と一般化して良いのか SPAであればうまくいくというのは安易ではないか

► 価値共創とは、文脈価値とは

❖ 曖昧な概念（新しい概念）の明確化

► ツーリズム・マーケティング（tourism marketing）とディスティネーション・マーケティング（destination marketing）との違い

► LCC（Low Cost Carriers）とは何か

❖ 経営・マーケティング現場の質的分析

► 開業助産院の現場と暗黙知、ナレッジマネジメント

► 経営理念の現場での伝達方法（コミュニケーションの関連性理論と実践コミュニティ）

資料No2-1

令和２年７月 17 日

教員　各位

埼 玉 学 園 大 学
ＦＤ委員長　奥山　忠信

令和２年度春期　学生による授業アンケートの実施について

令和２年度 FD 活動の一環として、教員の授業内容の自己点検と教授力の向上の為に春期受講学生による授業アンケートを下記の要領にて実施いたします。今後、本アンケートを先生方の授業の向上にお役立てください。

記

１．実施期間
令和２年７月 27 日（月）～８月７日（金）

２．実施・回収
（1）「授業アンケートの回答方法について」をもとに、インターネットの検索またはＱＲコードにて所定のページにアクセスし、授業アンケートに回答するよう指示をお願い致します。
※メール等で事前に教務課より周知致します。
※用紙での回答を希望する学生にはアンケート用紙を配付、アンケートを回収袋に直接入れさせ、学生にテープで封をさせて下さい。ただし、エラー等があった場合を除き、全員分を用紙で実施することはできません。（アンケート用紙及び回収袋は教室に設置させていただきます。）
（2）アンケート実施後、「授業アンケート完了報告書」に実施日・科目名・授業担当者名・出席者数を必ず記入のうえ、担当教員が教務課にお持ち下さい。（アンケート用紙で実施の学生がいた場合は、アンケート回収袋もご提出をお願い致します。）

３．注意点
（1）原則として、すべての授業科目で実施をお願い致します。
ただし、演習科目及び実際の出席者が 10 名以下の講義科目においてはアンケートを実施しなくても構いません。
（2）実際の出席者が１名の場合は、アンケートを実施しないようにして下さい。

４．授業改善書の執筆
授業アンケートの集計結果を配布しますので「授業改善書」を作成し、教務課に提出して下さい。なお、その内容は報告書として取りまとめ、公表致します。

以上

別紙1

令和２年７月 22 日

学生各位

授業アンケートの回答方法について

授業アンケート期間：７月 27 日（月）～８月７日（金）
利用システム：Office365 Forms

《回答の手順》

・ホームページを検索する方法

① 各自のスマートフォンまたは携帯電話のインターネット検索で「埼玉学園大学」と検索し本学のホームページにアクセスする。

↓

②「ニュース&トピックス」内にある『令和２年度春期授業アンケートの実施について』にアクセスする。

↓

③「アンケートはこちら」をクリック

↓

・QR コードを用いた方法

① 以下のQRコードまたはURLからアクセスする。

https://forms.office.com/Pages/ResponsePage.aspx?id=Zn6ZC8gm6EaJSeC7QvXtHidbvd2XHjNApxMZ8PNdM5NUNDBHOVJLVVJJOU5VU1FGU0VBS1M0U0RMRS4u

↓

②「アンケートはこちら」をクリック

↓

アンケートに回答する。全ての項目のアンケートの回答が終わったら、送信ボタンを押し、「ありがとうございます。回答が送信されました。」と画面に表示されれば終了です。

※このページをブックマークしておくと、次回も再度利用出来ます。
※スマートフォン等を所持しておらず、用紙での回答を希望の学生は担当教員に申し出て下さい。
※授業アンケートの実施状況が悪かった場合は、もう一度実施することになりますので、必ず回答するようにしてください。
※このアンケートは、匿名で行われますので、個人が特定されることはありません。

教務課長　冨沢雄太

別紙2

授業アンケート完了報告書

授業アンケート下記のとおり、実施したことを報告します。

記

実　施　日	令和２年　　月　　日（　　曜日　　時限）
科　目　名	
授業担当者	
出 席 者 数	
用紙で回答した人数	
備　　考	

以　上

別紙3

令和2年度春期　授業についてのアンケート

月　　日（　曜日）　時限実施

科目名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

☆授業改善のために積極的にご協力ください。記入によって成績評価が影響されることはありません。

☆以下の各項目について、あなたにあてはまる箇所の〇を黒く塗りつぶして下さい。

	よくした	ややした	どちらとも言えない	あまりしなかった	まったくしなかった
例）ある項目内容について「ややした」と思う場合・・・・・・・・・・・・	○	●	○	○	○
◇この授業に対するあなたの学習態度を評価して下さい。					
1. 出席や課題提出等はしましたか ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	○	○	○	○	○
2. 授業外学習(予習や復習など)をしましたか ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	○	○	○	○	○
3. 質問や発言をしましたか ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	○	○	○	○	○

	強くそう思う	ややそう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	まったくそう思わない
◇この授業について評価して下さい					
Ⅰ授業内容について 1. 授業内容に興味や関心を持ちましたか ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	○	○	○	○	○
2. シラバスに提示されていた内容、進度と一致していましたか ・・・・・・・・・・・・	○	○	○	○	○
3. テキストなどの資料は適切でしたか ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	○	○	○	○	○
Ⅱ授業方法について 1. 授業の方法や資料はわかりやすかったですか ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	○	○	○	○	○
2. 毎回の授業でテーマは明確に示されましたか ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	○	○	○	○	○
3. 毎回の授業は適切な内容や量でしたか ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	○	○	○	○	○
4. 学生からの質問などにきちんと対応しましたか ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	○	○	○	○	○
5. 授業を円滑に進めるための配慮はなされていましたか ・・・・・・・・・・・・・・・・・	○	○	○	○	○
Ⅲ授業満足度について 1. 授業の内容はあなたにとって得るところのあるものでしたか ・・・・・・・・・・・・	○	○	○	○	○
2. 全体的に振り返って、授業に満足できましたか ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	○	○	○	○	○

◇上記の回答以外に、この授業について意見（よい点・改善すべき点・得たもの）があれば、書いてください。
なお、意見は、授業改善に役立つことを書き、教員個人に関する非難・中傷を書かないようにしてください。

資料No2-2

令和２年９月 15 日

教員　各位

埼 玉 学 園 大 学
ＦＤ委員長　奥山　忠信

令和２年度春期授業アンケート集計結果の配布及び授業改善書作成について（お願い）

令和２年度春期授業アンケートの集計が終了致しました。
ご多忙のところ恐縮ですが、集計結果をご参照のうえ、授業改善書の作成をお願い致します。
なお、授業改善書は下記の要領で作成いただき、10 月２日（金）17 時までに教務課にメールでご返送くださいますようお願い致します。

記

１．複数の授業をご担当の場合も、その中から一教科以上を選択し、授業改善書を作成してください。
なお、記入は添付の書式のサイズ１枚に収まるようお願い致します。

２．作成いただいた授業改善書は、メールに添付して教務課にお送りください。
（教務課メールアドレス：kyomu@saigaku.ac.jp）

３．集計結果の「学生による主な意見」欄の記述について
学生の自由記述が多数あった場合は、意見が多かったコメントや改善につながると思われるコメントを選択し掲載しております。

４．授業改善書は、よりよい授業を学生に聞いてもらうという観点から、お書きいただくようお願い致します。また、備品の不備等につきましては、改善書にはお書きにならず、大学事務局までご連絡ください。

以上

別紙1

授業改善書

科目名	
担当者	

授業の概要

授業の問題点

学生の授業満足度

授業改善の課題と方策

その他

資料No3-1

令和２年 12 月１日

教員　各位

埼 玉 学 園 大 学
ＦＤ委員長　奥山　忠信

令和２年度秋期　学生による授業アンケートの実施について

令和２年度 FD 活動の一環として、教員の授業内容の自己点検と教授力の向上の為に秋期受講学生による授業アンケートを下記の要領にて実施いたします。今後、本アンケートを先生方の授業の向上にお役立てください。

記

１．実施期間

令和２年 12 月７日（月）～12 月 18 日（金）

２．実施・回収

（１）「授業アンケートの回答方法について」をもとに、インターネットの検索またはＱＲコードにて所定のページにアクセスし、授業アンケートに回答するよう指示をお願い致します。

※メール等で事前に教務課より周知致します。

※用紙での回答を希望する学生にはアンケート用紙を配付、アンケートを回収袋に直接入れさせ、学生にテープで封をさせて下さい。ただし、エラー等があった場合を除き、全員分を用紙で実施することはできません。（アンケート用紙及び回収袋は教室に設置させていただきます。）

（２）アンケート実施後、「授業アンケート完了報告書」に実施日・科目名・授業担当者名・出席者数を必ず記入のうえ、教務課にご提出ください。アンケート用紙で実施の学生がいた場合は、アンケート回収袋もご提出をお願い致します。（授業アンケート完了報告書は、事前にメールにて送付いたします。）

３．注意点

（１）原則として、すべての授業科目で実施をお願い致します。
ただし、演習科目及び実際の出席者が 10 名以下の講義科目においてはアンケートを実施しなくても構いません。

（２）実際の出席者が１名の場合は、アンケートを実施しないようにして下さい。

４．授業改善書の執筆

授業アンケートの集計結果を配布しますので「授業改善書」を作成し、教務課に提出して下さい。なお、その内容は報告書として取りまとめ、公表致します。

以上

別紙1

令和２年 12 月４日

学生各位

授業アンケートの回答方法について

授業アンケート期間：12 月７日（月）～12 月 18 日（金）
利用システム：Office365 Forms

《回答の手順》

・ホームページを検索する方法

① 各自のスマートフォンまたは携帯電話のインターネット検索で「埼玉学園大学」と検索し本学のホームページにアクセスする。

↓

②「ニュース&トピックス」内にある『令和２年度秋期授業アンケートの実施について』にアクセスする。

↓

③「アンケートはこちら」をクリック

↓

・QR コードを用いた方法

① 以下のQR コードまたはURL からアクセスする。

https://forms.office.com/Pages/ResponsePage.aspx?id=Zn6ZC8gm6EaJSeC7QvXtHidbvd2XHjNApxMZ8PNdM5NUMTY4Q0dIOVpSVjNNT05GUUVIVEk0RUs5Ti4u

↓

②「アンケートはこちら」をクリック

↓

アンケートに回答する。全ての項目のアンケートの回答が終わったら、送信ボタンを押し、「ありがとうございます。回答が送信されました。」と画面に表示されれば終了です。

※スマートフォン等を所持しておらず、用紙での回答を希望の学生は担当教員に申し出て下さい。
※授業アンケートの実施状況が悪かった場合は、もう一度実施することになりますので、必ず回答するようにしてください。
※このアンケートは、匿名で行われますので、個人が特定されることはありません。

教務課長　冨沢雄太

別紙2

授業アンケート完了報告書

授業アンケート下記のとおり、実施したことを報告します。

記

実　施　日	令和２年　　月　　日（　　曜日　　時限）
科　目　名	
授業担当者	
出 席 者 数	
用紙で回答した人数	
備　　考	

以　上

令和2年度秋期　授業についてのアンケート

別紙3

月　　日（　曜日）　時限実施

科目名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

☆授業改善のために積極的にご協力ください。記入によって成績評価が影響されることはありません。

☆以下の各項目について、あなたにあてはまる箇所の〇を黒く塗りつぶして下さい。

	よくした	ややした	どちらとも言えない	あまりしなかった	まったくしなかった
例）ある項目内容について「ややした」と思う場合・・・・・・・・・・・・	○	●	○	○	○
◇この授業に対するあなたの学習態度を評価して下さい。					
1. 出席や課題提出等はしましたか ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	○	○	○	○	○
2. 授業外学習(予習や復習など)をしましたか ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	○	○	○	○	○
3. 質問や発言をしましたか ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	○	○	○	○	○
4. ノートやメモ等を取りましたか ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	○	○	○	○	○

	強くそう思う	ややそう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	まったくそう思わない
◇この授業について評価して下さい					
Ⅰ 授業内容について 1. 授業内容に興味や関心を持ちましたか ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	○	○	○	○	○
2. シラバスに提示されていた内容、進度と一致していましたか ・・・・・・・・・・・・	○	○	○	○	○
3. テキストなどの資料は適切でしたか ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	○	○	○	○	○
Ⅱ 授業方法について 1. 授業の方法や資料はわかりやすかったですか ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	○	○	○	○	○
2. 毎回の授業でテーマは明確に示されましたか ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	○	○	○	○	○
3. 毎回の授業は適切な内容や量でしたか ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	○	○	○	○	○
4. 学生からの質問などにきちんと対応しましたか ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	○	○	○	○	○
5. 授業を円滑に進めるための配慮はなされていましたか ・・・・・・・・・・・・・・・・	○	○	○	○	○
Ⅲ 授業満足度について 1. 授業の内容はあなたにとって得るところのあるものでしたか ・・・・・・・・・・・・	○	○	○	○	○
2. 全体的に振り返って、授業に満足できましたか ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	○	○	○	○	○

◇上記の回答以外に、この授業について意見（よい点・改善すべき点・得たもの）があれば、書いてください。

なお、意見は、授業改善に役立つことを書き、教員個人に関する非難・中傷を書かないようにしてください。

資料No3-2

令和３年２月２日

教員　各位

埼 玉 学 園 大 学
ＦＤ委員長　奥山　忠信

令和２年度秋期授業アンケート集計結果の配布及び授業改善書作成について（お願い）

令和２年度秋期授業アンケートの集計が終了致しました。
ご多忙のところ恐縮ですが、集計結果をご参照のうえ、授業改善書の作成をお願い致します。
なお、授業改善書は下記の要領で作成いただき、２月 19 日（金）17 時までに教務課にメールでご返送くださいますようお願い致します。

記

１．複数の授業をご担当の場合も、その中から一教科以上を選択し、授業改善書を作成してください。
なお、記入は添付の書式のサイズ１枚に収まるようお願い致します。

２．作成いただいた授業改善書は、メールに添付して教務課にお送りください。
（教務課メールアドレス：kyomu@saigaku.ac.jp）

３．集計結果の「学生による主な意見」欄の記述について
学生の自由記述が多数あった場合は、意見が多かったコメントや改善につながると思われるコメントを選択し掲載しております。

４．授業改善書は、よりよい授業を学生に聞いてもらうという観点から、お書きいただくようお願い致します。また、備品の不備等につきましては、改善書にはお書きにならず、大学事務局までご連絡ください。

以上

授業改善書

別紙1

科目名	
担当者	

授業の概要

授業の問題点

学生の授業満足度

授業改善の課題と方策

その他

資料No4

授業改善書（春期）

目　次

専任教員

人間学部

人間文化学科・・・・・Ｐ　1～Ｐ12

心理学科・・・・・・・Ｐ13～Ｐ24

子ども発達学科・・・・Ｐ25～Ｐ45

経済経営学部

経済経営学科・・・・・Ｐ46～Ｐ61

非常勤講師

人間学部・・・・・・・・・Ｐ　62～Ｐ107

経済経営学部・・・・・・・Ｐ108～Ｐ120

専任教員

人間学部　人間文化学科

授業改善書

科目名	西洋史学入門
担当者	伊藤　栄晃

授業の概要

本講義は、歴史を叙述・研究し学ぶ営みが西洋でどのようにして生まれ育まれてきたかを、古代地中海世界の戦争の記述から始め、現代英仏の「社会史」研究の最先端にいたるまでの歴史を概説する。西洋の歴史学・歴史叙述の最大の特徴は、過去を描くことにどのような意味があるのか、そして過去をどのように描くかという問題に常に真剣に取り組んできたことにある。本講義ではこの歴史哲学上の問題を、第一に歴史観という思想の問題として、第二に歴史叙述のスタイルや歴史調査研究方法という技術の問題として、講じる。加えて史料の取り扱いや歴史事実の批判的検証などの技術的課題に研究者がどのように取り組んできたかという問題にも触れる。時代背景としての現実の歴史過程の紹介も、可能な限り実施する。

授業の問題点

アンケートからは、①予習復習（授業外学習）の実施ならびに②授業内での質問や発問の実施の 2 項目のポイントがともに 3 台と比較的低めであり、ここに課題があるといえる。

学生の授業満足度

上記 2 項目以外の諸項目のポイントは、すべて 4 ポイント台をキープできた。これは、受講生から比較的高い評価を得ていると見てよい。高校を卒業したばかりの 1 年生は特に歴史というものを、単に事項の暗記と見る傾向が強いが、本来歴史はそのようなものではなく、人間の根源的認識ツールであることを、時代を追って順に説いてゆくスタイルが、評価されたものと思われる。

授業改善の課題と方策

上記の評価に基づき、来期授業についても基本的な授業コンセプトはこのまま更に深めてゆくのが良いと思われる。また上記の 2 点については、双方向の授業スタイルを、受講生が多い全学共通科目で、しかもオンライン授業を通してどのように確立するかという問題への取り組みが必要である。オンライン教材のさらなる拡充とともに、基本的には授業で取り上げる項目の優先順位を更に明確にし、絞り込むことが肝要である。

その他

学期末提出の必須レポート課題は、必須レポート課題は、受講生にはやや負担と思われるが、結果としてはレポート提出ができた受講者のほとんどが合格できているという実績からすれば、その学習効果は明らかであり、今後も継続してゆく。ただし課題文献の選択や、文献資料以外の選択の可能性についても今後は考慮する。

授業改善書

科目名	教育心理学　（人間文化学科）
担当者	尾形　和男

授業の概要

教育場面において必要とされる教育心理学の理論と実際の問題の見方・対応について学ぶことを目的とする。 そのために，学校生活に関わる次のテーマについて取り上げる。子どもの発達的理解，効果的な学習指導法と 授業の展開，教師のリーダーシップとクラス経営，学習の評価，学校・家庭・地域の連携の在り方などである。 さらに，日本の教育が抱える教師の精神保健の問題についても考える。

授業の問題点

今回の講義は、新型コロナウィルス対策の中で行われ、オンラインと対面授業の並行であり、1 クラスを 2 グループに分けオンラインと対面の交互の進行で進めた。2 グループともに同じ内容になるように配慮することに努めた。しかし、オンラインで終了する場合と対面で終了する場合とがあり、伝えたいことが徹底しているかどうか疑問であった。今後、同様の方式で進行する場合、オンラインを予習、対面式は内容を深める授業にするなどの工夫が必要と考える。

学生の授業満足度

全体として、授業方法と授業満足度は高いと思われるものの、資料のわかりやすさ、学生からの質問に対する教員の対応の項目が相対的に低く、今後の課題として指摘できる。

また、満足度に関しては内容に得るところがあるといことよりも、授業に満足できたとする方が高く予想と反していた。

授業改善の課題と方策

授業の問題点、学生の満足でも触れたように、満足感をより高めることを心掛けたい。そのために、授業内容についての再検討求められると考える。具体的な対応の一つとして、授業内の学生のコメントを何度か入れる必要性があり、学生の感じていること、希望していることなどをより詳細に把握し、授業の進め方に取り入れていくことが求められると考える。また、資料の多くは PP によるものであり、内容が理解できるように工夫した図の構成なども含めて改善する必要があると考える。

その他

今回の特別な授業進行について、できるだけ同じ内容になるように、また内容が対面式に比較してオンラインが浅くならないように努めたが、オンラインの方が良いとする学生も見られた。授業の方式の在り方の好みが学生によっては異なるのであるが、時と場合によっては、オンラインの特性を生かした授業の良さも検討してみたい。

授業改善書

科目名	教育心理学　（子ども発達学科）
担当者	尾形　和男

授業の概要

教育心理学の意義・目的，内容・領域について概観すると同時に，教育・保育に関わる，子どもの発達，子 どもが主体的に取り組める授業・保育の展開，教師・保育士のリーダーシップ，学習の評価，障害児の理解と 支援について学ぶ。また，家庭との連携による子どもの成長・発達も考える。

授業の問題点

今回の講義は、新型コロナウィルス対策の中で行われ、オンラインと対面授業の並行であり、1 クラスを 2 グループに分けオンラインと対面の交互の進行で進めた。2 グループともに同じ内容になるように配慮することに努めた。しかし、オンラインで終了する場合と対面で終了する場合とがあり、伝えたいことが徹底しているかどうか疑問であった。今後、同様の方式で進行する場合、オンラインを予習、対面式は内容を深める授業にするなどの工夫が必要と考える。

2 クラスの授業で同じ内容になるように伝えたが、グラスによっては反応が異なり、「毎回の授業は適切な内容や量でしたか」については少し差異が見られた。

学生の授業満足度

授業全体に対する満足度については、得るところがあるとする評価が全体を振り返って授業に満足できた、という指摘よりも高いことが示されている。授業の内容としての評価がある程度得られているものの、満足感が若干低く今後の課題として残されたと考える。

授業改善の課題と方策

授業の問題点、学生の満足でも触れたように、満足感をより高めることを心掛けたい。そのために、授業内容の量の再検討と、進め方について工夫をする必要があると考える。具体的な対応の一つとして、授業内の学生のコメントを何度か入れる必要性があり、学生の感じていること、希望していることなどをより詳細に把握し、授業の進め方に取り入れていくことが求められると考える。

その他

今回の特別な授業進行について、できるだけ同じ内容になるように、また内容が対面式に比較してオンラインが浅くならないように努めたが、オンラインの方が良いとする学生も見られた。授業の方式の在り方の好みが学生によっては異なるのであるが、時と場合によっては、オンラインの特性を生かした授業の良さも検討してみたい。

授業改善書

科目名	**英語Ⅱ(心理学科)**
担当者	**現影秀昭**

授業の概要

キャンパスライフで使う英語の語彙と表現を学習することによって、英語力の構造を目指します。自己紹介、クラブ活動、学食、アルバイトなど、大学生の日常生活を舞台にした会話、文章の理解、その理解を促す文法を学ぶことによって、英語の総合的な運用力を高めます。

授業の問題点

心理学科の学生のための英語の試みでした。授業の内容に興味や関心を持ちましたかという問いかけにたいして 3.52 ポイントでした。
授業の内容はあなたにとって得るところのあるものでしたかという問いかけにたいしては 3.76 ポイントでした。
授業内容に興味や関心を持ちましたかという問いかけにたいしては 3.52 ポイントでした。学生からの質問にきちんと対応しましたかという問いにたいしては 3.80 ポイントでした。

学生の授業満足度

学生からは基礎からしっかり教えてくれて、発音の仕方なども教えてくれてとてもためになりましたという意見もあり、全体的に振り返って、授業に満足できましたかというアンケート項目についての回答は 3.88 ポイントでした。授業の方法や資料はわかりやすかったですかと言うアンケート項目についての回答は 4.00 でした。またノートやメモ等をとりましたかというアンケート項目についての回答は 4.36 でした。以上のことから、学生の授業満足度はあったと思います。

授業改善の課題と方策

授業外の学習、たとえば、予習や復習などをしましたかという問いかけにたいして 3.18 ポイントでした。この課題に対しては、適切な分量の宿題をだしたり、提出物や調べものをしてもらうことが必要になると思いました。適切な分量と動機づけも必要です。テキストなどの資料は適切でしたかという問いかけに対しては 4.48 ポイントでした。毎回、心理学の単語をテストし、授業の初めに学生を指名して前回の復習しています。しかしテキストの練習問題や本文の訳などを事前に(グループで)調べてもらってきて、授業のときに発表してもらうというようなアクティビティーを行う方策が考えられます。

その他

授業中は、なるべく誰もが意見や質問を出しやすい雰囲気を作るように努力していますが、今後も学生に対する質問などをうまく使って、学生にいろいろな意見や質問をだしてもらうように今後も努めていきたいと思います。毎回の授業は適切な内容や量でしたかという問いかけにたいしては 3.96 ポイントでした。これについては、90 分の授業をいくつかのセグメントに区切って、複数のアクティビティーやエクササイズ、練習問題などを適切な時間配分でおこなうということを今後も心がけていきたいと思います。ただ内容により時間配分を工夫しないと難しいのですが。学生は素直で授業中も私語はなくやりやすいのですが、むしろ元気に教科書を音読する学生を励まし増やしていければと思います。最後の課題プリントの問題数に対して時間をもう少しとる必要を感じました。

授業改善書

科目名	日本史資料講読（近現代）
担当者	福島良一

授業の概要

本講義では、明治の代表的啓蒙思想家であった福沢諭吉の教育論に関するいくつかの論説を読んでいった。福沢は、日本が封建制から近代国家へと転換するなかで、日本の教育はどうあるべきかを説きつつ、人類の幸福の実現という観点から、独立した個人が主体的に学ぶことの重要性を説いた。こうした福沢の教育論は、知識と教養を備えた人間の生き方を考えるうえで極めて示唆に富んだものといえる。テキストの精読を通して、学問の意義を理解することを心がける授業を行った。

授業の問題点

「授業についての評価」に関する各評価項目はすべて 4.0 を超えており、好意的評価をいただいた。今学期は遠隔授業と対面授業の併用ということであったため、遠隔授業については対面授業で取り上げることのできなかった部分を自宅課題として読ませ、その内容をまとめさせるスタイルをとった。そのため、自宅課題部分については、学生は辞書等を利用しながら自力で読まざるを得なかったことにより、意味を理解するのに苦労したようである。対面授業の際には、自宅課題部分について簡単にコメントするにとどめたので、学生のなかには内容を十分に理解できなかった者もいたことは否めず、そのことは「学生による主な意見」に「自学の部分が少し難しく、答え合わせ的なものがあって欲しかったです」という意見があったことにも窺える。

学生の授業満足度

本科目に対する「学生の授業満足度」の評価も 4.32 と高評価をいただいた。福沢諭吉の文章はやや難解であったものの、内容的に面白く、教育の問題を考えるうえで有益なものであったことが学生の満足度を高める結果になったものと思われる。

授業改善の課題と方策

資料講読の授業においては、資料の内容を学生に十分理解させることが重要であるが、今学期の授業で併用された遠隔授業における自宅課題部分へのフォローが弱かったことが、学生の理解度を低めることになった面があることを反省すべきと考えています。今後、遠隔授業が併用されることが想定される場合には、自宅課題部分も丁寧に解説できる時間を確保できるような授業計画を立てたいと思います。

その他

授業改善書

科目名	日本史特論（近世以前）
担当者	湯浅 吉美

授業の概要

世界の統計や年鑑の類を見ると，ほぼ例外なく日本は仏教国ということになっており，日本の歴史やさまざまな文化も仏教を抜きにしては語れない。精神面でも物質的にも，多くの物事が「仏教」を構成要素にもっている。しかし実際には，そのことはほとんど理解されていないといえる。己を知ることもないまま，異文化の理解を唱えることなど軽佻浮薄ではあるまいか。まずは「日本」を知るべし。その一端あるいは導入として，伝来より平安末期に至るまでの日本仏教史を講義する。

授業の問題点

問題点は 3 つ指摘できる。

① 「学習態度」のうち「質問や発言をしたか」が低い（2.63）。
② 「学習態度」のうち「授業外学習をしたか」が低い（3.13）。
③ 同じく「テキストなどの資料は適切であったか」がやや低い（3.88）。

学生の授業満足度

授業満足度の 2 項目は，4.38 および 4.25 なので，相応に満足してくれたものと考える。そのほかの授業内容や授業方法についても，概ね 4.00～4.25 となっているから，履修者諸君の満足度は一応高かったものと理解してよいと思う。

授業改善の課題と方策

【問題点①について】

もっぱら講義となったが，履修者が少なかったのだから，もう少し双方向的な形をとるべきであったかもしれない。来年度は様子によって考慮したい。ただ，話したいことが盛りだくさんなため一方通行になりがちなのだが，なかなか削りにくい。

【問題点②について】

内容的に予習は難しいと思うが，一方で復習は，ノートを見返すだけでもよいので励行してほしい。その一助として，参考文献を提示するよう留意する。その際，問題のある文献をあえて紹介することも，「自ら考える」ために有効かと考えている。

【問題点③について】

実は教科書は使わず，プリントも配らなかった。ゆえに 3.88 というポイントは，やはり教科書を使ってほしいとの要望の表れと受け止めている。しかし価格的に手頃で，安心できる教科書・概説書は皆無に等しいことが悩ましい。1 冊だけ在ることは在ったが，入手しにくい事情があって採用を見送った。また本音をいうと，朗々たる語りを聴いて耳でノートをとる「大時代的な講義」に徹してみたいとの想いもある。いずれにせよ，教科書については再検討し，来年度は何かしら使用する心算でいる。

その他

今年度は，実に異例の事態であったにもかかわらず，みな熱心であった。感謝したい。

授業改善書

科目名	英語音声学
担当者	熊田 和典

授業の概要

英語という言語を通して言語の音声を学ぶ講義である。この授業は、音声についての知識の習得とともに、授業中に実際に発音して個々の言語音の発音を身につけることを目的としている。

授業の問題点

授業アンケートによれば、すべての項目の中で、授業内容の関する「授業の内容に興味や関心を持ちましたか」という項目が最も低かった。この授業では、授業中に個々の言語音の発音練習をしてもらうことにしていたが、このコロナ禍では、発音練習は（殊に日本語よりも英語の発音の際に飛沫が多く飛ぶことも予想されるため）教室内では出来なかったことが、授業の内容に興味を削ぐ大きな要因ではなかったかと思われる。自分の現在の発音がどのようなもので、正確な知識を身につけた上で練習後はどう変化するのか、体感してもらうこともできないからである。学生には自宅にて教科書についたCDを聴きながら発音練習をするように言っているが、実際どのくらい練習に時間を費やしたのか、わからない。

また、教師側もマスクをしているため、発音しているときの実際の口周りの動きを学生に見せることができない。これについては、できる限りの対策を講じてきた。オンライン授業の時は、個々の言語音を発音している姿の映像があるネット上のホームページを紹介し、また、大学での授業の時は、その姿の映像をDVDで学生に見せた。現在のところ、これが本学で出来る可能な限りの策であると思われる。この策も、限られた時間、条件の中でなんとか講じることができたと思っている。

学生の授業満足度

授業満足度においては、授業アンケートを拝見する限りでは、2つの項目とも5中4であり、まずまずの出来であったと思われる。

授業改善の課題と方策

春期行ってきた策が、本学で出来る可能な限りの策であると思っているが、さらによい策はないのか、検討していきたいと考えている。また、春期講じた策についても、もっと効果的に行なえないものか、その策の実際の講じ方についても再検討してみたい。

その他

授業改善書

科目名	社会心理学Ⅰ
担当者	小島 弥生

授業の概要

社会学と心理学という２つの学問から派生した社会心理学について、心理学の観点を中心に講義している。春期にⅠ、秋期にⅡという科目だが、社会心理学の学問領域を大きく「自己過程」「対人場面」「集団場面」「集合場面」と区分するという考え方の元、Ⅰでは前者２つの内容を概説している。心理学の他領域、あるいは他の学問領域（文化人類学、脳科学、等）との連携も盛んな近年の社会心理学の動向を、できるだけわかりやすく講義することを心がけている。

授業の問題点

学期の前半は動画配信（オンデマンド型）の遠隔授業を実施し、対面授業再開後は２グループ制をとった授業であったため、対面授業ではないグループの学生たちには対面授業と同一内容を事前に動画に収めて配信するオンデマンド型の遠隔授業を継続した。

そのため、授業進行はシラバス通りに進められた一方で、学生からの質問に答える時間を対面授業で確保することがしづらくなった。よって、学生の学習態度のうち「質問や発言をしましたか」の評定平均が 3.08 と昨年度に比べて 0.2 ポイントほど低くなった。また、授業方法に関する設問のうち「学生からの質問などにきちんと対応しましたか」の評定平均も 4.55 となり、昨年度に比べて 0.2 ポイントほど低くなった。

学生の授業満足度

授業内容、授業方法、授業全体の満足度の各設問の全てにおいて、評定平均が 4.5～4.6 の範囲内に収まっていた。昨年度の同一科目の評定よりも分散が小さくなり、全体的に高めの満足度評価を得ていると判断できる。

授業改善の課題と方策

学生からの質問については、遠隔授業期間に「よく質問してくる学生」と「まったく質問をしない学生」に２分化されていたのが特徴的だと感じている。Office365 の Teams において、この科目独自のチームを作成して動画配信を行ったことから、質問をしてくる学生は Teams のチャットを使ったり、課題の中の自由記述欄を使ったりしてよく質問をしてくれたり、それに対して教員側も Teams の投稿タブを使って回答をできるだけ即時的に行うように努めてきた。ただ、あくまでも一部の学生に限った使いこなしであり、Teams や遠隔授業の利点を使いこなせていない受講学生が一定数いたことは間違いない。

対面授業においていかに学生からの質問を引き出す対応がとれるか、すぐにアイディアは思いつかないが、今後、検討を重ね、試行錯誤する必要がある。

その他

授業改善書

科目名	心理学実験
担当者	小島・遠藤・田中・時本

授業の概要

実験レポートの作成を通し、「科学的な事実の報告」である心理学論文の書き方を習得することが授業目標であった。

今年度は遠隔授業でスタートしたことから、最初の 5 回の授業を 1 年生秋期の必修科目「心理学実験基礎」の実験レポートの見直しと修正作業の指導からスタートし、その後「短期記憶」「問題解決過程」「鏡映描写」「パーソナル・スペース」と 4 つの実験に取り組み、それぞれ実験レポートの作成を受講生に求めた。

授業の問題点

実験レポートの作成には Excel と Word が最低限、必要となる。今年度は遠隔授業でのスタートとなったため、自宅に PC 環境が整っていない学生の受講は遠慮してほしいと伝えなければならないことが最も困難を感じた点であった。

また、遠隔授業でも対応可能な実験種目から順に行ったため、例年と比べて難易度の高い実験種目のレポート作成が学期の早い時期になってしまった点も、段階をふんだ学習とは言い難くなり、授業運営を難しくした点であった。

学生の授業満足度

上記のような例年にない問題点を抱えていたことを考慮すると、今年度の受講学生の学習態度の評定平均は全体的に非常に高く、また、授業内容・授業方法・授業満足度の各設問への評定平均も全体的に高かった。学生と教員の双方ができる努力を積み重ねた結果が反映されていると考えている。

授業内容の設問のうち「授業の方法や資料はわかりやすかったですか」の評定平均が 4.08 と低めになっていたが、遠隔授業には適さない「実験」という科目では致し方ない側面があったためと考えられる。

授業改善の課題と方策

受講学生が比較的少数の授業であったため、来年度以降、遠隔授業やグループ制度を採用しないで対面授業で毎週の授業を実施できるのであれば、今年度の問題点や困難の多くは解消できる。

来年度以降、感染症の拡大防止に配慮をしつつ、一定数以上の受講学生になってしまった場合に、多くの問題が生じることが予想される。心理学実験室の環境や授業目標を受講生全員に達成させることを考えると、最大でも 25 人程度の受講生数でないと、この授業の運営は困難であろう。

その他

授業改善書

科目名	教職概論（中高）
担当者	布村育子

授業の概要

教職課程の主として 2 年生が履修する科目である。教員の服務を中心に、現在の学校の課題、教員の課題を考察する授業である。

例年、90 分の授業の中で、討議や意見交換、共同作業等を行っている。しかし、コロナ禍のため、講義中心の授業とした。

授業の問題点

学校の教員になることを目指すための授業であり、教員の現実を知ってもらうための授業でもある。別の角度から言えば、学生自身の経験でかたちづくられた「教員像」がひとつの事例に過ぎなかったことを理解させたい授業でもある。

理想的には、学生が 90 分間に、一度は声を出せる機会を設け、一緒に考えていく授業の中で多様な考え方に触れさせたかったが、今年度は諦めた。また、そのような授業に代替できるだけの、主体的に参加できるような授業ができなかったように思う。

学生の授業満足度

評価者が少なかったため、全体の満足度がわからないが、熱心に授業に取り組んでくれる学生が多かったように思う。法規的な課題を扱う際に、事例等を新聞記事などから提示した。このようなことによって、満足度は、多少は高くなったように思う。

授業改善の課題と方策

毎回、課題をメールで送らせるという方法は、学生にとっては大変だったかもしれないが、授業者にとっては非常に勉強になった。学生の中には、調べる→書くという習慣ができている者もおり、そのような学生が書いてくる課題は非常に質が高かった。

こうした、習慣は、教員になってからも必要な習慣である。コロナ禍での一過性の方法としてではなく、通常の授業のなかでも、この習慣を身につけさせる必要があると考えた。

その他

授業改善書

科目名	日本文学入門
担当者	森田　直美

授業の概要

『百人一首』の講読。

授業の問題点

「質問や発言をしましたか」の項目の点数が、他の項目に比べて大変低い。

学生の授業満足度

授業満足度については、一定の評価を得られたと考える。

授業改善の課題と方策

コロナ禍において、教室では学生の積極的な発言を促しにくい状況にあったが、今後は質問をする方法などを再検討したい。

その他

専任教員

人間学部　心理学科

授業改善書

科目名	調査研究法
担当者	古澤　照幸

授業の概要

心理学における研究法のうち、調査研究法についての方法、理論をこの授業によって学ぶことを目標とする。調査研究法は、実験法、検査法と並び、心理学の 3 研究法のひとつである。調査には、複数の方法がある。集合調査法、郵送調査法、面接調査法が基本の調査法であり、それぞれで結果の記述法に特徴がある。また、分析方法にも多くの種類があり、関係ある方法については、すべて教えている。

授業の問題点

「授業内容」であるが、「興味や関心」が中央の値よりやや高い程度の「3.33」であり、このなかで低い値であった。この科目に対しては、低い評価はなかったのであるが、「興味や関心」を高められるような内容にできるようにしたい。

学生の授業満足度

「学習態度」についてであるが、「出席や課題提出」は 4.00、「質問や発言」は 2.33 であった。おとなしい学生が多いため、このような結果になったと考える。学生の声を拾う努力が必要であると考える。発言を促し、拾う努力を続けたい。

授業改善の課題と方策

「授業方法について」は、「円滑に進めるための配慮」が 2.33 と低く、反省したいと考えている。「質問や発言をしましたか」も 2.33 と低く、質問のできる雰囲気づくりを心掛けたい。

その他

プリントの配布、話し方についても気を付けていこうと考えている。

授業改善書

科目名	人間関係学
担当者	古澤　照幸

授業の概要

乳幼児期、学童期に分け、各成長期の特徴と心理的な変数が与える影響について議論した。人間関係の諸側面として、「権威勾配」「ストレス」「論理療法」「チームの組み合わせ」「対人魅力」などについて解説をした。

授業の問題点

問題は、「授業内容」の「項目番号 2」（シラバスに提示されていた「授業内容」）、「授業方法」の「項目番号 1」（授業の方法や資料）、「項目番号 3」（毎回の授業は適切な内容か）、「授業満足度」の「項目番号 2」であり、3 ポイントに到達していなかった。学生が理解できるようにするための教員側の努力が欠けていると考える。注意をしていきたい。

学生の授業満足度

「項目番号 1」（得るものがあったか）は 3.50 であり、「項目番号 2」（満足できたか）が 2.50 であった。満足そのものが低かった。「授業の問題点」が示された。学力を高める工夫をしつつ、満足を高める工夫を試みたい。

授業改善の課題と方策

「授業の問題点」でも示したように、授業内容、満足度について考えていきたい。古くから行ってきた科目であるが、反省を行いつつ、改善していきたいと考える。

その他

プリントの配布、話し方についても気を付けていこうと考えている。

授業改善書

科目名	産業心理学（産業・組織心理学）
担当者	古澤　照幸

授業の概要

産業・組織心理学の研究史を初回に述べ、「消費者行動」「組織の人間関係」「採用と配置」「人材育成」についてそれぞれ 3 回から 6 回の講義を使い、解説を行った。

授業の問題点

「授業内容について」(評価範囲 : 3.73～4.00)、「授業方法について」(評価範囲 : 3.64～3.91) の 2 項目は比較的高めの範囲を示していた。全般的に問題がないように今後とも進めていきたい。

学生の授業満足度

「授業満足度について」(評価範囲 : 2 項目ともに 3.64) は 2 項目ともに 3 点台の後半であった。やや高めといったところであるが、満足しきった結果ではない。

授業改善の課題と方策

「授業満足度について」でも述べたが、「質問や発言をしましたか」が 2.82 と低く、質問や発言をできやすくする雰囲気づくりをしていきたい。

その他

プリントの配布、話し方についても気を付けていこうと考えている。

授業改善書

科目名	基礎演習Ⅰ
担当者	古澤　照幸

授業の概要

教員が作成した課題を毎回実施した。心理学科の基礎演習は、7 回か 8 回の授業の実施でよいところであったが、10 回の実施であった。

授業の問題点

「質問や発言」が 3.33 と最も低い値を示している。他の授業と同じく、これが最も低いが、他の科目よりも「質問や発言」は高い値である。5 点満点であるので、3.00 が中央値であるが、これよりも値は超えている。回答者数が少ないという点も考慮しないといけないが、最も低い値であっても高めを示している。問題もないわけではないので、しっかり考えていきたい。

学生の授業満足度

「授業満足度」は 2 項目とも 4.83 であった。とても高い値ではあるが、これがゼミ全体の結果ではないということを考えておきたい。ゼミの学生全体の結果ではないことを肝に銘じておきたい。

授業改善の課題と方策

全般的に評価は高かったが、全員の回答結果ではないため（一部の結果）、満足すべきではないと考える。しかし、学生たちとは良い関係でこれからも接していきたいと考える。

その他

プリントの配布、話し方についても気を付けていこうと考えている。

授業改善書

科目名	学校心理学
担当者	杉山雅宏

授業の概要

・不登校、いじめ、学級崩壊、非行生徒への対応、教師のストレス、スクールカウンセラーの役割などを、学校心理学の視点から学ぶ。

授業の問題点

・他学科の学生さんも対象とした講義であるため、興味・関心など個人差が大きい。
・履修する学年も特定の学年に指定されていないため、経験の幅がことなる。
・学校の仕組みについての基礎的知識について、ばらつきがある。

授業改善の課題･方策

・具体的な事例を紹介し、学校心理学に興味・関心を抱いていただくような工夫を試みた。
・学生からの質問には毎時間応えるようにした。
・学生さんが私語をしないような工夫を心みたい。
・額的なイメージが膨らむように、実践事例を多く紹介した。

その他

授業改善書

科目名	福祉心理学
担当者	杉山雅宏

授業の概要

・児童虐待、障害者支援、高齢者支援の実態について学ぶ。
・特に、児童虐待の問題については、児童相談所の役割なども中心に学ぶ。

授業の問題点

・他学科の学生さんも対象とした講義であるため、興味・関心など個人差が大きい。
・履修する学年も特定の学年に指定されていないため、経験の幅がことなる。
・福祉領域についての基礎的知識について、ばらつきがある。

授業改善の課題･方策

・具体的な事例を紹介し、福祉心理学に興味・関心を抱いていただくような工夫を試みた。
・学生からの質問には毎時間応えるようにした。
・学生さんが私語をしないような工夫を心みたい。
・額的なイメージが膨らむように、実践事例を多く紹介した。

その他

授業改善書

科目名	発達心理学概論
担当者	藤枝静暁

授業の概要

人間の心身の発達を学ぶことは、自己理解や他者理解の基本的知識となりうる。心理学といった人と密接に関わる職業に関心がある者は、特に、人間の発達段階、発達課題といった基本的な知識や概念を理解しておくことが望ましい。知識の紹介にとどまらず、幼稚園、保育所、学校といった現場での実際の子どもの姿も紹介する。

授業の問題点

アンケート結果から，授業に特段の問題点は無かったと考えられる。

学生の授業満足度

「授業内容から得るところはありましたか」の問いへの回答は，4.51／５点，「授業に満足できましたか？」への回答は 4.47 点/５点満点であったことから，学習者の満足感や達成感はおおむね満たされたと考えられる。

授業改善の課題と方策

初めてのオンライン授業に対して，戸惑いや，不安もあったと思いますが，多くの方が，授業によく参加し，課題作成をしたと思います。レポートの内容は，個人差が大きかったです。テキストの中身をまとめた方から，テキストに加えて自身で調べた内容を加えてまとめた方もおりました。課題への取り組み状況に差があった点が課題かなと思いました。

その他

以下に学生さんの自由記述による感想の一部を紹介します。
「用語に対して例を含んで話してくれる場面が多くてわかりやすかったです。」
「一方的に授業を行わないで、私達に考えら時間を設けていただいたことが、さらに疑問に思ったり理解しやすかったりしてよかったです。」
「ビデオを見る授業がわかりやすくて、とても興味深かったです。」

授業改善書

科目名	心理学概論Ⅰ
担当者	遠藤寛子

授業の概要

本講義では、心理学が学問としてどのように成り立ち、発展してきたかについて紹介した。また、日常生活の中で経験される行動と心理学の基礎知識を関連づけながら、人間の行動を形成している諸側面について概説した。クラスが 2 クラスに分かれていたため、遠隔授業（オンデマンド）と対面授業を交互に行った。

授業の問題点

「質問や発言をしましたか」という質問に対する評価が低かった。教員側として、講義中に質問や発言の機会をあまり与えていなかったためと考えられる。ソーシャルディスタンスを保つために、ワークの時間を設けるのは困難ではあるが、今後は、質問しやすい温かな雰囲気を作り出す工夫をしたいと考えている。
また、予習復習に関しても、教員側が働きかけて、授業ポイントを丁寧に示していきたいと考えている。

学生の授業満足度

4.66 という高得点を頂いた。こちらとしても有難く感じているが、この評価に甘んじず、理解しやすい講義を心がけていきたい。環境上、遠隔授業と対面授業の双方を行う必要性があるが、授業を進める中で学生のニーズに耳を傾けながら、過剰な負担を与えることなく、展開させていきたい。

授業改善の課題と方策

授業の後半で、質問タイムを設けるとともに、質問内容を紙に書いていただくことを考えている。その後、口頭で全員に向けて質問に応えていきたいと考えている。さらに、学生たちのやる気につながるように、リアクションペーパーをいくつか読み上げ、学生の考えや感想を認めていきたいと考えている。

その他

授業改善書

科目名	心理検査法（心理的アセスメント）
担当者	佐々木　美恵

授業の概要

心理検査の実施においては，その実施目的や対象者に応じて，必要な心理検査法が選択される。本科目では，履修生が種々の心理検査法についての基本的な知識を得ることを目的として，発達検査や知能検査，投影法パーソナリティ検査など，心理検査法を広く取り上げ，その理論と実施法，分析法，解釈法について講義する。

授業の問題点

- 学生の自主的な発言や質問がみられなかったこと。
- 学生個々の理解度に差があり，十分な理解に至らなかった学生がいる可能性があること。

学生の授業満足度

- 学生の満足度は高い結果であった。楽しさと知的好奇心の喚起は，ある程度達成されたと思われる。
- 検査体験を各検査で含んだため，より身につきやすい授業構成であったと考えている。
- 各回の授業は，体験，理論，ワークの三部構成としたため，緩急によって学生の注意集中の持続へとつながったと思われる。

授業改善の課題と方策

- 学生の積極的な発言を促すため，双方向性のコミュニケーションをより意図的に組み込み，授業関与を高める。
- 教室内巡回によって，学生個々の学習状況を確認し，適宜声かけやサポートを行う。

その他

とくになし。

授業改善書

科目名	カウンセリング心理学
担当者	羽鳥　健司

授業の概要

心理学的なカウンセリングに必要な基礎的な知識や理論、および心理師が活躍する主な領域と関連する法規について概説した。

授業の問題点

最も低い評定だった項目は「質問や発言をしましたか」であり、2.91 点であった。これは新型コロナウィルス対策であるオンライン授業の実施方法としてオンデマンド方式を選択したことによるものが多いと考えられる。

学生の授業満足度

上記の「質問や発言をしましたか」の他に「授業外学習(予習や復習など)をしましたか」が 3.78 点以外は、全ての項目で 4 点台の評定であり、学生の授業満足度は概ね良好であったものと考えられる。

授業改善の課題と方策

オンデマンド授業において「質問や発言」は、ライブ授業や対面授業に比べると、その構造上減ってしまうことは回避できない。できることとしては、受講生がより気軽に質問できるように発信していくことが考えられる。

その他

授業改善書

科目名	心理学概論Ⅰ
担当者	泉水　紀彦

授業の概要

本講義では，心理学の主要理論を，日常生活の中で経験する様々な事柄と関連づけて紹介し，人の心の基本的な仕組みや働きについて概説する。また，“科学”としての心理学がどのように形成され，発展してきたのかについて，心理学の研究史や研究法の概要についても紹介する。心理学の学びの基本を経験・理解することが本講義の目標である。

授業の問題点

ほとんどの質問項目は，評定が 4.5 以上であるが，授業外学習（4.02），質問や発言の有無（3.20）の質問項目は比較的低評価であった。遠隔授業では，毎回の授業につき，3 本のビデオ視聴とフォーム課題への回答を求め，対面授業では講義聴講とコメントカード提出であった。毎回の授業開始時にコメントへのフィードバックを行っていたが，授業内で学生に発言を求めたりすることはなかった。

学生の授業満足度

授業内容に得るものがあったか（4.71），授業は満足できたか（4.71）となっており，（全体と比較できないが）どちらも高評価であった。
授業アンケートの意見に，「資料などを使っていてわかりやすかった」「いろいろな国の実験や，事件などが取り上げられており例示がわかりやすかったので理解しやすかったです」との回答が見られた。

授業改善の課題と方策

今年度は，遠隔授業(オンデマンド型：ビデオ視聴)と対面授業のハイブリッド形式での授業進行であったが，おおむね高評価であった。次年度に要求される授業形式は不明であるが，同じ状況であれば同様の授業進行が望ましいと考えられる。
今後は，授業の相互作用性を確保するため，学生が発言や発表をする機会を授業の中に取り入れていきたい。具体的には，遠隔授業では，ビデオ内でのアンケート投票やライブ形式の質問コーナーの設置，対面授業では，学生に発言を求める等の工夫を行っていきたい。

その他

特になし

専任教員

人間学部　子ども発達学科

授業改善書

科目名	教育方法論
担当者	浦野 弘

授業の概要

授業を設計−実施−評価するために必要な知識や技術を習得することを目的とし，わかりやすい授業を設計する方法論，とりわけ学校における授業内のコミュニケーションを支援する環境や方法（ティームティーチングや習熟度別学習等），学力向上に向けた取り組み，教育メディア等の活用に関する諸理論や実践記録を検討することを通して，教える（子どもが学ぶ）ための方法や技術について考える。また，学習指導案の作成及び模擬授業を行い，教師として授業を行う基礎的な知識や技術を習得する。

授業の問題点

「質問や発言をしましたか」の得点が低い。中央値は 4.5 であるが，3 以下の評価をした学生が約 4 割である。リモートによる 6 回はほとんど実施出来ていなかったが，対面授業になってからは，毎回の授業終了時におけるシャトルカード(大福帳)によるコミュニケーションに努めたが，全体を通しては不十分であったことが分かる。毎回の返却方法を改善すべきことが示唆されていると受け止める。

その他の項目は，中央値 5，最頻値 5 ということであり，概ね目標は達成出来ていたと思われる。

しかし，「出席や課題提出等はしましたか」に比べ，「授業外学習(予習や復習など)をしましたか」の方が得点が低い。いずの回答者も前者に比べ，後者を低く評定していることから，次時の課題意識を持たせるために，テキストを読んでくる宿題を課す等の動機付けが不十分であったのではないかと推測する。興味関心が持続できるようにテキストを読むという動機付けを，使い分けることが重要と思われる。

学生の授業満足度

満足度の中央値は５であり概ね効果があると言えるが，３ないし１という評価も多少あり，前述のように受講生の学びに向かうスタンスが異なるので，同一の動機付けではなく，そのニーズや興味関心に即したものに工夫が必要であろう。

「映像を見て、理解の深まりが高くなった」という自由記述も見られることが，今後もメディアを活用した授業改善が重要と思われる。

授業改善の課題と方策

アクティブラーニングや反転授業が求められているところであり，次時の講義に向けての「予習」である「テキストを読んでくる」という課題は堅持したい。そこで次年度には，これまでの授業時の配布物を予習用に改善し，予習の焦点化を進めてみたい。また，また，学校現場での実情が実感できるように，具体的な映像事例や学生の生活経験に即したにイメージ化できる事例をより多く提示し，それにもとづく議論が行えるような講義形態を構築するような工夫を取り入るように努める。

その他

授業改善書

科目名	音楽実技Ⅰ
担当者	笠井・一村・影山・佐藤・須田・安田・宮崎

授業の概要

音楽に関する基礎知識や理論、歌唱法、コード伴奏法を学ぶクラス授業（ML 教室 45 分）と経験の異なる学生に対応した複数教員で担当するピアノの個人レッスン（45 分）を並行して行う。保育者養成、教員養成としてのピアノの演奏法、コードによる弾き歌いや音楽表現のための基礎技能を指導するとともに、保育実習、保育実践にむけ、身体表現を伴う歌唱曲、手遊び曲も指導する。

授業の問題点

楽器を持っていない学生が半数、ピアノの初心者が 6 割といった新入生の状況下、コロナ渦でのオンラインでは個人的な理論の課題以外は無理と言える教科であった。大学で練習できるということで入学した学生に対し、4.5. 6 月と入校禁止で　鍵盤楽器を持っていない学生は全く練習ができない状態であった。6 月末より対面が可能になったことはありがたかったが、補講 3 回を入れて補ったにせよ、例年より習得内容が遅れたことは否めない。

歌による表現に関してはコロナ渦で実践ができなかったため、目標道理にいかず、今年の課題である。

学生の授業満足度

ピアノに関しては例年のようにグループレッスンができず、個人レッスンであったが、初心者も短期間で進歩が見られた。

学生の満足度の評価では「授業内容は得るところがあったか」が 3 クラスで 4.69,4.60,4.84、「全体的に授業に満足できたか」については 4.53,4.57、4.76 と高い評価であり、非常勤の個人レッスンの先生方の熱心なご協力あってのこと思われた。

授業改善の課題と方策

・今年度より、ピアノの鍵盤をカメラで写せ、OHP の画像も画面で写せるシステムの導入で授業が大変やりやすくなった。く学生からもとても分かりやすいと好評であった。
・合同授業では演奏上達の難度だけに価値を置くのでなく、いかに表現することが楽しいかを伝える授業の工夫をしたが、対面授業が 6 月末からということで到達させるために時間数が足りなかった。後期に力を入れたい
・初めに教科の重要性を伝えたためか、出席率が大変よく、それぞれ 3 クラス、4,75.4.63,4.92 と高い評価であった。１５回の授業が、授業内試験や、オリエンテーションなどを除くといかに少ないものであるか、また一度授業を休むと内容が多いためついて行きにくくなる、貴重な個人レッスンがあるここなどをしっかり伝え、今後も出席に対する緊張感を持つよう指導していきたい。
・合同授業の前期は音楽の基礎的なことが中心であったが、後期は、保育・教育現場に即した活動を主体にしたい。個人レッスンではそのための演奏能力の向上に力を入れたい。学習記録カードによると学生の練習時間がまだ非常に足りないので、毎日少しでも練習して帰る習慣をつけるよう指導したい。

その他

ピアノ初心者が他大学に比べ大変多く、楽器の所有率も大変低いことから、授業時のレベルの差が大変大きく、入学前で初心者の学びの準備に今後課題を感じている。

授業改善書

科目名	算数
担当者	齋藤　昇

授業の概要

小学校教員として必要な数学の基礎的・基本的な内容・概念・考え方及び算数教科書の内容の背景にある数学的な考え方・概念を分かりやすく講義する。

授業の問題点

学生の５段階評定平均値によれば、「出席や課題提出等はしたか」が 4.4、「ノートやメモ等を取ったか」が 4.4、「テキストなどの資料は適切だったか」が 4.2、「授業外学習(予習や復習など)をしたか」が 4.1 と回答しており、授業内容はおおむね適切であったように思われる。

また、授業はオンラインによる授業が主であり、対面による授業は数回しかできなかった。オンラインによる授業の理解度について、今後検証していきたい。

学生の授業満足度

学生の５段階評定平均値によれば、「授業の内容はあなたにとって得るところのあるものだったか」が 4.0、「全体的に振り返って、授業に満足できたか」が 4.0 という回答であり、学生は授業に対してほぼ満足していた様子がうかがわれた。

授業改善の課題と方策

学生の５段階評定平均値によれば、「毎回の授業は適切な内容や量だったか」が 4.0、「学生からの質問などにきちんと対応したか」が 4.3、「授業を円滑に進めるための配慮はなされていたか」が 4.1 という回答であった。

これらの数値から、学生はおおむね学習内容を理解したと思われる。次年度は分かりやすい授業を行うため、学習内容を一層精選するとともに、効果的なオンラインによる授業方法を工夫・検討していきたいと思っている。

その他

なし。

授業改善書

科目名	保育内容（言葉） Ⅰ
担当者	島田　和幸

授業の概要

保育者が子どもに寄り添いながら豊かなお話の世界に浸らせたり、子どもの成長と言葉の関係をつかんだりしながら、「子どもの言葉の発達」を促す関わり方や援助の在り方を学ぶ。そのため、幼稚園教育要領、保育所保育指針などの内容をふまえたうえで、絵本・紙芝居を使ったり、「素話（すばなし）」の工夫などをしたりしながら、保育の現場で実践できる基礎的・基本的な学習内容に関する講義を展開している。

授業の問題点

新型コロナヴィルス感染予防のため、本来ならグループ協議や協議内容のグループ別発表などをさせる場面でも、学生には講義を聞かせるか個別作業をさせるかという授業方法が中心となってしまい、盛り上がりに欠ける事態が生じた。

学生の授業満足度

回答した学生の満足度平均値が 4.5 以上であった。今後もできる範囲で、学生が常に受け身となる授業にしないような工夫を図りながら「楽しく活き活きと活動できる授業」をめざしていきたい。

授業改善の課題と方策

今後も新型コロナヴィルス感染予防のため、グループでの学習活動等の授業方法には、一定の制約が生じることになるが、そんな中でもソーシャルディスタンシィグに留意しながら、学生の主体的な学びの場の工夫を図り、個別作業等の時間も重視した授業を展開していきたい。

その他

毎回の授業で「学習ノート」を印刷・配布し、これをテキスト代りに供覧している。ここでは、いくつかの主要な設問を設け 180～200 字で文章化させる作業をとったり、授業終末の感想を書かせたりしながら、これを授業終了後に提出させ、出欠確認と学生の理解状況確認をしながら、翌週、これに評価を付して学生に返却している。感想欄（200 字以内）の記述で、学生の理解度や満足度が伝わってくる。

授業改善書

科目名	健康科学Ⅰ
担当者	野瀬清喜

授業の概要

現代社会とスポーツの意義・学校体育とスポーツ教材・競技スポーツのコーチング・スポーツの安全指導（新型コロナ対策含む）・応急処置、救急処置・古代、近代オリンピック・スポーツ外傷と障害・運動部活動のあり方（スポーツ庁運動部活動ガイド）・ASUKA モデルと AED 使用法・スポーツとパワハラ問題・小学校体育の実態等の項目を取り上げ解説した。

授業の問題点

前半６回はオンライン授業でチームスに資料を提示し、課題に対する感想・解答を提出させる方法を取った。７回目からは全員の面接授業を８回行ったが、オンラインの資料提示も最終回までアップロードした。全ての授業で出席率は良く、熱心に聴講してくれたと思う。本授業は本来、「理論および実技」で行う授業であるが、新型コロナウイルスの影響で実技は実施できなかった。

学生の授業満足度

１時限、３時限、４時限の満足度は比較的高い。２時限の学生達は他のクラスと異なり、出席率も他より低く授業に対する満足度も低い。

学生の興味をひく内容や題材を取り上げ、なるべくタイムリーな課題でスポーツ、体育の意義、生涯健康な生活をおくる方策と意味を伝えたつもりであるが、対象クラスによって興味関心にかなり差があることがわかった。

授業改善の課題と方策

新学期が始まる前から新学習指導要領のテーマであるカリキュラムマネージメントを取り入れたアクティブ・ラーニング型の対話的授業、自ら考えて自ら学ぶ授業を展開する準備をしていた。

しかし、新型コロナの影響で対話的な授業の場面、グループワークは全く行えなかったのが残念である。秋期は春期出来なかった実技の授業を多く取り入れ、グループ学習で、体育の目的を理解し、心身の健康を獲得できる授業を実現したい。

そのためには、体育で養成される「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」を獲得できる場面を設定するスポーツ教材を工夫し、運動が苦手な学生に対しても、その資質、能力を向上させることが出来る体育の重要性に気づく授業を展開したい。

その他

新型コロナウイルスの影響で学生の体力低下が指摘されている。事故や怪我に十分留意し、徐々に体力の高まる授業形態と体力の重要性に気づく授業内容にしたい。

授業改善書

科目名	スポーツ指導論
担当者	野瀬清喜

授業の概要

スポーツ指導者を養成する立場から、現代社会とスポーツの意義・学校体育とスポーツ教材・競技スポーツのコーチング・スポーツの安全指導（新型コロナ対策含む）・応急処置、救急処置・古代、近代オリンピック・スポーツ外傷と障害・運動部活動のあり方（スポーツ庁運動部活動ガイド）・ASUKA モデルと AED 使用法・スポーツとパワハラ問題などを取り上げ解説した。また、社会体育と学校体育を比較するため、我が国における学校教育（体育）カリキュラムを紹介した。また、我が国固有の伝統文化である武道の伝統的な指導法と立ち居振る舞いについて解説した。

授業の問題点

前半６回はオンライン授業でチームスに資料を提示し、課題に対する感想・解答を提出させる方法を取った。７回目からは全員の面接授業を８回行ったが、オンラインの資料提示も最終回までアップロードした。全ての授業で出席率は 70%前後で、皆出席にはほど遠い状況であった。出席した学生は熱心に聴講してくれたと思う。

経済経営学科の学生は能力は高いが、授業に対して消極的、受け身の姿勢を感じる。積極的発言を引く出すさらなる工夫が必要である。

学生の授業満足度

予想したより学生の満足度は高かった。回答者が少なくその点が少し気になる。もう少し対話的な授業展開ができれば更なる改善が出来ると感じる。学生の興味をひく内容や題材を取り上げ、なるべくタイムリーな話題でスポーツ、体育の意義、生涯健康な生活をおくる方策の手助けをする指導者像を伝えたつもりである。

取り上げた題材が身近な国内スポーツが多かったため、次回は国際的なスポーツコーチングに関する内容も取り上げたい。

授業改善の課題と方策

新学期が始まる前から新学習指導要領のテーマであるカリキュラムマネージメントを取り入れたアクティブ・ラーニング型の対話的授業、自ら考えて自ら学ぶ授業を展開する準備をしていた。

しかし、新型コロナの影響で対話的な授業の場面、グループワークは全く行えなかった。スポーツに必要な「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」を獲得できる場面を設定できる指導者、スポーツ教材を工夫し、子ども達にスポーツの楽しさを体験させることの出来る指導者を育成したい。

その他

スポーツを職業とするのは、指導者・コーチのみではなく、トレーナーやアナリスト、フィットネスコーチ、理学療法士、柔道整復師など様々な形態はあることを伝えたい。

授業改善書

科目名	日本語の運用
担当者	三浦正雄

授業の概要

教育の現場において、正しい日本語表現能力は、必要不可欠のものです。
＜日本語の運用＞では、教育者として必要な正しい日本語表現を、「学習指導要領」等に示されているように、「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」の四つの分野から具体的に学習し、最終的には論文を書くことへとつながるように指導します。高等学校の国語科の復習をし、正しい日本語表現に興味を持ち、基礎から身につけることが目標です。同時に、言葉についての様々な知識や書籍についての情報なども講義します。全員が、スピーチの実演を行えるように指導を行います。
＜文章作成法＞に接続する形で授業を行います。

授業の問題点

今期はオンラインでの授業が多くなったため、学生との双方向のやり取りが難しいと感じました。また、「日本語の運用」を学習するには 15 回の授業でも少ないと感じられます。できるだけ重要なポイントにしぼることを心がけていますが、中学・高校で学ぶ文法や文章作成の基礎事項が身についていなかったり、携帯・パソコンの多用により語彙力や語義の知識が定着していなかったりなど、土台固めを行う必要がその都度生じてまいります。そのために、どうしても中学・高校の国語科の学習内容を復習する時間が必要となります。そのためどうしてもスピードが速くなることがあります。速すぎないように進めることが課題です。最近のアンケート結果を見ると、適度なスピードでできてきているようです
スピーチについては、いつも学生が熱心に取り組んでいるので、少しでも原稿を書くために調べやすいように、書きやすいようにアドバイスをしています。
授業の題材については、他学科の学生も、なるべく子ども発達学科と共有できるものを模索しています。
コロナにより、対面授業においても、学生のコメントが得にくいのが難点です。

学生の授業満足度

オンラインが多かったため質問への対応が非常に難しかったと思います。文字による伝達ですと、ニュアンスが伝わりにくいと感じました。
また、対面授業においても、学生のコメントが得にくいため、双方向が難しくなっておりますが、その割には、意思疎通があったと思います。

授業改善の課題と方策

オンライン、そしてプリント等のやり取りを減らした対面授業ということで、学生との双方向のやり取りが難しくなっています。こうした中で、学生のコメントを得るための何らかの方法を、今後は模索してゆきたいと思います。

その他

全学共通科目であるだけではなく、教職課程・保育士養成課程の選択必修科目ですので、可能でしたら私の担当の時間は子ども発達学科に限定した形にしていただけると内容をしぼれると存じます。

授業改善書

科目名	乳児保育Ⅰ
担当者	川喜田昌代

授業の概要

3 歳未満児に関する発達過程を正しく理解し、その保育体制および保育の配慮事項についての基礎を学ぶことを通して、乳児保育の意義と目的を理解することをねらいとする。

3 歳未満児の保育においては、3 歳以上児を対象とする保育とは異なる保育のねらいと配慮とがあるが、それには 3 歳未満児の発達過程が深く関連している。乳児保育には幼児期後半の子どもとは異なる配慮に基づく援助が必要であり、その根幹にはどのような理念があるかについての学習を目指す。

授業の問題点

本年度は、新型コロナウイルス感染症の流行により、感染防止の観点から 4 月は大学が休校処置をとったため、新入生にとっては、ガイダンス等の基本的な指導が行われてない中、5 月 11 日より、オンライン授業が開始された。そのため、授業への取り組み姿勢や、IT 機器を操作するスキルも求められ、個人差が著しく見られた。

授業内容は、オンラインで発信された授業資料を学生が読み、課題を提出する形で行ったが、授業内容の理解について質疑応答が難しかったため、その点が気になった。

6 月 19 日以降は、1 クラスの学生を 2 つわけ、対面授業を行いようになったが、今までのオンライン授業の授業資料の整理や確認を行うことが難しかった。

クラスを 2 つに分ける形であったが、対面授業は、直接学生とのやり取りができ、学生の様子も観察でき、教員にとってもメリットが大きく良かった。

学生の授業満足度

オンライン授業では、チームスに挙げた資料を読み、課題を行いよく理解（おおむね 85%以上）できていた。

しかし、中にはやる気のないようなフォームへの返信も見られた。

授業改善の課題と方策

対面授業の中で、一人ひとりの授業内容の理解を観察し、丁寧な授業を展開する展開をするとともに、もっと興味と主体性が持てる授業の展開に努めていきたい。

その他

授業改善書

科目名	保育内容（健康） Ⅰ
担当者	坂田知子

授業の概要

本授業では、保育内容「健康」のねらい、内容、方法に関する理解を深めることを目的としています。具体的には、 乳幼児の心身の健康に関する内容、健康な生活習慣や安全な生活習慣に関する内容、身体活動に関する内容を 指導するとともに、乳幼児に対する心身の健康の重要性を伝達するための「保育教材」を作成し、健やかな成 長を育む保育方法を指導しています。この授業を通じて、保育内容「健康」に関する具体的な保育計画作成へ結びつける手がかりをつかむことを目標としています。

授業の問題点

金曜日３限クラス、４限クラスとも、「授業への学習態度」のうち「３．質問や発言をしましたか」（３限クラス－4.16、４限クラス－4.35）において、他の項目に比べて低い値を示しました。

今年度は、一部オンライン授業を行っており、また、対面授業においても発言を求めるのは難しい状況であったと感じています。

コロナ禍における授業の進め方について、今後、一層の工夫を加える必要があると感じています。

学生の授業満足度

学生の満足度は、「4.60～4.81」であり、概ね良好な数値となっています。

また、自由記述欄にも「プリントに分かりやすくまとめられていた。」との記述がありました。比較的良い評価が得られたと考えられます。

授業改善の課題と方策

この授業では、前半部分、オンライン授業に対応するため、オンラインに対応した教材を作成し、教室での授業に近い状況を作ろうと努力しました。Power Point に音声を加え、授業を行ってみましたが、一部の学生は通信状況が整わず、プリントのみの学習になってしまっていました。

オンライン授業になった際に、どのような方法を用いると対面授業に近い内容を学生に伝えることができるのか、今後、さらに検討していきたいと考えています。

その他

授業改善書

科目名	家庭支援論
担当者	杉浦　浩美

授業の概要

子ども発達学科の学生にとっては、保育士資格取得のための必修科目となっている。保育の現場で求められる「家族支援」について理解を深め、具体的かつ実践的にかかわる力を養うことを目的としている。そのために、実際の相談事例を用いるなど、さまざまなワークを取り入れながら、授業も実践的に行っている。今年度は、新型コロナウイルスの感染拡大のために遠隔授業からスタートすることとなったが、なるべく教室授業に近い形で受講してほしいと考え、音声入りパワーポイントをアップして講義をすすめ、さらに講義内容に関する課題をだした。

授業の問題点

教室授業が始まってからはＡ、Ｂのクラス分けがなされたため、教室授業での講義と翌週の遠隔授業の課題を関連づけて提示するよう構成した。ひとつのテーマを 2 週間かけて取り組むよう工夫をしたが、教室授業を欠席したため翌週の課題も未提出の学生が(少数だが)いたことは残念だった。

学生の授業満足度

遠隔授業が多かったため、例年とは評価が異なるかと思われたが、授業内容、方法、満足度ともすべて 4.2 ポイント以上であり、一定の評価は得られたと考えている。
「授業内容に興味・関心をもったか」という項目は 4.49 となっており、初回に音声入り動画で、授業の内容や目的をしっかり伝えられた結果だと考えている。

授業改善の課題と方策

遠隔課題については、学生個人の学力差が大きいと感じた。遠隔では毎回 FORMS を利用して課題学習に取り組んでもらったが、入力時間を確認すると学生間で数時間の差がある場合もあった。来年度も遠隔授業が取り入れられる場合、課題の内容と量については、学生の力量を見ながら工夫していきたいと考えている。

その他

授業改善書

科目名	子どもの歌と伴奏法Ⅰ
担当者	寺田・佐山・田中・舘岡・宮崎・若宮・渡邉

授業の概要

保育現場で歌われる子どもの歌について、ハ長調のコード伴奏による弾き歌いを指導する。クラスを前半、後半に分け、専任による一斉授業と講師によるグループごとの個人レッスンを 45 分ずつ交代で行う。個人レッスン課題は学生のレベルに合わせてテキストから 5 曲以上弾き歌いできるよう指導する。

授業の問題点

実技科目のため、6 回までのオンラインによる課題提示は個々の状況把握に難しいところがあった。
また対面授業の回数がいつもより少なかったので課題曲数を減じた。

学生の授業満足度

2 クラスとも満足度は 4.4 に近く、良好といえる。

授業改善の課題と方策

一斉授業では特に苦手な学生の理解度を確かめながら進める。またグループ分けを工夫して個人レッスンの時間配分に注意し、個々に応じた指導を工夫する。

その他

授業改善書

科目名	**初等教科教育法音楽**
担当者	**寺田己保子**

授業の概要

小学校音楽科の目標、内容、評価等について、学習指導要領を基に理解する。
小学校音楽の授業のイメージを持ち、グループごとに表現及び鑑賞についての学習指導案を作成し模擬授業を行う。

授業の問題点

当初オンラインによる課題提示では文章を読み込むことが難しいようであった。対面授業になってから補足復習も入れたが、学習指導要領の内容と具体的な展開を結びつけることが難しい。

学生の授業満足度

アンケートの結果授業満足度は 4.4 であったので、良好といえる。

授業改善の課題と方策

学習指導要領の内容と具体的な授業のイメージが結びつくよう映像資料等を活用するなどさらなる工夫をしたい。

その他

授業改善書

科目名	相談援助
担当者	藤野　好美

授業の概要

・保育士に求められる相談援助について説明する
・相談援助としてのソーシャルワークの概要、方法、技術、具体的展開を解説する。
・保育におけるソーシャルワークの活用と対象者へのアプローチを具体的に理解できるよう講義する。

授業の問題点

・オンライン授業で「自己学習型」で実施した際に課題が一切出ない学生が数人いて、対応に困った。
・「毎回の授業は適切な内容や量でしたか」について、点数が低くなっているので、オンライン時の課題の量が多かったのではないかと考える。

学生の授業満足度

・月曜日のクラスと金曜日のクラスがあるが、月曜日のクラスで満足度にかかわる設問の数値が３点台なのに対し、金曜日のクラスは４点台であった。
・授業内容は変わりないので、クラスによって満足度に開きがあるのには驚いた。

授業改善の課題と方策

・「相談援助」はカリキュラムが変わったために、今年度で終わるはずであったが、欠席が 6 回以上で試験の受験資格を得られない学生が５名以上いたので、来年度も開講されると考えている。
・履修者も限られるので、来年度は少人数で開講となり、全て対面授業で実施されれば、今年度のように「自己学習型」でのオンライン授業で課題が一切出ないということは無くなるのではないかと期待する。
・月曜日のクラスと金曜日のクラスで満足度に開きがでた原因がわからないが、保育士を目指す学生には「相談援助」はなじみがないかもしれないので、視聴覚教材を活用するなど、わかりやすく説明することを心がけたい。

その他

授業改善書

科目名	障害児保育Ⅰ
担当者	増南太志

授業の概要

近年、幼稚園・保育所で、障害児とその他の特別な配慮を要する子どもが増えてきており、幼稚園教諭や保育士がこれらの子どもについて理解していることが不可欠となっている。また、幼小保連携の観点から、小学校教諭にとっても、障害児とその他の特別な配慮を要する子どもついての理解は重要である。障害児保育Ⅰでは、障害児・者に対する意識や権利に関する考え方を獲得するために、それを支える理念や歴史的変遷などを指導する。また、子どもの心理発達の基本をおさえたうえで、各種の障害児とその他の特別な配慮を要する子どもの特性や援助のあり方を指導する。授業においては、資料や視聴覚教材を通して知識の獲得を図るとともに、レポート課題等により、知識を深められるよう指導する。

授業の問題点

今年度は新型コロナ感染症の感染予防のため、ディスカッションなどは取り入れず、基本的には講義と課題提出によって授業を実施した。それでも多くの学生が授業に集中して取り組むことができていたと感じられた。授業では、普段関わらない障害児等を対象とした内容であるため、①視聴覚教材等を用いてできるだけイメージしやすくするとともに、②配布プリントを書画カメラで黒板に写し、黒板に書き込むことでプリント内のどこにどのような内容をメモすれば良いのかがわかるように工夫した。

授業の問題点としては、①視聴覚教材の音声がやや小さめであり、教室の後ろの方では若干聞きづらい点があったかもしれないこと、②予習復習のためのサポートが不十分であったことがあげられる。

学生の授業満足度

授業内容に関しては、視聴覚教材で障害のある子どもの感じている世界を示すなどして、できるだけイメージしやすくすることが好評であった。特にコメントにはなかったが、視聴覚教材の音声がやや小さいと感じた学生もいたのではないかと思われる。質問や発言についての評価は低いが、新型コロナ感染症の感染予防のこともあり、授業内で発言する機会は設けていない。一方、授業内で個別の質問はみられた。予習復習をしていないとする学生が多かったが、こちらも予習復習をしやすくするようなサポートをしていなかった点は課題である。

授業改善の課題と方策

視聴覚教材を聞き取りやすくするため、機材については見直したい。予習復習への支援としては、早い段階で資料を配布することや授業前および授業後にすべき課題を示すなどが考えられる。一方それらの課題については、学生の負担になり過ぎないものにすることも重要である。

その他

授業改善書

科目名	教職概論
担当者	吉野　剛弘

授業の概要

教職の意義及び教員の役割、教員の職務内容を講じる科目として、最初に教育についての基本的な諸概念について、教えるという行為に関わって解説した。その上で、教員という職業がどのように考えられてきたかを概観しつつ、今日の教員に求められる資質を考察した。これらの基礎的、歴史的な視座をふまえて、教員の生活や教員に関する法制について、今日の状況を中心に解説した。

教師観の醸成という観点から、例年は毎授業時にグループディスカッションを織り込み、さらには小レポートを書かせるのだが、今年度については密を避けるという観点よりグループディカッションを行わなかった。

授業の問題点

例年より回答率が低めなのが気になるところだが、アンケートの数値を見る限り、特に問題として取り上げる点は見られない。しかしながら、半分の期間がオンラインで、残り半分が対面（グループ分割なしの通常の授業と同じ形式）という今年度の特殊事情を考慮すると、何とも言えないところがあることも事実である。

担当者としては、グループディスカッションを取り入れなかったことによるマイナスを憂慮していたのだが、結果的に授業時間に余裕が生まれたため、プラスに動いたのかマイナスだったのかの判断は難しいところである。

学生の授業満足度

満足度に関する質問については、4 点台前半と中盤である。昨年度とほぼ同じ数値（昨年度は 2 コマとも 4 点台前半）であり、おおむね妥当なラインだと考えている。

授業改善の課題と方策

オンライン形式の授業では、パワーポイントに音声を入れたものを提示し、通常の授業と同一水準を維持するよう努めた。一方で、通信容量の大きいファイルとなったことも事実であり、学生の置かれている環境を考慮しつつ資料を用意することも必要だろう（PDF のみのファイルも用意したが、明らかにコンテンツの質に差が出てしまう）。

また、グループディスカッションをどうするのかも考慮が必要だろう。今年度は図らずも実施できないという状況になったわけだが、限られた授業時間の中で教育効果を極大化するための方策を考え続ける必要があると考える次第である。

その他

特になし。

授業改善書

科目名	発達の理解と援助
担当者	高橋誠

授業の概要

幼児や児童の発達的な課題や実際に生じるトラブルに関する事例を呈示し、どのように対処を行うかについて考えるワークやグループ討議を行い、それを全体に発表する、または集計したデータを呈示し、解説を加える形式で授業を行った。

事例から子どもの本質的な問題点について見立てを立てる力、また特別支援に関する基本的な知識を事例に当てはめる力を養うことを授業コンセプトとした。

また、昨年度より小学校以降の発達的な課題をテーマとして取り上げることとした。」

授業の問題点

・グループワークで密になることを防ぐためにチャットでやりとりをしたが、対話よりもコミュニケーションが限定された。
・事例検討の時間が多く取れなかった

学生の授業満足度

・限定されたコミュニケーションの割には、それはそれで面白かったという意見があった。

授業改善の課題と方策

・幼児期から児童期にかけて幅広い事例を扱えるようにする。

その他

授業改善書

科目名	幼児理解の理論と方法
担当者	高橋誠

授業の概要

幼児の心理を知るための知識や実験結果等について、心理学の主要な領域ごとに紹介しながら、その知識を使って現実社会で起こっている現象を考えるという授業を行った。

幼児心理に関する基本的な知見について具体的に理解すること、知見を事例や社会の現象に当てはめながら考察する力を身に付けることを授業コンセプトとした。

授業の問題点

・金曜1限の授業では私語をしたり、集中力が欠けて眠くなる学生が多く見られたため、適宜指導を行い、また集中力が途切れないような授業展開を検討した。
・ただ「楽しい」という評価で終わってしまう学生がみられ、考察が深まらないものもいた。
・大人数の授業であったため、昨年のようなディスカッションは最小限にしたため、質問や発言の項目が低くなっていた。
・私語への指導をしてほしいという声が多く、落ち着かない時間帯があった。

学生の授業満足度

・得るところがあった、全体的に満足、はっきりした言葉、興味関心を持った、等が高い得点の傾向であった。
・学生からの質問はペーパーに毎回記入してもらい、その内容を次の回で必ず扱うようにしていたため、質問に対応したという項目が高くなっていた。

授業改善の課題と方策

・授業内アンケートから、学生が知識を具体的に理解しながら、自分や周囲の現象に当てはめて考察や質問をする学生がみられ、概ねの授業コンセプトが達成されている学生もいた半面、楽しさだけを重視して授業参加をしている学生もいるため、楽しさと考察をより深く行ってもらう配慮のバランスをとった授業を行いたい。
・私語についてはより明確に指導を行う。

その他

授業改善書

科目名	社会科・公民科教育法Ⅰ
担当者	堀田　諭

授業の概要

本講義では、中学校社会科及び高等学校公民科教育に関する理論的・実践的な課題について検討し、それを踏まえて自らの社会科・公民教育の教育観・授業観（理想の社会像や市民像）を再構成することを目的としている。具体的には、社会科と公民教育、道徳教育との関係性、学習指導要領と公民教育との関連性、様々な社会科授業観や授業設計の具体について講義し、自らの社会科・公民教育の教育観・授業観（理想の社会像や市民像）を再構成させた。

授業の問題点

オンライン授業の影響で学生との関係性を十分築けなかったことが質問や発言を消極的にさせていると思われる。また、対面授業の開始が遅れたため、個に応じた指導が十分にはできなかった。今後は、オンライン授業と対面授業の長所をうまく活かしていけたらと思う。

学生の授業満足度

満足度はある程度得られたが、様々な要因に対応しながらよりよい指導につなげていきたい。

授業改善の課題と方策

オンライン授業と対面授業では異なる性質の授業を展開したが、学生の得手不得手が徐々にわかってきたので、活動をうまく取り入れていきたい。

その他

特になし。

授業改善書

科目名	社会科・地理歴史科教育法Ⅰ
担当者	堀田　諭

授業の概要

本講義では、中学校社会科及び高等学校地理歴史科に関する理論的・実践的な課題について検討し、それを踏まえて自らの社会科・地理歴史教育の教育観・授業観を再構成することを目的とする。近代国家の成立と地理歴史科教育の関係性、歴史教育の三つの教育観・授業観に関する講義と活動、地理教育の三つの教育観・授業観に関する講義と活動、身近な地域の調査と単元プランの構想を実施した。

授業の問題点

授業外学習をうまく位置づけて、学生の関心を高めていきたい。提示資料に関する共通理解をもう少しできれば、学生のよりよい理解につながったと思われる。

学生の授業満足度

意味のある活動を多く取り入れ、知見の充実を図ったので、比較的高い満足度を得ることができた。

授業改善の課題と方策

適切な分量よりやや多かったかもしれないが、学生との関係性をうまく築いて理解や実践につながるように努めたい。

その他

学生の質問に対してうまく答えられていたようなので、個々の学生に合わせながらより適切な指導をしていきたい。

授業改善書

科目名	社会
担当者	堀田　諭

授業の概要

本講義では、①社会科の歴史や特質及び様々な教育観について検討し、②実際に授業づくり（教材研究）を体験することで、これまで社会科授業を受ける側だった立場から、社会科授業について考え、実践していく立場へと転換していくことを目的とする。具体的には、①社会科とはどのような教科であり、この私たちの社会においてなぜその教科を教えなければならないのか、その特質と意義について講義し、また、社会科の授業を形づくる教育観にはどのようなものがあるのか、各事例を比較・検討しながら自らの教育観を再構成していく。そうした観点を踏まえて、②実際に大学周辺地域のフィールドワークや様々な形態の調査を実施しながら、この地域で考えるべき問題や課題を明らかにした。

授業の問題点

オンライン授業で理論編を個人学習で、対面授業で実際の教材研究の活動をグループで行った。問題点としては、オンライン授業での理論的な解説が、実際の活動に十分活かされなかった点が挙げられる。原因として実習期間が重なってしまったことが大いに影響したが、カリキュラム内容をうまく分配・再分配して、繰り返し学べるように工夫したい。

学生の授業満足度

おおむね高い満足度を得られた。今後も学生の状況を見ながら、カリキュラムを柔軟に適応させ、よりよい学びにつなげていきたい。

授業改善の課題と方策

授業資料を比較的わかりやすくしたため、十分な理解が得られていた。今後は、徐々に内容を発展させながらでも適応できるように、学生の状況を見ながら授業を作っていきたい。

その他

特になし。

専任教員

経済経営学部　経済経営学科

授業改善書

科目名	国際経済論
担当者	相沢幸悦

授業の概要

グローバリゼーションの進展により、世界は相互依存を強め、経済を成長させてきましたが、その負の側面として、ひとびとの経済格差が拡大してきています。

アメリカは、トランプ政権の誕生で自国中心主義をかかげ、保護主義的な政策を進め、TPP(環太平洋経済連携協定)から離脱しました。

２０２０年初頭から新型コロナ感染症の世界的拡大が深刻化してきました。欧米諸国は、新型コロナ対策に全力を投入していますが、なかなか終息の気配が見られません。

本講義では、グローバリゼーションの進展と現状、および新型コロナ感染症拡大の世界経済に与える影響についてあきらかにしました。

授業の問題点

自由貿易がどうして必要なのかについて、リカードの比較生産費説を、数字を使って詳しく説明しましたが、なかなか完全には理解してもらえなかったようです。ただ、二国間での貿易の場合、自国でもっとも競争力のある産業の製品を輸出することで、どちらの国も利益になるということは、理解してもらうように講義しました。

国際経済の分野は、かなり幅広いので、広く浅く講義せざるをえませんでした。それでも、講義の期間中にアメリカのトランプ政権が保護主義的な貿易政策を次々と打ち出しましたので、この問題の本質をかなり突っ込んで講義しました。

とりわけ、新型コロナ感染症の世界的拡大と経済の関係について、詳しく講義しましたが、先行き不透明な中、なかなか理解してもらえなかったようです。

学生の授業満足度

トランプ政権の貿易政策の特徴を、かなり突っ込んで講義しました。実際に進展している出来事でしたので、学生諸君には関心を持ってもらえたと思っています。

トランプ政権のおこなっているのは、こういう政策だという解説だけでなく、それがどうして問題なのかということを分かりやすく講義しましたので、分かってもらえたと思います。とくに、経済を優先するあまり、新型コロナ感染症が拡大する家現状を理解してもらえたように思います。

授業改善の課題と方策

現実に即した講義をしていますので、学生諸君には、新聞をなるべく読んでもらうような工夫をしなければなりません。

なるべく、講義を理解してもらえるように、さまざまな分かりやすい資料を配布する必要があります。

学生諸君が、ノートを取りやすいように、黒板に分かりやすく書くようなことも必要だと思います。

その他

授業改善書

科目名	欧米経済事情
担当者	相沢幸悦

授業の概要

戦後の冷戦下でアメリカは、西側世界の盟主として、「社会主義」体制への軍事的・経済的な対抗をおこなってきました。対する、西ヨーロッパは、ＥＥＣ／ＥＣ／ＥＵと地域統合を深化させてきました。とくに、アメリカは、対ソ軍事的優位を維持するために軍事技術開発に専念し、日独がアメリカを経済的に支えました。

1991 年にソ連邦が崩壊し、冷戦が終結するとアメリカは、ドル体制の維持のために、資産バブルなどによる経済成長を目指しました。ヨーロッパでは、ユーロを導入してアメリカに対抗しています。2017 年 1 月のトランプ政権の登場でアメリカ経済も大きく変容している。

アメリカとヨーロッパでは、新型コロナ感染症の拡大が深刻化しています。感染状況と対応策について講義しました。

授業の問題点

アメリカの経済理念である市場原理主義とヨーロッパとくにドイツの経済理念である社会的市場ぁ経済権利の比較を詳細に取り上げました。しかしながら、アメリカ経済とヨーロッパ経済の特徴について、詳細に講義する時間がありませんでした。

もう少し、効率的にヨーロッパとアメリカの経済の事情について、簡潔に講義をしたほうが良かったかもしれません。

とくに、新型コロナ感染症の世界的拡大のなかで、アメリカとヨーロッパの状況について、理解してもらうのが大変でした。

学生の授業満足度

アメリカのトランプ政権の政策は、国内の白人の支持を得るために、移民や難民に攻撃の矛先を向けたものであるという私の見解をわかってもらえたようです。

新型コロナ感染症の世界的拡大のなかで、アメリカとヨーロッパの状況について説明しましたので、ある帝都ば満足してもらえたと思います。

授業改善の課題と方策

現実に即した講義をしていますので、学生諸君には、新聞をなるべく読んでもらうような工夫をしなければなりません。

なるべく、講義を理解してもらえるように、さまざまな分かりやすい資料を配布する必要があります。

学生諸君が、ノートを取りやすいように、黒板に分かりやすく書くようなことも必要だと思います。

その他

授業改善書

科目名	教養演習 I
担当者	一戸　真子

授業の概要

授業の概要としては、いよいよグローバル化が本格化する中で、世界を客観的かつ俯瞰的に判断できる能力を醸成できるようグローバル社会を見据えたテキストを使用しながら演習を行った。

授業の問題点

内容としては、大変タイムリーとなっており、教育的効果は見込めたが、残念ながら学生達にはやや難しかったようである。学生の現状の学力レベルをもっと考慮して進めるべきであった。

学生の授業満足度

満足度も全体的には 4 点台であり、相対的には低くなかったが、他の基礎演習などに比べやや低い結果となった。

授業改善の課題と方策

今後は、テキストや内容を吟味する際には、もう少し学生の基礎学力の見極めを十分に行うことが重要であり、今後の改善点と思われる。

その他

授業改善書

科目名	基礎演習
担当者	一戸　真子

授業の概要

授業の概要としては、地球レベルで物事を考えることは標準的なこととなってきた中で、様々な出来事が、世界共通の課題であることも少なくないことを理解し、各ビジネスの展開もグローバルに考えることが今以上に必要になってきていることに対する理解を深め、世界の中の日本としての視点を醸成することができるよう、 課題解決能力の向上やコミュニケーション能力の向上を目指した。

授業の問題点

演習方法も、学生の関心度も大変高く、あまり問題点は見当たらなかったが、強いて言えば、語学力のギャップを中心とした留学生への対応についてもう少し工夫すべきであったと思われる。

学生の授業満足度

学生達も大変熱心に参加し、受講態度もよく、プレゼンテーション能力や考察力も身についたと思っていたので、結果として高い学生の満足度につながったと思われる。

授業改善の課題と方策

今後はもう少しレベルを上げて、就職活動や社会に貢献できる人材育成につながるよう、改善しながら進めたい。

その他

授業改善書

科目名	専門演習
担当者	一戸　真子

授業の概要

「健康やスポーツ」に関心のあるゼミ生に対し、具体的な産学連携を通して、健康な街づくりについて理解を深め、プレゼンテーション能力やコミュニケーション能力の向上を目指した。

授業の問題点

最初に個別面談を実施したところ、大勢の前で話すことが出来ない、ストレスで辛いなどといった意見が多く、残念ながら発表の機会を全員に提供することが出来ず、一部の学生のみの実施となった。

学生の授業満足度

受講生が 20 名と大変多く、学生の演習に対する取組みに温度差が見られ、どこに軸足を置いて進めるべきか迷っており、4 点台の平均とはいえ、やや改善が必要な結果と思われる。

授業改善の課題と方策

人前での発表が苦手である学生に対し、どのようにアプローチして行くべきかについての検討を行う必要がある。できるだけ環境を整えて行きたい。

その他

授業改善書

科目名	教養演習Ⅰ
担当者	伊藤　孝

授業の概要

シラバスでは，経済，経営とは何かについて学ぶ最初の入り口となることを目指していること，そのための 1 つの手立てとして，日本の経済と企業について学習し理解することが有益であると記した。第 1 に，日本の経済を構成する幾つかの主要な産業の実態や特徴，第 2 に，日本企業の海外進出，これらを検討することとしたのである。

5 月上旬から 6 月下旬近くまでの遠隔授業（オンラインによる課題の提示とレポートの提出），およびそれ以降の教室での演習も，この線に沿って行った。

授業の問題点

遠隔授業については，レポートとは何か，何をどう書けばよいか，については，Teams に掲載の文書に詳しくは書いてはいたが，理解できない学生も少なくなかった。結果として，ほとんどレポートを提出しない学生も見られた。口頭での説明がやはり不可欠であろう。

教室での授業は，テキストの報告，討論によって構成された。テキストは，なるべく現在の日本と世界についての経済事情，日本企業の活動の現状を対象とした雑誌記事，新聞などを用いた。報告者，コメンテーター（質問者）はよく準備してゼミに臨んでくれたが，テキストには，難解な部分も少なくなかったようで，活発な議論に至らなかったこともあった。

学生の授業満足度

学生たちのこの演習に対する意欲は十分感じられた。教室での授業が開始されて以降，欠席者，遅刻者はほとんど皆無であり，いつも 9 時から全員そろって授業を進める事が出来た。学生たちは，ようやく遠隔授業から離れて，教室で対面しながら学ぶことができたことを喜んでいる，と私には思われた。

他方，アンケートの結果については，9 名中 4 名のみの回答ではあるが，満足度は 4 を割っており，芳しいものではない。その理由の 1 つは，やはりテキストの選定にあったようである。いま 1 つは，討論をすることに対する不慣れ，つまり講義形式しか知らない，といった事情にもよるように思われる。

授業改善の課題と方策

教養演習Ⅰの反省を踏まえ，秋期の教養演習Ⅱでは，第 1 に，しばしば難解な記述がみられる雑誌記事などの活用をやや抑えて，平易に書かれた概説書などを，1 回のゼミでの検討分量を限定して，丁寧に，急がず授業を進めることとした。第 2 は，レポーターが作成し，ゼミで報告するレジュメを，事前に私に提出させ，朱字などを入れることとした。報告作成の仕方，議論の打ち出し方などについての指導の強化である。既に，教養演習Ⅱで実行し始めたが，好評である。第 3 に，演習では，これまでも行ったが，全員がともかく 1 度は発言するように，「問いかけ」を欠かさないようにしたい。

その他

授業改善書

科目名	会計学総論
担当者	大塚浩記

授業の概要

会計学は，企業の経済活動を記録，計算，報告する役割を果たす。その報告は主に財務諸表といわれる決算書を通じて行い，報告対象は企業の所有者である株主のみならず，その企業に関心のある人たちを含む。財務諸表は，一定のルールに従った共通の用語・計算で作成される。本講義では，記帳の対象となる企業の経済活動を知り，それを表す共通の用語などを知ることを第 1 の目標としている。そして，会計情報の特徴や利用に関連して，会計学の領域を少しずつ紹介する講義である。

授業の問題点

本年度はオンライン授業による課題提出が出席回収の 3 分の 2 を占めたため，その回収と内容の理解が課題であろう。

例年，教室の特徴から着席場所によっては，スライドが見にくいや，室温に関するコメント受けるが，本年度はグループ分けによって広い教室を広く使えたため，これらの指摘が圧倒的に少なかった。

学生の授業満足度

集計された授業アンケートに加え，対面授業に際しては，授業に関するコメント欄を毎回設けており，記名式ではあるが受講者からの意見等を聞く機会がある。それらを併せてみても，概ね良好だったと考えている。

授業改善の課題と方策

今期はオンライン授業が導入されたことが新しい試みだったが，課題に対する回答は想定した内容よりは，良かったと評価している。その中で，誤った理解などについては随時メールでの返信で指摘したが，時間と作業量との関係からかなり無理があった。提出者の立場からは，何らかのフィードバックが回答への，また次回へのモチベーションとなると考えているため，合理的な方策を考えなければならない。

また，提出された課題レポートの回収率を，対面授業の際の出席率と考えると，回収率をより高くする努力も必要だろう。

すぐには方策が思い浮かばないので，引き続きの検討課題としたい。

その他

授業改善書

科目名	経済学総論
担当者	奥山忠信

授業の概要

一年生が対象の授業なので、経済学の基本的な考え方を身に着け、今後の大学での学習に役立てるようにしたい。経済学の歴史、経済学の理論、経済の歴史、現在の経済問題の概要を授業する。アダム・スミスが一年生にとっては馴染みやすいので、やや立ち入って、時代背景と学説を紹介する。今日的な課題として、アベノミクスを取り上げる。

授業の問題点

コロナ問題で、大幅に予定が狂ってしまった。遠隔授業と AB グループ分けで予定通り授業が進まず。授業の効果についても、確認できないでいる。コロナ対策で、試験をレポートに代えたが、いわゆるコピペが多く、判断のしようがない。春期の「経済学総論」で教えられなかったことは、秋期の「経済学」で補強するつもりである。

学生の授業満足度

対面授業になって学生の様子は分かるようになったが、マスクを通しての表情の判断は難しい。目だけが頼り。学生のノリを見て授業をしてきたので、今はかなり苦しい。レポートを見る限りでは、教育効果は大幅に落ちていると考えざるを得ない。難しい内容を伝えられない。また、学説の対立関係も伝わっていない。学生の授業満足度に関する手応えはない。演習できいている限りでは、不満があるわけではないようだ。

授業改善の課題と方策

秋期の経済学も A ・B グループ分けなので、教える内容は減らさざるを得ない。内容を絞って集中的に教えるように、組み立て方を変える。課題はコピペを禁止して、ノートをまとめて自分の文章にするように指導する。戸惑うことばかりで、対応していないので、しばらくは、試行錯誤の繰り返しになると思う。

その他

思いついたアイディアは、実行に移していきたい。

授業改善書

科目名	企業論
担当者	加藤秀雄

授業の概要

企業論では、現代の経済社会の発展をリードしている企業について、その組織的特性と企業行動、そして組織の永続的発展に向けてのガバナンス機構、社会的貢献、さらにはグローバル時代の中での世界戦略を見据えた事業展開の変化などを、オンライン授業と面接授業によって講義した。

授業の問題点

授業の問題点を記すというよりも、今年度のオンライン授業と面接授業についての課題と、反省である。突然のオンライン授業の実施と、それに伴う資料提示でのレポート作成という方法は、まさに教科書的な内容、すなわち一般論に終わり、教育する側にとってのストレスをもたらすものではないかと感じた。それ以上に学生にとっては、教科書を読むだけの味気ない内容であり、どこまで印象深く残ったかは不明であるが、教育方法としては問題が多いと感じた。また、面接授業の再開においても、限られた講義時間で、どこまで内容を伝えることができたかという問題が残ったように思える。

学生の授業満足度

おそらく多数の学生は、例外的なオンライン授業、そして２グループに分けた面接授業に戸惑い続けたのではなかろうか。ただ、多くの大学がオンライン授業のみで終わったのに比べ、面接授業が実施できたのは、学生にとって、ほんの少しかもしれないが、よかったのではないかと思っている。授業評価の満足度については、今回はコメントすることは難しい。

授業改善の課題と方策

いったい、本年度のような授業は、いつまで続くのであろうか。早く、通常の授業形式に戻ることを期待している。なお、個人的には、来年度以降は、授業の場に立つこともないので改善すべき点はない。

その他

授業改善書

科目名	経営史
担当者	張　英莉

授業の概要

この講義では、主に戦後の日本経営史を対象とし、復興期から高度成長期までの経済発展と日本企業の変貌を概観する。戦後の日本企業はアメリカから先進的技術や経営管理手法を導入しながらも、それらを改良・消化し、「日本的経営」方式を築き上げてきた。授業ではアメリカからの経営管理手法の導入過程と内容、特に日本側の「創造的吸収」に焦点を当てて解説すると同時に、日本的生産システムの形成過程と意義、「日本的経営」の特質を考えていく。

授業の問題点

アンケート結果から次のような問題点が見受けられる。
1、授業外学習（予習・復習）をしていない受講生が多いこと（3.98 ポイント）
2、質問や発言をしない受講生が多いこと（3.39 ポイント）

学生の授業満足度

授業内容（シラバスとの整合性、テキストの適切さ）、授業方法（説明の分かりやすさ、テーマの明確性、時間の有効利用、質問への対応、授業環境への配慮）などに関しては、比較的高い評価を得た（平均 4.23 ポイント）。また担当者として最も重視している授業への満足度についても、「授業の内容はあなたにとって得るところのものだったか」は 4.28 ポイント（昨年度は 3.96 ポイント）、「全体的に振り返って、授業に満足できたか」は 4.20 ポイントだったので、ある程度評価されたと理解している。

授業改善の課題と方策

1、課外学習は古くて新しい課題である。参考書を頻繁に指定・推薦しているが、応じる学生は少ないのが現状である。昨年度は参考書が難しすぎるとの意見があったので、少し易しい図書を加えたが、まだ効果が出ていないように感じている。
2、受講者数が多いこと、授業内容を予定通り進めたいことが原因で、授業中に質問し、学生と議論する時間を中々確保できていない。しかし、学生の思考力、コミュニケーション力を向上させるためにも必要なことなので、今後は質問・発言しやすい環境づくりに努め、双方向教育を積極的に推進していきたいと思っている。
3、授業の在り方の見直しも含めて、エデュケーション（教育）から、アクティブラーニング（学習者が主体となって能動的に学習を行うこと）への転換を試みたいと考える。

その他

今年度は新型コロナウィルスの影響で、かつて経験したことがない遠隔授業が行われた。対面授業とオンライン授業との連続性､整合性をどう確保するかは引き続き今後の課題である。

授業改善書

科目名	金融論
担当者	花崎 正晴

授業の概要

金融市場や貨幣といった金融のミクロ的側面、バブルや金融政策といったマクロ的側面、銀行の役割や金融規制といった制度的側面そして企業の資金調達といったファイナンス的側面を、それぞれ基礎から学び、金融に関する理解を深めることを目的として実施した。

授業の問題点

履修者 38 名のち、当初のオンライン授業時から対面授業時に至るまで、まったく出席しない学生が 3 名、そして対面授業開始からしばらくして出席しなくなった学生が約 5 名存在した。そのような学生を含めて履修者全員に興味を持たせる工夫をもっとすべきだったと思われる。

学生の授業満足度

学生アンケートの授業満足度は、4.0 を若干上回る水準であった。授業内容を改善することによって、授業満足度を引き上げる努力が必要であると思われる。

授業改善の課題と方策

今回は、対面授業の回数がコロナの影響で少なかったため、時間をかけて丁寧に説明することや前回の復習をすることが、十分にはできなかった。今後は、重要な点をより丁寧に説明するとともに、前回講義における重要な点を復習するなど、学生の理解を深めるための取り組みを強化していきたい。

その他

授業改善書

科目名	経営戦略論
担当者	文智彦

授業の概要

経営戦略の理論と事例について講義している。
今期は、成長戦略、事業システム戦略、競争戦略、競争と協調の戦略、競争戦略の実際、経営戦略の策定と実行、などを講義した。

授業の問題点

アンケート結果だけを見れば、特に大きな問題点は見つからない。
アンケートの記述欄に意見がないことが問題点といえば問題点である。

学生の授業満足度

評価項目のうち最低点が 4.5 点、最高点が 4.72 点で、学生の満足度は高いと考えられる。

授業改善の課題と方策

アンケート結果から見て特に大きな改善の課題はないが、学生がより積極的に授業に参加するよう促していきたい。
そのためにレポートや質疑応答、プレゼンテーションをたくさん取り入れる。

その他

授業改善書

科目名	環境会計論
担当者	吉田雄司

授業の概要

本講では、企業の環境問題を環境会計の視点から学びます。環境会計とは企業の環境保全に対する投資や費用とその効果を貨幣と物量単位で測定する手法です。講義は３部構成になります。第１部は環境省の「環境会計ガイドライン」を、第２部では環境会計の理論、そして第 3 部では実際の企業が公表する「CSR 報告書」や「統合報告書」等の環境会計のケーススタディを学びます。

授業の問題点

授業に対する質疑応答が 3.35 と少ない感じがある。

学生の授業満足度

学生の授業満足度は、4.59 である。

授業改善の課題と方策

授業に対する質疑応答については、小テストを毎回授業の終わり２０分くらい行っている。その小テストに関しては、次の授業で正解とコメントをしている。このため、この方法が授業改善に反映されていない感じがします。次回からは、こうした小テストの対応についても質疑応答に該当するよう授業アンケートでカウントしてもらうことにする。

その他

授業改善書

科目名	経営管理論
担当者	大江 清一

授業の概要

本講義では経営管理論の基礎を修得する。そのためにはまず経営管理の基礎を修得し、経営戦略と経営管理、経営管理の体制、経営管理の対象、国際化と経営管理の順で、経営管理論で取り上げる領域の大半をカバーする。

経営管理論は生きた学問として身につけられなければならない。経営管理手法は日々進歩しているため、基礎講座ではあるが、本講義では経営管理論の最新テーマや時事的な話題を可能な限り多く盛り込む。

学んだ知識をもとに日本経済新聞や経営関連誌を自主的に読み進めることは、経営管理論を効果的に修得する秘訣であり、講師は強くこれを奨励する。

授業の問題点

(1)「授業アンケート集計結果」に基づく改善ポイントは、講義内容をさらに改善することである。
(2)経営管理論の履修生は 2 年次以上であるので、経営学の基礎知識が修得されているという前提で専門性の高い内容を講義に盛り込んでいる。
(3)経営学総論で説明した内容を折に触れて振り返るよう努力した。学生にリマインドさせる効果はあったと考える。

授業改善の課題・方策

【講義内容のレベル】

(1)経営管理論は基礎からしっかり学ぶことが重要であり、社会人となった場合に最も有用な内容を含む分野であると考える。
(2)レジメには図表を取り入れてわかりやすさを重視した工夫を凝らしてはいるが、さらにアイキャッチを強化する等、教材のプレゼンテーションに改善を加える。

【講義運営】

(1)講義における学生の集中度は前年度よりは改善されたと考える。実務の経験談や資料を多用したことが奏功したと思われる。
(2) レポートの提出期限はおおむね守られたが、毎回注意喚起することにより規律づけを徹底したい。

その他

(1)レポートを 15 回提出させることで講義内容の理解レベルはむしろ改善したと思われる。

授業改善書

科目名	経営学総論
担当者	大江 清一

授業の概要

本講義では経営学の基礎を修得する。そのためにはまず組織論の基礎を修得し、企業経営、経営戦略、企業倫理、企業の国際化の順で、経営学で取り上げる領域の大半をカバーする。

経営学は生きた学問として身につけられなければならない。経営学は日々進歩しているため、基礎講座ではあるが、本講義では経営学の最新テーマや時事的な話題を可能な限り多く盛り込む。

学んだ知識をもとに日本経済新聞や経営関連誌を自主的に読み進めることは、経営学を効果的に修得する秘訣であり、講師は強くこれを奨励する。

授業の問題点

(1)「授業アンケート集計結果」を踏まえた授業の問題点は、二部制への対応であった。1 回おきにしか受講チャンスがない学生たちに講義するには一挙に多くの内容を講義です眼込むのではなく、要点をわかりやすく説明することが肝要と思った。

(2)ソーシャルディスタンスをとって座席についているので私語は従来より少なかった。

授業改善の課題・方策

【授業内容の改善】

(1)講義内容に対する著しい不満は見られないので、今後も引き続きレジメを用いて、講義中で重要ポイントを強調する方式で講義を進める。また、実務事例は従来以上に豊富に盛り込む。

(2)講義内容に関係する経験談は講義内容を理解する上で必要なものに限って行うように心がける。

【規律の厳格化】

(1)レポートの提出期限は 2 週間をメドにしたが、期限後に提出する学生が散見されるためその点を切り続けしたいと考える。

その他

(1)マイクの使い方についてコメントがあったので、注意深く取り扱いたい。

非常勤講師

人間学部

授業改善書

科目名	犯罪心理学（司法・犯罪心理学）
担当者	古曳　牧人

授業の概要

本講義では、犯罪に関する心理学や社会学理論の解説、性格や家庭と犯罪・非行との関係、依存・嗜癖の問題、犯罪捜査、犯罪被害者支援等について解説を行った。

全体としては、加害者の心理を中心とした講義内容だが、犯罪や非行の多くは、様々な要因が複雑に重なり合った結果起こっていることを理解できるように留意した。
講義形態としては板書中心であった。また、公認心理師科目である。

授業の問題点

本年度に関しては、前半がオンライン授業、後半が対面授業とオンライン授業の併用の形で実施された。特に後半の対面とオンラインの併用期間では、授業内容をどのように振り分けるかで苦労した。また、受講者数が少なくなかったため（98 名）、提出された課題に対するフィードバックがあまりできなかったことも反省点である。

例年実施していた中間テストも実施できなかった。

学生の授業満足度

昨年度とは授業形態が大きく異なっていたため、単純に比較はできないと思うが、「授業内容に興味や関心を持ちましたか」という質問項目では、昨年度 4.53→本年度 4.45、「全体的に振り返って、授業に満足できましたか」では、昨年度 4.52→本年度 4.38 と、いずれも若干低下していた。対面授業部分が少なかったことやフィードバックが少なかったことが影響していると推測される。

授業改善の課題と方策

来年度もオンライン授業や、オンラインと対面の併用となる可能性があり、オンライン授業の質の向上については検討したい。

本年度のオンライン授業部分は、資料を読んで課題を行ってもらう形が中心であった。学生の負担は比較的大きかったと思われるが、一定の学習効果もあったと考えられる。来年度については、テキストでの理解が難しい部分については、動画での授業部分を増やすなどの改善を図りたい。課題に対するフィードバックも、効率的に行える形を模索したい。

その他

特になし

授業改善書

科目名	英語Ⅰ
担当者	青木雅幸

授業の概要

国際化する日本の教育現場において、子どもの発達段階に応じた様々なテーマを踏まえた英語会話表現を学び、必要とされる英語語彙を身につける。なお且つ、基本文法項目を復習しつつ、各課のまとめとして学習した内容について自分なりの英文パラグラフを作成する。これらを習得することにより実践的な教育現場で必要な身の回り物事を英語で表現できるように指導する。また、各 Unit の応用として幼保英検の対策指導と小模擬試験を実施する。

授業の問題点

コロナ禍の最中での課題及び A/B グループ編成授業であり、学生・教員ともに今までに経験をしたことのないストレス(飛沫感染を防ぐために大きな声で発音ができない等々)を感じつつ春期が終了した。課題及び授業を実施する際の最大の問題点は、MicrosoftTeams について慣れない（時にはアクセルできない）学生が居り、このシステムの活用に無駄な時間を過ごしてしまったことである。また、対面授業においては、Unit の復習と応用を兼ねた幼保英検の模擬問題を隔週与えているが、対面授業の週に模擬問題の解説を含むためにどうしても進度が遅くなってしまい、予定している授業内容をカバーできていない。英語が苦手な学生の多くは、進度が遅いことについては歓迎をしているが、英語を得意としている学生にとっては不満を覚える点であり、悩ましい問題である。

学生の授業満足度

アンケートの結果全般で判断するに、予想より授業に満足している学生が多いと思われる。第一回目のリモート課題で、学生の英語学習についての意識調査をしたが、「英語が好きではない」の回答が大多数であり、今回の授業評価アンケートにおいても、否定的な回答が大いのではないかと予測していたが、意外にも前向きな回答が多い結果であった。その理由として考えられることは、授業の内容が中高時代の読み書き文法中心の授業ではなく、教育現場で有効と思われる表現を中心としている点にあると思われる。しかしながら、全ての学生が高い満足度を示しているわけではなく、当然のことながらより満足度の高い授業を提供することが求められている。

授業改善の課題と方策

一般的に日本の教育現場において、英語は最も学力差が顕著に表れる科目の一つであると言われている。そのため、上記したように、英語が苦手な学生にとっては進度の遅い授業展開は喜ばしいことであるが、一部の英語が得意な学生にとっては不満の種ともなり得る。子ども発達学科の学生にとって英語は中心的な教科ではないが、英語教育の低年齢化・教科化が進む今日、教育現場における英語需要は高まる一方である。故に、子ども発達学科の学生諸君により良い英語の授業を展開するために、将来に向けて習熟度別のクラス編成を提案したい。

その他

小学校のみならず、幼保の現場でも教育者に英語力が求められる時代となっている。私が本学に採用されるに際し、幼保英検の指導が条件の一つであった。したがって、授業では幼保英検の模擬問題の指導を行っているが、子ども発達学科の学生諸君には、英語が苦手であっても、せめて幼保英検３級ないし 4 級を取得して欲しいと願っている。英語学習の動機付けにも直結すると確信する。

授業改善書

科目名	韓国語Ⅰ
担当者	李芝善

授業の概要

「韓国語Ⅰ」初級では、主に文字の読み書きができるように指導しながら、日本語との言語的差異や文化的背景などを取り上げ、韓国語を通じて自国の文化をもより考えてもらうよう努めた。また、韓国文化への興味と理解を深めるために言葉で説明するのみならず、ドラマ、映画など視覚をとおした理解を積極的に図った。

授業の問題点

コロナ禍において、学生のネット環境によっては、対応に多くの時間がかかる場合やグループ分けになっており、思うほど授業が進まなかった。そのため、できる学生はどうだったか気になっていたが、アンケート結果を見ると、今まで通り授業を進めても問題はないと思われる。

学生の授業満足度

オンラインと対面授業の併用だったため、学生の満足度と理解度について心配していたが、アアンケート結果、多くの学生が韓国語に興味を持ち、韓国語Ⅰで目指した文字の読み書き・自己紹介など、全体的に授業が理解できたと思われる。

授業改善の課題と方策

ネットと学校での対応が両方できるように努める。

その他

今後も多くの学生が満足できるようにより良い授業を目指して最善を尽くしたい。

授業改善書

科目名	フランス語Ⅰ（初級）
担当者	市橋 明典

授業の概要

この授業ではフランスの豊かな文化を学ぶとともに、「読む・書く・聴く」の能力を養う。そして、仏語を話せるようにする。
プリントと（映画を含めた）映像を用い、ビデオ教材である『彼女は食いしん坊』の内容に沿った簡単な会話練習を行う。基礎的な文法の説明とそれに関連する練習問題をこなすと同時に、実践的なコミュニケーション能力を養うべく単語集を使って語彙の補完につとめる。また、教科書のトピックに合わせて随時フランスの文化について学習する。

授業の問題点

２０２０年度は全世界的な新型コロナ・ウイルスの蔓延によって未だ嘗て経験したことが無い「遠隔オンライン授業」を大学として行わざるを得ない状況にあり、遠隔で講義を行うことの難しさが露呈する結果となった。当科目の担当講師としては大学指定のMicrosoft365 及びTeams のソフトを駆使してリアルタイムの遠隔講義を実施するなど最善を尽くしたつもりであるが、初心者にとって対面授業の中でさえ理解が難しい第二外国語をオンラインで教えることは極めて困難であることを痛感した。

学生の授業満足度

未曾有の状況において当科目の受講者の殆どが Teams などでによるリアルタイムの遠隔授業を受講し、指示にしたがって課題をメールで提出するなどの努力をしていたが、Zoom とは異なる大学指定の Teams では「共有」などのプレゼンテーション上のシステムトラブルの頻発が原因で授業内容の理解に困難が伴った。その後大学の英断により途中から対面授業に切り替わり、授業への理解度と満足度が高まり、それがアンケート結果に現れた。

授業改善の課題と方策

外国語の初歩学習においては発音等に関する受講生それぞれの理解度を把握するとともに、分かりやいプレゼンテーションを心掛け、学生一人一人に対する細やかな指導を行うことが学習の基礎固めをする上で肝要となる。それだけに、状況が許す限り万全の対策を講じた上で対面授業を今後とも実施していきたい。今回の経験から、やむを得ずリアルタイムのオンライン授業を行うにあたっては Teams のシステムに頼るだけでは無理があり、少なくとも Zoom のシステムを用いなくては学習が困難であることが分かった。ゆえに大学としては、学生が満足するオンライン授業を実施する上で、全体的なオンライン・システムを見直し、それぞれの教員に Zoom のアカウントを付与することが求められると考えられる。

その他

授業改善書

科目名	政治学
担当者	伊藤肇

授業の概要

今期は新型コロナの影響で前半は主に「Teams」にアップした資料を読んでもらう形で「授業」を進め、対面授業が開始となった時点でそれまでの内容の理解度を確認する意味で小テストを実施した。また、２グループに分けた対面授業の「ウラ」の回のグループには引き続き対面授業の学習内容とは異なる内容の資料をアップしそれをもとに学習を進めてもらった。

具体的な内容については、「シラバスに提示されていた内容、進度と一致していましたか」の項目が比較的（あくまでも比較的）高いことからも推測できると思われるが、シラバスに記載されている項目に沿って授業を実施した。

授業の問題点

アンケートでの数字が低かった項目は、「質問や発言をしましたか」（１）および「授業外学習をしましたか」（２）・「授業の方法や資料はわかりやすかったですか」（３）である。

ただ、これが対面授業のみを対象とした回答なのか、遠隔授業を含めた総合的な評価なのか判然としない。（２）のような質問については、少なくともアンケート実施日に出席していた受講生についてはしっかりと課題は提出されていたので、対面授業についての評価と推測されるが、少なくとも「Teams」にアップした資料については「これほどわかりやすい資料はないのではないか」と自負していただけに少々不満となる結果であった。いずれにしても、アンケートの設問形式に工夫が必要であるように感じられた。

学生の授業満足度

「授業の内容はあなたにとって得るところのあるものでしたか」「全体的に振り返って、授業に満足できましたか」という項目については両方とも約 4.2。「5 に近づけるようさらに頑張りたい」とでもコメントすべきなのでしょうか。実際のところ、「ではどんなところが不満ですか」といった項目を設けて具体的に記述してもらうようにしないと、単なる数字の優劣だけを競う設問になりはしないかと思う次第である。

授業改善の課題と方策

「授業改善の課題」としては前述のとおり、「授業の方法や資料はわかりやすかったですか」という項目の数字が低いわけであるから、よりわかりやすい授業を心掛けたい。ただ、小テストおよび期末テストの結果を分析すると、できる学生はほぼ満点の得点ができているのに対し、一方でほとんどゼロという学生も存在する。「わかりやすい」というのも程度問題と思われるが、いかがなものであろうか。

その他

授業改善書

科目名	中国語Ⅰ（初級）
担当者	王振宇

授業の概要

この授業では、中国語の発音、基本単語、基礎文法を習得し、教員やクラスメートとの会話練習を通して、日常生活で最もよく使われる中国語の基本的表現を身につける。また、中国関連の紙資料、視聴覚資料を通して中国現代社会、中国文化、中国歴史などに対する理解力を高めていく。

授業の問題点

履修生のすべての回答の中、点数が最も低かったのは「質問や発言をしましたか」という問いである。本来、語学の授業のため、双方向性が重視されるはずだが、コロナ感染防止のため、やむを得なく教室における履修生の発言を極力させない方針をとった。学生の回答は実情を反映していると言えよう。

学生の授業満足度

授業満足度に関する問いはⅢの１と２である。それぞれ 4.65、4.71 となり、やや高い満足度を得られたと言えよう。これは遠隔授業にかかわらず、メールなどで履修生とのコミュニケーションを重視してきた結果だと考える。その実践例の一つは、履修生から課題を受け取った後、必ず返信、確認することである。このような工夫によって、履修生との信頼関係が築かれたと考える。また、自由記述欄には「初心者でもとても分かりやすく、生徒の反応を見ながらやっているのでとても良い授業と感じています。」とのコメントもいただいた。

授業改善の課題と方策

コロナの感染状況が続く場合、教室での会話練習をいかに行うかは大きな課題になると考える。その際、各自で録音してもらい、それを送信してもらい、確認するという方策で対応したいが、ただし、大人数の場合はまた新たな工夫を施す必要があるかもしれない。

その他

授業改善書

科目名	教育相談の理論と方法
担当者	大島　富惠

授業の概要

・学校では、あらゆる機会を捉え、あらゆる教育活動のなかで、教育相談的な配慮が必要となる。そのために、カウンセリングの基礎を理解し、実践に活かせるように演習を通して学びを深める。
・また、実際に遭遇するであろう主な相談内容について、その不適応行動、背景等の理解をすると共に、教員としてどのように対応していくか考える。

授業の問題点

・初めてオンライン授業を実施し、どのように進めるのが良いのか、資料や課題の量についても、迷いながらのスタートであった。学生たちは、提出期限も概ね守り意欲的に取り組んでくれたと思う。
・対面授業になってから、授業の初めに本時の目標を毎回明示し、最後に振り返りと次回のテーマ及びそのテーマに関する予習課題を提示するようにしたが、振り返りの十分な時間をとることが難しく、その都度、質問等を受け付けることができなかった。
・資料は、主としてパワーポイントを印刷したものを用意し、重要な点は、学生が記入するようにし、自分の考えをまとめるスペースも用意するようにした。
・傾聴の演習、心理教育の実践などを取り入れ、学生が積極的に参加できるように試み、学生たちも期待に応えてくれた。コロナ対策のため、マスクの着用、対話時間の短縮、間隔の確保など、配慮が必要であった。

学生の授業満足度

・授業の内容には、相応の関心を持って臨んでくれているので、その関心をより高めていけるような努力をしたいと思う。
・調べてきたことのプレゼンテーションや模擬授業など、学生の負担が大きくなるのではと危惧したが、むしろそうした内容の方が、満足度が高くなるようである。

授業改善の課題と方策

・少人数での授業の良さを十分に発揮できるようにしたい。指名されて発言するのではなく、学生たち自らが積極的に発言できるような風土を作ることを心掛けたい。
・15 回の授業の流れを再度見直し、全体として、学んでほしいことが一貫して理解できるような構成を図りたい。
・学生の発言の機会を、多く設定する

その他

授業改善書

科目名	初等科教育法（国語）
担当者	大橋　修一

授業の概要

本授業は、「言語活動の充実化を図ること」と、「国語科授業の創造をめざすこと」を目標に進めていった。
具体的には、「国語の授業の進めた方」や「社会情勢や時事」といったテーマを提示し、各自の考えをレポートでまとめる、という課題を設けた。

授業の問題点

コロナウィルスの影響もあり、国語における 3 領域の「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」をバランスよく行うことが出来なかった。

学生の授業満足度

前期の前半は、リモートでの授業が中心だったこともあり、「提示する文章はできるだけ分かりやすく」、且つ「より実践的な授業を実施すること」を心がけたことが、今回の授業評価に反映されたのではないだろうか。
そのため、直接の講座方式の際も上記の点を意識して授業を行っていく予定である。

授業改善の課題と方策

同上。

その他

授業改善書

科目名	英語Ⅰ
担当者	大山健一

授業の概要

１年次必修科目の春期（前期）科目であった。始めの６回分がオンライン授業となり、第７回目から対面授業となった。指定テキストに準拠し、文法・語法の確認・解説、英語会話の聞き取り問題、読解問題などを取り上げた。評価方法としては、日々の課題提出状況、夏季休暇課題の正答数、授業態度などから総合的に判断した。

授業の問題点

新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策として、ペア・グループ活動にある程度の制限が必要となってしまった。文字（読む・書く）に関する活動は可能であるが、音声（聞く・話す）に関する活動は感染リスクの可能性を鑑み、聞く活動のみをメインとした。その結果、学生からの「質問」はあったものの、「発言」はほとんどなかったため、3.50 というアンケート結果になったと考えられる。

学生の授業満足度

アンケート結果から学生の授業満足度は 4 を超えているため、高い結果になったと考えられる。授業内容と全体的な振り返りがアンケート項目になっていたが、具体的に何であったのかが判明できないため、項目の細分化が必要かと思われた。

授業改善の課題と方策

新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策においても、音声活動は必要であるため、その中で如何にして話す活動を取り向くべきかを検討する必要性がある。特に「英会話」「英語コミュニケーション」などの活動重視科目において、どのような対応がされ、授業が実施されているのかという情報の共有が必要不可欠であると考えられた。

その他

新型コロナウイルス感染症の感染防止対策のため、始めの６回分がオンライン授業となってしまった。よって、これら６回分の内容に関する学生の理解度を確認することには慎重に対応したため、その結果がアンケート結果に反映されたと思われた。

授業改善書

科目名	保育内容指導法
担当者	岡田耕一

授業の概要

この授業では、①保育所、幼稚園、認定こども園における保育の目的、内容と保育指導の基本について学び、②学習した内容を保育所実習や幼稚園実習で活用することを目標としている。

授業では、保育所保育指針、幼稚園教育要領を熟読しながら、保育内容指導の基本について事例を基に学習する。教員の一方的な講義にならないようにするために、学生との対話を大切にしながら授業を進めている。

授業の問題点

今回はオンライン授業と対面授業とのハイブリッド授業という初めての試みであった。最も不安であったことは、オンライン授業である。資料を掲示し、学生が自己学習、課題学習をするということで、どのような資料をどれだけ掲示したらよいか、思案しながら授業を進めた。授業アンケートの結果から明らかなように、授業の内容及び量に関する評価は 4.52 と高い評価を得ており、オンライン授業は学生にとってふさわしいものであったと言える。

学生の授業満足度

① 授業に対する評価では、すべての項目が 4.4 以上の高評価を得ている。学生の満足度を満たすものであったと思われる。
② 対面授業では、学生は大変真面目にそして真剣に聴講しており、私自身があらためて対面授業の重要性について確認することができた。
③ 大学の要望を踏まえて、学生にはオンライン授業中の課題提出は対面授業のスタート時にするように伝えておいた。学生は様々な授業の課題提出に追われていたので、私が余裕をもって課題提出させたことに、とても感謝しているようだった。

授業改善の課題と方策

① 次年度は新コロナ感染がどの程度影響するか不明であるが、できるだけ対面授業を第一に考えていくことが重要であると思う。
② 次年度ももしオンライン授業でスタートするような状況になった場合には、できるだけ早期にテキストが学生の手元に届くことが望まれる。

その他

授業改善書

科目名	博物館概論
担当者	奥田　環

授業の概要

博物館概論は博物館学芸員課程における最も基礎的な科目として、博物館の定義や目的、機能、分類、歴史、関係法を学び、基本的な知識を習得するとともに、社会における博物館の存在意義を理解し、学芸員の役割を認識して、自分の学芸員像を明確にしていくことを目指しています。

授業の問題点

基本的な知識を確実に得るために、どうしても内容量が多くなるように感じるかもしれません。また、博物館の歴史は世界史・日本史の流れと連動するため、背景としての歴史事象を解説していくと、さらに説明が多くなってしまいます。

学生の授業満足度

身近にある博物館について、実は歴史的・法的な根拠があったことなど、初めて知ることに新鮮さを覚え、また納得もして、あらためて博物館に興味を持てるようになったことが良かったように思います。

授業改善の課題と方策

学生が興味深く聞いてくれている手応えを感じており、より関心を持ってもらえるよう、様々に具体的なエピソードを交えて面白いと思ってもらえる授業を展開したいですが、饒舌になると逆に冗漫で記憶に残りにくくなるので、メリハリが必要と考えます。
対面授業で、要点のみ記したレジュメを配り、解説しながら板書事項をレジュメに学生自身に書き込んでいってもらったことが、学生の集中力も維持でき、理解にも有効だったように感じました。

その他

学芸員養成課程の履修者は、総じて熱心で授業態度も良好だと思います。

授業改善書

科目名	乳幼児心理学
担当者	加藤　邦子

授業の概要

胎児期から乳幼児期に至る発達について、成育歴、身体・運動、感覚知覚・認知機能の発達、感情、対人関係、自己、言語発達などについて講義し、個人の発達や適応について理解できるように指導した。乳幼児を取り巻く環境や親子関係・子ども同士の関係のあり方と心理的発達について、7 回まではオンデマンド教材を用いて講義と課題を提示した。8 回以降は対面授業は映像を用い、解説した上で演習課題を取り入れ、乳幼児期の発達や適応に関する十分な知識を身につけ、心理的援助に活用できるよう進めた。

授業の問題点

・遠隔授業の課題は、各回設定したので課題提出が滞る学生も見られた。
・学生によってはネット環境が整備されておらず、Teams にアクセスしにくい状況があった。
・対面授業が再開された後も、学生の中には登校に不安を感じる者がいたので、課題提出を課して、対面授業の代替とした。視聴覚教材を用いた授業内容を提供できないため、対面授業を受けた学生との間に学修の差が生じたと予想される。

学生の授業満足度

非常勤のため、学生の状況がわからないまま、手探りで授業を実施したが、受講生の課題提出に対するレスポンスをまめに行った。したがって受講生の満足度は高かったと捉えている。一方で、回答者が半分ほどであったため、回収率を上げることが課題である。

授業改善の課題と方策

当初のシラバスの内容通り②授業を進めることができたと考えているが、遠隔授業では、視聴覚教材を用いた乳幼児の行動観察を実施すること、グループワーク、ロールプレイを演じてみることなどが難しいと感じた。また対面授業になってからも。三密を避ける必要があり、グループワークやロールプレイなどの演習を取り入れることは難しかった。したがって、今後は受講生の状況をよく理解した上で、双方向的な授業を工夫していきたいと考えている。

その他

授業改善書

科目名	人文地理学
担当者	亀井啓一郎

授業の概要

今年はコロナの影響で、オンライン授業を行ったこともあり、授業内容の一部を変更するなどの対応をとった。オンライン授業では、最初は資料配布型、その後は YouTube によるオンデマンド型で行った。オンライン授業では地図の概念や世界地図の発達と歴史といった地図に関する講義を行い、対面授業になってからは、人口、都市、余暇・休暇に関する講義を行った。地域を見る、地域を知るということを念頭に置き、授業を進めた。

本科目は、中学校社会科および高等学校地理歴史科の教職免許の取得のための科目にもなっている。そのため、教職に就いた場合に必要とされる知識や教養を身に付けることもこの授業の目的のひとつとして授業を進めた。

授業の問題点

対面授業では、私語をする履修者はおらず、快適に授業を進めることが出来た。コロナの影響もあり、欠席する学生もいたが、全般的に出席率も良かった。授業の難易度は決して高いものではないが、基礎的な地理の知識が不足している者も少なからず見受けられた。

学生の授業満足度

授業は、基本的にはパソコンを用いてパワーポイントで進めた。スクリーンに映した画面をただノートに写すだけではなく、地図帳や資料、写真を見せながら授業を進めるようにした。パワーポイントのスライドは見て理解しやすいようにまとめ、学生がノートに写しやすいよう工夫した。学生にとって新たな知見を得られるような授業構成を心がけた。

授業改善の課題と方策

教室での授業の場合、一方的に話を進める講義形式だけでなく、作業や簡単な実習を伴うような授業構成も検討したい。

その他

授業改善書

科目名	言語学
担当者	河須崎英之

授業の概要

毎日、当たり前のように使っている言葉も、実はその仕組みが分かっていないことがある。例えば、「コトバ」と声に出すように言われれば、何も考えずとも発音できるが、その時に実際どうやって音が作られているのか、意識することはほとんどないだろう。発音に限らず、自分の話している言葉をじっくりと振り返ってみると、面白い「気づき」があるはず。一番身近な「言葉」について考えるきっかけになるよう、言語学の基本的な考え方を講義する。

授業の問題点

前半はほぼオンライン、後半からはオンラインと対面とを隔週交代の形での授業となった。オンライン授業では、資料を読んでもらうだけでなく、音声による補足説明を聞いてもらう部分も作った。「音声がもっとあった方が分かりやすい」「対面授業での説明を聞いて内容を理解することができた」などの声を直接、学生から聞いているので、読む資料だけでは授業内容の把握が難しかったことが推察される。

学生の授業満足度

アンケートを見る限り、満足度は高いと思われるが、アンケートの回答人数がそれほど多くないことを考えると、決して楽観視はできない。しかし、対面授業にきちんと参加した生徒は、「オンラインの課題にどう解答すればよかったかが理解できた」「同じ学生の意見を聞くことができてよかった」などの感想を述べており、授業へのかなり高い満足度を得ていたと思われる。「音声による補足の解説がよかった」という意見も聞いているので、オンラインでもきちんと受講している学生はそれなりに内容を理解し、満足度も高かったであろうことが窺える。

授業改善の課題と方策

後期も言語学はオンラインと対面との併用とのことなので、前期の反省を生かして、オンラインでできること、対面授業でできることを見極め、それぞれの性質を活用した授業を展開したいと考えている。オンラインの内容の振り返りを対面授業に取り入れることで学生の理解も深まるようなので、両方をうまくマッチングさせる必要がある。

具体的には、対面の方がやりやすい内容（発音などが関係する部分）とオンラインでも可能な内容（用語の整理などが中心となる部分）とをあらかじめ分けて、それぞれを並行して進めていき、適宜、対面授業の中でオンライン授業の復習や補足を取り入れていく予定である。また、オンライン部分の読ませる資料も、より分かりやすいものにしていきたい。

その他

後期もオンライン授業を行っていくことになるので、全学的な学生のＩＴ環境（オンライン授業を何で受講しているのか、資料の印刷は自分でできるのか、どれくらいの通信容量があるのか、ワープロソフトは使えるのか、など）を調査して知らせてもらえると、より授業計画も立てやすいのではないかと思われる。

授業改善書

科目名	家族論Ⅰ
担当者	工藤　豪

授業の概要

日本の「家族」は、社会状況に影響を受けながら時代とともに変化してきたが、その一方では、空間的多様性を持ちながら存在してきた社会集団である。そこで、家族の定義や家族に関する概念・基本的な知識を踏まえ、“時代”および“空間”をキーワードとして、多様な家族の姿を捉えていきたい。そして、家族構造に関する三つの立場を紹介しながら、現代家族の持続と変容について講義する。

授業の問題点

遠隔授業での実施となったことにより、学生が質問を行ったりする機会を十分に確保できなかった点や、疑問点を伝えにくい部分があったのではないかと推察される。フィードバックでの対応なども含め、学生とのコミュニケーションをどのような形で行っていくのかということが今後の課題として残った。

学生の授業満足度

学生の授業満足度は 4 点前後となっており、一定の満足度は得られているように思える。しかし、授業方法の部分で、授業の方法や資料がわかりやすかったかという設問に対する評価は少し低いため、今後遠隔授業を行う場合には、とくにこの点に留意する必要があると考える。

授業改善の課題と方策

授業の方法・資料については、遠隔授業を実施する場合において、単発的な課題の提示とならないように気をつけ、流れの中で考察したり出来るような授業方法を計画していくように心がける。具体的な講義手順を示すことにより、学生が何を学んでいるのか、この部分がどこにつながっていくのかなどを、イメージしやすい形で課題を行えるように努力していきたい。また、フィードバックでの対応を積極的に行い、学生が質問しやすい関係性を構築できるように努めていきたい。

その他

授業改善書

科目名	情報処理（文書の作成と表現）
担当者	坂本明子

授業の概要

演習形式の授業形態により、知的活動でも職業生活や社会生活でも必要となる基本的な情報処理能力を身に付けることを目的として、情報化社会における情報の役割と活用について理解したうえで、コンピュータの仕組みやソフトウェアの利用方法、キーボードタイピング練習、電子メールの受・発信などの基礎的な知識と技能について指導した。MOS Word2013 の資格試験に合格することを目的とし、試験対策用教材に取り組んだ。具体的に、Word の文字、段落、セクションの文書設定、表とリストの作成、画像、SmartArt の挿入、参考資料の適用について指導した。

授業の問題点

授業への興味が高く、出席が良かった。講義専用のサイトを設け、授業毎の評価を確認させ、意欲的に取り組めるよう工夫した。毎回授業テーマを設定し、それに応じた資料を専用サイトで配信した。コンピュータ操作の実技演習であったため、授業開始時にタイピング力向上のための演習を取り入れた。そして授業時間をうまく運用し、わかりやすく説明するように努力したものの、学生は難しく感じる時もあった。

学生の授業満足度

授業アンケートの学生による主な意見に「毎回の課題内容が明確で授業に集中して取り組めました。」「学生一人一人に丁寧な説明をしていて分かりやすい講義だと思います。」などのコメントがあることから、ある程度満足が得られる授業が展開できたと考える。

授業改善の課題と方策

もっとわかりやすく説明するように心がけ、毎回授業をふり返り、各授業での学びを確認する。授業後との学びをふり返り集積し、集積から見えてくるものを学ぶ。学びをふり返り、自分の変容を知ることのよって授業の予習・復習等の自己学習意欲の喚起につながるようにする。より良質な授業となるよう、アンケート結果を真摯に受け止め、今後の授業展開に反映する。

その他

特になし

授業改善書

科目名	日本文化概論Ⅰ
担当者	佐々木 あすか

授業の概要

本授業は、平安時代後期から鎌倉時代にかけての仏師と仏像の歴史を中心に取り上げながら、仏像とそれに関連する絵画、工芸品、建築などを取り上げたものである。仏像制作の背景にある信仰との関係などについても取り上げ、現在失われてしまった寺院や仏像を含めた当時の仏像制作の様子を総合的に講義した。

授業の問題点

アンケートのなかで「質問や発言をしましたか」の項目が、他項目に比べて低かった。例年、講義形式のなかで多くの履修者が発言をするのは比較的むずかしい状況にあるなか、今年度はオンライン形式での課題提出としたことで質問は多かったように思うが、さらなる工夫も必要と思われる。

学生の授業満足度

「授業の方法や資料はわかりやすかったですか」「全体的に振り返って、授業に満足できましたか」の項目が比較的高かった。授業での課題やレポートなどでも、授業内容に関しておもしろかった、寺院や仏像に興味を持ったという声があった。今後も、初学者でも興味を持てるようなわかりやすい授業になるよう努めたい。

授業改善の課題と方策

質問への返答は、翌週の授業内で紹介することで、疑問点や補足事項を履修者全員で共有できるよう努めている。今後は、授業内での効果的な問いかけや、解説方法のさらなる工夫によって、より自由な意見や質問を引き出すことができるよう努めたいと考える。

その他

授業改善書

科目名	家庭
担当者	佐藤真弓

授業の概要

小学校５年生から学ぶ「家庭科」について、教科の特性や現代の子どもたちの生活実態に触れながら、家庭科を学ぶ意義などについて検討していく。小学校家庭科の教科内容、指導方法等の基本的な事項について、講義、演習、実習を通じて、指導者に必要な知識理解とともに実践的な技能・態度を培う。

授業の問題点

本年は初めてのオンラインで前半の授業を実施した。ＰＣ機器を使うことに慣れていない学生が多く、教員にとっても授業資料の準備、課題のフィードバックに大変な労力がかかり、オンライン授業の難しさを感じた。演習、実習も対面では実施できず、できるだけ「課題」として各自家庭で行ってもらうようにしたが、取り組みの姿勢をみることもできず、評価も難しく、目標達成することはできなかったと感じる。

また後半は大学において対面の授業が叶ったが、Ａ、Ｂグループの２つに分けて実施したため、「課題」に頼ることが多くなり、授業運営が非常に難しかった。

学生の授業満足度

授業評価については、授業全体としては、概ね学生も満足をしてくれたのではないかと思う。本授業は、家庭科の目的、対象、方法、など基本的な事項を学び、後期の教科教育法での演習に向けての基礎固めの性格をもつ。オンラインという、難しい授業の中で、学生なりに意欲的に取り組んでくれた様子がみてとれた。

課題が難しいということというコメントがあった。確かにこの内容は口頭での説明がないと理解が難しい部分が多かったと考える。そのことも予想されたので、授業資料をできるだけわかりやすくすることを心がけるようにした。

授業改善の課題と方策

本年度はオンライン、２つのグループに分かれての対面授業という前代未聞の授業形式で行った割には、学生の満足度が比較的高く評価されていたので良かったと考える。

学生の質問、発言の機会をもっと増えるような環境づくりと、グループディスカッションなどを取り入れ、主体的な学びができるようにしたい。

その他

授業改善書

科目名	子どもの食と栄養Ⅰ
担当者	佐藤陽子

授業の概要

生涯にわたる健康的な食習慣形成の礎となる、子どもの食と栄養の基礎について学んだ。こどもの心身の発育・発達過程における食生活の重要性や、それぞれの時期の特性に対応した栄養学的な知識を習得し、乳児期からの栄養摂取および食事の支援を適切に実施できるスキルを身につけることを目的に、講義を実施した。具体的には、子どもの食生活の現状と課題、各栄養素の特徴と必要性、妊娠期から幼児期までの栄養についてオンデマンドおよび対面授業を実施した。

授業の問題点

新型コロナウイルス流行の影響により、演習を実施することができず、講義のみの授業となってしまった。また、講義内におけるディスカッション等も控えざるを得なかった。そのため、知識の習得が主となり、食事の支援を適切に実施できるスキルを身につけるという当初の目的の部分を、十分に実施できたとは言い難い。

学生の授業満足度

毎回の課題提出率は高く、対面授業においても興味を持って講義を受けてもらえた。アンケート結果においても、授業資料、授業内容ともに、おおむね満足してもらえたと考える。

授業改善の課題と方策

対面授業においては、講義主体の授業となり、板書が多くなってしまったことから、学生の負担が大きくなってしまったかと考える。今後は、対面授業時にも、パワーポイントや授業資料を活用し、より、理解しやすい授業となるよう心掛けたい。

また、授業内においてディスカッションの場を設けるなど、積極的に授業に参加できる環境を整えたいと考える。

その他

予習・復習課題を設定するなど、授業外学習を促すよう、努めたい。

授業改善書

科目名	**英会話Ⅰ(初級)**
担当者	**シーハン小田 早苗**

授業の概要

前半のオンライン授業時はパワーポイントスライド、動画学習、テキストページ演習の他、学生が自分一人でも行える会話練習方法（セルフトーク）に基づいた課題を出しました。受講生のほとんどが１年生であるため、慣れないオンライン授業で始まってしまった大学生活に不安を感じないように、個別指導対応に細心の注意を払いました。また、受講生のオンライン学習環境に無理のないよう、課題提出については柔軟に個別対応しました。

対面授業が開始されてからは、当初予定していたペアワーク、ディスカッション等のアクティビティが実行不可能となってしまったため授業構成に苦慮しましたが、スピーキング活動ができない中でも可能な限り学生がアウトプットできる授業内容になるよう努めました。自分の考えを英語で積極的に表現するための訓練として、学期末にはソーシャルディスタンスを保ちながらプレゼンテーションも行いましたが、原稿作成段階から個人発表まで意欲的な取組みが見られました。

授業の問題点

英会話実践演習を主とし、本来であれば学生が能動的に発言しコミュニケーションに取組む授業構成であったため、新型ウィルス感染予防対応としてペアワーク、ディスカッション等のアクティビティが行えなくなってしまったことは大きな問題点でした。

学生の授業満足度

当初予定していたアクティビティに代わる形で受講生ができるだけアウトプットできるよう授業内容を工夫しましたが、「解説がわかりやすいので楽しい」「内容が面白い」「英語は嫌いだけど上達したいと思える」等のコメントにより、厳しい制限下の授業においても学生に一定の満足と達成感を与えることができたのではないかと思います。また、「先生が１人１人のことを覚えていて、丁寧にサポートしてくれてよかった」というコメントがありましたが、オンライン授業時より個別対応に努めていたことがしっかり学生に伝わっていたものと受け止めています。

授業改善の課題と方策

英会話の授業ではありますが、ただなんとなくスピーキングの練習をするにとどまらないよう、文法事項や重要単語の復習も実施しながら体系的な授業展開を心がけます。会話のクラスとしては履修生が多く、学生の能力差が大きいため、上位の学生に高度な学問的刺激を与えながら下位の学生をしっかりとフォローすることが重要であると思われます。

将来、小学校や幼稚園等で英語を教える立場になる学生のために、英語教授法の専門的知識に基づいた指導も適宜紹介し、またビジネスの場面で英語を使う可能性のある学生のために、ビジネスでのコミュニケーション実践英語も積極的に紹介していきます。学生が自ら将来のビジョンを持つことができるような授業展開を目指します。

その他

授業改善書

科目名	生活
担当者	清水　一豊

授業の概要

本授業では幼児教育にも小学校教育にも共通する内容を取り上げている。そして作品作りや表現活動、プレゼンなど、具体的な活動で授業を構成している。受講者も幼児教育と小学校教育とほぼ半数であった。

授業は資料提供型で進め、６回目から対面授業が始まったため、内容面では概ね計画通りに進めることができた。オンライン授業段階では一回ごとの課題提出状況は高かったが、対面授業が始まってからは、出席状況、課題提出に低下がみられた。

授業の問題点

学生一人一人の授業に向きあう姿勢や持っている資質能力の差がオンライン授業により顕在化したように思う。資料提供型の授業であったため、適切な補足説明や学生の反応を見ての対応なども難しく、学生一人一人の持っている能力や意欲がオンライン授業を支えてきていた。課題に取り組む時間やスタイルは本人にゆだねられており、自律的な学習能力とともに規律正しい生活も学習に影響を及ぼしていたと思われる。

ズームを導入すれば、規則性や学習内容の補足なども可能と思われるが容量の面からも導入はしなかった。ズーム導入の授業の効果など気になるところである。

学生の授業満足度

概ね　解答した学生の満足度は高い指標を示している。幸い、対面式の授業ではアクティブな要素を取り入れた学習となっており、友達とかかわる協働的に学ぶ活動が多かったことが、その理由ではないかと思われる。作品作りやグループでの発表等　課題を忘れる学生は一人もいなかったことは満足度の高さにつながっていると考えられる。

途中から対面授業で密を避けるための交代での受講が導入されたが、オンラインの授業から参加型への授業へのハードルを越えられず､欠席しがちの学生が意外に多かった。このような学生のアンケートの回答はなく、気に懸るところである。自ら学ぶ力のある学生が、オンライン下であっても、学びを深め、達成感や自信をもてたのではないかと思われる。

授業改善の課題と方策

今後もコロナ対応は予測し、学生の学びを保処するオンライン授業の在り方に準備、工夫を重ねたいと思う。

資料提供型に加え、可能なら時折　ズームを導入するなどして、学生が時間割に沿った生活ができるよう、環境の改善に寄与したいと考えている。

また、学生からのメールの課題提出の中に質問が記入されていることもあったが、メールを開くのが遅れたり見落としたりして、回答や対応に遅れたことを反省し、今後は留意したい。

その他

オンライン授業、ＴＥＡＭＳの活用等、担当の方には丁寧な対応をいただき、たいへんお世話になりました。私自身も貴重なＩＴの活用体験で新しいことを学ぶことができました。

授業改善書

科目名	初等教科教育法（生活）
担当者	清水　一豊

授業の概要

小学校教員免許取得のための必修単位の授業である。教職を目指す学生の真摯な姿勢が授業の雰囲気を形成している。学習指導要領の理解、生活科の教科としての特性の理解、それを踏まえた学習指導案の作成が主たる内容のである。

授業の問題点

生活科の授業イメージを実際の４５分間の授業の映像を視聴することで、理解を図っていた。幸い対面授業が始まり、ＡＢ共に映像を見る機会ができて、指導案を書けるレベルにまで理解を深めることができた。

オンライン授業では課題提出に励んでいた学生が対面授業開始後に欠席する傾向が見られた。　オンラインでの自分中心の学習スタイルからいつものような授業になった時に、生活のリズムが戻らなかったことも考えられる。

映像資料で著作権が絡むものについては、オンライン授業で活用することは難しかった。

学生の授業満足度

概ね　授業に参加していた学生は肯定的な評価であった。講義スタイルとはいえ、参加者には主体的な学習への参加が求められる学習活動を展開していたので、そのような場面で達成感や充実感を得ていたと思われる。しかし、回答率が２割ということで、欠席しがちな学生の状況が気になるところである。

授業改善の課題と方策

今後もコロナ対応は予測し、学生の学びを保証するオンライン授業の在り方に準備、工夫を重ねたいと思う。

資料提供型に加え、可能なら時折　ズームを導入するなどして、学生が時間割に沿った生活ができるよう、環境の改善に寄与したいと考えている。

また、学生からのメールの課題提出の中に質問が記入されていることもあったが、メールを開くのが遅れたり見落としたりして、回答や対応に遅れたことを反省し、今後は定期的なチェックに留意したい。

その他

オンライン授業、ＴＥＡＭＳの活用等、大学の担当の方には丁寧な対応をいただき、たいへんお世話になりました。私自身も貴重なＩＴの活用体験の中で新しいことを学ぶことができました。

授業改善書

科目名	日本語学（概論）
担当者	髙山林太郎

授業の概要

日本語学（概論）では，慣れ親しんだ現代日本語を中心に，古語や方言なども題材としつつ，それらを科学的・客観的な視点から分析する普遍的な言語学の知識・思考方法を学ぶための，基礎を作ることを目的とする。文学を学び論ずるうえでも，言語学の基礎的なものの考え方をおろそかにすることはできない。音響学，音声学・音韻論（セグメントおよびアクセント・イントネーション），形態論，統語論，意味論，語用論，記号論，文字論，語彙論について講義する。※「セグメント」は子音・半母音・母音のこと。

授業の問題点

授業外学習の点が少ないが，授業内で課題に取り組むようにしていた為と考えられる。質問や発言の点が少ないが，新型コロナウイルスの影響で対面授業が減少し，A グループと B グループに分かれて隔週で実施したため，対面授業では音声学に絞って実施することにした。その他の内容は Microsoft Teams にアップロードした資料を読んでレポートを書いてもらった。従って当然質問や発言は少ない。メールによる質問は来た。

学生の授業満足度

授業満足度についてはおおむね良い点をいただいていると見られる。「授業方法について」の「授業の方法や資料はわかりやすかったですか」の点が低いが，音声学については対面授業を実施できたものの，それ以外の内容については口頭での説明をする機会がそがれてしまった面はある。「テキストなどの資料は適切でしたか」の点は高いので，問題は口頭での説明の不足にあると見られる。この点は新型コロナウイルスの影響であって，不可抗力と考える。

授業改善の課題と方策

2019 年度の授業では講義への学生の集中力が途切れてしまう問題があったが，今回は遠隔授業が導入されたことによって授業資料を事前に読み，レポート課題を提出していることから，学生がより積極的に授業に取り組むことができたことは明らかである。対面授業の数が減ってしまったことは痛手だったが，Microsoft Teams を使ってレポート課題を提出させる方式は新型コロナウイルス流行終息後も有効であると確信している。端的に言えば学生のやる気を引き出す効果があると見られる。

その他

特になし。

授業改善書

科目名	西洋史特論Ⅰ（アメリカ史）
担当者	武市一成

授業の概要

アメリカ合衆国の歴史の基本事項を学ぶと同時に、特に 20 世紀以降は日本を中心としたアジアとの関係においてアメリカ合衆国を把握することを目的とする講義形式の授業である。

授業の問題点

本年度は、新型コロナウィルスの感染拡大予防措置として、遠隔授業の形式がとられたため、本来予定していた項目を十分にカバーできたとは言い難く、やはりこのような人文学の授業においては、対面方式が望ましいと感じる。

学生の授業満足度

途中から対面方式に移行し、この授業は分散登校の対象とならなかったため、後半は予定していた項目の 8 割方は達成され、そのことは学生の反応からもうかがえるのではないかと感じている。

授業改善の課題と方策

ZOOM などを用いた双方向形式も考慮したが、学生の通信環境が不明であったため、レポートを中心とした文書交換形式で望んだ。要点をまとめた文書を Teams にアップする形式をとったが、来年度にも使用できる内容となっている。来年度は最初から対面で行われることが望ましいが、その場合でも、今回用いた文書は予習・復習用に活用できるものであり、積極的に使用したいと考えている。

その他

特になし。

授業改善書

科目名	メディア心理学
担当者	田中道弘

授業の概要

メディアと言えば、かつては新聞や雑誌、ラジオやテレビといった「四大メディア」が主流であった。「四大メディア」は、特定の情報源から不特定多数の人々に大量の情報を発信する一方通行の情報の流れが特徴である。しかし、2000 年以降、この構図が劇的に変化した。現在、「メディア」は、インターネットを利用し個人が情報を発信し、ユーザー同士のコミュニケーションにより情報が拡散していく「ソーシャルメディア」へと移行している。「ソーシャルメディア」は、個人が発信した情報が、インターネット上の不特定多数の人に共有され、拡散していくだけでなく、情報を受け取った受信者の誰もが情報の発信者になりうるという双方向の情報の流れが特徴である。こうした内容を、様々な角度から説明していく。

授業の問題点

コロナ禍、はじめての遠隔授業（動画配信）、及び対面授業と並行しての双方向授業となった。授業評価について行うよう、繰り返し指示を出したものの、回答者数が少なかった。十分、教員の指示が届かなかったことは、反省材料といえる。

学生からの記載は無かったが、授業開始直後は、学生からの質問が多く、メールでの返信スピードが遅くなったことがあった。しかし、教員側としても、動画作成には通常の授業以上に時間をかけ準備したことも述べておきたい。

また、授業の後半、面接授業と双方向授業（Teams 会議機能を利用）を実施した。この際、506 教室の PC にマイクを接続しても、双方向授業回の学生に音声が聞こえないというトラブルが生じた。学習支援ソフトインタークラスと、Teams とが併用できないことも、授業を実施してはじめて分かった。次週より、大学の PC と、教員（田中）の私物の PC を併用することで、授業を行うことができた。しかし、双方向授業回の学生には、時々、音声が聞こえなくなるなどのトラブルが生じ、その対応のため、面接授業回の学生にも迷惑をかけてしまった。

学生の授業満足度

教員側の不手際が多く、多いに学生に迷惑をかけてしまったにも関わらず、学生の満足度は高く、胸を撫でおろしている。

授業改善の課題と方策

コロナ禍での授業ということで、双方向授業で音声が届かないなど、予期せぬトラブルが生じたものの使用するソフトと機材の相性なども徐々に理解できてきた。二度と、このような遠隔授業は経験したくないすが、仮に次年度も同じ状況であった場合は、今期経験したことを元に（例えば、教室での面接授業はインタークラスで、Teams の会議機能を利用した双方向授業は、別の PC を持参し、授業を実施する）対策を練りたい。

その他

遠隔授業では、特に動画配信の場合、授業の準備に例年の３倍以上時間がかかり、大変でした。また、授業開始直後は、例年にはないような量の学生からの質問に対する対応に追われた。対面授業（面接授業）が開始後は、履修者の多くの学生が、双方向授業の学生から音声が消えているなどの中継役として動いて頂き、彼らの協力なくしては授業が成立しなかったと言っても過言ではない。それ以外にも、履修者にはトラブル時には、我慢強く待って頂いた。履修者に心より感謝したい。

授業改善書

科目名	ドイツ語Ⅰ（初級）
担当者	手嶋　直彦

授業の概要

ドイツ語の初歩をアルファベット・発音から人称代名詞の格変化・前置詞のあたりまで学んでいく。 ドイ ツ 語の基礎を身につけることを目的とする。動詞の現在人称変化、冠詞、複数、不規則動詞、冠詞類、 命令 形、 人称代名詞、前置詞までを練習問題をやりながら講義する。(実際に進めたのは不規則動詞のところまで)

授業の問題点

今年は前半がリモート、後半が AB 分け、ということになっていろいろ手探りだったのですが、結局半分程度しか進まず、もうすこし効率よく進められたらよかったです。

学生の授業満足度

授業の形態は異例でしたが、満足度はそんなに例年と変わらなかったようです。むしろリモートの方が向いている、という学生もいたかもしれません。

授業改善の課題と方策

今後の授業形態によりますが、Teams を対面とうまく併用してよい授業ができるよう工夫していきます。

その他

特にありません。

授業改善書

科目名	数学(線形代数基礎)
担当者	寺澤信雄

授業の概要

線形代数学は、一言で言えばベクトル、行列の学問であり、数学分野では極めて実用的な学問である。本講義では、ベクトルと行列の概念から、それらの演算について解説する。他分野への応用を視野に入れながら、現実的な演算能力を養うことを目標としている。取り扱うテーマは、行列式の定義とその性質、応用、行列の概念とその演算および、正則行列、逆行列の概念と一次方程式などへの応用、固有値、固有ベクトルの概念と応用、行列の関数と関数の行列、数ベクトル空間などである。

授業の問題点

学習意欲が一部の熱心な学生を除いて一般に低く、苦慮している。線形代数学は論理的思考力を養うばかりか、基礎的な演算手法は現代のあらゆる場面に応用されている。従ってこれを習得する事は社会人にとって大きな力となるが、残念なことに学生の学習意欲が一般に低い。

学生の授業満足度

熱心に学習する学生が次第に増えつつあり、必要な学力を獲得できたと思われる成績を上げるものが増加傾向にある。これは本学の学生が線形代数を習得するに十分な基礎力を有している事を示している。また、講義内容が大学教育として、必要かつ適正なレベルであることも示しており、多くの学生に満足してもらえたと考える。

授業改善の課題と方策

習得できているかどうかは別として、線形代数学を通して論理的思考力を養える様、また実際的な計算手法を少しでも習得できる様、例題の解説に特に力をいれて講義した。成績評価を厳格にするのが望ましいと思うが、その場合多数の不合格者を出すことになると予想されるので、実行に躊躇をおぼえる。

その他

今年度はコロナウィルスの感染が広まって、前半は対面授業ができなかったが、その間、オンライン授業に参加したのは約 20 パーセント程にとどまった。学生のオンライン環境を充実させる必要があると考える。例えば、入学時にタブレット端末を全員に支給、もしくは貸与し、通信環境も整えたうえで、リモート授業の講習を行ってはどうだろうか。

授業改善書

科目名	比較心理学
担当者	時本 楠緒子

授業の概要

人を含む動物の認知行動と関連する実験に触れることで「こころ」の多様性に気付き、人間の「こころ」について理解を深めること、さらに心理学実験の方法論を学ぶことを目的とした。授業前半はオンライン授業であったことから、ヒトを含む様々な動物の認知能力に関する研究事例を紹介し、それぞれの動物種が持つ「こころ」とその生物学的基礎および行動の機能や発達についての基礎知識の習得に務めた。対面授業再開後はさらに理解を深めるため、各自が興味を持ったテーマについて資料を集め、パワーポイント等の資料にまとめる作業を授業と平行して行った。

授業の問題点

比較心理学は多くの学生にとってなじみのない科目であることから、理解を促すために動画資料を用いて説明することが多い。教室で DVD を用いることには特に支障はなかったが、オンライン授業では、セキュリティの問題なのか動画が再生できないことがあった。Teams の使い方が分からず資料が見られないという学生への対応も困難であった。

また今学期の期末課題は、例年であれば演習として授業内で作成しているものであるが、学生同士や教員との議論やアドバイスを行う時間が少なかったこともあり、例年に比べよく出来ているとは言い難いものも多かった。

学生の授業満足度

オンライン授業という、例年とは異なる授業形態であったにもかかわらず、全体的な評価は例年と変わらず、授業の質が落ちなかったことは良かった。受講生も慣れない環境でよく頑張ったと思う。

「授業外学習」の評価が 3.13、「質問や発言をしましたか」の評価が 2.52 と、低くなっているが、実際にはオンライン授業期間中は頻繁にメールでの質問が届いていた。自己評価が低い一方で、「教員が学生からに質問にきちんと対応したか」については、4.67 と比較的高い評価を得ているし、質問が少なかったという印象はあまりない。「授業中の発言」については、指名すれば答えられるが、自主的な発言は少なめであったので、発言ができていないという評価であると考えられる。

授業改善の課題と方策

受講生が多めの授業であるため、オンライン授業ではきめ細かい対応やサポートができなかったが、来年度以降、対面での授業に戻ればこの問題は解消できるかと思う。

自習については、図書館が使えない場合にはオンライン資料を利用できるよう学期の初めに使い方の解説をしているが、効果的に使えない学生が多かった。説明が十分ではないようなので改善していきたい。

「質問や発言をしたか」については、対面授業ではフィジカルディスタンスに注意しなければならなかったこともあり、例年の様に教室内を移動しながら質問を行うことを控えていたことも少なかった理由の１つかもしれないと考える。指名すれば発言はできるので、より発言しやすい雰囲気づくりを工夫していきたい。

「スライドを進めるのが早すぎる」という意見については、講義中は学生の様子を確認し、またスライドを移動するときは再三確認をとっているが、受講生が多いこともあり十分に目が届いていなかったかもしれない。メモ等が間に合わなかった学生に対しては、授業の最後に個別対応する時間を設けているので、その時間を有効に活用するよう事前に周知を図ることを心掛けたい。

その他

授業改善書

科目名	英語Ⅰ
担当者	冨塚　亮平

授業の概要

大学生が商社に履歴書を送り、面接を受ける前の成長の過程において、ビジネスに必要な英語の語彙と表現を学ぶ。受講生が就職活動をするとき、さらには入社してから必須となる英語の知識を身につけられるようにする

授業の問題点

・生徒の習熟度、英語力にばらつきがある。
・大学一年生を対象に就職活動に関連する内容で授業を行うことで、テーマの重要性が学生に伝わりにくい。

学生の授業満足度

コロナウイルスへの対応で授業形態が二転三転する中、各項目について、総じて昨年度の前・後期よりも低い評価となった。相対的に特に評価が低かったのは、「授業の方法や資料はわかりやすかったですか」であった。その要因の大部分はコロナの影響であると考えられるが、教員側でも満足度を上げるための方策を練る必要はあるであろう。

授業改善の課題と方策

仮に学期中に授業の方法に変更があるとしても、前期に経験した形式を組み合わせることとなるはずであり、後期には完全に新しい授業形式を採用することはないと思われる。前期でははじめてのことばかりで学生側も教員側も不慣れなことが多く、そのことが満足度の低下にもつながったと推測できるところ、後期は前期の経験を活かしてよりきめ細やかな授業運営を行っていきたい。たとえば、毎回成績評価と交えて課題の提出を求めているが、依然として関心の低い生徒も散見されるため、後期はさらに積極的に行うこととしたい。

その他

対面授業を行う場合のリスクの所在については現在に至るまで大学側から一切の説明を受けていないが、多くの大学がオンライン授業を継続する中で対面授業を選択する以上、何らかの説明義務が大学側に求められる局面は想定されて然るべきであると考える。

授業改善書

科目名	社会学Ⅰ
担当者	中村　牧子

授業の概要

社会学の入門編として、社会学的方法によるものの見方・考え方を学ぶ授業である。今期はオンライン授業が主だったため、異文化間コミュニケーションや、流言・デマの社会的影響など、身近な話題を個々にとりあげて、その社会学的考え方を紹介した。また未婚化や少子化、DV と子ども虐待など、家族に関する重要な話題を対面授業で取り上げ、統計的データや新聞記事も活用しながら、自分で考えて意見を述べる練習を重ねた。参加者の意見は次の回で紹介して、お互いの意見を知り視野を拡げる機会を設けた。

授業の問題点

出席や課題提出に関するスコアが、例年（の出席についてのスコア）よりは若干低いクラスが多かった。その反面、授業外学習の実施のほうは、低めながら例年よりは改善されている。これは、課題レポートが主流だった今期の授業形式に因る部分が多いと考えられる。
シラバスの内容との一致・不一致や、資料の適切さについては、今期はオンラインゆえの変更や、資料数の縮小などがあったため一概には言えないが、さほど低いスコアではない。授業内容には関心をもって臨めており、テーマの明確さ等についても承認されているようである。
学生からの質問に対応したかという項目では、相対的に評価が低めだが、例年よりは高い。これについて後述する。

学生の授業満足度

授業内容や、全体的な評価としては、ほぼ満足されているようである。
自由記述では、内容に興味が持てた、説明がわかりやすかった等とあるので、きちんと理解しながら聞いてくれた学生が多かったと推測される。
なお授業後のリアクションペーパーにしばしば見られた感想として、対面授業はオンラインよりも断然わかりやすいというものがあった。ここから考えると、後半に対面授業が再開されたことが、学生の満足度にプラス効果をもったように思われる。

授業改善の課題と方策

ふだんは大教室授業で「聞く」専門の受身な学習になりがちだが、今期は毎回課題レポートを提出することで、各自が能動的に学ぶ機会がもてた。今後色々な授業形式が採られることになろうが、一人ひとりが課題を「自分に出されたもの」として受け止め返していくような態勢を、授業に組み込むことは重要であろう。
ただし、オンラインであることが妨げとなって課題提出が一度もできない学生もみられたので、オンラインについてのサポートも大学として今後必要ではないかと考えられる。メールを介して教員と直接連絡できる今期のシステムは、小さな質問でも直接尋ねようという動機づけになったようで、授業内容から課題提出の方法まで、様々な質問がメールで寄せられていた。教室では時間がなくてなかなか聞けないものもメールでは気軽に聞けるようで、授業内容についての踏み込んだ質問も少数ながらあった。教員の負担にならない限りでこうしたルートを恒常的に設けておくのも、一つの手かもしれない。

その他

科目名	東洋史資料講読
担当者	中村麗衣

授業の概要

歴史をみる筋道と視角、史料の信憑性や性格について、資料を読むことによって習得する。M.K.ガンディーの著作を読み、時代背景、ガンディーの思想、時代的意義を考える。

授業の問題点

今年度は前半、オンラインのみの授業となった。資料は事前に読んで、各自ガンディーの考えと自分の考えをまとめて、提出してもらった。さらに調査レポートを課した。前半は学校図書館、公共図書館ともに閉鎖していたため、調査はオンラインで行うしかなかったことが、問題であった。課題の解説とレポートの添削はメールで各自に返送する形をとらざるをえなかった。
対面授業が始まってからは、各自の意見をクラスで共有して、議論できたことが非常に勉強になった。

学生の授業満足度

1	授業の内容はあなたにとって得るところのあるものでしたか	4.08	
2	全体的に振り返って、授業に満足できましたか	4.38	

授業改善の課題と方策

従来は、グループで調査して授業で報告する形をとったが、今回初めて各自で調査学習せざるをえなかった。このような授業こそ、Zoom でオンライン授業がしたかった。しかし、学生によっては Teams にアップロードした課題をみることすら不得手というため、授業以前の技術的な指導をどなたかがしてくださると助かると思った。

その他

とくになし。

授業改善書

科目名	英語圏文学概論
担当者	新堀　司

授業の概要

この授業のテーマは、ユーモアを通して学ぶ英語圏（特にイギリス）文学である。このテーマのもと、イギリス文学における主な作家・作品を取り上げ、英語表現を学ぶために作品の一部抜粋に触れつつ、その文学世界を講義する。文学にまつわる基礎的事項（時代的及び多様な文化的背景、文学用語等）も学習する。なお毎回の授業の最後に、授業内容に関連した問題演習（提出）を行う。

授業の問題点

令和 2 年度の春期授業アンケートの集計を見ると、「この授業に対するあなたの学習態度を評価して下さい」 の項目中の 3 「質問や発言をしましたか」の結果が、3.00 と低かった点である。

学生の授業満足度

アンケートの集計によると、「授業満足度について」の項目の 1 「授業の内容はあなたにとって得るところのものでしたか」の結果が 4.33、2「全体的に振り返って、授業に満足できましたか」の結果が 4.30 であったことから考えると、学生から一応の評価を得たように思われる。

授業改善の課題と方策

質問や発言の少なさが問題ではあるが、これは例年とは異なり、マスクをつけて授業を受けていたことなどが大きく影響していたのではないかと思われる。発言しづらい環境であったように思われる。例年のような状況になれば、指名したりして、質問や発言を強く促すようにしたい。また学生から声が小さかったという指摘があった。今までそのような指摘はなかったが、マスクをつけていたとはいえ、気を付けたいと思う。

その他

授業改善書

科目名	国語科教育法Ⅰ
担当者	橋本和顕

授業の概要

中学校国語科教育に関しての実践理論および、模擬授業の実施に伴う実践的な指導法に関する体験的な学びを中心課題としている。読むこと、書くこと、話すこと、聞くことの 4 技能の習得と活用に関して、その教材研究の基礎的な方法を会得し、実際に授業設計に生かす方策について、相互に実践的かつ体験的に学びを深めていく。

授業の問題点

おおむね高評価であったので、基本的には、現在の取り組みを生かしながら、さらに教材や学びの質を高めていく努力をしていく。特に、一回一回の授業テーマを意識させていくところに、配慮し、今現在学んでいることが、どこに繋がっていくことなのか、将来的にどう生かすことができるのかの見通しを丁寧に伝えていく必要があると感じた。

学生の授業満足度

おおむね良好であったので、基本的には、現在の学びの方向性を大事にしていく。さらに、教材との出会いに感動や驚きを求めていく点や、教材分析で授業見通しが開けていく瞬間を大事にしていく点に工夫と改善をさらに施し、生き生きとした言語活動の展開のモデルを多く示せるようにしていきたい。

今後、秋に向けて、春からの成長を意識させながら、自信をもたせていく指導についても細やかに配慮をし続けていきたい。

授業改善の課題と方策

学生に提示する言語活動の教材の価値を吟味すること。学生の興味関心をさらにリサーチし、現在の教科書にも採択されている教材の更新を図りながら、質の向上を考えていく。模擬授業の協議会での意見交流場面でも、模擬授業者への敬意も忘れずに、建設的な議論がさらに加速するように配慮しながら、進めていきたい。学びの価値を指導者の側と学習者の側からのアプローチができるようにして、常に複眼的なものの見方ができるようにさらに指導を強化していく。

その他

授業改善書

科目名	**英会話1**
担当者	**ヒューパーマー**

授業の概要

この授業は外国旅行や外国生活をする為に必要とされる使い易い言葉や表現を学びます。映画、テレビ番組、雑誌などのメディアを講義に取り入れています。

授業の問題点

今回のアンケートの結果から特筆すべき問題点はない。全体的なスコアーは高く、授業の満足度が高いことがうかがえる。尚、学生からの希望など具体的にあれば、今後の授業の運営に非常に参考となる。

学生の授業満足度

今年は例年にない難しい年でした。 平常であれば普通に行われている授業や活動が制限される中で、その状況に悩まされたり、授業が満足できないと感じたりする生徒もいるのではないかと危惧していました。しかし、この困難な状況下においても、ほぼ全員が前向きな姿勢で、授業に満足している結果となりました。

授業改善の課題と方策

生徒からの関心も高く、講義内容では特に批判的な意見も無い為、来期も同様に進めたいと思います。

その他

授業改善書

科目名	日本史資料購読（近世）
担当者	福澤　徹三

授業の概要

現在の日本近世史の通説のもとになっている史料を紹介しながら、講義を行う。学生には、史料から歴史像を組み立てていくおもしろさを味わってもらうことも目的としている。

時には、より専門的な史料を読んでいくことにより、より深く、立体的な歴史像を学生が持てるような授業を行う。第６回までは、課題提示型の遠隔授業で行い、第７回授業で提出と復習、第８回で中間試験を実施した。

今年は、履修学生が３９名と中規模であった。新型コロナ感染症の影響もあり、シラバスに記載していた見沼通船堀の見学は中止した。

授業の問題点

前半の授業では、例年の半分程度の進度であった。後半、若干スピードアップを心がけたが、昨年度に比べると３／４程度の内容となった。

対面で個別の理解度を確認できなかったことが原因だと思うが、基礎的事項の理解が後半にずれ込み、いつも以上に成績が「まばら」になってしまった。それでも、期末試験で満点を取った学生が２名いて、遠隔授業でも十分な理解度に達することが可能であるということもわかった。

学生の授業満足度

Ⅲ授業満足度は、両項目とも４．６５であり、学生にはおおむね満足してもらえたと考えている。

授業改善の課題と方策

「質問や発言をしましたか」の項目が、３．３９であった。いつもは、解答を板書させ、史料の歴史的意義を考える場面で学生を指して意見を聞いていたが、今年は進度を気にするあまり、まったくできなかった。反省点として、来年度改善したい。

その他

新型コロナ感染症対策として、教員はマスク・フェイスシールドを装着して授業を行った。学生もマスクをきちんと着用し、着席位置も守って協力してくれた。授業態度は、例年以上にとても良いものでした。

授業改善書

科目名	保育内容の研究（表現-身体）Ⅱ
担当者	古川　彩香

授業の概要

子どもの感性を育み、子どもが環境から感じるイメージを表現する楽しさを養う為には、学生が自身の身体性と環境から受ける感覚や感性を理解し、自己表現を経験する必要がある。表現者として学生が自分自身を成長させ、保育者として表現活動を理解し、子どもの表現を引き出せるように指導する。
演目を創作し、模擬保育として指導実施をする事で指導計画・環境設定・言葉かけなどを習得する。

授業の問題点

学生による授業アンケートの評価結果にもとづくと、今期当授業の問題点は授業の内容量（「毎回の授業は適切な内容や量でしたか」の質問得点が４．２７点。項目の中で最低）にある。また、学生の学習態度（「授業時間外学習」および「質問や発言をしたか」（４．３６点）がこれに続く。アンケート結果をそのまま理解した場合の、本授業の問題点である。

学生の授業満足度

学生による授業アンケートの授業満足度の平均は４．６４点となり、学生の授業満足度は高いと判断すべきである。学生の出席に対する「出席や課題提出をしましたか」（４．９１点）のスコアが非常に高く、これは学生の学習への取り組みや学習内容に対する満足度と相関を持っている数字であると判断できる。
特に、満足した点としてあげられていたのが、毎回の授業テーマの明確性や資料提示の的確さ等がオンライン講義という実技を伴う演習科目でありながらも、学生が授業の理解促進を促したと考えられる。
対面講義時には２グループに分けて講義展開を行う関係上、シラバスの変更（内容の前後）が生じたが、「先生の考える身体の動きだったり授業の構成がしっかりしてると感じます。」との学生コメントがあり、学生の学習目標理解にもつながったと考えられる。

授業改善の課題と方策

上記をまとめると、今期授業の課題は、「課題量」である。配布や資料提供に対しては適切であるとの学生評価が在る為、課題量が多すぎるのか、少なすぎるのかという学生にとっての課題の適切量に関する言及がなく、今後の問題点と言える。
しかしながら、課題量においての問題点はオンライン講義の特集性とも言えよう。適宜、学生と質疑応答の時間を設け、より学生及び教員の円滑なコミュニケーション及び授業展開を達成したい。

その他

特になし

授業改善書

科目名	メディア文化論
担当者	正清健介

授業の概要

本授業は、メディア文化についてその代表格ともいうべき「映画」に焦点を当てて講ずるものである。今日、テレビ、インターネットというようにメディアと呼ばれるものには様々なものがあるが、その中でも映画は今や写真と並び古典的なものの 1 つとなっている。映画は、19 世紀末の欧米で写真技術を発展させる形でサイレント（無声映画）として誕生し、その後、国境を越えて様々な国において、サイレントからトーキーへ、モノクロからカラーへと技術的に発展しつつ、美学的にも常に更新し続けてきた。本授業では、その映画の誕生から今日に至るまでの映画の発展を追いながら、約 120 年にわたる映画史を概観することでメディアとしての映画のあり方について解説した。

授業の問題点

特に大きな問題点はなかったが、新型コロナ感染症の影響で学期の前半が遠隔授業となり、当初、計画していた授業内容を変更せざるをえなくなったことが主な問題点であった。以下、その他の問題点を挙げる。

・対面授業の初回で、視聴覚機器の設定に時間がかかり、授業開始時間がやや遅れた。
・対面授業の際、時間不足で、学生にコメントシートを書いてもらう時間が短くなったことがあった。
・時間不足で、前回の学生のコメントシートに対して、十分にフィードバックすることができなかった回があった。

学生の授業満足度

アンケートの「Ⅲ授業満足度」の 1「授業の内容はあなたにとって得るところのあるものでしたか」が 4.33 ポイント、2「全体的に振り返って、授業に満足できましたか」が 4.42 ポイントとなっており、学生の授業満足度はかなり高いことがわかる。事実、毎回のコメントシートには、「とても興味深い」「面白い」「もっと学びたい」等の授業に対するコメントが散見された。また、授業中は私語はなく、メモ取り等、熱心に授業に取り組んでいる学生が目立ち、授業内容に対する興味関心の高さがうかがえた。また、授業後に毎回のように私のところへ質問や授業の感想を述べに来る学生もおり、本授業に対する学生の強い意欲を確認することができた。

授業改善の課題と方策

授業の一番の課題としては、「時間不足」をあげることができる。授業改善の方策としては、以下の 3 つを考えている。

1. 授業計画に予備日を設ける等、シラバスにゆとりを持たせる。
2. 授業内容を必要最低限のものにし、よりタイトにする。
3. 授業冒頭で行っていた点呼での出席確認をやめ、出席確認はコメントシートで行う。

その他

特になし。

授業改善書

科目名	情報処理(表計算)
担当者	松村真木子

授業の概要

Excel2013 入力の基礎知識から応用まで習得する。Excel2013 の特性を中心に学習し、理解し活用する力をつける。前半では、表計算の基本とグラフ作成を学習する。特にグラフの表現力を強化している。後半は、応用として、関数、ピボットテーブル、図形を学習する。SPSS との関係も紹介する。PC およびインターネットの基本構造とセキュリティの技術的な理解を深め、PC ユーザーとして総合力を強化する。

授業の問題点

表計算のクラスは 3 クラスである。2020 年春期は、緊急事態宣言の下で、オンライン授業で開始し、そのままオンライン授業を継続した。教室での対面授業の場合、初級と中級と任意で分かれてもらっていたが、今回は分かれることはなかった。初級と中級と分けるのは、高校までの PC の経験に個人差があるからである。本年度も、キーボードに慣れていない人からかなり Excel をこなせる人まで、個人差がめだった。

オンライン授業を受講する以前に、Teams 接続方法、Excel の立ち上げから戸惑う人がいた。受講時の Wi-Fi の接続状況が悪いようで、ビデオがとぎれとぎれであるとの苦情もあった。オンライン授業に慣れていけば問題が少なくなるだろう。

学生の授業満足度

PC の経験の個人差が大きいので、授業の量が少ないのか、ちょうどよいのか、多いのか毎回アンケートを取り、学生の反応を見ながら次の授業を作成した。教室の授業だと作業が遅い人を待つ時間があり、スキルがある学生が飽きてしまうという問題があったが、オンライン授業だと、個人個人が自分のペースで受講できるという利点があった。

オンライン授業でもわかりやすいとの意見があった。Forms で出席を取る際に、質問、感想欄を設けて、学生の意見を聞くようにし、かつ、コメント、チャット、メールで学生と交流し、PC の不具合の対応もした。インターネットの仕組みとセキュリティについては、多くから楽しかったとの意見が直接伝えられた。今後も、学生の個性を引き出す授業を心掛けたい。

授業改善の課題と方策

授業は、15 分から 20 分ほどのビデオを 3 本ほどで説明をし作業してもらった。授業内容については、Forms の出席カードで、学生の意見を聞きながら、試行錯誤でオンライン授業を作成したのであるが、入力練習などでは、キーボードに慣れていない学生から、大変だったとの意見があった。それで、なるべく、データをダウンロードする形式にしたのであるが、もっと入力練習をしたいとの意見もあり、個人差を感じた。また、Excel の Specialist の内容をカバーしたのであるが、内容により多いと感じた学生とそうでもないと感じている学生がいるので、学生の意見を聞きながら、より多くが満足できる内容にしていきたい。

スマホ利用により、PC の経験が減っていると感じている。PC を使うことで、できることの可能性、楽しさを丁寧に伝えていきたい。

その他

授業改善書

科目名	保育内容の研究（健康）Ⅱ
担当者	丸山東人

授業の概要

保育の質を、健康教育学の観点から考究している。専任の先生方が尽力されているため、保育所保育指針および幼稚園教育要領の中での「健康・安全」や、乳幼児期の子どもの健康支援に関しては、みな既に、健康Ⅰと幼児体育ほか関連する授業（保健、心理、５領域Ⅰ等）を通じ充分な学修を済ませている。この利点を生かす形で、健康Ⅱでは、既習事項のおさらいをしつつ、対象年齢や話題提供の幅を広くとりながら進めている。

授業の問題点

スコア上、問題になるような点は無い。しかし、データには表れない問題を挙げれば、授業再開後に、構内に居合わせた学生と雑談をしている中で「だめだ。顔と名前を覚えてもらえていない。」と、残念そうな顔をされてしまったことがある。その他、「やはり面接授業は良い」「安心できる」等と、出席カードに書いてくれた学生もいた。

学生は、どの教員に対しても“関わりの中での学びあい”を求めており、そのファーストステップとして、お互いの認識と記憶がある、ということを改めて痛感した。（付け加えれば、通常であれば、第１０回前後で、学生の顔や名前、全体の気質が、自然と頭に入っている。）

学生の授業満足度

上記のごとく、コロナ禍で、学生との直接的な関りは少なかった。しかし、今年度の受講者諸氏は、例年以上に優秀だった。授業後に、子ども学の文献に関する問い合わせをして来た学生がおり、長時間の対話をしたことがあったが、大変良い思い出だ。総括レポートの論述内容からの推察になるが、みな大学での学びは順調に来ていると思うので、引き続き地味な努力の継続を期待している。学生からの評価に関しては、例年と同じような結果が出ており、担当者として一先ず安心している。今後も常に、質の高い授業を目指して行きたい。

授業改善の課題と方策

先の問題点は、単純にZoomを用いれば良かった、で片づけられるものではない、と思っている。学生の真摯な学びを受け止め効力感を高める方法、言い換えれば「この先生には、自分を理解してもらえている」「伸ばしてもらえた」と感じていただたける方法は、例えばレポートに細かくコメントを入れるなど、いろいろな形が考えられる。

今後、貴学の授業運営がどのような形態になるかはコロナ禍次第だが、非常勤講師であっても私は常に、学期中は学生の授業満足度を第一に考え（「良い大学に通わせている」のかどうかを見ている親御様をも射程に据え）、試行錯誤をしてゆく所存だ。

その他

該当なし。

授業改善書

科目名	法学入門
担当者	宮島　薫

授業の概要

2008 年度秋期より､非常勤講師として埼玉学園大学にて授業の担当をさせていただいておりますが、現在は法学入門、民法の２科目の担当をさせていただいております。法学入門につきましては同一担当者の別科目の履修を済ませているケースもあり、授業の進行の仕方や学習に対する取り組み方など、学生本人たちの方が積極的に行動してくれることもあり、担当者としては授業内容に専念することが可能でこの点は助けられています。教員志望の学生も受講生の中には存在いたしますので、授業のコントロールの仕方についても、担当者としての力量が問われているものと認識しております。わかりやすさ、興味を抱かせる工夫、資料の用い方、時間配分など、自問自答する毎日です。なお、今年度も１コマのみの開講となりました。（開講当時は２コマ体制で、履修者が 100 名を切ると１コマになりましたが、今回は、当初 150 名でのスタートでしたがコロナ禍による教室不足もあり、そのままでした。）

授業の問題点

少人数教育や資格取得という面からも、効率的な教育に対する受講生の側の努力をも期待することも必要かもしれません。正直者が馬鹿を見ないように、という点に尽きるかもしれませんが。自分または自分たちの行動が、他の受講生の眼にはどのように映っているのか、ということも認識してもらう必要があるかもしれません。それは、授業担当者の行動をも含むことは言うまでもないことではありますが。

学生の授業満足度

今回の集計結果によれば、出席「４．５２」→シラバスとの一致度「３．８９」→満足度「３．９０」とあり、昨年度は、出席「４．８０」→シラバスとの一致度「４．１５」→満足度「４．０２」という結果になりました。２コマ体制から、１コマになったものの、科目としての総履修者数は、概算で６１名から１４５名となり、いわゆる・人口密度の問題も関係するかもしれません。例年、人口密度の高い・窮屈感が、不快指数の増加につながることも考えられますので。学問の場でもある授業が、うれしい、楽しい、ばかりではないかもしれませんが、この点も交えまして、今後の検討課題とさせていただきたいと思います。なお、評価の低さとは逆行する形で、意見には、好意的なものも見られました。

授業改善の課題と方策

まずもって、教室は勉強・学習の場である、ということの再確認から始め、大学は自ら学ぼうとする者の集う場であり、かつ卒業後には学生各人がいわゆるプロフェッショナルとして社会から迎えられうるような人材を育成する場である、というところから話を始め、そのためにどのような形で授業に関わりを持つべきなのか、という点にも力点を置こうと心がけています。加えて具体的に書く作業、声に出して読む作業など、メリハリをつけるようにし、ある意味、正当なライバル意識などは、学習意欲の向上などに有益な場合も考えられますので、可能な限り多くのチャンスを受講生に提供できるように心がけています。まずは、学生一人一人の顔を見て講義するようにしています。

その他

今期は、コロナウイルスの世界的な感染拡大を受け、自宅待機、リモート受講、対面式講義の開始と目まぐるしく態様が変化し、学生ばかりではなく、社会全体が、いわゆるコロナ禍にあって、不安感や、不満もどこにも吐き出すこともできず、ただ、日々を過ごすのみ、という感も拭い切れなかったと思います。このような中でも、講義に道を開けられた大学側のご判断を尊重し､今後の検討課題とさせていただきたいと思います。

授業改善書

科目名	図書館概論
担当者	村上郷子

授業の概要

テキストを中心に図書館情報学の入門として、生涯学習の観点から図書館活動の各領域に関する多様な知識や概念の基礎的なコンセプトを総合的に理解することをめざす。必要に応じて、ビデオ視聴、グループデスカッションなども取り入れる。授業の初めに、前回の授業の簡単な確認テストを行うことにより、知識の定着をはかる。

授業の問題点

・「授業への学習態度」について、大半の学生の「ノートやメモ等を取りましたか」は 4.43 と高率であったが、「授業外学習(予習や復習など)をしましたか」および「授業中の質問や発言をしましたか」の項目はそれぞれ 3.64、3.36 と低かった。

・授業について相対的に学生の評価が低かった項目は、「授業の方法や資料はわかりやすかったですか」が 3.86、「毎回の授業は適切な内容や量でしたか」が 4.00 であった。

学生の授業満足度

「授業の内容はあなたにとって得るところのあるものでしたか」は 4.00、「全体的に振り返って、授業に満足できましたか」は 4.07 であった。

授業改善の課題と方策

・本授業では毎回次回の授業レジメを配り、予習をし、毎回授業前にクイズがあるため、復習をするよう促しているが、対面の授業が実質 4 回しかなかったため、どれだけ定着したか分からない。今後も自発的に予習復習をするよう促していきたい。

・授業を円滑に進めるための配慮であるが、居眠りの注意など、起きるよう何度も促したい。

・視聴覚資料を使った分かりやすい授業やディスカッションなど、学生の興味関心を促す授業をしているが、今後も興味を持てるような授業運営に尽力したい。また、授業の内容や進度も内容によっては、若干の前後があったかもしれない。できるだけ、シラバスに通りに授業を進めていきたい。

その他

授業改善書

科目名	情報資源組織論
担当者	村上郷子

授業の概要

図書資料は、主題や書誌情報に基づき分類・整理され、利用者が資料を容易に検索・アクセスできるように配架される。このような資料と利用者を結びつける「きまり」としての目録法、分類法、件名法を取り上げ、その意義や機能等について学習する。主に講義形式だが、適宜グループ学習やビデオ教材等も取り入れる。毎回授業の初めに、前回の授業の簡単な確認テストを行うことにより、知識の定着をはかる。

授業の問題点

・「授業への学習態度」について、大半の学生の「出席や課題提出等はしましたか」は 4.63 と高率であったが、「授業中の質問や発言をしましたか」の項目は 4.13 とやや低かった。

・授業について相対的に学生の評価が低かった項目は、「授業内容に興味や関心を持ちましたか」および「シラバスに提示されていた内容、進度と一致していましたか」がそれぞれ 4.38 であった。

学生の授業満足度

「授業の内容はあなたにとって得るところのあるものでしたか」は 4.50、「全体的に振り返って、授業に満足できましたか」は 4.50 であった。

授業改善の課題と方策

・本授業では毎回次回の授業レジメを配り、予習をし、毎回授業前にクイズがあるため、復習をするよう促しているが、今後も自発的に予習復習をするよう促していきたい。

・授業を円滑に進めるための配慮であるが、居眠りの注意など、起きるよう何度も促したい。

・授業内容の分量やスピード等は、学生の理解度を確認しながら、適切かつ有効に授業時間を使っていきたい。また、授業の内容や進度も内容によっては、若干の前後があったかもしれない。できるだけ、シラバスに通りに授業を進めていきたい。

その他

授業改善書

科目名	保育内容（表現・造形）Ⅱ
担当者	栁澤いづみ

授業の概要

子ども達の表現造形活動に適切なかかわり合いと指導ができるように、様々な材料技法体験を通じて、表現に関わる展開と応用について学ぶ。

授業の問題点

今期は、オンライン授業からクラス分けして、対面授業とオンライン授業を交互に行うという特殊な状況だったが、演習の授業は図工室と家で同時進行にはできないので、結果的に 2 本立てでやっていく事にした。また、衛生上共同制作も不可能であり、新たな材料購入をやめたりもしたので、製作予定の計画をかなり変更した。
オンラインの授業ファイルでの説明の理解が難しい時があり、実際に図工室で製作する時の集中力や発想力が家では出しにくいのではないかと感じたこともある。

学生の授業満足度

不自由な状況の中でも、学生側も教員も新しい状況に合わせて努力や創意工夫をせざるを得ないという経験になったと思う。メールで一人一人とのやりとりが出来たことや、与えられた課題の処理ではなく、各自で検索したり考える時間をもつことができたのは収穫だったと思う。
演習の授業としての不自由さはあったが、それなりの面白さは感じてもらえたと思う。

授業改善の課題と方策

今期のオンライン導入の経験が、これからの授業のあり方に活かしていけるとよいと思う。演習の授業は、やはり場を共有することが重要だと改めて思うが、いかなる状況でも創意工夫で乗り切る姿勢が造形活動の根幹として大切だと思う。

その他

授業改善書

科目名	知覚心理学
担当者	山下利之

授業の概要

本講義は基礎心理学，実験心理学の研究領域の一つである知覚心理学を学ぶことを目的としている．具体的には，感覚と知覚のメカニズムと機能的特徴，知覚心理学における研究方法などについて講義を行っている．合わせて，知覚心理学の具体的な応用側面についても言及している．

授業の問題点

本年度は新型コロナ感染拡大の影響で，前半はオンデマンド型のみの授業を進めた．後半はクラスを 2 グループに分けて，自宅学習グループ（オンデマンド型）と対面授業グループを隔週で交代して授業を進めた．学生，教員共に初めて授業経験であったので，初めはお互いに戸惑ったが，予想したよりもスムーズに進められたと思う．資料を PowerPoint 形式で詳細に作成したので，おおむね分かりやすいという評価であった．学生によって情報環境が異なるので，自宅学習グループに対する課題設定を比較的単純なものにしてメール提出としたが，今後はより考えさせる課題を設定することが望ましいと思われる．
対面講義は，Teams にアップした PowerPoint スライド（配布資料も作成）を中心に進めた．PowerPoint による授業の進行は確かに効率的であったが，どうしても聴くだけになってしまうので，板書による講義の比率も今後はより増やすようにした方がよいと思われる．

学生の授業満足度

授業評価は 5 件法の評価で 2 項目を除いて 4 以上であった．評価 3 が neutral point であるので，ある程度は満足してもらえたのではないかと思う．
“授業外学習(予習や復習など)をしましたか”，“質問や発言をしましたか”の 2 項目のみが 4 未満であったので，これらに対してはさらなる改善の必要性を痛感している．

授業改善の課題と方策

授業評価は“授業外学習(予習や復習など)をしましたか”，“質問や発言をしましたか”の 2 項目のみが 4 未満であった．新型コロナ感染拡大の影響で，オンライン授業が多く，ほとんどの授業で自宅学習用の課題が課せられていたためか，ときどき異なる授業の課題提出が誤って送信されてきたこともあり，学生の負担と深いレベルでの自己学習設定の兼ね合いを十分考慮する必要があるだろう．
また，少人数のゼミや演習におけるように，人数の多い講義形式の授業でも学生が意見や質問をしたり，ディスカッションすることは理想であるが，実現は困難である．しかし，学生に対する質問や意見を聞く状況をよく多く作っていきたい．

その他

今年は新型コロナ感染拡大に伴うオンライン授業の導入，グループ分けした隔週参加の対面講義など，学生，教員ともに今まで経験したことがない授業展開であったので，試行錯誤的な進め方が多かった．それにもかかわらず，学生は適応的に授業，学習に参加してくれたので有り難かった．

授業改善書

科目名	中国語Ⅰ（初級）
担当者	李小捷

授業の概要

この授業は初めて中国語を学ぶ学習者を対象とするものである。正確な発音の読み書きや基礎単語、初級レベルの文法項目などを学ぶ。授業中、先生やクラスメートとの練習、ロールプレイなどを通して、中国語の基本的な表現を身に付ける。最終的に日常的なコミュニケーション能力を養う。また、中国関連の視聴覚資料や中国の歌、紙切りなどを通して現代中国の文化や社会にたいする理解力を高めていくように講義する。

授業の問題点

1. 遠隔授業の期間中、発音練習や発音のチェックができなくなってしまいました。
2. 面接授業の期間中、10%の学生は集中力が落ちて、授業中寝てしまうこともありました。

学生の授業満足度

学生の授業満足度は 4.45 に達しました。

ほとんどの学生が指示通り、積極的に受講することができました。例えば、先生について声を出して発音をしたり、会話を読んだりしてくれました。また、ちゃんとメモを取ったり、黒板に書いた文法や例文を写したりしていました。

学生による主な意見は「説明が分かりやすいので読み方や文法が理解しやすいです」、「授業内容はとてもわかりやすかったです」。

授業改善の課題と方策

学生が授業に対する興味や集中力を向上させるために、さらに工夫したいと思います。コロナが収束後、ペアで会話練習やロールプレイなどを積極的に行いたいと思います。

その他

学生の発音はとても上手です。この点ではよく褒めてあげます。教えやすいです。

非常勤講師

経済経営学部

授業改善書

科目名	産業組織論
担当者	安藤　陽

授業の概要

この授業では、資本主語経済における市場メカニズムを検討対象にしており、競争と独占、企業行動、政府規制と規制緩和、産業国有化と民営化などをテーマに、電気事業や鉄道事業などでの企業行動や、競争・独占・規制と市場メカニズムとの関連を検討する。

授業の問題点

前期の授業は5月よりオンライン授業で始まり、途中オンライン授業と対面授業の併用という形で進められた。授業資料をしっかり読み、課題レポート（対面授業ではリアクションペーパー）を提出することで理解度を深めることを意図したが、一部の学生はそのことがやや負担のようで、途中でレポートの提出を放棄した学生も少なからずいた。

課題レポートに対するコメントやメールを通じての「オフィース・アワー」の設定で、インセンティブを高めるように工夫をしたが、オンライン授業という性格上、必ずしも十分ではなかったと思う。

学生の授業満足度

アンケートの回収数は単位取得者数と比較して少ないが、アンケートを提出した学生は出席し、課題も提出しているようで、評価も高くなっているように思われ、オンライン授業と対面授業とを問わず、毎回参加している学生の満足度は高いと考えている。

授業改善の課題と方策

次年度の授業がどのような方法・形式を採るかは現時点では不明であるが、今回の経験を生かして、オンライン授業の場合にはさらに工夫・改善をおこない、また通常の対面授業に戻った場合には、今回取り入れた授業方法（メールの活用）も利用しながら、授業の改善を図っていきたい。

その他

次年度もインターネット環境をより一層整備し、Teams も活用することにより学生への資料配布、コミュニケーションを通じて、授業内容・方法を改善していきたい。

授業改善書

科目名	キャリアデザインⅠ
担当者	井島由佳

授業の概要

キャリアカウンセラーとしての実務経験を活かし、大学に入学してこれからの 4 年間をどのように過ごすか、何を目標としていくかなど、大学生活を充実させるために、キャリアについて考えるための講義と演習を行います。キャリアデザインの意味と自分と大学、社会を捉え直しながら、主体的な Career や生き方を検討する時間としていきます。そして、キャリアカウンセリングやキャリアセミナーでの経験を踏まえ、自身の性格や行動パターンを知るための自己理解と自己認識についての手法を講義しながら、趣味や強みを把握し、それを伸ばす方法などを演習から考えられるよう指導をしていきます。

授業の問題点

2 限のアンケート回答率 28%、4 限の回答率 17%であり、全体の意見として勘案することは難しいと考えます。且つ同じ授業をしていているにも関わらず、ポイントに開きがある結果となりました。「授業内容に興味や関心を持ちましたか」について、2 限 4.48、4 限 3.90 であり、そもそも興味関心に違いがあったのではないかと考えます。
殆どがオンライン授業であったため、その適応度に違いがあったのではないかということが考えられます。

学生の授業満足度

「全体的に振り返って、授業に満足できましたか」について、2 限 4.45、4 限 3.62 でした。こちらも、オンライン授業であり、対面時にも待機組には録画した授業を受けてもらっています。全く同じ授業を行っていて、満足度が異なることについて、検討しづらいものがあります。
強いて言えば、授業の問題点と同様になりますが、オンライン授業であったことの適応度が考えられます。それに合せ、連絡事項を複数回に提示しても確認漏れが出る学生がいたようでしたので、情報の受け取りに違いが出たことも推測できます。
しかし、情報提供の仕方も内容も全く同じであることから、満足度に違いが出ることの真意は分かりかねます。

授業改善の課題と方策

オンライン授業であることで、学生の間で授業の受け方、意識が異なるようです。
通常、どの大学でもオンライン授業では出席率・提出率が上がるのですが、今回は下がったと見受けます。パソコンやスマホなど情報機器の取り扱いに不慣れなことが多いようですので、後期はその当たりに注意を向けていきたいと考えます。

その他

授業改善書

科目名	ベンチャー企業論
担当者	内田成

授業の概要

わが国において新産業の創出や産業の活性化の担い手として近年ベンチャー企業が注目されるようになっていています。その理由としては、グローバリゼーション、IT により経済社会が大きく変化し、アメリカだけでなく、中国、韓国などからも IT を中心とする新たな企業が登場し、大きな影響力を持つようになってきているからです。しかし、日本にこれまでベンチャー企業が存在しなかったわけではありません。戦後の経済発展を担ってきたパナソニック、シャープ、ソニーなどもベンチャー的な性格を持っていたからです。講義では、これらの日本のベンチャー企業だけでなく、ソフトバンク、アマゾンやグーグルなど現在の代表的なベンチャー企業も採り上げ、その特徴やどのようにして、発展してきたかを明らかにしてゆきます。

授業の問題点

コロナ禍により授業が対面ではなく、ラーニングボックスを使って 7 回実施となり、残りの 8 回のみ対面授業という形式になったために、授業概要に掲げた内容の修正を余儀なくされ、事例研究も限定された形でのみの実行となった点が問題として挙げられる。体面による授業で、必要に応じて、印刷した資料を配布・説明を加える、というスタイルができず、また、小テストの実施できなかったために、学生の理解度がどの程度のものなのか分からず、対面授業再開後にその点も確認せざるを得なかった。

学生の授業満足度

アンケート結果からは、学生の学習態度・意欲が非常に高く、授業内容の理解度も高かったので、問題点として挙げた点が杞憂におわったような気持ちになりました。また授業方法、満足度もたかく、数回にわたる授業内で実施した理解度チェックの結果とも照応していた。

授業改善の課題と方策

これまで全く想像すらしなかった事態での授業方法でしたが、やはり Zoom をつかった方式の実施ができれば、直接対面でないにしても、質問をうけたり、質問をしたり、することができ、さらに学生の学習意欲や満足度を高めることができると思います。

また、課題をどのような形式でまとめる、あるいはデータをどのようにして、検索し利用するか、といった「やり方」も、提示した方が、レポート内容がさらに改善されるのではないか、その方法について考慮すべきだと考えています。

その他

授業改善書

科目名	スポーツ企業経営論
担当者	大野　貴司

授業の概要

本講義は、スポーツを製品・サービスとする企業の存続・成長の方法であるスポーツ企業経営についての講義を行った。具体的には、スポーツ用品メーカー、プロスポーツクラブ、フィットネスクラブなどのスポーツ企業経営を捉えるための理論について、実際の企業の事例を用いながら解説を行った。

授業の問題点

午前中の授業ということもあり、学生の居眠りが目立つときがあった。これは、緊張感の維持が困難であることの裏付けであるとも言える。その意味では、一方通行の講義であったことを反省している。こうした問題を改善するためには学生を指名して、答えさせるなどの工夫が必要だろう。

学生の授業満足度

「質問や回答をしましたか」の項目が 3.11 と低い。やはり、学生に退屈させないよう学生が考え、答えるような工夫が必要だろう。その他の項目は 4 点台以上であった。

授業改善の課題と方策

コロナ禍の状況もあり、どこまでできるかはわからないが、学生に答えてもらうような要素を入れたい。次年度はもう少し双方向型の授業を展開したい。

その他

授業改善書

科目名	スポーツマネジメント論
担当者	大野　貴司

授業の概要

本講義は、スポーツを事業の対象とする企業、非営利組織の経営方法についての講義を行った。具体的には、スポーツ用品メーカー、プロスポーツクラブ、フィットネスクラブ、スポーツ NPO などのスポーツ企業や組織の経営を捉えるための理論について、実際の企業や組織の事例を用いながら解説を行った。

授業の問題点

大きな問題はなかったと思うが、居眠りが目立つときもあった。その意味では、一方通行の講義であったことを反省している。こうした問題を改善するためには学生を指名して、答えさせるなどの工夫が必要だろう。

学生の授業満足度

「質問や回答をしましたか」の項目が 2.67 とダントツで低い。やはり、学生に退屈させないよう学生が考え、答えるような工夫が必要だろう。その他の項目はすべて 4.5 以上と高かった。

授業改善の課題と方策

コロナ禍の状況もあり、どこまでできるかはわからないが、学生に答えてもらうような要素を入れたい。次年度はもう少し双方向型の授業を展開したい。

その他

科目名	観光ホスピタリティ論
担当者	城本高輝

授業の概要

「観光ホスピタリティ論」を学ぶ上で、観光ビジネスにおける観光サービス全般をしっかり学んでいただきます。ホスピタリティの内容は、業種によって異なり、また、企業によっても異なります。行政や民間企業等での実務経験に基づき、観光ビジネスを展開する多様な企業のサービス事例を説明し、そこにどういったホスピタリティがあるのかを分かり易く講義します。また、変化の激しい観光業界の将来のホスピタリティの方向性についても講義します。

授業の問題点

新型コロナウィルス感染拡大により、当初は対面授業ではなく、自主学習によるレポート提出となったため、シラバスどおりに授業を進めることができなかった。

また、授業の遅れを取り戻すため、ペースを早めて授業を進める必要があり、学生に発言等を与える機会が減った。

学生の授業満足度

新型コロナウィルス感染拡大のため、旅行に行くことができない状況で、動画を授業に取り入れ、学生に実際に旅行に行っている感覚を体感してもらった。

また、旅行商品を実際に企画してもらう演習は比較的好評で、学生の満足度は高かったと考えています。

授業改善の課題と方策

今後、新型コロナウィルス対策のため大学にオンライン授業が積極的に導入される可能性がある。レポート形式でなく、オンライン需要であれば、不測の事態にも臨機応変な対応が可能で、授業の遅延等が防止されるものと考えています。

その他

実務実績に基づく仕事上での経験の事例紹介などに、学生の関心は高かったと感じています。学生が社会に出る前に、実務家からこうした話を聞くことは貴重であるため、今後もこうしたことを積極的に取り入れていきたい。

授業改善書

科目名	社会政策論
担当者	舩木惠子

授業の概要

社会政策とは何かという基本から学習をはじめ、欧米諸国の社会政策の歴史、特に福祉国家の政策科学に焦点を当て学び、さらに我が国の社会政策への理解を深めた。

授業の問題点

オンライン授業のため、7 回講義まで Teams の資料と課題への返信に追われた。
AB グループ分けによる分割講義のため、授業の平等性を保つのに苦労した。

学生の授業満足度

確認テストや課題を課し、ゆっくり進んだので比較的理解度は高かったようだが、自学自習の経験が無い学生は直接メールで解答を聞いてくるなど、学習に対する態度が不十分なため、少しきつく指導したが、そのような学生は不満に思ったかもしれない。

授業改善の課題と方策

AB グループ分けは授業の平等性を保つのが大変なので、教室の確保ができれば一斉講義をおこなうことが望ましい。
Teams の使用法が未だに良く理解できず十分に活用することができていないので、講習会などがあれば参加したい。

その他

「抽象的に答えないで的確にこたえてほしい」という学生アンケートがあったが、課題の答えをメールで直接聞いてきて、答えてくださいといっても、自分で考えるための課題であることを理解させるためには、様々なことを説明する必要があり、それを抽象的ととらえたのだと思う。自ら学び自ら考えることができず、わからなければなんでも聞けばいい、答えが得られなければ不満に感じる学生が増えているように感じる。

授業改善書

科目名	旅行業法
担当者	宮越雅明

授業の概要

この授業では旅行会社(旅行業務取扱業者)に関する法律について学びます。
旅行会社の商品は、形がない、触れることができない、また終了時点で商品になる、という特徴を持つため、とくに信用が重視されます。それらを旅行業務全般の中で法律と照らし合せ考えていきます。国家試験である「旅行業務取扱管理者」試験の過去問題なども同時に扱います。

授業の問題点

大人数での授業そのものは、とくに問題はありませんが、グループ分けによる同じ授業の提供は正直やりづらい面がありました。A・B それぞれ対面授業が半分、遠隔が半分となり、授業の進み具合が十分ではありませんでした。

学生の授業満足度

授業そのものについては、アンケート結果からもある程度満足頂いたように思います。
旅行は、業者を利用する、しないにかかわらず身近な問題でもあり、興味をもって参加していたように思います。
何人かは国家試験の旅行業務取扱管理者のエクステンション講座にも参加しています。

授業改善の課題と方策

できるだけわかりやすい、飽きない授業を心掛け、画像を多く取り入れた、また字数の少ないパワーポイントを作成し、時には映像で理解を深めるよう改善してきて効果は出つつあるように思います。
しかし対面では可能であっても遠隔ではできないこともあり、今後の課題（新型コロナ次第）として研究しなければならないと痛感しています。

その他

とくに遠隔授業のあり方について考える必要があると思います。課題提出だけであれば通信教育と変わらず、かといってどうすればいいのかと考えてしまいます。受講者側からの意見も聞かせていただければ参考になります。

授業改善書

科目名	かしこい旅行実務論
担当者	宮越雅明

授業の概要

旅行会社が国内・海外・訪日旅行者のマーケットを対象にどのようなビジネスを行っているのか、具体的な仕事内容に照らして実務を学びます。旅行会社の社員のつもりで受講してください。旅行商品の企画・作成など行います。

授業の問題点

この授業は、３～４名１グループによる旅行企画の作成、プレゼンテーションを行うため、遠隔での作業はできず、また対面でも「密」の制約があり、意図するところの授業ができませんでした。

学生の授業満足度

旅行会社の仕事の内容や業界の専門用語（航空会社の記号、都市のコード、電話のかけ方、ホテル用語、業界でよく使われるカタカナなど）を主に学び、演習に代わる授業を実施しました。
アンケート結果は４以上なのでおおむね良かったのではないかと思っています。

授業改善の課題と方策

この科目は机上演習もあるため、履修者も多いのですが今回のような遠隔、グループ分け授業には適さず、シラバスの内容も変更したほうがいいのかなと思っています。
学生同士がコミュニケーションを図りながら何かを作り上げる機会がネット上でもできればいいのかなとも思います。

その他

旅行業法と同じです。

授業改善書

科目名	環境経営論
担当者	劉　博

授業の概要

今日、世界的な環境意識の高まりにともない、多くの製品やサービスが環境配慮を意識したものに変わってきています。企業経営では、事業活動と地球環境の相関を的確に理解し、ビジネスに役に立てていく「環境経営」の人材が求められています。「環境経営論」の授業では、持続可能な社会の実現に向けて、地球環境問題の構造と企業の社会的責任、環境経営の視点と実践に関する基本知識を体系的に学べるように講義して参りました。

授業の問題点

授業アンケートの結果から、「質問や発言をしましたか」の項目は最も低い点数（3.95）となっておりました。今後は、企業の環境経営について関心を持っておいただき、より良い社会の実現に向けて積極的に自らの考えを表現することができる環境づくりに努めて参ります。

学生の授業満足度

授業アンケートの結果から、「授業内容」については平均 4.68 ポイント、「授業方法」については平均 4.68 ポイント、「授業満足度」については平均 4.73 ポイントの評価を学生の皆さんからいただくことができ、心より感謝申し上げます。今後は、より良い「環境経営論」が授業展開できる改善を積み重ねて参ります。

授業改善の課題と方策

授業アンケートの結果から、回答者のほとんどが「環境経営論」の授業に興味を持っており（4.64）、よく出席し意欲的に受講したこと（4.73）を見て取れますが、質問や発言などを行った学生の数がやや低くなっています。学生それぞれの学習スタイルや受講姿勢に影響される部分もあると考えられますが、今後においてより積極的に質問や発言が行える環境づくりに努めて参ります。

その他

授業アンケートの自由記述欄より「実際に受講してみて、自分が考えている以上に環境問題は重要なことであると気付かされました。」などのコメントをいただきました。今後もより良い授業ができるように尽力して参ります。

授業改善書

科目名	リスクマネジメント論
担当者	黒沢義孝

授業の概要

企業（会社）分野、金融分野、マクロ経済におけるリスクについて、学生が就職後会社あるいは金融機関において役に立つような事柄を取り上げ、どのようにマネジメント（対処）すべきかについての基本的な考え方（理論）と過去の実例取り上げながら講義を行った

授業の問題点

授業アンケートに示されている通り予習・復習、質問・発言が十分に行われなかった（前半が遠隔授業であったことも影響しているかもしれませんが）ので、授業の時間に口頭で学生に予習・復習、質問・発言を促すようにしたい

学生の授業満足度

上記の問題点以外に授業の方法・資料、質問への対応（実際に質問はほぼ皆無であったが）、授業の円滑な進め方等について学生の満足度が低いと思われるので、学生自身の受講の姿勢の改善を促しながら改善策を高所したい

授業改善の課題と方策

上記の通り学生に対して予習・復習、質問・発言を促しながら授業の内容、進め方などについて改善を図りたいと思う

その他

特になし

授業改善書

科目名	企業情報論（ＩＲ）
担当者	米山徹幸

授業の概要

① 私たちの身の回りに溢れる企業情報の多くは新聞・雑誌やテレビ・ラジオ、インターネットなどのメディアや家族や友人などを通じて私たちに届く。そんな企業の情報の中で、本講義は株主や投資家など金融市場に向けた情報開示（IR）を取り上げる。
② 自社にとってポジティブ・ネガティブに関係なく重要な企業情報は、PR と異なる。金融商品取引法や取引所規則などの法的開示（有価証券報告書や決算短信）から自主的な開示（自社 IR サイトなど）まで、各社の事例を具体的に追い、企業情報の内容や拡散の経路を理解し、さらに内外の株主や投資家の様相を知って、フェアー・ディスクロージャー・ルール（公平開示規則）の意義を確認していく。
③ 今回の授業は、各回とも Teams に関連の PPT s 資料とワード版の解説文を配布し、対面式授業が始まっても最後まで継続した。
④ 各人は、2 回の（1 回目は、①印刷情報とデジタル情報、②有価宝権報告書と決算短信の 2 つから 1 つを選び、2 回目は自分が選んだ企業の IR サイトについて）レポートを提出。

授業の問題点

① アンケートをみると、授業内容で「毎回の授業でテーマは明確に示されましたか」や「テキストなどの資料は適切でしたか」に高い評価があり、最新の動向や PPT s 教材の効用を確認できる。「授業内容に興味や関心を持ちましたか」に授業の成果も確認できよう。
② 他方、対面式が始まっても Teams 経由の授業も多く、「質問や発言をしましたか」や「ノートを取りましたか」などで、授業を追うだけという人たちも少なくなかったと思われる。
③ Teams にアップロードした PPTs とワードをプリントする環境にある人は少なく、対面授業時に印刷した PPTs をサブノートのようなスタイルにするよう工夫したい。

授業改善の課題･方策

① 今回の Teams 経由や対面式の講義を通じて、どの回も、初めに「前回のキーポイント」、終わる前に「今回のキーポイント」のコーナーを用意して、授業の内容を確認しながら進行した。
② 前出のレポートでも、この「キーポイント」を手掛かりにした内容が多く、理解を高めている。
③ 授業中の進行も主要な「キーポイント」を節目にストーリー展開して、コンパクトな理解を促す方向で対応したい。

その他

授業改善書（秋期）

目　次

専任教員

人間学部

人間文化学科・・・・・Ｐ　1～Ｐ14

心理学科・・・・・・・Ｐ15～Ｐ28

子ども発達学科・・・・Ｐ29～Ｐ48

経済経営学部

経済経営学科・・・・・Ｐ49～Ｐ66

非常勤講師

人間学部・・・・・・・・・Ｐ　67～Ｐ105

経済経営学部・・・・・・・Ｐ106～Ｐ127

専任教員

人間学部　人間文化学科

授業改善書

科目名	西洋史学入門
担当者	伊藤　栄晃

授業の概要

本講義は、歴史を叙述・研究し学ぶ営みが西洋でどのようにして生まれ育まれてきたかを、古代地中海世界の戦争の記述から始め、現代英仏の「社会史」研究の最先端にいたるまでの歴史を概説する。西洋の歴史学・歴史叙述の最大の特徴は、過去を描くことにどのような意味があるのか、そして過去をどのように描くかという問題に常に真剣に取り組んできたことにある。本講義ではこの歴史哲学上の問題を、第一に歴史観という思想の問題として、第二に歴史叙述のスタイルや歴史調査研究方法という技術の問題として講じる。加えて史料の取り扱いや歴史事実の批判的検証などの技術的課題に研究者がどのように取組んできたかという問題にも触れる。時代背景としての現実の歴史過程の紹介も、可能な限り実施する。

授業の問題点

アンケートからは、①予習復習（授業外学習）の実施ならびに②授業内での質問や発問の実施の 2 項目のポイントが、他の項目に比較して低めであり、ここに課題があるといえる。特に②項目は、今年度春期には 3 ポイント台であったのが、今期には２ポイント台と明らかに低下しており、しっかりとした対応が必要である。

学生の授業満足度

授業満足度の二つの項目は、ともに４ポイント台を得ており、受講者の満足度はおおむね良好との印象を受ける。今後はこの状態を維持しさらに高めるための丁寧な授業づくりを心掛けたい。

授業改善の課題と方策

上記の評価に基づき、次期授業についても、基本的な授業コンセプトはこのまま維持し、コンテンツを更に深めてゆくのが良いと思われる。また「授業の問題点」で指摘した①・②の 2 点については、双方向の授業スタイルを全学共通科目でどのように確立するかという問題への取り組みが必要である。そのためにはまずは、授業で取り上げる項目の優先順位を更に明確にし、絞り込むことが肝要である。その上で、①への対応として、各回授業の中で次回授業内容の骨子の紹介を行い予習の便を図るとともに、前回授業内容を大まかに振り返ることで、理解の定着を図りたい。さらに重要な②への対応として、授業内に質問時間を意識的に設けると同時に、授業時間外にも研究室などで可能な限り質問への対応を心掛ける。

その他

受講生にはやや負担と思われるが、この授業では１回のレポート改題と３回に一度の小テストを実施している。小テストは、教授者の側の受講者の学力・学習到達度を客観的に知るためばかりではなく、受講者自身の復習の方向性や問題関心の深化にも寄与している。またレポートについては、結果として提出できた受講者のほとんどが合格できているという実績からすれば、その学習効果は明らかであり、今後も様々工夫を加えながら継続してゆきたい。

授業改善書

科目名	保育方法論
担当者	尾形　和男

授業の概要

幼稚園，保育所，認定こども園においてこれからの社会を担う個々の子どもの持つ能力を伸ばすために保育 をどのように展開して行ったら良いのか。その基本的な方法・技術（情報機器及び教材の活用を含む)・教材の 活用方法についての基礎的な知識・技能を身につける。

授業の問題点

今回の授業は、1 クラスを 2 グループに分けて、オンラインと対面式を並行させて実施したが、オンラインの場合十分な説明が浸透せず対面式の時に補足的に説明を加えていった。全体として、思うような進行度合いではなく十分に伝えきれていない箇所もあったと思われる。

また、学生の学習態度について「質問や発言をしましたか」が低く、十分にやり取りが出来ないままに授業が進行して行った面もある。

学生の授業満足度

授業満足度では、思った以上に評価が高く以外であった。

「得るところがある」「授業に満足できた」なども思った以上に高かった。また授業方法と授業内容にいても同様の結果であった。

また、意外なこととして学生の授業態度の「授業外学習(予習や復習など)をしましたか」は 4 点台であり従来以上の結果である。これは、オンラインと対面式の並行による授業の中で、オンラインで入る場合はあらかじめ対面式の授業内容を伝えてあり、次にオンラインになる場合には対面式による授業内容の復習としてのレポート課題による影響と思われるが、意外も好結果として表れていると思われる。

授業改善の課題と方策

今後も新型コロナウィルス対策用の授業を念頭において 2 点挙げたいと思う。

1. 学生の授業態度改善の方向として「質問や発言」についてはオンラインによる授業の中に質問コーナーを設けて、考えること感じることなど自由に記載してもらう。それに対する回答を考えてオンラインで伝える。
2. 同じく授業態度に関して「授業外学習(予習や復習など)をしましたか」について、オンラインで予習と復習を深めて実施する内容にして、オンラインと対面式の内容をより連続性のある展開にして進める。

以上の 2 点を今後の対応策として取り入れて行きたいと考える。

その他

特にはなし。

授業改善書

科目名	子ども理解と援助
担当者	尾形　和男

授業の概要

保育実践において実際の子どもに即して関わることは子どもの一人一人の心身の発達や学びを最適に進める ために重要である。そのために子どもの実態に即した発達や遊びの過程の中で子ども理解する上での基本的 な考え方、子どもを理解する視点、子どもを理解するための具体的方法、そして子どもの理解に基づく保育士 の援助や態度の基本について学ぶ。特に、子どもの理解を具体的に深めるために保育現場の子どもの遊び、いざこざ、ケンカとそれに対する保育士のかかわりを中心とする場面から検討する。

授業の問題点

同一の講義を 2 クラス実施したが、クラスによる取り組くむ姿勢や、授業についての評価に若干の差が見られた。特に注目すべき点については、授業に対する学生の態度「授業外学習(予習や復習などを)をしましたか」という点について、取り組みの高いクラスの方が授業全般の評価が高いことが読み取れる。

このような視点から、授業内の学習のみならず予習と復習に結びつく指導をより強く手がける必要性があると感じた。同時に、クラスによる差が無いような指導の必要性を感じた。

学生の授業満足度

2 クラス共に概ね高い評価を示しており、授業から得られる事柄や授業そのものに対する満足度はある程度確認されたと考える。

各項目の中でも、「授業内容に興味や関心を持った」とする項目は 2 クラス共に高い評価であるが、授業方法に関しては「資料のわかりやすさ」「内容と量」の 2 項目で高低が見られた。興味関心を持ってもそれを更に引き出すための資料とその量への配慮が更に必要と考える。

授業改善の課題と方策

上記にも示したが、学生が授業に対して示した興味や関心を更に引き出すための工夫を検討する必要があると考える。それは、PP や配布資料の内容の吟味、プレゼンテーションのあり方、学生主体に考える授業のあり方などに渡ることでもあるので検討したい。

また、授業の性質上、現場で実践的に役立つ必要性もあると思われるので、より具板的な内容と教材の工夫も合わせて検討したい。

その他

特にはなし。

授業改善書

科目名	保育・教職実践演習(幼・小)
担当者	尾形和男・笠井かほる・高橋　誠

授業の概要

将来的に，教育・保育の現場において十分に対応できる能力を身に付けることが重要である。このような最終目的に沿うために次のことを具体的な狙いとする。教職課程・保育士養成課程の履修やさまざまな活動を通して，教員・保育士として最小限必要な資質能力が形成されたかという事について確認する。そのために，教員・ 保育士になる上で自己にとっての課題を自覚し，不足している知識や技能を補い，その定着を図る。

授業の問題点

この講義の性質上、4 年間の学びの振り返りと学生の自己の課題の気づきと改善のための努力への導入として位置づけがあるものの、3 名の担当者だけでは対応しきれない面もある。保育者としてのあり方、子どもの捉え方など広範囲に及ぶ内容であるが、担当者としての専門性を生かして学生に出来るだけ多くのことを伝える必要性を感じる。

学生の授業満足度

学生の評価に関しては比較的高い評価が得られているものと思われる。「得ることが多かった」「授業に満足できた」などの具体的な項目の評価は高い。個々の教員の専門性をより生かした授業であったとも考えられる。

今後とも、学生に多くのことを吸収してもらうためにも多くの先生方による専門性を生かした授業の検討も必要かと考える。

授業改善の課題と方策

今回の評価の中で唯一気になるのは、授業に対する学生の取り組みについてである。具体的には「授業外学習(予習や復習など)をしましたか」という項目についての評価が 3 点台であった。「保育・教職実践演習」は学生生活の総仕上げとしての意味合いも強く、実践的なことについて得られることが多いのであり、そのための準備に費やす時間と労力は必要不可欠と思われる。したがつて、今後教員間の連絡に基づいて、学生の事前準備を充実させ主体的に取り組むことも念頭において進める必要性があると思われる。

その他

特にはなし。

授業改善書

科目名	日本文学史概論（近現代）
担当者	掛野剛史

授業の概要

以下の文章をシラバスには記載していたが、二グループにわけて対面遠隔交互に行う形の授業になったため、小テストは三回とする旨を初回に伝え、変更した。授業内容については、遠隔授業は対面授業と同じ内容を講義した映像を zoom で録画し、teams を通して提供、その内容に関する課題を teams を通して提出受領という形をとったため、内容量は前年と変わらないものを提供できた。

明治維新前後から、1960 年あたりまでの日本文学の流れをたどり、この時期の文学の歴史を講義していく。最低限の文学史の知識を身につけることが第一目標であるが、そのためには、文学史と密接に関わる日本近代史の知識も必要であり、また、自ら多くの文学表現に直接触れ、実感することも必要である。授業時間外の各自の自習によってそれらを補うことが望ましい。授業では 3～4 つの課題作品を指定するのでそれを読むこと。その内容を小テストによって確認する。この小テストは 4 回行う。

授業の問題点

履修者 53 名、回答者 32 名
前年度→今年度の形で記す。質問の文言が昨年度と若干違うが今年度のものを記す。
Ⅰ授業内容について
・授業内容に興味や関心を持ちましたか　4.52→4.66
・シラバスに提示されていた内容、進度と一致していましたか　4.52→4.53
・テキストなどの資料は適切でしたか　4.67→4.59
Ⅱ授業方法について
・授業の方法や資料はわかりやすかったですか　4.60→4.66
・毎回の授業でテーマは明確に示されましたか　4.75→4.72
・毎回の授業は適切な内容や量でしたか　4.69→4.38
・学生からの質問などにきちんと対応しましたか　4.56→4.47
・授業を円滑に進めるための配慮はなされていましたか　4.50→4.59

以上の結果から、内容、方法についても昨年度同様、高い評価を受けているものと判断できる。

学生の授業満足度

・授業の内容はあなたにとって得るところのあるものでしたか　4.60→4.59
・全体的に振り返って、授業に満足できましたか→4.56→4.59

以上の結果から、昨年度同様、高い満足度を得ているものと思われる。

授業改善の課題と方策

ある程度の形ができており、学生からの評価満足度も高い授業となっていると考えられる。今後もこの形でさらに質の高い授業を提供したい。

その他

2 グループに分け、対面遠隔を交互に授業したが、授業内容の量、質を維持し、学生の満足度を高めるため、学生の負担が高くなりがちな自己学習型ではなく、オンデマンドでの動画提供と課題提出を行ったが、その試みが評価されていることは喜ばしい。

授業改善書

科目名	英語Ⅱ(人間文化学科)
担当者	現影秀昭

授業の概要

人間学部の学生がどの領域においても必要とするリベラルアーツの基本を平易な英語で理解することに より、それぞれの専攻する分野で必要となるより高いレベルの英語に進むための基本を養成する。基本的な語 彙や表現を理解して覚え、応用できるようにする。また、単に英語力を高めるだけではなく、英語を学びながら教養を深め、多様な分野に関心を持てるようにする。

授業の問題点

人間文化学科の学生のための英語の試みでした。授業の内容に興味や関心を持ちましたかという問いかけにたいして 4.03 ポイントでした。
授業の内容はあなたにとって得るところのあるものでしたかという問いかけにたいしては 4.38 ポイントでした。
授業内容に興味や関心を持ちましたかという問いかけにたいしては 4.03 ポイントでした。学生からの質問にきちんと対応しましたかという問いにたいしては 4.56 ポイントでした。

学生の授業満足度

学生からは「オンラインの課題で前回の復習ができるので、頭に入りやすいと感じます」「授業とオンラインで何度も繰り返しやることで、単語を覚えられて身に付いてきているなと感じました」という意見もあり、全体的に振り返って、授業に満足できましたかというアンケート項目についての回答は 3.88 ポイントでした。授業の方法や資料はわかりやすかったですかと言うアンケート項目についての回答は 4.24 でした。またノートやメモ等をとりましたかというアンケート項目についての回答は 4.50 でした。以上のことから、学生の授業満足度はあったと思います。

授業改善の課題と方策

授業外の学習、たとえば、予習や復習などをしましたかという問いかけにたいして 3.18 ポイントでした。この課題に対しては、適切な分量の宿題をだしたり、提出物や調べものをしてもらうことが必要になると思いました。適切な分量と動機づけも必要です。テキストなどの資料は適切でしたかという問いかけに対しては 4.50 ポイントでした。毎回、心理学の単語をテストし、授業の初めに学生を指名して前回の復習しています。しかしテキストの練習問題や本文の訳などを事前に(グループで)調べてもらってきて、授業のときに発表してもらうというようなアクティビティーを行う方策が考えられます。

その他

授業中は、なるべく誰もが意見や質問を出しやすい雰囲気を作るように努力していますが、今後も学生に対する質問などをうまく使って、学生にいろいろな意見や質問をだしてもらうように今後も努めていきたいと思います。毎回の授業は適切な内容や量でしたかという問いかけにたいしては 4.32 ポイントでした。これについては、90 分の授業をいくつかのセグメントに区切って、複数のアクティビティーやエクササイズ、練習問題などを適切な時間配分でおこなうということを今後も心がけていきたいと思います。ただ内容により時間配分を工夫しないと難しいのですが。学生は素直で授業中も私語はなくやりやすいのですが、むしろ元気に教科書を音読する学生を励まし増やしていければと思います。最後の課題プリントの問題数に対して時間をもう少しとる必要を感じました。

授業改善書

科目名	英語圏文学講読（近現代）
担当者	西山　智則

授業の概要

『エドガー・アラン・ポーとテロリズム―恐怖の文学の系譜』という教科書を使い、エドガー・アラン・ポーを中心に、英語圏の様々な小説を取りあげて、性差・人種観などを検証するという授業内容であった。毎回歴史的名作と評価される英語圏のゴシック小説を「読み」分析し、時に映画化された作品なども比較して講義するものである。学生の興味を喚起するために、視聴覚教材を活用し、「読む」という行為を拡大し、分身というテーマの意味を考察した。

授業の問題点

文学における分身というテーマを考えることで、文化的歴史的背景を理解すると共に、自己という存在についても追及し、同時にまた、断片的であるが、多くの小説の名場面に触れることで、活字の世界への関心がわき、国語力のアップも目指していた。

一部に欠席や熱意の欠如なども見られたが、大部分は大きな問題もなく、おおむね関心をもって受講してくれたように思う。『エドガー・アラン・ポーとテロリズム―恐怖の文学の系譜』に従って、ときに、原作の翻訳のプリントを配布した。熱心に読んでいる学生と、読書の習慣がなく、国語力の不足によって、授業の小説のプリントがうまく読みこなせない学生も若干存在した。学力にばらつきが見られるのが問題である。

学生の授業満足度

予習復習は強くは求めなかったために数値が高くないが、興味のある学生は自発的にしてくれたようである。30 名前後の少人数の受講生であったが、授業中のコメントペーパーについては、懸命に書いてくれた学生も少なくなかった。とりわけ課題のレポートも例年よりも完成度が高く、コロナ禍において、内的世界と向かい合う時間が増え、文学の需要が高まったと感じた。人種的ヘイトの渦巻く世界で文学における他者理解の必要性を実感してもらうために、映画などの題材も使い、学生の関心をひくことができたと考えるので、それが日常の読書へと向かい、今後の国語力のアップにつながることを期待したい。

授業改善の課題と方策

かなりの国語力をもつ学生とそうでない学生の国語力のばらつきだが、読書の習慣などを徐々に養成するようにしたい。普段から読書に親しみ優秀な学生も少なくないが、活字を読むことにたいして抵抗のある学生も、時事的な問題には関心があるので、できるだけ様々な話題に触れることで読書の楽しさを伝えるような授業を展開してゆきたい。

その他

授業改善書

科目名	日本史概説
担当者	福島良一

授業の概要

本講義では、幕末・維新期の日本の歴史を取り上げた。特に徳川封建体制から明治の近代国家への変革のプロセスについて、時代を揺り動かした人物や政治勢力および事件・出来事などに焦点をあてながら話を進めた。授業を通じて、西洋からの外圧によってもたらされた衝撃とその克服への試みが、日本の近代化の方向性を決定づけたことを明らかにした。

授業の問題点

「授業についての評価」に関する各評価項目はすべて 4.0 を超えており、好意的評価をいただいた。今学期は対面授業と遠隔授業を隔週で交互に行うこととなり、進め方としては、対面授業で講義した内容を踏まえた課題を翌週の自宅学習用に提示し、それを学生がレポートにまとめて提出するというスタイルをとった。そのため、復習型の学習という性格が強まってしまい、予習を十分に行えない学生がいたのではないかと考えている。また隔週の対面授業ということもあって、進度が遅くなり、当初の授業計画分を十分に消化することができなかった。

学生の授業満足度

コロナ禍という特殊状況下での不慣れな併用型授業であったにもかかわらず、本講義に対する「学生の授業満足度」については、授業の有益さの評価が 4.33、全体的な満足度評価が 4.18 という良い結果をいただいた。幕末という変革の時代を学ぶ意義と面白さを学生が感じ取ってくれたことがその大きな理由と思われる。

授業改善の課題と方策

併用型授業が継続される場合には、そうしたスタイルに合わせて、時間的に無理のない分量の授業内容となるような計画を組み立てていきたい。時間に追われることにより、今回の対面授業では一方通行型の授業に陥ってしまった。そのことは「質問や発言をしましたか」という質問項目の評価が 2.61 と低評価であったことにも示されている。改善に努めていく。

その他

授業改善書

科目名	日本史資料講読（古代・中世） および　古文書学
担当者	湯浅 吉美

授業の概要

＊方法と目標が類同であり、アンケート結果もほぼ同傾向だったので、2科目まとめて記述する。両科目の相違点は以下のとおり。

日本史資料講読（古代・中世）：訓読・活字化された資料を読む。教職課程「教科に関する科目」に列しているため、主に高校日本史に登場する題材を扱う。

古文書学：文書原本の写真版を用い、翻刻と訓読とを参照しつつ読解する。

授業の問題点

＊「古文書学」において、「授業外学習をしましたか」が低い（3.27）。　語学や国語の古典に近い性質の科目ゆえ、このポイントが低いのは問題だと考える。

＊「質問や発言をしましたか」が低い（3.23／3.18）。　履修者の積極性を見る意味では低いのは問題だが、例年と同じ程度。単純に高ければよいともいえまい―講義科目で質問がむやみに多いのは、わかりづらい／納得できないという批判かもしれない。

学生の授業満足度

両科目とも履修者諸君はそこそこ熱心に見受けられた。実際、「授業について評価」の各項目いずれも4ポイント以上なのは、担当者として大いに慶ばしく思う。数値的には満足度80%以上、これはそれなりに嬉しいことである。もっとも、母集団30名前後でこのような数字を出したところで、さしたる意味もないだろうが…。

授業改善の課題と方策

＊授業外学習（予習・復習）の励行促進

とにもかくにも、シラバスおよび初回授業で指示しているとおりの予習・復習を励行してほしい。要するに、【予習】題材を前もって眺めておく、【復習】教科書とノートを読み返す、と言っているだけなのだから、何ら難しいことを求めてはいない。それすらしないのは履修者側の怠惰に過ぎないから、担当者として改善する余地はないのだが、それでは身も蓋もないので、何か方策を出さねばならない。やはり、毎年予告しながら実践できずにいる、「指名して読ませる・答えさせる」を履行することが有効であろう。立ち往生の姿を見るに忍びず実施していないが、心を鬼にしてやってみたい。

＊ノートをとることの督励

両科目とも4～4.5ポイントだが、この数値は受容できない。こちらの見るところでは2ポイント台に止まるはず。諜報員の養成所ではノートをとることを禁ずると仄聞するけれども、大学の講義でそんな無茶な話はない。この課題もまた、当方が何か策を練る体のものではないが、強いて方策をとあらば、頻繁に確認の小テストを実施すること、（教養演習で）ノート・テイキングを訓練すること、などが想定される。

アンケートから窺われる課題は、必ずしも当方だけが方策を講ずべきものではなく、むしろ履修者諸君の意識改革に俟つところが大きいようだ。「学ぶ」にあらず、「単位を取る」に終始しているやに感じられ、残念でならない。毎年、そして今年も、素点では平均30前後。「知識・理解」以前に「常識」を疑うような解答も多々見られる。

その他

今回は自由記述欄に記入されたコメントはなかった（らしい）。

数年前の「古文書学」につき、黒板に掲げる写真が小さいのでプロジェクタの使用などを検討するとの改善策を示したものの、別の難点を生ずることが明白なので導入していない。やたらに学生の意を迎えるのは、衆愚に堕する虞もあるかと思う。

授業改善書

科目名	英語史
担当者	熊田　和典

授業の概要

英語という言語の歴史を、影響を深く受けているイギリスの歴史を辿りながら、古い時代から現在まで考察していく授業である。英語がその古い形から、侵略した民族の言語の影響を受け変化している様子を考察することによって、自然と現在の英語の姿を再認識することができる。

授業の問題点

この「授業改善書」には、今回私が担当した科目の中で授業アンケートの評価の芳しくなかった科目を取り上げることにした。授業の問題点は、特定の問題というよりは、授業全体の問題の可能性がある。授業アンケートにおいて、授業内容、授業方法において全体的に評価が芳しくなかったと言える。「テキスト・資料の適切さ」を除いて、授業内容、授業方法において 5 段階評価で 4 から 3 の間であった。学生の対応に関する項目が最もよくなかった。

学生の授業満足度

学生の満足度に関する授業アンケートのふたつの項目については、「授業の内容はあなたにとって得るところがあるものでしたか。」に対しては 3.92、「全体的に振り返って、授業は満足できましたか」に対しては 4.08 であった。不思議なことに、学生の授業満足度は、上記の「授業の問題点」で述べた授業内容、授業方法よりも評価が高かった。

授業改善の課題と方策

実は、この英語史の授業は、私が担当している授業の中で、他の科目と比較すると授業アンケートの結果が芳しくなかったことは少なく、今期の英語史の授業も例年と同じように行ってきたと思っているため、具体的にどのような問題が潜んでいて、そのような対策を取ってよいか、正直見当がつかない。せめてコメントなどを書いてもらえるとよかったと思う。

対策の核として現在考えられることは、まず、授業アンケートで、学生の対応の項目の評価が芳しくなかったことから、特にこの点の配慮を欠かさないようにしようと考えている。来年度は、学生の授業中での反応を見ながら授業を行ってみたい。その上で、全体的に丁寧に 1 回 1 回の授業を見直してみたい。

今回の授業で明らかに例年と違うのは、教育実習の巡回のため、1 回目の授業をオンライン授業にしたことと、コロナ禍のために毎回授業の最後に提出してもらっているコメントシートを中止にしたことである。これによって、受講生の側にもなんらかの影響を与えているのかもしれない。

その他

授業改善書

科目名	心理学統計法Ⅰ
担当者	小島　弥生

授業の概要

心理学で用いる統計手法の基礎的な内容を講義する授業である。記述統計をはじめ、２群の平均値の差の検定や無相関検定といった推測統計の基本的な内容まで理解することを学生には求めている。公認心理師対応カリキュラムに沿った授業を実施する必要があるため、内容はかなりのボリュームがある。

授業の問題点

隔週で対面（教室）授業週と課題週を織り交ぜるという令和 2 年度秋期の授業運営に対し、この科目では学習内容が広範であり、かつ、資格（公認心理師）への対応が必要であったことから、課題週には「オンデマンド授業」として Teams に独自の科目チームを作り、対面授業と同一内容のスライドを使ってビデオ配信で授業を行っていた。

また、1 回の授業で教える内容が多いことから、例年は授業の最後の 20 分程度を使って実施していた「小テスト」を、今回は Teams での「課題」に替えて、教室で授業を受けた週でも課題は Teams に提出する方式をとった。その分、学生には負担が大きかったと思われる。

学生の授業満足度

平成 29 年度以降、4.30→4.00→4.25 と推移していた「全体的に振り返って、授業に満足できましたか」の平均評定が、今期は 3.99 とわずかだが 4 点を下回ってしまった。また、例年と比べて大きく評価が下がった項目が「毎回の授業は適切な内容や量でしたか」の 3.76 であった（例年は「90 分の授業を適切・有効に使っていましたか(分量やスピードなど)」という質問項目で、平成 29 年度以降、4.36→4.37→4.55 という平均評定であった)。上記「授業の問題点」に記したように、対面授業とオンデマンド授業の併用、かつ、小テストを Teams での課題に替えたことで、学生には負担が大きかったと思われる。

その他の項目については例年と平均値が大きく変化していないことから、今年度の学生の授業満足度を引き下げてしまった主な要因は、対面授業とオンデマンド授業の併用、課題をすべて遠隔化したことによる、学生の負担感の大きさの反映であろうと理解している。

授業改善の課題と方策

ビデオを先に収録した後に、同一内容を対面授業でも講義するため、どうしても「その場にいる学生の理解を確認する」作業を後回しにし、まずは「ビデオで収録した内容分をすべて教えきること」を念頭においた授業運営であったことが反省点である。改善策としては、ビデオの収録を対面授業そのものにするという方策、あるいは、対面授業とビデオを切り離して「ビデオは復習的に確認するための資料」と割り切ってしまう対策もあるかもしれない。

埼玉学園大学での講義は今年度限りであるが、昨今の社会状況を考えると、対面授業と遠隔（オンデマンド，オンライン）授業の併用は避けられない課題であり、今年度の埼玉学園大学での講義を反省材料に、より効果的かつ学生にとって分かりやすい形での授業運営の在り方を考えていきたい。

その他

授業改善書

科目名	教育社会学（中高）
担当者	布村育子

授業の概要

教職課程の必修科目である。授業では、全授業をパワーポイントを用いて行った。
①理論の説明のあとに理論の具体例を必ず紹介する。②学生自身の意見と教育社会学のものの見方を比較させる。③他の学生の意見と自分の意見とを比較させる。このような点を組み合わせて授業を構成できるようにした。

授業の問題点

全授業をパワーポイントで説明したのは、初めてだった。第３回目までは、うまくスライドで説明ができなかった。
学生同士の意見交換は、コロナ禍のため最小限にしたので、上記の③が不完全だった。

学生の授業満足度

パワーポイントを用いなかったこれまでの授業と、今回の授業と、特に満足度に変化がなかった。
学生はよく話をきき、スライドの見え方にもアドバイスをくれ、積極的に授業に関わろうとしてくれた。

授業改善の課題と方策

パワーポイントの効果的な方法をもう少し勉強するつもりである。

その他

授業改善書

科目名	日本文化概論Ⅱ
担当者	森田直美

授業の概要

王朝由来の文化、美術工芸品等について学ぶ。

授業の問題点

「質問や発言をしましたか」の項目が 2.19 と大変低い。

学生の授業満足度

全体的な満足度は、4.46 と高い数字である。

授業改善の課題と方策

コロナウイルスの影響で、授業時に学生の発言を促すのが難しい状況下ではあった。今後はコメントカードの活用など、意見や質問を聞き出す工夫をしたい。

その他

専任教員

人間学部　心理学科

科目名	心理実践職能論（公認心理師の職責）
担当者	小玉　正博

授業の概要

本講義は、臨床心理士や公認心理師などによる心理的援助について理解することを目標に講義を行った。具体的には、心理専門職者の役割と義務、職業倫理、サービス受領者の安心安全の確保、インフォームド・コンセントなどの他、専門家として求められる基本的資質や態度についても関係資料の解説や討論などを行いながら、医療、福祉、教育、司法、産業の各領域における心理専門職者の心理支援のあり方および課題について、より実践的に理解できるように講義を進めた。なお、コロナ禍での教育的対応として、春期と同様、隔週で対面授業とリモート授業を交互に行った。

授業の問題点

今年度はコロナ禍で対面授業とリモート授業の併用という変則的な授業形態であったことにより、受講者に講義内容を十分伝えられるかという懸念があった。特に、対面授業において密を回避するために学生間で討論する機会をほとんど設定できなかった点、学生への質問応答を最小限にせざるを得なかった点など、授業内でのコミュニケーションを十分確保出来なかったことが問題であった。しかし、内容理解が平板にならないように、現場の心理職者の生の声を授業内で紹介したり、毎回事後課題を設定し、次回授業の前半をその振り返りと受講生の理解度を踏まえた追加解説を行うなどの工夫を行った。それにより、当初の予想以上に、ほぼ期待された学習成果が得られたと評価できる。

学生の授業満足度

例年の授業満足度では、4 点以上の評価を得てきたが、今回はコロナ禍での問題として学生側のネット環境により、講義内容の動画とナレーションが十分受信できなかったなどが散見された。そのため、わかりやすさの評価が 3.78、学生側の授業評価が 3.89 と例年よりやや低い評価であった。発言への自己評価が 2.89 と低いのは、学生の学習態度が受け身的であったという以上に、今回のような授業形式では対応しにくいのではなかったかと推察される。

授業改善の課題と方策

今回の授業満足度は、コロナ禍という平常時とは異なる環境に影響されたと思われるが、対面授業でも 3 密回避への配慮ということで、授業内でのコミュニケーションの取り方により工夫を要する。また、同じリモート形式でもオンデマンド型ではなく、オンタイム型であれば発言ももっと活発であった可能性があるが、そのためにはより高度なネット環境の整備が求められる。

その他

コロナ禍で大学全体のネットワークのインフラ整備の必要性がより明確になってきたと思われるので、今後はより一層大学のネットワーク環境の整備と充実が求められる。

授業改善書

科目名	臨床心理学概論
担当者	小山　望

授業の概要

臨床心理学概論は、主要な心理療法の理論、精神分析、分析心理学、行動理論、来談者中心理論、認知行動理論、実存主義、集団療法などを概説することが目的である。
各理論の創始者がなぜこの理論を構築したか、その背景にあるものなどに触れながら説明している。

授業の問題点

授業の進め方として、パワーポイントの資料をプロゼジェクターに投影して、提示して、説明を行った、パワーポイントは teams にファイルであげておくので、事前に学生は読んでおくように指示している。教科書も事前に何ページを読むように指示は与えている。学生からの授業評価、授業の進めかたは、4 点台で概ね満足をもらっている。しかし、授業の方法や資料はわかりやすかったという質問への評価は、3.94 と 4 点に届かなかったことから、パワーポイントの資料の内容と進め方に問題があったと思われる。
もっと資料は平易な内容に改善すること、パワポの資料をゆっくり、わかりやすく伝える努力が必要であると思われた。

学生の授業満足度

学生の授業評価　Ⅰ　授業内容　3 問　　平均　4.07
　　Ⅱ　授業方法　5 問　　平均　4.02
　　Ⅲ　授業満足度　2 問　平均　4.08

学生の満足度は、おおむね満足度は良かったと思われる。

授業改善の課題と方策

臨床心理学概論」は必修専門科目であるが、1 年生であるため、なるべく平易な表現でわかりやすい内容にするように工夫して説明している。臨床心理学の内容は、主な心理療法の理論の紹介のため、決して易しくないはないが、その理論の創始者（例えば、フロイトやユングやロジャース、ワトソン）の生い立ちや理論を構築する至った背景などに触れて理論に親しみを持ってもらうようにしている。また心理学の知識を日常生活に使えるようにするため、人間行動の心理を例にして、理論的な説明を行っている。パワーポイントは必要最低限にして、プリントと教科書を使った対面式の授業を行っている、講義が一方通行にならないように、講義中に学生に心理用語の説明を質問している。また学生同士で話し合う時間を設けて、考えさせるなどの機会もつくっている。

その他

授業改善書

科目名	心理学概論Ⅱ
担当者	杉山雅宏

授業の概要

人間の発達を概観し、生きていくうえで過去を整理して目標を設定することに役立つように、対人関係・生涯発達・親子関係の心理などについて学び、広く人間関係の心理を学ぶ。
世の中で関心を集めている話題（恋愛問題、犯罪・非行問・ネット社会のトラブルなど）についても概観し、生きる上での参考になるような問題について、心理学を切り口として考えていく。

授業の問題点

・心理学を専門としない他学科（心理学科以外）の学生さんを対象とした講義であるため、興味・関心など個人差が大きい。
・履修する学年も特定の学年に指定されていないため、経験の幅がことなる。

学生の授業満足度

・学生さんは概ね講義の進行・内容に満足されていたようである。

授業改善の課題と方策

・心理テストなどを多く取り入れ、学生さんが自分を見つめることができる時間を大切にした。
・その際、必ず振り返りの時間を設けるような配慮をした。
・具体的な事例を紹介し、日常生活の活かせる心理学の基礎の定着を図った。
・少人数のグループを構成し、毎時間、学生同士が自分の考えを発表できるような場面を創出した。
・学生からの質問には毎時間応えるようにした。
・レポート課題の設定については、学生さんの自主性に委ねた。

その他

授業改善書

科目名	学校臨床心理学
担当者	杉山雅宏

授業の概要

いじめ、不登校、学級崩壊など、学校現場で頻発する問題を臨床心理学の視点から解決に導く方策について学ぶ。
子どもの心の問題についての実践的な学習を通して、自己理解や他者理解を深め、社会生活において役立つコミュニケーション能力を磨き、豊かな人間性を育めるような講義にする。
他者理解（子ども理解）を促進するため、、自己理解を深めるワークを実施する。

授業の問題点

・他学科の学生さんを対象とした講義であるため、興味・関心など個人差が大きい。
・履修する学年も特定の学年に指定されていないため、経験の幅がことなる。

学生の授業満足度

・学生さんは概ね講義の進行・内容に満足されていたようである。

授業改善の課題と方策

・具体的な事例を紹介し、学校臨床心理学に興味・関心を抱いていただくような工夫を試みた。
・少人数のグループを構成し、毎時間、学生同士が自分の考えを発表できるような場面を創出した。
・学生からの質問には毎時間応えるようにした。
・学生さんが私語をしないような工夫を心みたい。

その他

授業改善書

科目名	児童青年心理学
担当者	杉山雅宏

授業の概要

・児童期の発達上の問題点について理解する
・青年期の発達上の問題について理解する
・小学生から大学生に至るまでの発達上の課題について理解する。

授業の問題点

・1 時間目の講義でも参加していただけるような興味深い講義の展開。
・自身が経験してきたことを振り返り、今後のキャリア形成の参考にする。
・今まで学んだ専門科目の復習。

学生の授業満足度

・学生さんは概ね講義の進行・内容に満足されていたようである。

授業改善の課題と方策

・予習・復習を促す講義の展開
→自宅学習課題、アクティブラーニングのさらなる導入
・一人で取り組みのではなく、ともに考える姿勢を身につけさせる工夫。

その他

授業改善書

科目名	発達心理学
担当者	藤枝静暁

授業の概要

人間の心身の発達を学ぶことは、自己理解や他者理解の基本的知識となりうる。保育者、教師といった人と密接に関わる職業に関心がある者は、特に、人間の発達段階、発達課題といった基本的な知識や概念を理解しておくことが望ましい。知識の紹介にとどまらず、幼稚園、保育所、学校といった現場での実際の子どもの姿も紹介する。

授業の問題点

アンケート結果より特段の問題点は無かった。

学生の授業満足度

「授業の内容はあなたにとって得るところのあるものでしたか」の項目では５点満点で4.35 点であり、満足度はまずまず高かったと考えられる。

「全体的に振り返って、授業に満足できましたか」という項目への回答は 4.30/５点であったことから，満足度はほぼ満たされたと考えられる。

授業改善の課題と方策

「授業外学習（予習や復習など）をしましたか」は 4.05 点であった。これは例年よりも高かった。オンライン授業の時間や自宅学習の時間が取れたからかもしれない。

予習することで、授業内容の理解が円滑になる。復習することで、授業で吸収した知識が定着する。この基本事項を念頭に置き、どの授業においても予習・復習をして欲しい。

その他

自由記述の感想が無かったのが，残念であった。

授業改善書

科目名	教育心理学
担当者	藤枝静暁

授業の概要

教育心理学についての基本的な知識や概念を体系的に理解する。授業ではアクティブ・ラーニングを取り入れている。具体的には，本や PVC を利用した調べ学習，映像資料を視聴し，少人数で話し合いをするなどである。

授業の問題点

アンケートの結果から，特段の問題点は見当たらなかった。

学生の授業満足度

「授業の内容はあなたにとって得るところのあるものでしたか」の項目では５点満点で 4.51 点であり、満足度はまずまず高かったと考えられる。

「全体的に振り返って、授業に満足できたか」の項目では５点満点で 4.47 点であり、満足度はまずまず高かったと考えられる。

授業改善の課題と方策

「授業外学習（予習や復習など）をしましたか」は 4.17 点であった。例年よりも高かった。オンライン授業の時間や自宅学習の時間が取れたからかもしれない。

予習することで、授業内容の理解が円滑になる。復習することで、授業で吸収した知識が定着する。この基本事項を念頭に置き、どの授業においても予習・復習をして欲しい。

その他

自由記述の感想が無かったのが，残念であった。

授業改善書

科目名	社会心理学概論
担当者	遠藤寛子

授業の概要

自己レベルの心理を理解していくことは、対人レベルそして集団レベルでの行動を考えていく上で重要な知識となる。本講義では、社会心理学における自己や他者に関わる様々な理論や知見を紹介する。具体的には自分自身をどのように捉えているのか、他者との関係を形成しようとする気持ちが社会的行動とどう関わってくるのか、なぜ、他者を傷つけるのか、そして他者を助けるのか等について講義する。到達目標は以下に挙げられる。
・個人・集団レベルおよび文化レベルにおける人の考え方・感じ方・行動の仕方のメカニズムを理解できる。
・社会心理学の視点を応用して、現代社会における様々な問題を解決するための糸口を指摘できる。
・社会生活を円滑に進めていくために何が重要になってくるのかについて、授業で学んだ知識を参考にしながら自身で答えを見つけることができる。

授業の問題点

今年度は遠隔授業と対面授業の両方が行われ、遠隔授業の際には、自宅に PC 環境が整っていない学生に対してもスマートフォン等で対応できるように工夫した。動画視聴が困難な学生には、文字と絵、図表を交えた資料を配布した。
　しかしながら、Teams をまだ十分に理解できていない学生にとっては、課題提出などが困難な面もあり、締切日を延長するなどして配慮した。

学生の授業満足度

満足度の平均は 4.64 と全体的に高く満足して頂けたようである。授業内容にも興味関心が高く理解もして頂けたようだ。毎回の授業の内容や量も適切に感じて頂けたことから、来年度も本年度のペースを維持できればと考えている。しかしながら、予習および復習の平均点は 3.73 であるため、今後モチベーションを維持できるような予習および復習の提示が必要になる。

授業改善の課題と方策

上記でも言及したが、予習および復習がしやすいように初回の授業にて、例を挙げながら自主学習を取り上げたいと考えている。また、本授業は、必修科目であるため、受講者数が多い。そのため、コロナ禍の状況が収まるまでは対面授業と遠隔授業の双方を交えながら進めていくことになると予測されるが、それに備えて、感染症の拡大防止に配慮をしつつ視覚的に情報が入りやすい資料を準備することが重要である。動画作成だけではなく文字と絵、図表を交えた資料を作成することを予定している。

その他

授業改善書

科目名	心理学研究法
担当者	遠藤寛子

授業の概要

心理学を科学的に追求するための多様な研究方法を紹介する。具体的には、実験法、質問紙法、面接法、観察法等を扱う。また、心理学の研究の特徴や手続き、方法、限界、研究倫理に関して説明する。 各々の研究法について理解を深められるよう、簡単な実習を行いながら講義する。

授業の問題点

今年度は遠隔授業と対面授業の両方が行われ、遠隔授業の際には、自宅に PC 環境が整っていない学生に対してもスマートフォン等で対応できるように工夫した。動画視聴が困難な学生には、文字と絵、図表を交えた資料を配布した。

しかしながら、Teams をまだ十分に理解できていない学生にとっては、課題提出などが困難な面もあり、締切日を延長するなどして配慮した。

学生の授業満足度

満足度の平均点は 4.56、理解度が 4.63 と全体的に高く満足して頂けたようである。また、学生への質問や疑問点にも対応できたという点では安堵している。
しかしながら、予習および復習の平均点は 3.65 であるため、今後モチベーションを維持できるように、具体的な予習および復習の提示が必要になる。

授業改善の課題と方策

上記でも言及したが、予習および復習がしやすいように初回の授業にて、例を挙げながら自主学習を取り上げたいと考えている。また、本授業は、必修科目であるため、受講者数が多い。そのため、コロナ禍の状況が収まるまでは対面授業と遠隔授業の双方を交えながら進めていくことになると予測されるが、それに備えて、感染症の拡大防止に配慮をしつつ視覚的に情報が入りやすい資料を準備することが重要である。動画作成だけではなく文字と絵、図表を交えた資料を作成することを予定している。

その他

授業改善書

科目名	心理学統計法Ⅱ
担当者	遠藤寛子

授業の概要

本講義では、心理学研究で用いられる統計の基礎的知識を紹介する。具体的には、分散分析、回帰分析、因子 分析の一部を教授するとともに、統計ソフトの基本的な操作方法についても説明する。得られたデータをどのように数値化するか、どのような分析を用いるか、基本的な理解を踏まえて講義する。

授業の問題点

今年度は例年に比べて３倍以上の受講者数であった。そのため対面授業と遠隔授業の両方が行われ、遠隔授業の際には、自宅に PC 環境が整っていない学生に対してもスマートフォン等で対応できるように工夫した。動画視聴が困難な学生には、文字と絵、図表を交えた資料を配布した。

しかしながら、Teams をまだ十分に理解できていない学生にとっては、課題提出などが困難な面もあり、締切日を延長するなどして配慮した。また、2、3 年生を対象とする授業ではあるが、図表の書き方がわからない学生が多かったため、統計のみならず図表の書き方について教示する時間を確保する必要があった。

学生の授業満足度

心理学統計法に対する苦手意識が高い上、心理学統計法Ⅰでの知識を忘れている学生が多かったため、授業計画を変更することもあり、基礎的な統計を教授する時間が必要であった。満足度の平均点は 4.03 ではあったものの、学生の疑問点にも十分に対応できていなかった面もある。よって、今後は授業内容に心理学統計法Ⅰの復習の時間を含めるべきであると考えている。

授業改善の課題と方策

コロナ禍の状況が収まるまでは対面授業と遠隔授業の双方を交えながら進めていくことになると予測されるが、それに備えて、感染症の拡大防止に配慮をしつつ視覚的に情報が入りやすい資料を準備することが重要である。動画作成だけではなく文字と絵、図表を交えた資料を作成することを予定している。また、図表の書き方、心理統計の基礎を教授する時間も必要と考えている。

その他

科目名	心理療法論
担当者	佐々木 美恵

授業の概要

心理療法および心理援助のさまざまな理論やアプローチを講義する。
心理療法とは、臨床心理学の知見をもとに、こころの問題に関連する心身の問題や症状を改善しようとする方法の総称である。心理療法にはさまざまな学派、方法論があるが、本講義では、精神分析理論や行動主義，人間性心理学などなど、代表的な方法に関する基本的な知識を講義する。さらに，心理教育的援助や子どもの心理療法のほか，心理援助の応用的展開まで発展的に講義する。

授業の問題点

- 学生による質問や発現の機会を十分に担保しておらず，双方向性の授業展開にはならなかった。
- 学生の理解度には個人差があるが，十分な理解に至っていない学生の把握と対応がなされたとは言い難い。

学生の授業満足度

- 概ね良好であったと評価することができる。
- 授業中も熱心に聞く様子が見られており，学生の興味，関心を惹起し，ある程度応えることができたと考えている。

授業改善の課題と方策

- まとめ試験の結果からも，学生の習得度は十分な水準には達していない。知識の定着を図るためのさらなる工夫と改善が必要である。
- 学生の発言機会をより積極的に設定し，双方向性の授業展開となるように努める。

その他

とくになし。

授業改善書

科目名	心理学概論Ⅱ
担当者	泉水　紀彦

授業の概要

本講義では，心理学の主要理論を，日常生活の中で経験する様々な事柄と関連づけて紹介し，人の心の基本的な仕組みや働きについて概説する。また，“科学”としての心理学がどのように形成され，発展してきたのかについて，心理学の研究史や研究法の概要についても紹介する。4 年間の心理学の学びの基本を経験・理解することが本講義の目標である。

授業の問題点

ほとんどの質問項目は，評定が 4 以上であるが，質問や発言の有無（3.18）の質問項目は低評価であった。昨年度は，授業外学習は 3.79 であったが，4.00 に上昇した。今年度は対面授業とオンライン授業のハイブリッド型の授業形式であった。そのため，オンライン授業時の課題を行ってもらったため，授業外学習をする機会が増えたと考えられる。

学生の授業満足度

授業内容に得るものがあったか（4.68），授業は満足できたか（4.52）となっており，（全体と比較できないが）どちらも高評価であった。

授業改善の課題と方策

今年度は，新型コロナウィルスの影響により，2 グループに分けた隔週対面授業であった。隔週の対面授業は，例年と同様でよかったが，その間の自主学習は，授業内容を損なわないようにするため，ビデオ 3 本と事後課題を用いたオンライン授業(オンデマンド型)で実施した。試行錯誤であったが，おおむね高評価であり，次年度も同様の授業進行が望ましいと考えられる。

その他

特になし

授業改善書

科目名	神経生理心理学
担当者	泉水　紀彦

授業の概要

行動や感情は中枢神経系の活動により引き起こされる。生理心理学は，生理学的手法を用いて脳と行動の関係を調べ，人間の「心」やそのメカニズムを明らかにしようとする学問である。本講義では神経活動の基本から始め，身体機能の生理学的基礎をふまえながら，知覚・学習と記憶・感情・ストレスなどをとりあげ，これらがどのような神経メカニズムにより成立しているのかを解説する。また生理心理学の基礎的研究や臨床場面への応用（精神障害，高次脳機能障害）について学ぶことで，心を生み出す脳の仕組みについて理解を深める。

授業の問題点

ほとんどの質問項目は，評定が 4 以上であるが，授業外学習（3.56），質問や発言の有無（2.77）の質問項目は低評価であった。受講生が授業後にコメントカードに感想を書いてもらい，次の授業開始時に共有する方で意見共有を行ったが，講義形式であったため，学生を指名して発言を求めることがなかった。

学生の授業満足度

授業内容に得るものがあったか（4.44），授業は満足できたか（4.34）となっており，（全体と比較できないが）どちらも高評価であった。
授業の方法や資料はわかりやすかったかについては，4.52 であった。

授業改善の課題と方策

今年度は，新型コロナウィルスの影響により，2 グループに分けた隔週対面授業であった。隔週の対面授業は，例年と同様でよかったが，その間の自主学習は，授業内容を損なわないようにするため，ビデオ 3 本と事後課題を用いたオンライン授業(オンデマンド型)で実施した。試行錯誤であったが，おおむね高評価であり，次年度も同様の授業進行が望ましいと考えられる。
神経や脳といった人間のミクロな構造を理解するため，資料にイラストを掲載したが，印刷機器の限界もあり，不鮮明な部分が多かった。今後は，教科書の導入などをして，学生の理解を深めていきたい。

その他

特になし

専任教員

人間学部　子ども発達学科

授業改善書

科目名	教育方法論（中高向け）
担当者	浦野 弘

授業の概要

授業を設計-実施-評価するために必要な知識や技術を習得することを目的とし，わかりやすい授業を設計する方法論，とりわけ学校における授業内のコミュニケーションを支援する環境や方法（ティームティーチングや習熟度別学習等），教育メディア等の活用に関する諸理論を通して，教える（子どもが学ぶ）ための方法や技術について考える。また，総合的な学習の時間を運営するための基礎的な知識や技術を習得する。

授業の問題点

ほぼ同一のテーマで，春期に小学校向けと秋期に中高向けの 2 つの講義を開講しているが，すべての項目について，本講義である中高向けの方が 0.3～0.9 ポイントほど得点が低い。中央値は全項目で４ないし３ではあるが，「質問や発言」では平均が 3.3 と低い。次時の課題意識を持たせるために，テキストを読んでくる宿題を課しているが，その割に「授業外学習(予習や復習など)」の得点が低く，動機付けが不十分と言える。さらに，宿題を前提に講義を進めているため，「授業方法」等の得点が当然低くなったものと思われる。また，独自に行っている授業アンケートでは，「昼食後であり，眠くなる。そのためにも発言する機会をもっと増やして欲しい」という指摘もあった。小学校向けと受講目的に多少の違いはあり得るが，興味関心が持続できるようにテキストを読むという動機付けを，使い分けることが重要と思われる。

学生の授業満足度

満足度の平均値は 3.6 で，小学校向けに比べ 0.6～0.7 程低いが，1 と 2 の評価の者は各々の項目で 1 名であったので，昨年度に比べると向上はしてきていると言える。

前述のように受講生の学びに向かうスタンスが異なるので，同一の動機付けではなく，そのニーズや興味関心に即したものに今後も工夫する必要がある。

授業改善の課題と方策

アクティブラーニングや反転授業が求められているところであり，次時の講義に向けての「予習」である「テキストを読んでくる」という課題は堅持したい。

本年度は，授業時の配布物を予習用に多少改善を試みたが，欠席者やプリントの忘れ等があり，初期段階で断念した。

来年度は，学校現場での実情が実感できるように，具体的な映像事例や学生の生活経験に即したにイメージ化できる事例をより多く提示し，それにもとづく議論が行えるような講義形態を構築するような工夫を取り入るように努める。また，学生の発言を促す機会を増やすように，一層の工夫に努める。

その他

授業改善書

科目名	**音楽実技Ⅱ**
担当者	**笠井・一村・影山・佐藤・須田・宮崎・安田**

授業の概要

笠井担当のクラス授業(45 分)では表現としての音楽から保育教育現場で使用度の高い歌唱曲の歌唱指導、コードによる伴奏法、身体表現、手遊び歌、記譜法などを指導する。全調課題「きらきら星」によりⅠⅣⅤⅤ$_7$の各調での伴奏に慣れることを課題とする。一村他５名の非常勤の先生方による学生のレベルに応じたピアノの個人レッスンでは、実習で使用の生活の歌、歌唱曲、自由曲などを学ぶことで音楽実技Ⅰに引き続き、ピアノ演奏の技術の向上を目指す

授業の問題点

・初心者が 68%で楽器を持ってない学生が大変多いため、前期のオンラインの授業での遅れと、授業開始時、練習必須の教科であることの確認が甘かったことが、後期にも影響が出、それに甘えた学生と、頑張った学生との差が例年になく出てしまった感がある。

本年度はコロナな感染防止のため、個人レッスンの先生によるグループレッスンは行われず、完全な個人レッスンであった。待ち時間に練習できるといったメリットはあったが、提出物などの伝達の徹底が行いにくかった。学生の出席は相対的によく、熱心に課題に取り組んでくれた。特に身体表現、手遊び歌などは楽しく音楽に取り組めたようで、授業後の感想に「楽しかった」といった感想が非常に多くみられた。

コロナ感染防止でマスク着用から、発声法や歌の指導が例年より十分にできなかった点は残念であった。

・練習の記録を見ると授業前の日のみの練習など、日々の練習量が不足している学生が多い。練習を日常化、習慣化させるためにはどうしたらよいか、学生への練習に対する意識改革を考える必要がある。

学生の授業満足度

・「授業の内容は得るところのあるものであったか」は、クラスそれぞれ
4.76, 4.44、4.77 であり、学びの効果があったと考えられる。

「全体的に授業に満足できたか」は、各クラス 4.62、4.30、4.80 であった。レベル差が多く初心者にとってはきつかった授業なのではと思っていたが、学生の満足度としては高い数値であった。

授業改善の課題と方策

・全体と個人と 45 分交代の授業であるが、授業の内容で時間が不均衡になったりした点は極力今後気を付けたいと思っている。

特に合同の後半では各先生の個人レッスン終了時間の差があり、全員揃うのに時間のロスタイムが出て、時間が足りなくなり時間ぎりぎりまで授業をするため、余裕がなかった点反省である。今後、時間厳守を心掛けたい。

その他

レッスン室で飲食、練習せず友達とふざけているなど、また使用記録に書いたまま練習をしていないなど、レッスン室の使用に問題が多く出た。来年度使用方法についての徹底が望まれる。

授業改善書

科目名	初等教科教育法（算数）
担当者	齋藤　昇

授業の概要

算数科教育の目的、指導内容、指導方法、評価方法等についての基礎的な内容、及び児童の関心を高め深い学びを実現する算数科の指導方法を講義する。児童の構造的・体系的思考を活性化する指導方法についても説明する。

授業の問題点

学生の５段階評価平均値によれば、「出席や課題提出等はしたか」が 4.6、「授業の方法や資料はわかりやすかったか」が 4.0、「授業を円滑に進めるための配慮はなされていたか」が 4.3 と回答しており、授業内容はおおむね適切であったように思われる。

また、クラスを２グループに分けて、対面授業とオンラインによる授業を行ったが、オンラインによる効果的な授業方法をさらに検討していきたいと思っている。

学生の授業満足度

学生の５段階評価平均値によれば、「授業の内容はあなたにとって得るところのあるものだったか」が 4.3、「全体的に振り返って、授業に満足できたか」が 4.1 という回答であり、学生は授業に対してほぼ満足していた様子がうかがわれた。

授業改善の課題と方策

学生の５段階評価平均値によれば、「毎回の授業は適切な内容や量だったか」が 4.2、「授業を円滑に進めるための配慮はなされていたか」が 4.3、「学生からの質問などにきちんと対応したか」が 4.2 という回答であった。

これらの数値から、学生はおおむね学習内容を理解したと思われる。次年度は分かりやすい授業を行うため、学習内容を一層精選するとともに、効果的なオンラインによる授業方法も工夫・検討していきたいと思っている。

その他

なし。

授業改善書

科目名	保育内容総論（火曜日・３限目）
担当者	島田和幸

授業の概要

保育の意義や目的、思想的変遷、幼稚園教育要領や保育所保育指針などに基づく保育内容、保育計画の在り方などについて学習する授業で、ここには絶えず子どもの成長を見守り観察・ 記録を続けながら、養護と教育が一体化された実践を積み重ねてきた先人の努力が存在する。このような人の営みの歴史的な変遷も重視した授業を通して、子どもにとって有意義な保育内容についての講義を進めていった。

授業の問題点

新型コロナ感染予防のため、本来ならグループ協議や協議内容のグループ別発表などをさせる場面でも、学生には講義を聞かせるか個別作業をさせるかという授業方法が中心となってしまい、盛り上がりに欠ける事態が生じた。

学生の授業満足度

回答した学生の満足度平均値が 4.5 以上であった。今後もできる範囲で、学生が常に受け身となる授業にしないような工夫を図りながら「楽しく活き活きと活動できる授業」をめざしていきたい。

授業改善の課題と方策

今後も新型コロナ感染予防のため、グループでの学習活動等の授業方法には、一定の制約が生じることになるが、そんな中でもソーシャルディスタンスに留意しながら、学生の主体的な学びの場の工夫を図り協同学習も重視した授業を展開していきたい。

また、論述式課題の実施により、文章表現力の育成を狙ってきた。論述の「形式・方法」に学生が慣れてきた気がするが、今後は、形式のみならず内容の充実をめざしていきたい。

その他

毎回の授業で「学習ノート」を印刷・配布し、これをテキスト代りに供覧している。ここでは、いくつかの主要な設問を設け 180～200 字で文章化させる作業をとったり、授業終末の感想を書かせたりしながら、これを授業終了後に提出させ、出欠確認と学生の理解状況確認もしていた。しなし、今後は、大学生らしく自主・自立をめざさせるため、学習ノートの形式を考え直していきたい。

授業改善書

科目名	健康科学Ⅱ（火１）
担当者	野瀬清喜

授業の概要

生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かな人生を送るには、スポーツライフの習慣化が欠かせない。そのためには学齢期から行ってきた「体育授業」の総仕上げとして、「運動の特性に応じた楽しさ」「スポーツフォアオール精神の重要性」を理論と実践両面から理解し体験することが重要である。

本授業の目的は「学校体育の意義」を再認識し、「生涯学習（スポーツ）のあり方」を理解することにある。

授業の問題点

前期授業、健康科学Ⅰの全てをオンライン及び講義形式で実施したため、健康科学Ⅱは、なるべく多くの時数で「実技」を行うこととした。本授業は、子ども発達学科学生の必修となる授業であるため「運動の得意な学生、苦手な学生」が混在しており、全ての学生に満足感を感じさせる授業のあり方を認識させることに配慮した。

実技種目は、球技のゴール型とネット型の中から学生が選択して行う形式で行ったが、希望種目に偏りが出る課題が残った。

学生の授業満足度

実技授業では早朝の授業開始と冬場の寒気で体が温まらず、関心、意欲が 2 限以降の授業より高まらず、満足度が若干低かった。

学生の授業満足度は昨年に比べ高い傾向であった。授業の内容に得るものがあったかの設問では、その他の各設問より高く「学校体育の意義」「運動の特性に応じた楽しみ方」「運動の苦手な児童・生徒に対する配慮」「運動が得意なのに意欲が低い児童・生徒の対する対応」などの指導目標に対する理解とその指導法に関してはその目標が達成できたものと考える。

授業改善の課題と方策

コロナ禍で行った対面授業であったため、教室でも体育館でもアクティブラーニングを用いた知的好奇心を高める対話的主体的な授業が行えなかった。

実技指導、アドバイスなど「非認知能力」を高める場面も少なかった。授業改善の課題としては、学生のみでなく指導者も実技指導能力の高度化を図り、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」を高める方策を検証しながら、「生涯学習の一環としてのスポーツ指導のあり方」「高齢化社会に向けた健康寿命と運動の関連」を内面化できる授業を目指したい。

その他

学生の運動・スポーツに対する志向は高く、授業終了時間ぎりぎりまで活動を続ける場面が多いため、更衣の時間がなくなってしまう。

体育館の床が傷んでおり補修が必要である。

授業改善書

科目名	健康科学Ⅱ（火２）
担当者	野瀬清喜

授業の概要

生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かな人生を送るには、スポーツライフの習慣化が欠かせない。そのためには学齢期から行ってきた「体育授業」の総仕上げとして、「運動の特性に応じた楽しさ」「スポーツフォアオール精神の重要性」を理論と実践両面から理解し体験することが重要である。

本授業の目的は「学校体育の意義」を再認識し、「生涯学習（スポーツ）のあり方」を理解することにある。

授業の問題点

前期授業、健康科学Ⅰの全てをオンライン及び講義形式で実施したため、健康科学Ⅱは、なるべく多くの時数で「実技」を行うこととした。本授業は、子ども発達学科学生の必修となる授業であるため「運動の得意な学生、苦手な学生」が混在しており、全ての学生に満足感を感じさせる授業のあり方を認識させることに配慮した。

実技種目は、球技のゴール型とネット型の中から学生が選択して行う形式で行ったが、希望種目に偏りが出る課題が残った。他の健康科学Ⅱに比べ初回からの欠席者が多かった。

学生の授業満足度

２限目の授業であり出席率も良く、学生の授業満足度は高かった。特に、運動の苦手な学生に対する配慮を工夫する場面が多く、練習方法に関してもグループ毎で工夫や配慮がなされていた。

授業の内容に得るものがあったかの設問では、その他の各設問より高く「学校体育の意義」「運動の特性に応じた楽しみ方」「運動の苦手な児童・生徒に対する配慮」「運動が得意なのに意欲が低い児童・生徒の対する対応」などの指導目標に対する理解とその指導法に関してはその目標が達成できたものと考える。

授業改善の課題と方策

コロナ禍で行った対面授業であったため、教室でも体育館でもアクティブラーニングを用いた知的好奇心を高める対話的主体的な授業が行えなかった。

実技指導、アドバイスなど「非認知能力」を高める場面も少なかった。授業改善の課題としては、学生のみでなく指導者も実技指導能力の高度化を図り、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」を高める方策を検証しながら、「生涯学習の一環としてのスポーツ指導のあり方」「高齢化社会に向けた健康寿命と運動の関連」を内面化できる授業を目指したい。

その他

学生の運動・スポーツに対する志向は高く、授業終了時間ぎりぎりまで活動を続ける場面が多いため、更衣の時間がなくなってしまう。

体育館の床が傷んでおり補修が必要である。

授業改善書

科目名	健康科学Ⅱ（火３）
担当者	野瀬清喜

授業の概要

生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かな人生を送るには、スポーツライフの習慣化が欠かせない。そのためには学齢期から行ってきた「体育授業」の総仕上げとして、「運動の特性に応じた楽しさ」「スポーツフォアオール精神の重要性」を理論と実践両面から理解し体験することが重要である。

本授業の目的は「学校体育の意義」を再認識し、「生涯学習（スポーツ）のあり方」を理解することにある。

授業の問題点

前期授業、健康科学Ⅰの全てをオンライン及び講義形式で実施したため、健康科学Ⅱは、なるべく多くの時数で「実技」を行うこととした。本授業は、子ども発達学科学生の必修となる授業であるため「運動の得意な学生、苦手な学生」が混在しており、全ての学生に満足感を感じさせる授業のあり方を認識させることに配慮した。

実技種目は、球技のゴール型とネット型の中から学生が選択して行う形式で行ったが、希望種目に偏りが出る課題が残った。出席率が良く運動が得意な学生が多かったが、苦手な子に対する教え合いの場面が少なかった。

学生の授業満足度

3 限目の授業は出席率も良く、学生の授業満足度が最も高かった。これは指導者の自己評価とは異なる結果で、この結果は今後の研究課題である。学生の個性をよく観察できたことが一因であると考える。

授業の内容に得るものがあったかの設問では、その他の各設問より高く「学校体育の意義」「運動の特性に応じた楽しみ方」「運動の苦手な児童・生徒に対する配慮」「運動が得意なのに意欲が低い児童・生徒の対する対応」などの指導目標に対する理解とその指導法に関してはその目標が達成できたものと考える。

授業改善の課題と方策

コロナ禍で行った対面授業であったため、教室でも体育館でもアクティブラーニングを用いた知的好奇心を高める対話的主体的な授業が行えなかった。

実技指導、アドバイスなど「非認知能力」を高める場面も少なかった。授業改善の課題としては、学生のみでなく指導者も実技指導能力の高度化を図り、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」を高める方策を検証しながら、「生涯学習の一環としてのスポーツ指導のあり方」「高齢化社会に向けた健康寿命と運動の関連」を内面化できる授業を目指したい。

その他

学生の運動・スポーツに対する志向は高く、授業終了時間ぎりぎりまで活動を続ける場面が多いため、更衣の時間がなくなってしまう。

体育館の床が傷んでおり補修が必要である。

授業改善書

科目名	健康科学Ⅱ（火４）
担当者	野瀬清喜

授業の概要

生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かな人生を送るには、スポーツライフの習慣化が欠かせない。そのためには学齢期から行ってきた「体育授業」の総仕上げとして、「運動の特性に応じた楽しさ」「スポーツフォアオール精神の重要性」を理論と実践両面から理解し体験することが重要である。

本授業の目的は「学校体育の意義」を再認識し、「生涯学習（スポーツ）のあり方」を理解することにある。

授業の問題点

前期授業、健康科学Ⅰの全てをオンライン及び講義形式で実施したため、健康科学Ⅱは、なるべく多くの時数で「実技」を行うこととした。

本授業は、子ども発達学科以外の学生が選択で履修する授業であった。いわゆる、「運動が得意な子、好きな子」が多く積極的に取り組む学生がほとんどであった。反面、「運動は好きだが苦手な子」も一定程度存在していた。

実技種目は、球技のゴール型とネット型の中から学生が選択して行う形式で行ったが、希望種目に偏りが出る課題が残った。

運動好きが高じて運動量が多すぎる授業が何回かあった。

学生の授業満足度

４限目の授業は出席率も良く、学生の授業満足度が最も高かった。知的好奇心が高い学生が多く、部活動等で専門的に運動に取り組んでいた学生が、本授業の趣旨を理解し運動の苦手な学生達を活かす工夫が見られた。

授業の内容に得るものがあったかの設問では、その他の各設問より高く「学校体育の意義」「運動の特性に応じた楽しみ方」「運動の苦手な児童・生徒に対する配慮」「運動が得意なのに意欲が低い児童・生徒の対する対応」などの指導目標に対する理解とその指導法に関してはその目標が達成できたものと考える。

授業改善の課題と方策

コロナ禍で行った対面授業であったため、教室でも体育館でもアクティブラーニングを用いた知的好奇心を高める対話的主体的な授業が行えなかった。

実技指導、アドバイスなど「非認知能力」を高める場面も少なかった。授業改善の課題としては、学生のみでなく指導者も実技指導能力の高度化を図り、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」を高める方策を検証しながら、「生涯学習の一環としてのスポーツ指導のあり方」「高齢化社会に向けた健康寿命と運動の関連」を内面化できる授業を目指したい。

その他

学生の運動・スポーツに対する志向は高く、授業終了時間ぎりぎりまで活動を続ける場面が多いため、更衣の時間がなくなってしまう。

体育館の床が傷んでおり補修が必要である。

授業改善書

科目名	初等教科教育法（体育）
担当者	野瀬清喜

授業の概要

体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を見つけ、その解決に向けた学習過程を通して、生涯にわたって健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現する資質・能力の獲得を目指す体育授業のあり方を学ぶ。講義・実技を通して運動・保健に関する「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力、人間性等」を高める教育法を身に付けることを目的とする。

授業の問題点

体育の意義・目的、幼小期からの運動体験、初等教育における体育の授業内容とねらい、小学校学習指導要領（体育編）の目標と内容、体育科学習指導案の作成方法、各学年・領域の目標と内容、各領域の指導法の実践（模擬授業)、研究会の進め方など、指導内容は多岐にわたり、指導時間が十分に取れない困難があった。

受講者数も昨年より１０名ほど増加し、模擬授業で教師役を体験する機会が十分に取れなかった。各領域運動種目の技能を獲得する時間も今後の課題である。

学生の授業満足度

授業の問題点でも述べたように、指導内容が多岐にわたり全てを満足させる授業は困難であった。指導目標を「運動の楽しさ体験」「生涯学習の目的と意義（平均寿命と健康寿命等)」「運動の苦手な子・運動が得意でも積極的でない子に対する配慮」を重点目標とし、「体育科学習指導案の作成方法」「模擬授業の体験」に多くの時間を割いた。

授業に対する満足度、授業に得るものがあったかの評価は予想外に高く、次年度は上述の課題を検討しさらに改善を図りたい。

授業改善の課題と方策

コロナ禍で行われた対面授業であったため、教室・体育館の授業共にアクティブラーニングを用いた知的好奇心・非認知能力を高める主体的で対話的な授業形態が十分に機能しなかった。

授業後半は、学習指導要領改訂の趣旨である「非認知能力の育成」を課題とした体育授業の改善に時間を割いたが、今後は「早生まれ」の発育発達の問題点やそれに伴う指導のあり方についても課題として取り扱いたい。

その他

小学校教諭免許を取得する目的で履修する学生が多く、意欲的に授業に取り組む学生が多かった。

授業改善書

科目名	文章作成法
担当者	三浦正雄

授業の概要

レポートや論文をはじめ文章の書き方の基礎を指導する授業です。文章を書くための基礎知識から文の作成をへて、文章全体の組み立て、流れ、マナーや読み手に伝わる書き方に至るまで文章を書くための様々な知識や技術について指導しています。

短作文・長作文作成をへて、最終的には資料を参考に自分の意見も主張しながら論文を書く指導を行います。どのようなテーマであっても、読み手に伝えられるようにわかりやすく、なおかつ自分の意見を入れて書くことを目標として指導しています。

＜日本語の運用＞に続く形で授業を行いますので、履修者の受講が望ましいと思われます。

授業の問題点

まず日本語の運用に続く形で行っていますが、日本語の運用を履修した学生が少なく、同じことを再度、学習せざるを得なくなる点があります。

また、多人数の場合、添削が細部まで行き届かないことがあり、この点が問題点だと思います。本年もできるかぎり添削を行うようにはいたしましたが、多人数のこともあり、また１週おきのため、提出の機会がどうしても少なくなり、不十分な点もあったかと思います。学生も添削を励みとして、授業に熱意を持つと存じますので、今後もできるかぎり添削をしてゆきたいと存じます。

さらには、１週おきのため、肝心の論文を書く時間がなく、この辺も問題点であると存じます。

記述の回答が無いためはっきりとはわかりませんが、テーマの明示、円滑に進める配慮などもこの２点が関係しているのではないかと存じます。

学生の授業満足度

学生の満足度を向上させるためにも、１週おきの授業という制約のもとに、①様々な学科の学生のニーズにどのように対応してゆくか、②前項に記しましたように履修人数が多い場合の授業展開、指導過程、添削、発表方法、論文課題の出し方などを、考えてゆく必要を感じております。

このたび感染症の流行にともないコメント用紙を活用できなかった点も、逐次に学生のニーズに応えることの難しさにつながった感があります。

授業改善の課題と方策

前項に記しましたように、①様々な学科の学生のニーズにどのように対応してゆくか、②履修人数が多い場合の授業展開、指導過程、添削、発表方法、論文課題の出し方などを毎年、考えてゆく必要を感じております。

できるかぎり学生のニーズを吸収し、学科を越えた共通項を指導し、また、学生間の相互添削等を取り入れながら、最終的に教員が添削指導できるような工夫をしてゆきたいと存じます。

その他

全学共通科目であるだけではなく、教職課程・保育士養成課程の選択必修科目ですので、ある程度、子ども発達学科に合わせた内容を入れざるを得ませんが、他学科の学生も履修しているため、幅を持たせる必要があり、この点に難しさがあります。

また、添削指導を行う必要がある科目であるため、人数が多いときの対処が難しい科目であります。

授業改善書

科目名	保育教材研究（絵画・造形）
担当者	森本昭宏

授業の概要

本講義では造形活動の指導・実践に必要な材料・用具の取り扱いについて理解するとともに、造形の基礎技能の習得を図る。また、造形活動で用いられる基本的用具（クレヨン・ポスターカラー・粘土等）の扱い方と、製作の材料を活かした多様な表現、安全指導などについて学ぶ。幼・保・小学校の連続性を視野に入れた絵画・造形の発達段階について理解を深める。

子どもの柔軟な感性に対応していくためには、様々な素材に親しみ、豊かな造形体験が必要であり、応用力のある指導者を目指していく。

授業の問題点

対面とオンラインの交互の授業ということもあり、直接の実技指導が難しい状況であった。基本的なシラバス計画を変更することなく、新聞紙製作・吹き絵・紙版画・パネルシアター等の題材を行うことができた。影絵のグループ発表は練習する時間が図工室で取れない状況であったが、とても息の合った発表ができ（自主的に準備をしていた様子）成果があった。保育・教育現場の造形表現に対応できる指導者の養成を目指し、全16 回の中で、２回の発表と５種類の課題は、コロナ禍にとって慌しい内容であったかもしれない。

計画的に時間配分を取ってきたが、学生が 1 回休むと次に会えるのが 2 週間後となる。休んだ日の課題持ち帰り指示などに苦労した。課題を補うような意識付けやメールやチームズを活用した指示などの配慮も必要であろう。課題提出までの製作時間には十分に配慮してきたが、時間がないと感じている様子も見受けられた。

学生の授業満足度

課題製作が遅れている学生は、図工室空き時間を使って例年は取り組んでいた。今年はコロナ禍ということから隔週での登校となっている。製作時間の確保と教室の有効活用を促したが、自宅に持ち帰って製作していた学生が多かった。

作品評価についてであるが、毎年テスト期間近くに数種類の作品をまとめて評価していた。今年は締切日を一部は数週間後に設定して、随時採点する方式を取った。Forms を活用した課題の提出と管理がスムーズに行えた点は、学生に取っても分かりやすかった様である。

授業改善の課題と方策

幼児の製作のつまずきや造形指導のポイントなど、学生への実技指導の中で説明を加えるべき箇所が多くある。隔週授業が続く中では、オンラインの活用（詳しい解説など）が今後大事であると考えている。

例年より製作時間の確保に努めた。製作への理解度を深めるために、机間巡視の際に学生の質問を積極的に受け付け、細かい説明を加えた。製作の進捗に差が出ないよう様々な声掛けをした。時間内に終わらない作品は持ち帰る指導以外（隔週授業のため）良い方法が見つけられなかった。早い段階から作品を溜めないように促した。欠席した学生も想定して、オンライン（チームズ）を使った分かりやすい解説と資料提示を並行して準備する必要がある。対面授業と並行して解かりやすい指導を心掛けたい。

その他

授業改善書

科目名	幼児体育Ⅰ
担当者	坂田知子

授業の概要

この講座では、幼稚園教諭・保育士として知っていてもらいたい「子どもの運動あそび」についての知識・技能を習得し、子どもに必要とされる運動あそびを多く提示できる能力を身につけることを目的とした授業を行いました。
なお、本授業は、保育士、幼稚園教諭の資格・免許取得を目指す全ての１年生が履修しました。

授業の問題点

「授業への学習態度」のうち、「質問や発言をしましたか」の項目（3.59～3.70 ポイント）および「ノートを取りましたか」の項目（3.52～4.00）において、やや評価が低い結果となっています。

学生の授業満足度

学生の満足度は、4.70～4.91 であり、全体的に高かったと感じています。引き続き、学生が受講して良かったと思えるような授業になるよう努力していきたいです。

授業改善の課題と方策

学習態度に関する項目、具体的には質問や発言についてのポイントがやや低い傾向にありました。
この授業は、１年生対象としており、授業担当者が提案したゲームを学生が実践する方法により、様々な子どもの運動遊びを学んでいきます。学生の自主的な学びを促すような授業展開ができれば理想的であると思われますが、受講対象学年や実技を中心とした授業の特性、学生の実態を考慮すると実現することは困難であると感じています。しかし、機会を見つけながら、質問や発言を促し、自ら学習を深めていけるような指導を心がけていきたいと思います。

その他

授業改善書

科目名	ジェンダー学
担当者	杉浦　浩美

授業の概要

今期は、教室授業と遠隔授業の併用となった。取り上げるテーマについて教室授業で詳しく講ずると同時に、翌週の遠隔授業で関連する課題を出し、調べ学習に取り組んでもらった。遠隔授業の課題は毎回、かなりの工夫をした。ジェンダーに関する映像素材はオンライン上で公開されている絵本やニュース映像、ドキュメントなどをフルに活用し、関連する論文・資料等もできる限り紹介した。さらに社会事象に関するキイワードを提示し、その内容を調べてもらう作業を毎回課したが、それらの作業を通して、ジェンダー問題が社会と直結していることを実感し、学びを深めたという学生が多かった。

授業の問題点

「授業内容」「授業方法」「授業満足度」について 3 限、4 限ともすべて 4.5 ポイン前後であり（4 限の授業満足度 4.77 など)、概ね高い評価を得ている。特に問題点はないと考えている。教室授業と遠隔授業の併用ということで、いつもと授業形式は変わったが、例年と変わらない高評価を得られたことはよかったと考えている。

授業改善の課題･方策

本授業では、課題の提出期間を 5 日間の設定にしていた。自由記述欄に「提出期間が短い」と書いていた学生がいたが、これについてはむしろ、学生の方に自覚を促す指導が必要だと考えている。

その他

授業改善書

科目名	子どもの歌と伴奏法Ⅱ
担当者	寺田　佐山　舘岡　田中　若宮　渡邉

授業の概要

保育現場で歌われる子どもの歌について、ハ長調以外の調のコード伴奏による弾き歌いを指導する。クラスを前半、後半に分け、専任による一斉授業と講師によるグループごとの個人レッスンを 45 分ずつ交代で行う。個人レッスン課題は学生のレベルに合わせてテキストから 5 曲以上弾き歌いできるよう指導する。

授業の問題点

ピアノ初心者の指導に時間がかかるため、講義進度の設定が難しい。

学生の授業満足度

2 クラスとも 4.4～4.6 の評価であり、良好といえる。

授業改善の課題と方策

経験者と初心者に分けたほうがよいという意見もあり、経験者の満足度も高められるよう、レベル別の課題曲の調整等工夫する。

その他

授業改善書

科目名	教育原理
担当者	吉野剛弘

授業の概要

教育の意義、思想及び歴史を講じる科目として、それぞれの項目について解説する純然たる講義形式で授業を進めた。
基本的な項目についての知識の定着を図るため、定期試験のほかに小テストを 2 回実施した。これは概して試験というものに慣れていない履修者のレディネスを考慮したとともに、4 年次に受験することになるであろう各種採用試験への準備も兼ねてのことである。

授業の問題点

昨年度と比べて、数値に大きな変わりはない。全体的に 4 点以上のものがほとんどであり、特段の問題点はない。ただ、今年度はオンラインと対面のハイブリッド形式だったため、単純比較はできない。
今年度は欠席率が高い（試験の受験率も昨年より低かった）ため、この回答で示されている数値は、比較的真面目に授業を聞いている学生によるものだろう。そう考えると、数値は下降傾向とも取れるのだが、比較のしようがないため何とも言い難い。

学生の授業満足度

授業満足度についてもおおむね昨年並みである。
金曜午後の開講だった昨年度から水曜午前に移っていることを考えれば、おおむね問題ないとみてよいものと考える。

授業改善の課題と方策

各種採用試験で問われる水準は、2020 年度にコロナ禍の中で授業を受けたこととは関係しないため、昨年度と同水準の授業内容となるように努めたが、来年度以降もハイブリッド形式が続く可能性があることを考えれば、授業資料の改善は必要だろうと考えている。
知識集約型の授業としている関係上、成績不振者が一定数出てしまう点は、これまでと変わりはない。卒業必修科目であることから、そのような学生への対応は考える必要があるだろう。ただし、各種免許の必修科目である以上、レベルを下げないことが前提である。

その他

特になし。

授業改善書

科目名	家族心理学
担当者	高橋誠

授業の概要

本授業では、家族をどうとらえるか、これまでの研究知見による見方を学び、家族心理学への理解を進めた。また、家族がどのように生まれ、育ち、変遷していくのか、さらに各段階にはどのような臨床的問題が生じるのかという家族ライフサイクルとしての視点からも理解を深め、支援のあり方についても学ぶことを目的とした。

授業の問題点

予習復習や質問したかという項目が低い。ただし毎回レジュメを配布しているため、ノートはレジュメに行っている可能性もある。予習は不要だが、復習を行っていない学生が見られる。

学生の授業満足度

授業満足度が非常に低かったため、満足度を高めるために家族心理や家族療法に関する体験談を盛り込んだ授業を今後も行いたい。

その他、授業の感想や要望は毎回ペーパーに記入してもらい、次回授業の冒頭で記入内容についてコメントを行ってきた。学生の意見を踏まえた授業を今後も継続する。

授業改善の課題と方策

学生からの自由な発言を作る雰囲気作りができるように、小グループのディスカッションや発言を促進するためのワークの導入など、改善を行いたい。予習復習に関して、家族の中で生じている様々な心理学的現象に関して、授業内で扱うことはあったが、それを宿題として課したことはなかった。今後は、家族内で生じている諸現象について調べてもらうなど、予習復習できる課題を提示するように努めたい。

その他

特になし。

授業改善書

科目名	初等教科教育法（社会）
担当者	堀田　諭

授業の概要

本講義では、様々な社会科授業観について理論的に検討しながら自己の社会科授業観を構成し、社会科学習指導案の作成及び模擬授業を通して社会科教師の実践的な資質を養うことを目的としている。学習指導要領ありきで語られがちであった内容やその取扱いに関して、教師の授業観や主体性を基盤としてそれらをより豊かで多様なものにしていくための作業を中心に行った。

授業の問題点

学生の特性に合わせて一部変更したものの、授業全体の到達目標に即した形で実施した。学生のニーズに合わせて、作業中心でその中で内容がわかるように変更・構成したが、おそらく学生がこれまで体験していない教育方法であったためか、ポイントが下がっている。また、内容教科として情報量がどうしても多く見えてしまったことも評価に影響したようである。

学生の授業満足度

全般的に高い満足度ではなかったように思われる。世相がら学生の関心に基づく学外調査を促すことができなかったことも大きく影響している。学生の特性を踏まえて、作業中心に転換したため、学生の質問にその都度応えていたことは比較的高い評価を得ている。

授業改善の課題と方策

シラバスとは完全には一致していないが、大きな方向性は変わっていない。しかしながら、一部の学生とは共有できていたが、授業者の意図と学生の教育・学習観とのすり合わせが十分できなかった結果だと受け止め、授業内でのわかりやすい説明に努めたい。

内容の量に関しては、一回ごとにかなり焦点化し、思考の方法を実際に体験することで、徐々に大量の情報を処理することができていた。

授業実践・協議会に関しては、一部の学生にはその意図と効果が伝わっていたが、少ない時間で授業の問いや内容、活動を他者と共有し、仲間の改善点を見出し、さらによりよい授業を探求していく構えや態度を涵養していきたい。

その他

実習との兼ね合いも考え、実践・活動の中で原理的・抜本的な変更に努めたい。

授業改善書

科目名	社会科・地理歴史科教育法Ⅱ
担当者	堀田　諭

授業の概要

本講義では、教育法Ⅰにおける中学校社会科及び高等学校地理歴史科に関する理論的・実践的な課題を踏まえて、それらの教科・科目を実践するための社会科教師としての資質を養うことを目的としている。具体的には、教育法Ⅰの理論的・実践的な課題を振り返るとともに、中高社会科教師と教科書の関係性、教材研究や生徒にとっての「身近さ」、学習指導要領と授業づくり・学習評価の関係について新学習指導要領や学術的な知見をもとに検討した。また、実際に学習指導案を作成し、模擬授業実践・授業検討会を通して、指導計画と実際の授業の違いについて体感し、また授業改善への手がかりやアイディアについて議論した。以上を通して、自身の社会科教育観の変容や成長を促進した。

授業の問題点

学生の特性に合わせて一部変更したものの、授業全体の到達目標に即した形で実施した。おそらく学生がこれまで体験していない教育方法であったためか、ややポイントが下がっている。

学生の授業満足度

おおむね満足しているとの結果が出ている。引き続き努力したい。

授業改善の課題と方策

シラバスとは完全には一致していないが、大きな方向性は変わっていない。変更に際して、その都度説明しているので、わかりやすい授業を心がけたい。

その他

特になし。

授業改善書

科目名	社会科・公民科教育法Ⅱ
担当者	堀田　諭

授業の概要

本講義では、教育法Ⅰにおける中学校社会科及び高等学校公民科に関する理論的・実践的な課題を踏まえて、それらの教科・科目を実践するための社会科教師としての資質を養うことを目的としている。具体的には、社会科・公民教育をめぐる教材研究、授業づくりの諸問題について講義し、自らの社会科・公民教育の授業観をもとに学習指導案を作成した。それを踏まえて、実際に授業の実践とその検討を行った。授業実践を通して、計画と実際の授業との違いについて体感し、他者との議論で改善点を見出すことを目的とした。

授業の問題点

学生の特性に合わせて一部変更したものの、授業全体の到達目標に即した形で実施した。内容の量に関してややポイントが下がっているが、学生のニーズに合わせてむしろ焦点化している。

学生の授業満足度

おおむね満足しているとの結果が出ている。引き続き努力したい。

授業改善の課題と方策

内容面の問題に対して、学生のニーズに合わせながらうまくコントロールしていきたい。とりわけ社会科教師として重要である自身の教育観・授業観について省察することに重点を置きながらカリキュラムを調整していきたい。

その他

特になし。

専任教員

経済経営学部　経済経営学科

授業改善書

科目名	国際会計論
担当者	李　相和

授業の概要

本講義は、国際理解教育の一環として、会計基準の国際的比較研究の成果を総合し、国際会計の最終的目標（会計基準の国際統合）の実現に向けての努力の歴史、現状および将来の課題を学ぶものである。

授業の問題点

受講生の授業に対する関心・意欲がやや弱かった。授業内容について、板書などは改善すべき点は残っている。基礎的な会計知識が足りない学生には授業内容が難しく感じたと思う。

学生の授業満足度

課題レポートの提出を課したことにより、全般的には、期待した基礎レベルには達していて合格(最低合格水準)に達し、ほとんどの学生がここまで到達することができた。しかしながら、一部では、基本的に期待されるレベルを超え、高い独立性、創造性を示すことができる者や、課題提出が低調な者は期待した基礎レベルに達していないことも考えられる。

授業改善の課題と方策

授業の満足度を高めるために、また積極性を持たせるために、日本企業の IFRS 適用の事例をより多く取り上げるなど、会計基礎に関する実例や話題を取り上げ、わかりやすく説明できるように工夫したい。

その他

授業改善書

科目名	財務諸表論Ⅱ
担当者	李　相和

授業の概要

本講義は，財務諸表論Ⅰの内容をふまえ、企業会計の理論を学ぶものである。授業では、会計諸規則や会計の諸概念を体系的に説明するとともに、主な会計処理問題を会計制度に織り込みながら解説するものである。

特に、キャッシュフロー計算書の作成と連結会計、時価主義会計、減損会計など企業社会が直面している会計処理問題を具体的に解説する。

授業の問題点

・授業中に携帯を弄るものが多少いることが気になっている。
・受講者が必ずしも意欲的であるとはいえない。

学生の授業満足度

提出された課題レポートを分析した結果、授業理解度は期待した基礎レベルには達していて合格(最低合格水準)に達し、ほとんどの学生がここまで到達することができた。しかしながら、一部では、基本的に期待されるレベルを超え、高い独立性、創造性を示すことができる者や、期待した基礎レベルに達していない者もいる。

授業改善の課題と方策

授業内容が難しくならないように、会計の基礎を固めながら、要点解説や新聞などの資料を用いて、わかりやすく説明できるように工夫したい。また、丁寧に話せるように努力したい。

大学生としての自尊心を尊重するが、常識的な授業態度を守って欲しい。

その他

授業改善書

科目名	ヘルスケアサービス・マネジメント
担当者	一戸　真子

授業の概要

教科書を用いながら、ヘルスケアサービス・マネジメントにおいて、ヒト、モノ、カネ、ジョウホウの各視点から重要な要素について、最新の保健・医療・福祉に関するトピックを踏まえ、できるだけ分かりやすく授業を行った。

授業の問題点

A,B グループに分けての授業展開となったため、一部の真面目な学生が熱心に授業に参加してくれる反面、間隔を開けての講義のため、意欲的でない学生の参加状況が悪い傾向が見られた。

学生の授業満足度

満足度結果についても、一部真面目な学生群と積極的ではない学生群とに２分されている傾向が見受けられた。

授業改善の課題と方策

あまり熱心ではない学生がもっと面白いと惹きつけられるような講義展開の工夫が求められる。一方で毎回の講義時に実施しているリアクションペーパーの内容からは、よりヘルスケアの分野に関心を強くもっている学生も見受けられる。これらの学生をより伸ばしていく工夫も同時に必要であると思われる。

その他

授業改善書

科目名	教養演習Ⅱ
担当者	一戸　真子

授業の概要

テキストを用い、人間の幸福と経済の関係について、現在深刻な課題となっている格差社会も含め、人間社会を俯瞰出来る能力を身につけられるよう、またコミュニケーション能力の向上を目指し、プレゼンテーションの機会を提供しながら、成長できるよう授業を展開した。

授業の問題点

受講者が２名と大変少人数であったため、１名が欠席すると個別指導となり、まだ１年次のため、上手くコミュニケーションが取れない場面があった。

学生の授業満足度

アンケート期間に学生が欠席しており、１名体制となってしまったため、実施できなかった。

授業改善の課題と方策

１年次におけるごく少数のゼミナールの進め方についての更なる工夫が必要である。現在大学院に進学している学生についても学部時代のゼミナールでは担当時にはごく少人数であったことを総合的に検討すると、受講学生の能力に合わせたオーダーメード教育の在り方に関する教育方法のさらなる工夫が必要と思われる。

その他

授業改善書

科目名	基礎演習
担当者	一戸　真子

授業の概要

テキストを用いながら、物事を地球レベルで考え、捉えられるよう、政治・経済・社会・健康・医療・各産業・環境・教育等それぞれの分野において指導を行った。コミュニケーションスキルやプレゼンテーションスキルの醸成に向け、パワーポイント資料の作成や個別テーマに関する発表を行い、個々の学生の能力向上に向け指導を行った。

授業の問題点

ややハードな内容を課したため、しばしば課題ができないと休みがちになる学生にも学問の楽しさや意義をできるだけ上手く伝えられるよう工夫したが、難しい面も多々あった。

学生の授業満足度

学生の満足度結果を見る限り、大変満足しているようで安堵した。一部の大変熱心な学生が皆を引っ張り、向上していったと思われる。

授業改善の課題と方策

新鮮な内容とゼミナール全体の雰囲気は授業の進め方に影響を及ぼすため、今後はゼミ長をはじめとする学生を牽引する人材を育てる事も重要と思われるので、取り組んでいきたい。

その他

授業改善書

科目名	専門演習
担当者	一戸　真子

授業の概要

健康関連テーマに関心のある学生が参加しており、３年次から卒論に向けた個別テーマを持ち、全体と個別指導の双方を展開して進めた。また、埼玉高速鉄道との産学連携について、歴史、観光、健康のキーワードのもと、実社会において具体的なインベーションのための活動に参加し、種々のスキルの習得を目指した。

授業の問題点

受講生が２０名と多いこともあり、内容的に大変充実している一方、とてもハードなゼミ内容のため、ついていける学生と、できるだけ何も学びたくない学生との２群に別れてしまったことが難しい点である。

学生の授業満足度

満足度結果を見ても、やや層が２分している傾向が見られた。参加率も２層に分かれており、３年次から真面目な受講習慣を習得するのはやや遅い感があり、１，２年次にける教育が重要であると思われる。

授業改善の課題と方策

真面目に取り組む学生達にとって、よりやりがいや達成感をもたせられるようさらなる内容の工夫と充実が求められる。一方で、すでに成人しており、なかなか真剣に取り組まない学生への動機づけのための指導の工夫が必要である。

その他

授業改善書

科目名	卒業論文
担当者	一戸　真子

授業の概要

個別テーマに基づく卒論指導を行う。

授業の問題点

今年度の自身の担当する４年生の学力水準が例年よりも低く、かつ今年度はコロナ禍ということもあり、４年生は自らの就職活動と卒論の準備を上手く両立することができず、指導も大変であった。個々の学生が関心のある卒論テーマをなかなか絞り込めない状況が続いた。

学生の授業満足度

授業アンケート日においては出席ができていない状況であり、かつ１名のみの出席日もあり、実施できなかった。

授業改善の課題と方策

ここ数年で一番難しい指導となった。３年次においてもう少し厳しい指導体制をとるべきであったことが反省点である。

その他

授業改善書

科目名	経済学入門
担当者	伊藤　孝

授業の概要

経済学は非常に大きな学問体系をなしていますが，この講義では，経済活動の担い手である企業を対象とした経済学，つまり企業経済学について解説しました。その際，グローバル時代の今日における日本企業の活動を理解するために，日本企業の海外進出，外国での活動が主たる講義の内容を構成しました。

授業の問題点

今年度は，クラスをA，Bに区分して行い，本来15回の講義を，それぞれ7.5回で行いました。そのため，本来解説すべき部分（当初予定した「日本的生産方式」，「2010年以降の中国での日本企業の活動」など）を省略しました。これはやむを得ないことでした。ただ，経済学の誕生（アダム・スミスの『諸国民の富』）については，いますこし，解説を付け加える必要があったかもしれません。

学生の授業満足度

この講義では，学生たちに，講義内容・要点をしっかりメモをするよう奨励し，ほとんどの学生は，これによく応えていました。私語も全くなく，いつも熱心に解説を聞いてくれたと感じています。「コロナ禍」で対面授業が制約されている現状の下，貴重な講義時間を大切にしたいとの学生たちの気持ちが表れているように思えました。

但し，アンケートの結果を見ると，「授業の満足度」は3.93，「授業に得るところがあったか」については4.03，という評定で低く，私は少々驚いています。熱心に聞いてはいても，理解が，相当程度追いついていなかったかもしれません。出来るだけ平易に解説するよう努めましたが，用いている言葉のむつかしさ，体系性を重視した解説が，学生たちに大きな違和感を与えたかもしれません。この点は，反省させられます。

授業改善の課題と方策

第1に，さらに一段の分かりやすい解説に努めることが必要と感じています。第2に，パワーポイント，レジュメなどの改善です。学生には，できるだけメモ，ノートを多く取るように指導していますが，今年度はやや書き取る分量が多かったかもしれません。この点も，工夫します。第3に，学生の質問・意見に答える時間をより多く確保することが必要です。

その他

授業改善書

科目名	インターンシップⅠ
担当者	大塚浩記・大江清一

授業の概要

１，２年次または 3 年次にインターンシップを体験しようとする学生のための授業である。授業でインターンシップ実習そのものを体験するのではないが，インターンシップ体験者である先輩や内定者である先輩，また企業経営に携わる実務家（企業人）とのコミュニケーションを通じ，就職に対する意識を高めることを目的としている。

授業の問題点

昨年度までは何らかの形で実務家（企業人）と交流する機会を設けていたが，コロナ禍における対応として，本年度は実務経験者教員としての大江先生の授業のみの内容となった。今後も，積極的なインターンシップ体験の機会は望めないため，「就職する」「仕事に就く」ことに関する意識づけの方法に一層の工夫の必要性を感じる。

また，履修人数を制限しなかったため，例年より出席率が落ちたように感じる。また，一般企業への就職を必ずしも目的としていない学生の履修もみられた。

学生の授業満足度

他の講義形式の授業よりは，グループワークが多い内容としているためか，想定している程度の満足度は得られていると考えられる。本アンケートへの記述はないが，授業での意見記入時には，もっとグループワークを増やして欲しいや，実務家（企業人）と話す機会が欲しいという意見があった。

授業改善の課題と方策

課題は 2 つあり，１つは目的意識の違う学生が受講していたこと，もう 1 つは実務家（企業人）との対話がなかったことであろう。前者は第 1 回目の授業時に授業の目的やこの授業が他の授業と異なる趣旨があることを一層明確にガイダンスする必要がある。後者は以前のような 1 対 1 や 1 対数名といった規模では実施できないかもしれないが，ゲストスピーカーの招聘を検討する。現在のところ，　卒業生が何人か協力してくれそうなので，次年度はその卒業生に協力を求めようと考えている。

その他

特になし。

授業改善書

科目名	経済学
担当者	奥山忠信

授業の概要

前期の経済学総論を踏まえて、経済学の理論と現在の問題をやや立ち入って授業を行った。対面授業と遠隔授業（課題レポート）を交互に行う形を取った。実際には授業内容は、これまでのものに比べ大幅に削減せざるを得なかった。課題レポートは、対面授業の内容を確認するものとした。現在の日本の経済政策は、国が国債を発行して、貨幣量を増やし、景気を下支えするものであり、アベノミクスの延長である。したがって、授業は貨幣の本質論、貨幣の機能論、アベノミクスの金融政策を中心に行った。テーマとしては理論と現実問題に一貫性を持たせた。

授業の問題点

対面授業は、隔週になったため、授業内容が定着したとは考えていない。課題レポートは、授業内容とは関係のないいわゆるコピペと思われるものが多かった。教える方も、試行錯誤であり、授業を受ける学生も戸惑いが隠せないようであった。学生の気質が理解できないうちに終わってしまった、というのが率直な感想である。

また、授業内容は、難しすぎたという反省はしている。

学生の授業満足度

一年生は、入学後のガイダンスがなく、大学になじめないままに秋期を迎えていた。内容的には難しいものであったが、貨幣数量説に対する一定の理解は得たようであった。また、利潤率の傾向的低下の法則を最後の授業で行ったが、学生は熱心に聞いていたのが印象的であった。学生アンケートも、隔週の対面授業のため、担当教員にはとん慣れないうちにとられたアンケートであり、満足度を確認するには至らなかった。

授業改善の課題と方策

コロナの対応が次年度も継続するようであれば、教員は、授業の仕方について抜本的に考え直し、対策を練る必要がある。

授業内容の縮小問題、教育効果の確認方法など、実質的な時間が大幅に減っているので、工夫が必要である。

その他

授業改善書

科目名	中小企業論
担当者	加藤秀雄

授業の概要

先行き不透明な経済社会にあって、機動性と小回り性、そして先進性と革新性を備えている中小企業に、次代の日本経済の発展を切り開く役割が期待されている。しかし、他方では多くの中小企業が時代の困難の中で疲弊するなど、次代の発展を展望できずにいる。そうした期待と困難の中で揺れ動きながら変化し続けている中小企業の発展課題などを、事例等を含めて理解しやすく講義した。

授業の問題点

今年度は、コロナ禍にあり、対面授業が半分ということもあり、授業内容を受講生の反応により、柔軟に変えるという方法が採用できなかった。昨今では、オンライン授業の良さを指摘する声も少なくないが、対面授業の良さは今後とも変わらないと考えている。

学生の授業満足度

今回の学生による授業評価の結果は、従来を大きく超える高い評価を得ることになったが、その理由が定かではない。オンラインと対面の二つであったことなのか、あるいは本年度をもって退職することに対しての温かい評価であったかは、私にはわからない。

授業改善の課題と方策

今年度や過去を含めての授業に関しての反省は多々あるが、来年度以降は授業する機会もなく、それを記すことは控えたい。

その他

授業改善書

科目名	アジア経営論
担当者	張　英莉

授業の概要

この講義では国際経営、アジア経営に関する初歩的な理論と日本企業のアジア進出の実践例を解説する。講義内容は、①日本企業の国際化と対外投資の歴史的背景、②アジア市場の特徴、カントリー・リスク、およびそれに対応する進出企業の経営戦略（特にマーケティング戦略、人材戦略)、③異文化経営における理論と実践例、の三つの部分によって構成されている。必要に応じて以上の内容に関連する映像資料を併用する。

授業の問題点

授業内容、授業方法に関する回答はすべて 4 ポイント以上だったので、特に問題ないと考えている。来期も履修生にあわせて微調整をしながら、このまま続けていきたい。

しかし、「授業への学習態度」に関しては、例えば「質問や発言をしましたか」との質問に対して、平均ポイントは 3.37 と低く、改善する余地がある。

学生の授業満足度

授業全体に対する学生の満足度の評価は、「授業の内容はあなたにとって得るものがあったか」、「全体的に振り返って、授業に満足できたか」の二つの質問に反映されると思われるが、それぞれは 4.3、4.27 だったので、おおむね満足してもらえたのではないかと考える。

授業改善の課題と方策

上述の問題を解決するために、次のような改善策を取り入れたい。

授業中に質問や発言をしない受講生が多いということは、質問・発言しやすい雰囲気、環境が整っていないことが考えられる。今後は双方向教育を推進するためにも、受講生に対して適切な方法とタイミングで問いを投げかけ、質問・発言の機会を作りたいと考える。

その他

授業改善書

科目名	日本経済論
担当者	花崎 正晴

授業の概要

日本経済における高度成長期の特徴、バブル崩壊と失われた 20 年、労働市場の特徴と所得格差、中小企業およびベンチャー企業の役割、環境・エネルギー問題、財政の持続可能性、地域経済と政府の役割、人口減少と社会保障などについて、最新のデータや統計などを提示しながら講義した。

授業の問題点

グループ分け授業に該当したため、各グループともに対面授業が 7 回、Teams を利用した課題提出方式によるオンライン授業が 6 回、そして期末試験が 1 回という構成になった。オンライン授業である程度の補足はしたものの、対面授業では速いスピードで講義を進めざるを得なかったため、予習、復習が不足した学生には、理解するのが難しかった面があるかもしれない。

学生の授業満足度

学生アンケート結果によると、授業満足度は 4.2 程度の水準であった。来期に向けて授業内容を改善することによって、授業満足度を引き上げる努力が必要であると思われる。

授業改善の課題と方策

今回は、対面授業の回数が少なかったため、時間をかけて丁寧に説明することや前回の復習をすることが、十分にはできなかった。今後は、重要な点をより丁寧に説明するとともに、前回講義における重要な点を復習するなど、学生の理解を深めるための取り組みを強化していきたい。

その他

授業改善書

科目名	経営学
担当者	文智彦

授業の概要

経営学とは何を学ぶのかを中心テーマにしつつ、経営戦略論や経営組織論、マーケティング論、人的資源管理論、などの専門科目の基礎を講義している。

授業の問題点

大きな問題はないが、「質問や発言をしましたか」の項目の点数が 2.65 と低い数字になっている。
大人数の授業であること、コロナ禍で学生に近い距離で講義できなかったこと、などが原因であると考える。

学生の授業満足度

学生の授業満足度は、1.の項目の点数が 4.27、2.の項目は 4.25、と比較的高い点数である。

授業改善の課題と方策

「質問や発言をしましたか」の項目の点数が 2.65 と低い数字になっているのは、
大人数の授業であること、コロナ禍で学生の近い距離で講義できなかったこと、などが原因であると考えるので、学生の近くで質問や発言を促すなど、個人によってできることは今後改善したい。

その他

授業改善書

科目名	租税法Ⅱ
担当者	望月文夫

授業の概要

租税法Ⅱにおいては、所得税法及び相続税法の基本を講義した。このほか、法律を理解する一助として、新型コロナ感染症に適用されている新型インフルエンザ特別対策措置法の一部についても紹介した。

授業では、法の公平性について理解してもらうことに重点を置いた。

授業の問題点

租税法Ⅱの範囲が所得税法と相続税法であり、現実に所得税を納付した経験のない学生には現実味がないように感じられたことがある。ただ、この点については経済学や経営学でも同じ問題があるので、仕方ないと考えている。

なお、有名人の租税回避行為に関する報道資料があり、これについて解説した際には通常の講義に比してよく聞いてくれたと感じている。

学生の授業満足度

アンケート結果を見る限り、授業内容についての満足度は高かったと言える。特に、授業内容に関心や興味を持ったと回答した学生がほとんどであった。ただし、予習や復習をしている学生が少なく、学生の自発的学修を促すという点では不十分であったかもしれない。

授業改善の課題と方策

今後、学生に予習と復習をしてもらうことが課題となったと考えている。これについては、復習テストなどを実施することが考えられる。

その他

授業改善書

科目名	中級簿記論
担当者	吉田雄司

授業の概要

授業では、春期「初級簿記」で学習した内容をもとに、さらに実践的な簿記を行いました。到達目標は、合計残高試算表と精算表の作成ができることです。11 月 15 日に「日商簿記検定 3 級試験」があったためその進度に沿った学習を行った。今回の検定試験では、受講者のうち 6 名が日商簿記 3 級に合格した。2 月の試験でも合格者は出ると思う。

授業の問題点

質問などで 2.5 ポイントと他のアンケート項目より低い。

学生の授業満足度

授業の満足度は、4.3～4.5 ポイントであった。検定合格者も出たので、次回もこのような授業内容を継続していきたい。

授業改善の課題と方策

学生の授業中の質問などが少ない。これはコロナ対策のため直接対面で話す機会が減少したことも原因にある。ただ、質問などは授業の後にも対応していたが、次回からはできるだけ質問し易い手法を考えたい。例えば、出席カードに記載してもらうなどである。

その他

日商簿記 3 級試験の学習時間は、約 200 時間必要です。過去問題集を最低 3 回は解答してください。在学中に日商簿記 1 級合格も可能です。ぜひ、挑戦してください。ポストコロナの時代に資格の取得はとても重要な就活指標になるかもしれません。

授業改善書

科目名	経営組織論
担当者	大江 清一

授業の概要

本講義では経営組織論の基礎を修得する。経営組織論を理解するためには、経営学総論、経営管理論を履修しておくことが望ましい。経営組織論は、いかなる組織に所属する場合でも応用可能な理論である。

経営組織に関する研究は、経営学のみならず経済学、社会学等多くの分野に近接する学問領域であるので、多角的な視野から講義のテーマにアプローチする。

学んだ知識をもとに日本経済新聞や経営関連誌を自主的に読み進めることは、経営組織論を効果的に修得する秘訣であり、講師は強くこれを奨励する。

授業の問題点

(1)「授業アンケート集計結果」を踏まえた授業の問題点は、講義内容を時間をかけて実務経験を織り交ぜて充実させることである。
(2)従来の講義時間を割り振りは、全講義時間 90 分を、前回講義の復習:20 分、今回講義:65 分としていた。しかし、Teams に事前に講義資料を掲示することにより学生が予習しやすくなったので、90 分をすべて当日のテーマに絞って説明する。

学生の授業満足度

(1)学生の授業満足度は「4.32」と前年度の「4.53」と比較すると劣化した。この点については上記の「授業の問題点」で述べた内容を実践することにより改善を図る。
(2)講義への集中度は昨年度より改善した。引き続き学生が集中できる講義内容にする。
(3)上記 2 点を反省し、授業外学習や講義中の発言等を積極的に求めていきたい。

授業改善の課題と方策

【講義内容のレベル】

(1)経営組織論は基礎からしっかり学ぶことが重要であり、社会人となった場合に最も有用な内容を含む分野であると考える。
(2)レジメには図表を取り入れてわかりやすさを重視た工夫を凝らしてはいるが、さらにアイキャッチを強化する等、教材のプレゼンテーションに継続して改善を加える。
(3)実務経験に根差した経営組織上の問題点等を多く取り入れるにあたっては付属資料を示してリアリティを出す工夫を行う。学生の反応は良好であったので、レジメの予習、復習だけでなく、関連する経営に関する時事的な興味を抱かせることには効果があったと考える。

その他

(1)評定方法に関する受講者のコメントはなかったが、実務経験を交えた講義に対しては集中度が高い傾向がある。
(2)「授業の内容はあなたにとって得るところのあるものでしたか」という質問に対する評価点は「4.53」と高位であった。引き続き学生にとって有益な講義を心がける。

非常勤講師

人間学部

授業改善書

科目名	英語Ⅱ
担当者	青木雅幸

授業の概要

春期の「英語 I」に引き続き、子どもの発達段階に応じた様々なテーマを踏まえた英語会話表現を学び、必要とされる英語語彙を身につける。なお且つ、基本文法項目を復習しつつ、各課のまとめとして学習した内容について自分なりの英文を作成する力を育成する。これらを習得することにより実践的な教育現場で必要な身の回り物事を英語で表現できるように指導する。また、隔週の遠隔学修として各 Unit の応用として幼保英検の小模擬試験練習問題を課した。

授業の問題点

コロナ禍の最中での課題及び A/B グループ編成授業であり、学生・教員ともに今までに経験をしたことのないストレス（飛沫感染を防ぐために大きな声で発音ができない等々）を感じつつ秋期が終了した。課題及び授業を実施する際の最大の問題点は、英語についての学力差（好き嫌い）である。特に、1 時間目のグループと 2 時間目のグループのグループ間格差が大きく、その差がアンケートの結果に顕著現れている。

また、対面授業においては、Unit の復習と応用を兼ねた幼保英検の模擬問題を隔週で与えているが、対面授業の週に模擬問題の解説を含むためにどうしても進度が遅くなってしまい、予定している授業内容をカバーできていない。英語が苦手な学生の多くは、進度が遅いことについては歓迎をしているが、英語を得意としている学生にとっては不満を覚える点であり、悩ましい問題である。

学生の授業満足度

授業満足度についての回答は、1 時間目～3 時間目のクラスで大きな差がある。「授業の内容はあなたにとって得るところのあるものでしたか」の問いについての数値は、1 時間目（4.04）～2 時間目（4.38）～3 時間目（4.53）であり、「全体的に振り返って、授業に満足できましたか」については、1 時間目（3.87）～2 時間目（4.24）～3 時間目（44.58）となっており、全く同じ内容を 1 時間目から 3 時間目まで授業しているにもかかわらず大きな差がある。これはそれぞれの時間の学生の反応・態度を観察してみても明らかである。一般的に 1 時間目は学生には不人気な時間帯であることは経験的に言えるが、それぞれの時限を構成している学生の資質を明確に捉える必要があると考える。

授業改善の課題と方策

英語は最も学力差が顕著に表れる科目の一つであり、それぞれの時限の学生の構成を判断し授業展開を工夫する必要がある。苦手意識を持つ学生にとっては進度の遅い授業展開は喜ばしいことであるが、英語が得意な学生にとっては不満の種ともなる。子ども発達学科の学生にとって語学は専門外との認識が強く、英語は中心的な教科ではないとの反応が認められるが、英語教育の低年齢化・教科化が進む今日、教育現場における英語需要は高まる一方である事実を学生に周知させるなど、学生の意識を改革することも大切なことであると認識している。

その他

小学校のみならず、幼保の現場でも教育者に英語力が求められる時代となっていることを学生諸君に再認識してもらう必要があり、この点における意識改革が必要であると思われる。将来的には、小学校で正式な教科としての「英語」を学んだ学生が入学することとなるが、その頃には子ども発達学科で英語を学ぶことに対する意識も大きく変化することが期待される。

授業改善書

科目名	子ども英語
担当者	青木雅幸

授業の概要

小学校における「外国語（英語)」が教科化され、小学校教員を目指す学生にとっては英語教育法についての知識と技術は必須である。この授業では、英語教育法の基本となる項目を 250 字程度の簡潔な英文で理論を学び、小学校教師と ALT（外国語指導助手）との英会話・英語の学級日誌などのエクササイズに触れることにより現場で役立つ教室英語や単語を習得することを授業の柱としている。具体的なテーマとしては、日欧の異文化について、言語間干渉、英語と米語の異なり、非言語的コミュニケーション、EFL（外国語としての英語学習）と ESL（第 2 言語としての英語学習）等々である

授業の問題点

子ども発達学科の学生諸君の英語力には、想定以上の差があり、これが授業を展開する上で最も大きな課題と言える。しかし、「英語Ⅰ・II」を一年次に学んでいることもあり、尚且つ「子ども英語」が選択科目であることを考えると授業レベルを低くすることは難しく、この点で一部の学生の不満を持つことは想定される。

また、「子ども英語」を選択している学生には、2 年生と 3 年生が混在しており、本来学年差は英語学習の障害にはならないはずであるが、実際にはこの学年差を意識する学生が多く、授業の発表などで障害となっている。特に 3 年生は実習で欠席することが多くなり、2 年生の方が授業の理解度が深まることがあり、それを意識する学生も存在することは残念である。

学生の授業満足度

アンケートの「授業満足度」の２項目、「内容はあなたにとって得るところのあるものでしたか」・「全体的に振り返って、授業に満足できましたか」について４．５６との評価であり学生の授業満足度は高いものと判断している。一方、学習態度に関する質問項目「授業外学習(予習や復習など)をしましたか」では４．３８となっており、一見高い数値ではあるが、実際には学生の予習の割合はそれほど高いものではないと感じている。従って、授業満足度の４．５６をそのままの鵜呑みにすることはできないと思われる。

授業改善の課題と方策

出来れば、1 年時の「英語Ⅰ・II」に間を開けず２年次に「子ども英語」を履修し、3 年次の教育実習に役立てることが最も効率的で実践的であると思われる。先ず「英語Ⅰ・II」を履修している学生にはこのことを理解させたい。また、学生にはシラバス要項の「授業概要」と「予習復習」の内容について十分に納得した上で「子ども英語」を履修するように指導する必要がある。このようにして履修学生の「学力差」と「英語に対する姿勢」についての問題が解消することを期待したい。

その他

小学校高学年における英語の指導にはそれなりの英語力と指導法の基礎知識は必須である。その為に特化した科目である「子ども英語」は、将来日本の国際化を担う子どもたちを育てる小学校教諭を目指す学生にとっては最重要科目と言っても過言ではない。しかし、実際には英語が苦手な学生も多く、あまりレベルの高いことを要求すると英語嫌いを助長することとなり、この点は今後の大きな課題であると考えている。

将来的（8 年後）には、小学校で正式な教科としての「英語」を学んだ学生が入学し「子ども英語」を履修することになることとなり、その頃には子ども発達学科で英語を学ぶことに対する意識も大きく変化することが期待される。

授業改善書

科目名	韓国語Ⅱ
担当者	李芝善

授業の概要

韓国語Ⅱでは、初級の授業で習得した基礎的知識を広げ、韓国社会において必要なコミュニケーション能力の向上を目指した。韓国語という言語文化活動を通じて、異文化を経験し、韓国社会についての知識や理解を一層深めると共に、他者への理解をも試みるきっかけになることを目的とした。

授業内容は、韓国文化に触れながら、学生のレベルに合わせ韓国人と簡単な会話ができ、韓国旅行に行って使える程度の会話を中心に演習を行った。

授業の問題点

コロナ禍の影響により、授業の進度が思うように進まなかったが、各設問の評価の結果、多くの学生が満足できた授業内容であったと思われる。

学生の授業満足度

「私は 1 年の時に韓国語 1 を取っていて、1 年空いていましたが、先生がわかりやすく教えてくれるためついて行くことが出来る内容でよかったです。」
「とても楽しく学ぶことが出来ています。韓国語だけでなく、韓国の歴史を知ることが出来て嬉しいです。」、「授業で韓国語の映画や音楽を聴くことができて楽しく授業を受けることができた。また韓国語を身近で感じることができた。」、
「難しいところもあったが質問にはすぐ対応してくれたので授業を理解しやすかった。」、「会話も文法もしっかり丁寧に教えてくださって分かりやすかった。」、
「毎回授業が楽しかったです。復習もしっかり出来ました！」、
「先生のお陰で韓国映画や韓国ドラマのセリフが少し分かるようになり、より楽しく見ることが出来るようになりました。」など、学生の意見を見ると、多くの学生がリスニングや読解を含め、韓国語で簡単なコミュニケーションが取れるようになったと思われる。また、韓国文化に関する映像授業を通じて、韓国文化、さらに異文化への理解が深まったと考えられる。

授業改善の課題と方策

アンケートの結果、多くの学生が韓国語に興味を持ち、全体的に授業が理解でき、満足できたと思われる。今後も今まで通り、上記の学生による意見を重視しながら学生と協力して良い授業ができるように最善を尽くしたい。

授業の進度については、コロナが続くことを考え、毎回の授業内容を増やすことで改善できると思われる。

その他

授業改善書

科目名	フランス語Ⅱ（中級）
担当者	市橋 明典

授業の概要

前期の「フランス語Ⅰ（初級）」につづき、フランス語とその文化について学んだ。基礎文法をマスターすることで「読む・書く・聴く」の能力を養い、仏語を話せるようにした。引き続き初心者にも分かり易い、パリ観光を題材にしたビデオ教材を使い、毎回簡単な会話を練習しながら基本的な文法の説明を行なった。さらに、実践的なコミュニケーション能力を養うべく、フランス映画の映像やシャンソン、単語集を使った語彙の補完につとめた。

授業の問題点

今年度前期の「フランス語Ⅰ（初級)」の授業プログラムは新型コロナ・ウイルスの全国的な蔓延の影響で大幅に遅れ、後期の「フランス語Ⅱ（中級)」においてその遅れを取り戻す必要があった。そのため若干進行がハイペースになり、特に後期から学ぶ基礎文法の後半部分は疑問代名詞・疑問副詞・中性代名詞ｙ・部分冠詞・数量の表現・中性代名詞 en・疑問形容詞・命令形・非人称構文・指示代名詞・補語人称代名詞・代名動詞などと比較的難解な項目が多く、前期における学習よりも困難が伴った。受講者は週一回・15 回分の限られた授業時間を通して全ての学習項目を理解しなくてはならず、予習・復習・課題を多数こなし、前期の授業よりも高い集中力と努力が必要とされた。

学生の授業満足度

授業アンケートの集計結果における学生のコメント欄には、「わかりやすく教えて貰える。生徒に寄り添いながらしっかりと授業を展開してくれるため覚えやすかった。フランス語をこの先生に教えてもらって良かったと強く感じた。」や、「フランスでの体験談や日本とフランスの違いが、授業中の雑談で聞いてて面白かった。」といった意見が寄せられた。また「授業に対する学習態度」・「授業内容」・「授業の方法」の評価と「授業に対する満足度」の数字は何れも（5 点中）四捨五入で 5 点台にあることから講義に対する満足度は概ね高かったことを確認した。

授業改善の課題と方策

今年度は新型コロナ・ウイルスによる未曽有の災禍に見舞われたものの、データが示すように授業に対する学生の満足度は比較的高く、今学期の学習指導の方法からは一定の成果が得られたと判断する。しかし前期の授業におけるやむを得ない学習進度の遅れが後期の授業進度に影響したことは否めず、それによって若干進度が速まったことが学生の理解に悪影響を及ぼしたのではないかとも懸念する。

これを改善するには、今後とも受講者それぞれの理解の度合いを的確且つ確実に把握し、学生が短期間の内にそれぞれの学習項目を正しく理解できるように授業を工夫する。解説の仕方を改善し、学生にとってより一層分かり易いプレゼンテーションが行えるようにつとめる。また、課題に対する学習者の理解を深めるべく、課題レポートと授業内での指導及びアドバイスをさらに丁寧に行うように心懸ける。そして、突発的な災害状況に備え、学習プログラムを柔軟に変更できるようにしてゆく。

その他

授業改善書

科目名	心理演習
担当者	伊里　綾子

授業の概要

次に掲げる事項について，具体的な場面を想定した役割演技（ロールプレイング）を行い，事例検討をすることで，公認心理師の業務に必要な心理支援の基本的な知識および技能を習得できるよう指導する。
・心理に関する支援を要する者等とのコミュニケーション，心理検査および心理面接の実施，地域支援の実施
・心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成
・心理に関する支援を要する者等の現実生活を視野に入れたチームアプローチ
・多職種連携及び地域連携
・公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解

授業の問題点

アンケート項目の中で，比較的点数が低めであったのが，「質問や発言をしましたか」（4.4 点），「毎回の授業は適切な内容や量でしたか」（4.6 点）の 2 項目であった。この授業はロールプレイや事例検討等，学生が主体的に参加し，体験の中で学ぶことが多い内容であるが，小グループのディスカッションで発言出来ていても，クラス全体の前では積極的に発言することに難しさを感じた学生もいたように思われる。また，1 回の授業で学生の理解が追い付かず，次の授業で追加の説明をしたことが何度かあったため，1 回の内容の量を多く感じた学生もいたかもしれない。

学生の授業満足度

学生の授業満足度はおおむね高く，授業満足度についてのアンケート項目 2 つの平均得点は 4.8 点および 4.9 点であった。「学生からの質問などにきちんと対応しましたか」という項目については，回答者全員が 5 点を付けており，学生の意見を取り入れることや，質問を受け付けて，それに対応することはできていたと思われる。

授業改善の課題と方策

開講 1 年目の科目であったが，学生のつまづきやすいポイントや，ディスカッション開始前の説明の重要さ（回答案の例示を行う等）等，実施してわかることが多くあったため，2020 年度の学生の反応やリアクションペーパーの内容をもとに，授業内容の量を調整し，追加の説明を加えるようにしたい。また，すべての学生が小グループだけでなく，全体でも発言できる機会を設けるとともに，安心して発言できる環境づくりを徹底したい。

その他

演習科目であるため，学生一人一人の理解度を確認しつつ，できる限り全体の理解度に合わせて授業を進めていきたい。

授業改善書

科目名	中国語Ⅱ（中級）
担当者	王振宇

授業の概要

この授業では、中国語会話に役立つ実践的な表現を増やし、教員やクラスメートとの会話練習などを通して中国語の運用能力を身につける。中国関連の視聴覚資料を通して中国現代社会、中国文化、中国歴史などに対する理解を深める。また、中国語検定試験の受験、スピーチコンテストの参加などに関するサポートをする。

授業の問題点

今学期は新型コロナ感染症の防止策を講じており、授業中の発言や発音を控えるようにと受講生に理解を求めた。そのため、授業アンケートの「質問や発言をしましたか」の問いに対する答えが 2.71 であり、最も低い点数となっている。ウィズコロナ時代における語学の授業はいかに安全な学習環境を保ちながら発音の練習を行えるのか、これは大きな問題点であり、今後の課題としたい。

学生の授業満足度

「出席や課題提出等はしましたか」と「授業の方法や資料はわかりやすかったですか」の問いに対する答えはそれぞれ 4.68、4.47 となっている。今学期の授業はグループごとに行っていたが、「わかりやすかった」との評価がもらえて安堵した。これは受講生から課題を受け取った後に必ず確認し、返信するといったような授業の工夫と関係しているのではないかと思う。

授業改善の課題と方策

来年はコロナの感染状況がもし続く場合、教室での会話練習をいかに行うかは大きな課題になると考える。

その他

授業改善書

科目名	英語Ⅱ
担当者	大山健一

授業の概要

１年次必修科目の秋期（後期）科目であった。全１５回の期間、対面授業であった。指定テキストに準拠し、文法・語法の確認・解説、英語会話の聞き取り問題、読解問題などを取り上げた。評価方法としては、日々の課題提出状況、冬季休暇課題の正答数、授業態度などから総合的に判断した。

授業の問題点

前期「英語Ⅰ」と同様の問題点として、新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策として、ペア・グループ活動にある程度の制限が必要となってしまった。文字（読む・書く）に関する活動は可能であるが、音声（聞く・話す）に関する活動は感染リスクの可能性を鑑み、聞く活動のみをメインとしつつ、話す活動として、一対一の単語の発音指導を実施した。その結果、「質問や発言」が 3.71 というアンケート結果になり、前期よりは向上が見られた。しかしながら、4 を超えていないことから、単語の発音指導以上のものが求められていたと考えられる。

学生の授業満足度

前期「英語Ⅰ」と同様に、アンケート結果から学生の授業満足度は 4 を超えているため、高い結果になったと考えられる。授業内容と全体的な振り返りがアンケート項目になっていたが、具体的に何であったのかが判明できないため、項目の細分化が必要かと思われた。今期に関しては、自由記述の回答から、「常に学生へのコミュニケーションを取る姿勢から教師との距離が近いと感じられた点」「英語の雑学を取り入れた点」「発音練習を実施した点」が満足度に繋がったと考えられる。

授業改善の課題と方策

前期「英語Ⅰ」と同様に、新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策においても、音声活動は必要であるため、その中で如何にして話す活動を取り向くべきかを検討する必要性がある。特に「英会話」「英語コミュニケーション」などの活動重視科目において、どのような対応がされ、授業が実施されているのかという情報の共有が必要不可欠であると考えられた。

その他

新型コロナウイルス感染症の感染防止対策として、オンライン授業において話す活動をどのように実施し、評価するのかを検討する必要があると考えられる。

授業改善書

科目名	英語（読む英語）
担当者	大山健一

授業の概要

２年次以上選択科目の秋期（後期）科目であった。ＡとＢとのグループ分けとなり、隔週でオンライン授業と対面授業とのハイブリット授業となった。e ラーニング教材を導入し、文法・リスニング・リーディングの確認・解説を取り上げた。評価方法としては、e ラーニング教材の達成度、日々の課題提出状況、授業態度などから総合的に判断した。

授業の問題点

授業は、学生から事前に取り上げてほしい文法・リスニング・リーディングの事項を調査し、その内容を解説した上で、その内容に合った e ラーニング教材を学習する流れを採用した。解説では板書だけではなく、オンライン授業との平行からスライドを活用した解説をしたため、見るだけで確認が可能で、理解度が上がるように工夫をした。その結果、「ノートやメモを取る」が 3.83 というアンケート結果になり、4 を超えていないことから、オンライン授業でも対面授業でも板書を写すものが求められていたと考えられる。

学生の授業満足度

新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策として、ＡとＢとのグループ分けとなり、隔週でオンライン授業と対面授業とのハイブリット授業となった。しかしながら、e ラーニングの受講期間の公平性などを確保するため、ＡグループもＢグループの授業内容を、ＢグループもＡグループの授業内容を提示し、課題を課す方法を採用した。アンケート結果から学生の授業満足度は 4.8 を超えているため、高い結果になったと考えられる。授業内容と全体的な振り返りがアンケート項目になっていたが、具体的に何であったのかが判明できないため、項目の細分化が必要かと思われた。

授業改善の課題と方策

新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策として、ＡとＢとのグループ分けとなった場合、隔週でオンライン授業と対面授業とのハイブリット授業となるため、如何にしてオンライン授業と対面授業とのバランスを確保できるかが課題として挙げられると考えられた。

その他

PC 教室の収容人数から、ＡとＢとのグループ分けとなったが、２年次以上選択科目のため、４年生の履修者が多いが、履修をしても授業の出席率が低い学生がある程度見られた。このような学生がいたことから、ＡとＢとのグループ分けとなった可能性が高いく、アンケート回答率も低くなったと考えられる。翌年度には社会人になるためにも、勉強をしたいという気持ちを持った学生へ迷惑を掛けた言動をしたと自覚を持ってもらう必要はあると思われた。e ラーニングは日々の学習が必要不可欠であるため、事前にシラバスを熟読して、自分自身が学びたい内容であるのかを確認してもらいたいと思われた。

授業改善書

科目名	博物館展示論
担当者	奥田　環

授業の概要

展示の歴史や展示の諸形態、展示による教育活動を学び、展示の理論と方法を理解した上で、展示の製作の知識・技術を習得するよう講義する。
またさまざまな展示解説の手段を知ることにより、展示解説者としての素養を身に付け、実際に展示を通じた教育活動にも携われるよう指導する。

授業の問題点

博物館展示論は講義で学び得た知識を、実際の博物館展示を見たり実践を通して、さらに知見を広めていき、自身が体験的に習得することを旨としているが、本年においてはコロナ禍により、様々な現場の展示を見学する機会を持てなかったことが、残念な点であった。

学生の授業満足度

これまで自身が接見聞してきた展示を、体系的・理論的にとらえることを通じ、あらためてその意図するところを理解したり、問題点を見出すことができたことが良かったと考える。

授業改善の課題と方策

博物館展示については、デジタル化が進む中で、展示の概念もより広く多様になりつつある。現場の展示を実際に見ること、作ることはこれ以後も決して軽んじることはできないが、一方で新たな展示の提示のしかたについても学び、利用し、自らが構築する技術を積極的に指導していきたい。

その他

学生は総じて博物館学芸員課程の科目の習得に熱心で、興味を持って聴いてくれる手応えを感じている。その熱意を大切に、学生が関心を持ち積極的に臨める授業内容を提供するべく努力する所存である。

授業改善書

科目名	自然地理学
担当者	亀井啓一郎

授業の概要

授業ではまず自然環境と環境論について講義した。そのあと、地球の大きさとその表し方、世界の大陸や気候、海水の流れ、日本の山と平野、河川、気候、季節感などについて講義を行った。地域を見る、地域を知るということを念頭に置き、授業を進めた。

本科目は、中学校社会科および高等学校地理歴史科の教職免許の取得のための科目にもなっている。そのため、教職に就いた場合に必要とされる知識や教養を身に付けることもこの授業の目的のひとつとして、授業を進めた。

授業の問題点

今年は対面授業とオンライン授業を同時並行で行った。対面授業では、私語をする履修者はおらず、全般的に出席率も良かった。その一方で、集中力に欠け、授業には関係ないことをしている履修者も見られた。難解な用語ばかりを用いて授業を進めているわけではないが、基礎的な知識が不足している学生も少なからずいた。授業の難易度は決して高いものではないが、基礎的な地理の知識が不足している者も少なからず見受けられた。

学生の授業満足度

授業は、基本的にはパソコンを用いてパワーポイントで進めた。スクリーンに映した画面をただノートに写すだけではなく、地図帳や資料、写真を見せながら授業を進めるようにした。パワーポイントのスライドは見て理解しやすいようにまとめ、学生がノートに写しやすいよう工夫した。

学生にとって新たな知見を得られるような授業構成を心がけた。

授業改善の課題と方策

一方的に話を進める講義形式だけでなく、作業や簡単な実習を伴うような授業構成も検討したい。

その他

授業改善書

科目名	科学史
担当者	菊地重秋

授業の概要

近代科学は 16 世紀に誕生して以来、人類の生活改善や生産活動・経済発展に大いに貢献しており、社会に不可欠です。しかし他方で、核兵器や環境問題など様々なマイナス面も生み出しています。授業では、科学・技術の歴史をたどり、基本的知識を得るとともに、科学・技術の社会的役割や、科学・技術と社会との関連について考えます。なお、科学・技術の大まかな内容は紹介しますが、詳しい中身には立ち入りません。

授業の問題点

（1）2020 年度はコロナ禍のため過密状態を避ける目的で、受講生を二つに分けて交互に出席と自宅学習を行う、という変則的な運営になった。その結果、履修登録 101 名、出席回数 5 回以上 60 名、テキスト入手約 15 名、期末テスト受験 52 名、うち合格 46 名、受験 46 名の成績評価の平均 72.9 点だった。ビデオ感想カード課題の提出は延べ 52 名、小課題 6 件の提出は平均 44.0 名で、どちらも例年より良好だった。テスト対策の相談日を 16 週目に設けたが、相談に来た学生は 10 名未満だった。テスト対策の練習問題を配布したが、日常的・積極的に取り組んだ学生は少ないと思われる。
(2) スライド原稿の切り替えが速いので「板書丸写し」が間に合わないと困惑している学生が散見された。

学生の授業満足度

（1）アンケート項目「全体的に振り返って、授業に満足できましたか」の回答平均は 2018 年度 3.79→2019 年度 4.50→2020 年度 4.20 だった。今後も改善に努めたい。
（2）アンケート項目「学生による主な意見」の回答は、2018 年度は 1 件で「楽しい雰囲気で学べる講義だった」だったが、2019 年度に続き 2020 年度も 0 件だった。

授業改善の課題と方策

（1）授業参加・理解の促進のため学生に当てているが、引き続き、答えやすい質問を心がけたい。すぐ手が上がらないとき、ヒントを出すなど工夫したい。
（2）質問に対する回答その他の有用な「発言」、「小課題」、「ビデオ感想カード」、及び「期末テスト」の合計で成績評価が決まることを繰り返し指摘し、どこで頑張るか考えるように、自分が得意なところで頑張るように、学生に求める。
（3）スライド原稿を板書と見立ててノートをとる場合、要点に限るように指示する。テキストをノート代わりに利用し、予習・復習のときマーカーで印をつけ、メモを書き込むように推奨する。スライド原稿は、要点が一目で分かるよう、引き続き改善する。
（4）授業中の私語は、もしあれば、本人及び周囲にマイナスであることを強調し、直ちに静粛にするように求める。

その他

（1）採点済み小課題やエンマ帳等は、採点・記入のミスがないか確認する意味も含めて、学生に公開している。今のところ苦情もないので、むしろ学生は確認したがっているので、引き続き公開する。
（2）期末テスト対策に積極的に取り組むよう学生に求める。対策用の練習問題は、利用しやすく改訂し、学期の始めに印刷・配布し、活用を繰り返し求める。また、引き続き、テスト対策の相談日を 16 週目に設けて出席するよう求めたい。
なお、数年前、ある週の授業範囲の練習問題を宿題にして、翌週の授業の最初に、指名した学生の回答を丸つけ（添削）したことがあったが、この再開を検討したい。

授業改善書

科目名	情報処理（文書の作成と表現）
担当者	坂本明子

授業の概要

演習形式の授業形態により、知的活動でも職業生活や社会生活でも必要となる基本的な情報処理能力を身に付けることを目的として、情報化社会における情報の役割と活用について理解したうえで、コンピュータの仕組みやソフトウェアの利用方法、キーボードタイピング練習、電子メールの受・発信などの基礎的な知識と技能について指導した。MOS Word2013 の資格試験に合格することを目的とし、試験対策用教材に取り組んだ。具体的に、Word の文字、段落、セクションの文書設定、表とリストの作成、画像、SmartArt の挿入、参考資料の適用について指導した。

授業の問題点

授業への興味が高く、出席が良かった。講義専用のサイトを設け、授業毎の評価を確認させ、意欲的に取り組めるよう工夫した。毎回授業テーマを設定し、それに応じた資料を専用サイトで配信した。コンピュータ操作の実技演習であったため、授業開始時にタイピング力向上のための演習を取り入れた。そして授業時間をうまく運用し、わかりやすく説明するように努力したものの、学生は難しく感じる時もあった。

学生の授業満足度

授業アンケートの学生による主な意見に「タイピング練習をできる良い機会となりました。タイピングの感想もしっかり読んで、返答をくださるのでやる気が起きてよかったです。」とコメントがあることから、ある程度満足が得られる授業が展開できたと考える。

授業改善の課題と方策

もっとわかりやすく説明するように心がけ、毎回授業をふり返り、各授業での学びを確認する。授業後との学びをふり返り集積し、集積から見えてくるものを学ぶ。学びをふり返り、自分の変容を知ることのよって授業の予習・復習等の自己学習意欲の喚起につながるようにする。より良質な授業となるよう、アンケート結果を真摯に受け止め、今後の授業展開に反映する。

その他

特になし

授業改善書

科目名	美術史
担当者	佐々木あすか

授業の概要

本授業は、飛鳥時代から江戸時代にわたる日本美術の歴史について、絵画、彫刻、工芸の代表的な作品を取り上げ概観するものである。作者、時代背景、造形表現の特徴について解説し、日本美術史の流れや、作品の鑑賞方法を理解できるよう努めている。

授業の問題点

「授業外学習(予習や復習など)をしましたか」の項目が、他項目に比べ低かった。翌週の授業時に、前回の質問への回答やふり返りをおこない、ある程度の復習の効果はあったものと思われるが、さらなる授業外学習への工夫も必要と思われる。

学生の授業満足度

「毎回の授業でテーマは明確に示されましたか」「全体的に振り返って、授業に満足できましたか」の項目が比較的高く、授業資料がわかりやすかったという意見もあった。今後も、初めて美術史を学ぶ学生にとってもわかりやすい授業になるよう努めたい。

授業改善の課題と方策

前回の質問への回答やふり返りを通し、授業内での復習の効果はある程度得られたものと思われるが、授業外の学習を促す工夫がさらに必要と考える。これまでは授業内容に関連する図書や開催中の展覧会の紹介などをおこなってきたが、今年度のような状況下においては、例えばインターネット上に公開された美術作品のデータベースを紹介するなど、従来とは異なる授業外の学習方法も今後提案していきたいと考える。

その他

授業改善書

科目名	初等教科教育法（家庭）
担当者	佐藤真弓

授業の概要

小学校家庭科の目標や指導内容、指導方法に関する基本的事項及び効果的な学習指導を実践するための指導計画、評価、施設・設備等について理解を深める。また、望ましい家庭科の指導内容や授業構成について考究し、教育実践における諸問題を検討する。

授業の問題点

本年度はコロナの影響で、本授業の基礎固めの科目である春期「家庭」が、オンラインで実施、対面としても 2 部制をとらざるを得なかった。本授業は全員一斉参加の対面授業が叶ったものの、やはり調理実習や体験的模擬授業の実施はできず、実践体験的内容が多い家庭科としては非常に悩ましい状況であった。またそのようなときにこそ、実際の小学校家庭科の教科書に触れ、想像力を働かせて家庭科の授業を組み立ててほしいと思っていたが、教科書を購入、準備する学生が少なくとても残念であった。

グループワークの演習が中心だが、本年度は積極性のある学生が集まったグループと、反してリーダーとなれる学生が誰もいないグループ、さらにリーダー格の学生が一人だけで他の欠席の多い学生の分を引き受けなくてはならないという事態も生じ、グループ間の格差が大きかったように思う。

学生の授業満足度

授業アンケートの項目について 4.5 点以上の高評価が得られたものが予想より多く、授業の満足度が総じて高い結果がでたので良かったと思う。「毎回の授業の内容や量が適切だったか」の項目が 4.17 で最も低評価だったが、これは校外実習期間と重なり、その間のグループワークが難しかったため、授業内でどうしても無理をしなくてはいけないことが生じたのではないかと推測する。

本授業はコロナの影響で調理実習や体験的模擬授業はできなかったものの、創意工夫を重ね、自分たちの考える家庭科の模擬授業を実現させた学生もいた。

授業改善の課題と方策

履修生の人数が多かったため、模擬授業の回数を増やすなど、柔軟に対応できたと考えるのでその点については来年度以降も続けていきたい。

昨年より、グループワークにおいて、一人一人の力が見えるように公平な指導や評価ができたのではないかと考えている。グループごとに作成するレポート課題にもページごとに執筆者氏名を明記させる、模擬授業においては全員必ず一度は教師役を行わせる、などを徹底させ、今後もさらにグループワークの運営方法に関する指導をきめ細やかにしていきたい。

さらに、家庭科は現実の日常生活を扱うものであるので、変化する社会状況に応じて、新しい教材の提案、授業方法の工夫、時には違った視点からみる題材の開発などが特に必要な科目であると考えている。学習指導要領、教科書の分析とともに、時事問題などを取り入れ、さらに一歩踏み込んだ家庭科教育内容を提案できるように進めていきたい。

その他

授業改善書

科目名	英会話Ⅱ(中級)
担当者	シーハン小田 早苗

授業の概要

春期の「英会話Ⅰ（初級)」に続き、中級英会話の授業として、日常のさまざまな場面で使用できる会話表現を能動的に学習しました。新型ウィルス感染予防対応のため、本来予定していたスピーキング演習量を減らし、TOEIC・英検等の資格試験に備えたリスニング学習に重点を置きました。

さらに発展した学習として、学期の最後にプレゼンテーション課題に取り組みました。与えられた 10 のトピックから１つを選び、自分でリサーチしながら意見を英語でまとめるというプロセスを通し、英語をツールとしながら大学の他の授業にも応用できる学習スキルが身につくような授業構成としました。

授業の問題点

新型ウィルス感染予防対応としてスピーキング演習量を減らす必要があったため、授業中の学生のアウトプットが限られてしまったことは非常に残念でした。

また、教師はマスクの上にフェイスシールドも着用しなければならなかったので、大きな声で繰り返し発音し、学生がしっかりと聞き取れるよう細心の注意を払いました。マスクの着用によりお互いの口元を見ることができないのは、語学学習の効果性を損なう恐れにつながると実感しました。

学生の授業満足度

英語学習をネガティブに捉え苦手意識を持つ学生が多いことから、彼らに英語学習の楽しさを実感してもらい、今後の学習につなげることが最優先項目である、と常に意識しながら授業を進めました。授業中の学生の様子および授業アンケート結果により、その目標は概ね達成できたと思われます。ほとんどの受講者が春期の「英会話 Ⅰ（初級)」から続けて履修していたため、プレゼンテーション課題でも春期からの進歩が確認でき、学生も達成感を感じている様子でした。

授業改善の課題と方策

英会話の授業ではありますが、文法事項や重要単語フレーズの学習も含め、パブリックスピーキング（プレゼン等、公の場や人前でスピーチすること）のスキルの習得も取り入れた体系的な授業展開を目指します。

また、将来小学校や幼稚園等で英語を教える立場になる学生のために英語音声学や語用論等、英語教授法の専門的知識に基づいた指導も適宜紹介し、将来ビジネスの場面で英語を使う可能性のある学生のためにはビジネス実践英語も紹介しつつ、学生が自らの将来のビジョンを持ちながら学ぶことができるようにサポートしていきたいと思います。

その他

授業改善書

科目名	宗教学
担当者	志田 雅宏

授業の概要

本授業は以下の三つの内容で構成される
①宗教学の基本的な発想：宗教を研究する・学ぶというアプローチについて
②三つの一神教（ユダヤ教・キリスト教・イスラーム）の概説
③テーマ別の理論の紹介および具体例についての考察：教典・共同体・聖地・回心・暴力・共存

授業の問題点

全 15 回の授業が 2 グループに振り分けられたため、各グループの受講回数が 7・5 回に半減した。前述の①・②・③すべてをカバーすることができなくなったため、②の内容（全 6 回）については YouTube での講義動画としてアップした。(実際の対面授業では①と③について講義をおこなった)
オンライン授業が不可とのことで、講義動画の視聴を義務づけることができなかった結果、各動画の視聴回数を調べたところ、履修者の大半が視聴していないことが明らかとなった。③の内容は②の概説をふまえることで理解が深まるものであるため、実際の対面式授業における履修者の理解度には不安が残った。

学生の授業満足度

授業アンケートからは学生の満足度がある程度得られたものと思われる。各グループとも隔週での受講であったため、授業のない週に予習教材などを準備することもできたかもしれない。

授業改善の課題と方策

来年度も今年度同様の形式になるかはわからないが、もしそうなった場合は対面式授業以外の部分での学習を充実させる必要がある。履修者全員にオンライン授業（YouTube での講義動画視聴）を課すことができないとしても、Teams を活用して予習教材に取り組んでもらったり、ユダヤ教・キリスト教・イスラームについての概説を（動画ではなく）文書の資料で学んでもらったりすることはできるかもしれない。
最も重要な課題は、通常の 15 回の対面式授業ができない場合の代替手段（今回は授業回数の削減）にさいして、本来予定していた講義内容自体も縮小せざるを得なかったことである。履修者の自主的な学習に任せざるをえなかった②の内容についても、もう少し積極的に学習をうながす取り組みができたかもしれない。

その他

授業改善書

科目名	初等教科教育法（図画工作）
担当者	島田佳枝

授業の概要

小学校図画工作科の意義や目的の理解に立って、表現や鑑賞に関わる活動内容の具体的なあり方を検討する。また、授業の組み立て方などについて学習したうえで、児童が主体的に関わることのできる魅力ある授業づくりを考える。

授業の問題点

本年度は全てオンラインでの授業となったため、積極的に授業課題に取り組むことのできない学生に対するフォローが十分に行えなかった。

学生の授業満足度

授業の内容はあなたにとって得るところのあるものでしたか」は、3.8 ポイント、「全体的に振り返って、授業に満足できましたか」は 3.4 ポイントであった。

授業改善の課題と方策

オンラインでの授業の場合、積極的に授業課題に取り組むことのできない学生をどのようにフォローアップしていくかが大きな課題となる。学生にメールして返信がない場合、それ以上のやり取りが難しくなるが、改善策としては教務課に相談をして学生に連絡をとる別の方法を考えていくなどの方策が考えられる。

その他

授業改善書

科目名	中国古典文学・日本漢文学
担当者	清水信子

授業の概要

「中国古典文学」…文学の発生から清代までを、時代を追って、各種の文体の変化、隆盛を鑑みつつ、代表的な人物と著作について作品を鑑賞し、また、並行して同時代の日本の文化、文学に及ぼした中古典文学の影響も意識する。
「日本漢文学」…日本における漢字、中国文学の歴史、また漢文の歴史を理解し、日本の漢文体の文章を読解していく。

授業の問題点

「中国古典文学」…パワーポイントとレジュメを用いた講義形式の授業のため、なかなか学生が自主的に発言したり、積極的に授業に参加する機会が少なかった。
「日本漢文学」…漢文訓読については、受講生により習熟度に差異があるため、そのいずれかに合わせると、理解に偏りが生じてしまう面があった。

学生の授業満足度

授業後に書いてもらっている感想、質問のコメントシートによれば、受講により新たな知識が得られたというような感想も少なくなく、またアンケートの点数としても比較的高評価なこともあり、満足度としては低くないように感じるが、上述したように、学生が積極的に授業に参加する機会がなかったり、あるいは内容が自身の習熟度と合わなかったりする点では満足が得られなかったかもしれない。

授業改善の課題と方策

「中国古典文学」…事前事後学習、および授業中にも積極的に授業に参加できるように、簡単な課題等を考案する。なお、本年度も事前学習用に、レジュメと授業で使用するパワーポイントを事前に Teams にて配布していたが、それについては印刷費用がかかったという意見があり、さらに検討したい。
「日本漢文学」…各受講生の漢文訓読能力を理解し、初心者には補助教材等を準備する。なお、本年度も基礎知識のレジュメを作成し、配布したが、内容をさらに充実させる。

その他

「中国古典文学」については、遠隔での受講を希望した受講者がおり、Microsoft の Teams を使った遠隔授業と併用する形となったが、当該授業はパワーポイントを使用した講義形式のため、大きな問題はなく進められた。

授業改善書

科目名	人体の構造と機能及び疾病
担当者	高柳 雅朗

授業の概要

チーム医療において、公認心理師として多職種連携(Interprofessional Work; IPW)を実践することが求められている。この多職種連携の実践に必要な医学の基礎知識について講義する。

まず、医学総論として医学と医療やその歴史等を講義する。次に、疾病を理解するために必要な、正常な人体の構造（解剖学）と機能（生理学）について講義する。そして、心理的支援が必要な疾病を主として疾病について講義する。

授業の問題点

授業に対する学習態度について学生が自己評価するアンケートの結果から、学生が授業外学習（予習・復習等）をするよう促す工夫が必要と思われる。また、質問や発言を増やす工夫も必要と思われる。

基礎知識として全身の正常な解剖学・生理学を学び、さらに主要な症候そして主要な疾病を学ばなくてはならない。これらの学ぶべき質と量が広く多いため、授業の進行がはやくならざるを得ないことがあった。

学生の授業満足度

授業満足度についてのアンケート 2 項目の結果から、学生はおおむね満足していると思われる。今後も学生がより満足する工夫を続けたい。

学生からの意見に「学生の理解度に合わせて授業を進めたことで助かった、丁寧な解説から身になることが多かった」等があった。授業中に学生の理解度を確認する等しつつ、丁寧な解説を続けたい。

授業改善の課題と方策

学生の授業外学習（予習・復習等）を促すため、毎講義の課題あるいは小テストの実施を検討したい。授業中における問いかけを増やす等し、学生の発言を促したい。

一部の学生より、授業の進む速度や時間的余裕に対する言及があった。これらへの方策として、学生がより理解しやすいよう、視覚的な教材を用いる解説を増やしたい。学生の理解が早まれば、時間的余裕が増えることが期待される。

その他

2020 年度は学生も教員も新型コロナウイルス感染症（COVID-19）への対策が求められ、さまざまな対策を行いつつの授業であった。今後も引き続き COVID-19 対策を行い、授業を進めたい。

授業改善書

科目名	日本語学（各論）
担当者	髙山林太郎

授業の概要

日本語学（各論）では，慣れ親しんだ現代日本語を中心に，古語や方言なども題材としつつ，それらを科学的・客観的な視点から分析する普遍的な言語学の知識・思考方法を学ぶことを目的とする。文学を学び論ずるうえでも，言語学の構造主義的なものの考え方は重要である。社会言語学，比較言語学（文献および方言），対照言語学について講義する。

授業の問題点

授業外学習の点が少ないが，レポート課題を課して取り組むようにしていた為と考えられる。レポート課題がそのまま予習・復習となる。質問や発言の点が少ないが，確かに学生からの授業中の質問は無かった。授業後は質問に答えていた。

学生の授業満足度

授業の内容に得るところがあったか，および全体的に振り返って授業に満足できたかについて，いずれも 5 点満点の 4 点強だったので、概ね上手くできたのではないかと考えている。「授業内容について」はおおむね 4 点以上，「授業方法について」もおおむね 4 点以上であり，全体的に高評価だったのではないかと考えている。

授業改善の課題と方策

コロナ禍の中で，課題は全てレポート課題としたので，授業中は講義に専念した。講義が単調にならないように抑揚をつけて興味を引くよう努力した。「もう少し生徒が発言できる機会があればいいと思いました」という意見をいただいたが，確かにそのような工夫も更に必要かもしれない。ただ，コロナ禍なので飛沫防止の観点もある。

その他

特になし。

授業改善書

科目名	憲法（日本国憲法）
担当者	多田　庶弘

授業の概要

日本人ほど憲法をよく知り、崇拝する国民はいないといわれる。しかし、これほど現実の政治や国民生活に影響を与えない法はない。その意味からは憲法への理解が薄い面もあるのかもしれない。だが、国会での憲法改正議論が始まり、憲法改正議論が具体化する状況において、改憲、護憲以上に憲法をきちんと理解する知憲という視点が必要なのではなかろうか。そのような点から、改めて憲法をとらえ直す機会となる内容としている。

授業の問題点

今年度は、新型コロナウィルス感染症のため、対面授業と遠隔授業とが混じるなかでの授業方式となった。
遠隔授業との関係もあり、対面授業でもPowerPoint等を利用した方法で行い、また、通常の対面授業であれば利用できる資料も、遠隔授業との関係（公衆送信権等）から使用せず、そのため通常よりも一つの単元について時間をかけた授業内容にした。そのことにより、一定の部分の説明（解説）を時間的に行うことが難しくなり、その点は改善点として生じた点といえる。

学生の授業満足度

今年度は新型コロナウィルス感染症による授業形態のため、学生にはレポート等を複数課すことで学生の理解を図った。学生のみなさんは、他の授業の課題もたくさんあったであろうなかで、きちんと課題の提出を行ってくれたことには感謝したい。
ただ、全体的な満足度に比べると時間外学習は高くない点は改善点として考えたい。

授業改善の課題と方策

新型コロナウィルス感染症の収束により、100%の対面授業が確保されることにより、改善が行える点はあると思える。しかしながら今後の状況を踏まえ、仮に遠隔授業が増えるようなことになったとしても、対面授業のみと同様な対応ができるような準備も行いたい。

その他

科目名	ドイツ語Ⅱ（中級）
担当者	手嶋　直彦

授業の概要

ドイツ語の初歩を学んだ上で、さらに踏み込んだ文法事項を学び、少しずつ文章を読む練習もする。初級と 中級合わせて「独検」4 級程度の文法を学ぶことになる。 前置詞、話法の助動詞、分離・非分離動詞、形容 詞、再帰代名詞くらいまでを練習を交えて講義する。
…というのがシラバスでの予定でしたが、春季の授業がオンラインや分割で進み方が遅かった分、春季でできなかった分をここでやったため、分離動詞のところまで、となりました。今期は分割でなかったため進度自体は遅くなっていません。

授業の問題点

登録はしてもほとんど来なかった学生が結構いましたが（理由は不明）、出席者はそれでも例年より多く、授業の進行は比較的スムーズでした。換気が大丈夫か、というのはちょっと気になりましたが。

学生の授業満足度

例年通りかと思いますが、今年度から出席カードを使って感想や質問を書いてもらい次回の授業に質問に答える、ということを始めたところ、それがよかったという学生が何人かいました。

授業改善の課題と方策

なるべくわかりやすい説明を心掛け、カード提出は続けていきたいと思います。授業中一度換気をするといいかもしれません。

その他

特にありません。

授業改善書

科目名	数学（解析基礎）
担当者	寺澤信雄

授業の概要

解析学は数学だけでなく、自然科学のすべての分野の数学的基礎を与えていて、どうしても避けて通る事のできない学問である。本講義では、微積分解析を中心に、解析学の基礎を解説する。解析学の諸概念を理解するだけでなく、実際的な計算力を養うことが目標である。取り扱うテーマは、関数の連続性と関係する話題、微分と導関数および、その応用、不定積分、定積分とその応用、偏微分と重積分である。

授業の問題点

学習意欲が一部の熱心な学生を除いて一般に低く、苦慮している。また今年度は、新型コロナ感染症対策として 2 グループ制となったため、講義時間が通常の半分のしか取れなかった為、戸惑った学生も多かったと思われる。解析学は論理的思考力を養うばかりか、基礎的な演算手法は現代のあらゆる場面に応用されている。従ってこれを習得する事は社会人にとって大きな力となるが、残念なことに学生の学習意欲が一般に低く、講義時間が短く密度が高くなった事で、特に理解が浅くなった様に思われる。

学生の授業満足度

大学における数学の授業として最低限の水準は満たされていて、学生もその点では満足しているようである。ただ、半期という時間的制約の中で、高校の数学の復讐と大学の教養課程の数学授業を同時に進めていくのはかなりの無理があり、密度が高過ぎるという不満が感じられる。

授業改善の課題と方策

習得できているかどうかは別として、解析学を通して論理的思考力を養える様、また実際的な計算手法を少しでも習得できる様、例題の解説に特に力をいれて講義した。成績評価を厳格にするのが望ましいと思うが、その場合多数の不合格者を出すことになると予想されるので、実行に躊躇をおぼえる。

その他

授業改善書

科目名	英語Ⅱ
担当者	冨塚亮平

授業の概要

大学生が商社に履歴書を送り、面接を受ける前の成長の過程において、ビジネスに必要な英語の語彙と表現を学ぶ。受講生が就職活動をするとき、さらには入社してから必須となる英語の知識を身につけられるようにする。

授業の問題点

・生徒の習熟度、英語力にばらつきがある。
・大学一年生を対象に就職活動に関連する内容で授業を行うことで、テーマの重要性が学生に伝わりにくい。

学生の授業満足度

コロナウイルスへの対応でリモートと対面のハイブリッド形式をとった中で、特に「III 授業方法について」では前期よりも大幅に高い評価を獲得した。相対的に評価が低かったのは、前期同様に生徒側の自己評価に関わる「質問や発言をしましたか」、「授業外学習をしましたか」、教師側の評価に関わる「授業内容に興味や関心を持ちましたか」であった。

授業改善の課題と方策

質問や発言については成績評価に加えることを伝えた上で積極的に行うよう奨励しており、前期以上の成果が出た。自主的に発言をするのが苦手な生徒に対しては、授業中の指名を併用する対策を取っている。コロナ対応については、後期では形式が一旦は定まったため前期のような混乱はなく終えることができた。学生のスピーキング演習を積極的に取り入れることなどは引き続き困難であると考えられるが、来年度も様々な状況に対応できるよう柔軟な対応を心がけたい。

その他

学生のコロナ陽性の事例に対する対応については、大学ホームページを除き現状では特に連絡を受けていないが、対面授業を行う場合のリスクに対する大学側の考え方は、学生や講師に対してもっとわかりやすく発信する必要があると考える。また、教員用にフェイガードを配布しているためか、フェイスガードのみを装着しマスクをせずに授業を行っている教員が散見された。感染対策上はマスクのみよりも効果が低いことはすでに立証されているため、フェイスガード配布に際してはせめて教員側への注意喚起を行って欲しい。

授業改善書

科目名	東洋史特論Ⅰ（イスラム関係史）
担当者	登利谷　正人

授業の概要

授業ではイスラム教の成立した 7 世紀から現代に至るまでのイスラム諸王朝の興亡と統治体制、さらには文化・思想などを網羅的に学ぶことを通じて世界各地に拡大したイスラム社会の特徴について理解するための基礎的知見の獲得を目的とした。近年では身近なものになりつつあるイスラム社会の歴史全体を大まかに把握することで、イスラムという宗教が社会的に大きな影響力を有した各地域における社会規範や文化的特徴がどのようなものであるのかについて理解を深める。そのため、イスラム勃興期の中東から北アフリカ・イベリア半島、さらには南アジアや中央アジアなど世界の様々な地域におけるイスラム社会の歴史・思想・文化について取り上げて講義を行った。

授業の問題点

授業は担当者が作成の上配布した授業用プリントを毎回配布する形にて、スライドを用いて講義形式で実施した。担当者側が授業時間中に一方的に話をする形で進めたため、授業中に生徒たちに質問･発言をする機会が提供できなかった点が最大の問題点である。発言の機会を作るなど､自発的な発言をする授業雰囲気を作り出すことが困難であった。授業内容に関する質問についても受け付けたが、ほとんど生徒たちからの質問が出されることがなかった。合わせて、授業時間外学習時間が不足していることも問題点として挙げられる。

学生の授業満足度

授業内容、および授業方法についての満足度は全体的に良好であるものの、授業で取り扱う内容が多岐に渡ったことで、授業進度がやや早くなる場合もあった。そのため、特に授業後半は進み方が早くなる傾向が顕著であった。さらに、シラバスに記載した内容を一度の授業で終了できない場合もあり、生徒たちの理解が不十分な状態で先の項目に進むこともあった。

授業改善の課題と方策

最も改善すべき点は、生徒からの質問・発言を促すように授業全体を見直すという点である。特に、生徒たちからの質問や自発的発言が出やすいような環境整備を行うことが必要であると考えられる。そのため、担当者と生徒たちとの相互のやり取りをする機会を各授業中に設定し、生徒たちが質問や発言をし易いように工夫する。また、映像資料そのものの活用方法を見直し、生徒たちの理解を促しさらに関心を高められるような映像資料素材提示に努めたい。

その他

授業外学習が不足しているため、今後は家庭内学習に取り組むような工夫、具体的には事前の予習や課題を課すなどの形で復習を促すなど、授業内容の理解深化に努めたい。

授業改善書

科目名	児童サービス論
担当者	中川理恵子

授業の概要

「児童サービス」は、図書館が児童（乳幼児からヤングアダルトまで）を対象に、読書への誘いを目的として行う様々なサービスを指します。現在多くの図書館で行われている、お話し会、ブックファースト運動ブックトークなどがそれにあたります。この授業では、「児童サービス」について概観し、その現状についての 知識を深めます。また、児童文学の歴史や昔ばなし、絵本、紙芝居の特性について講義します。

授業の問題点

授業については、ほとんどの学生がどの項目にも５をつけており、特定の二名が、３など５以外の数値をつけている状態です。
特に、コメント欄に具体的な指摘などはないため、その２名がどのような点をもって、５にしなかったのかはわかりませんが、教室内のこの温度差が気になるところです。
、

学生の授業満足度

学生の満足度についても、人による評価が非常に異なることが気になります。
「全体的に振り返って、授業に満足できましたか」の問いには
九名が５、五名が４、一名が２という状態です。２をつけた、この１名は、授業内容に興味や関心をもたなかった唯一の学生でありました。

授業改善の課題と方策

今年度は、コロナ対策により、学生の発言を求めませんでした。また、絵本を読み聞かせしてもらうなどの、体験的な授業内容も回避しました。
やはり、実体験は、興味を持つきっかけにもなると思いますので、なにか工夫して、興味をもつきっかけになるような体験ができると良いと考えています。

その他

授業改善書

科目名	社会学Ⅱ
担当者	中村　牧子

授業の概要

社会学Ⅰに続く応用編として、現代日本社会における様々な社会関係の特徴とその相互関係、問題点等について多角的に学ぶ授業である。今期は、「労働」領域については男性の働き過ぎと過労死や働き方改革の方向性、女性の雇用労働・家事労働の両立困難への取り組みの現状、若者の非正規化の問題点と対策などについて、データや新聞記事等を参考にして理解を深めた。「自己」領域については、現代社会において自分らしく生きるとはどういうことかを問題とし、LGBT を含むジェンダーや障害者などの事例を通じて、自分自身の立ち位置を理解するとともに、色々な他者の立場に立って現代社会を考えるやり方を学んだ。

授業の問題点

出席や課題提出、ノートとりについてはスコアが高く、出席者は毎回前向きに学べているようである。それに比べて授業外学習や質問・発言のスコアは低めであることから、自分で調べて学ぶ姿勢はもっと強化していく必要があろう。
授業内容については、興味・関心を持てたか、資料の適切さはどうかについてのスコアの高さに比して、シラバスとの一致については若干数値が低い。これは、グループ分けとオンライン授業により、順序や配分を変更することになったためかと思われる。
授業方法については、学生からの質問への対応の評価が一番低いが、それでも今年度（春期含む）はこの項目の数値が上がっている。大教室だと遠慮してしまう学生でも、オンラインだと個別に聞きたいことを聞けるので、ハードルが下がったためと推測される。

学生の授業満足度

授業から得られたもの、授業への満足度については、ほぼ高めの評価である。自由記述にもあるように、これまで知らなかった問題の考え方や、就職を前にして漠然と不安だった事柄についての具体的知識を得られたことへの満足は、オンライン課題などでも書いている学生がいた。
授業を円滑に進めるための配慮、つまり私語への対応などについての満足度がやや高いのは、グループ分けで１クラスの人数が少なめだったために、あまり私語がなかったこと、また各自が「会話」を控えて気を付けてくれたことが大きいと思われる。

授業改善の課題と方策

オンラインとの併用を通じてわかったのは、これが個人の考え・疑問などを伝えやすいシステムだということである。オンラインで出た意見を対面授業で紹介すると、それへの反応が次回のリアクションで返ってくるなど、相互の意見を知り・伝えあう機会も増えた。また、課題について自らネットで調べ、その結果をまとめてくるような形の発展的学習を編み出した学生も、一定数いた。これは今後も推奨していきたい点である。
一方で、オンラインを挟むことで、全体の講義量は少し減ってしまい、シラバス内容から削らなければならない部分もあった。今後は、そういう可能性を前提に、授業計画を編んでいかなければならないと思われる。

その他

授業改善書

科目名	地域文化論Ⅰ
担当者	中村麗衣

授業の概要

古代メソポタミア地方、インダス川流域におこった文明が、どのように東西に伝播していくのか。交易路の形成、民族の移動にともない、東西の文物、文化が融合していく歴史を講義する。さらに近代に入り、西欧からもたらされたナショナリズムという概念によって、アジアの大帝国が崩壊していく過程について講義する。

授業の問題点

現在の日本では、なじみが薄く、かたよったイメージの強い地域であるため、現地の写真や映像も使用し講義した。しかし現代に近づくにつれ、国土と民族の紛争が複雑化するため、もう少し時間をかけたほうがよいと思った。

学生の授業満足度

授業の内容はあなたにとって得るところのあるものでしたか 4.45
全体的に振り返って、授業に満足できましたか 4.35

授業改善の課題と方策

第 15 回目の授業は、地図と映像を使用して行おうと思う。

その他

特になし

授業改善書

科目名	子ども家庭支援の心理学
担当者	浜名真以

授業の概要

子育て問題のもっとも身近な存在である保育現場の社会的役割と機能を理解し，保護者や地域住民に対する支援の意義や在り方，取り組みについて学び，実際の相談場面において相談内容を詳細に捉え対応できる力を身につけることを目的として授業を行った。事例検討を通して子ども家庭支援の具体的な方法について指導を行った。

授業の問題点

本年はコロナウィルス感染症流行の状況を考慮し，すべての授業をオンデマンドで実施した。そのため，グループワークや学生の発表などの機会を作ることができなかった。質問に対してはメールで受け付けたが，届いたのはシステムに関する質問のみで授業内容に関する質問はなかった。Teams を使って質問しやすい風土を作り，また学生間でのコミュニケーションを作ることができるとよかった。

アンケート回答者が少なかったため，来年度は多くの学生からの回答を促したい。

学生の授業満足度

２クラスとも授業内容および授業満足度の項目は全て 4 点以上であり，概ね満足のいく内容であったと思われる。

授業改善の課題と方策

学生が質問をしやすいよう、質問をした学生や発言をした学生を褒めるなど、質問・発言しやすい雰囲気づくりに努める。授業中にメモをとりやすいよう，メモ欄を設ける，大事なところはメモを取るように促すなどの対応をとる。

その他

特になし

授業改善書

科目名	情報処理(表計算)
担当者	松村真木子

授業の概要

Excel2013 入力の基礎知識から応用まで習得する。Excel2013 の特性を中心に学習し、理解し活用する力をつける。MOS の対策として、前半では、表計算の基本とグラフ作成を学習する。特にグラフの表現力を強化している。後半は、応用として、関数、テーブル、図形および各種機能を指導する。SPSS との関係も紹介する。PC およびインターネットの基本構造とセキュリティの技術的な理解を深め、PC ユーザーとして総合力を強化する。

授業の問題点

表計算のクラスは 3 クラスである。2020 年秋期もオンライン授業とした。キーボードに慣れていない人からかなり Excel をこなせる人まで、PC の経験に個人差がめだった。さらに、PC や Excel のバージョンが多様になり、それぞれのやり方を指導した。

オンライン授業に慣れてきているためか、スマホで視聴する学生や、出席票だけ提出する学生が出てきたので、各回出席カードにクイズを入れるようにした。

学生の授業満足度

PC の経験の個人差が大きいので、授業の量については毎回アンケートを取り、学生の反応を見ながら次の授業を作成した。教室の授業だと作業が遅い人を待つ時間があり、スキルがある学生が飽きてしまうという問題があったが、オンライン授業だと、個人個人が自分のペースで受講できるという利点があった。

オンライン授業でもわかりやすいとの意見があった。Forms で出席を取る際に、質問、感想欄を設けて、学生の意見を聞くようにし、かつ、コメント、チャット、メールで学生と交流し、PC の不具合の対応もした。インターネットの仕組みとセキュリティについては、多くから楽しかったとの意見が直接伝えられた。そのため、MOS の準備に加えて IT パスポートの資格取得に向けて学習方法を指導した。今後も、学生の個性を引き出す授業を心掛けたい。

授業改善の課題と方策

授業は、15 分から 20 分ほどのビデオを 3 本ほどで説明をし、作業をしてもらった。授業内容については、Forms の出席カードで、学生の意見を聞きながら、オンライン授業を作成したのであるが、入力練習などでは、キーボードに慣れていない学生から、大変だったとの意見があった。それで、なるべく、データをダウンロードする形式にしたのであるが、もっと入力練習をしたいとの意見もあり、個人差に配慮した内容を工夫した。また、Excel の Specialist の内容に加え、セキュリティ対策、インターネットの仕組みを指導したのであるが、最終授業では、Excel やコンピュータ、セキュリティがわかるようになった、家族にも教えたなどの意見が寄せられた。

スマホ利用により、PC の経験が減っていると感じている。PC を使うことで、できることの可能性、楽しさを丁寧に伝えていきたい。

オンラインの方が話しやすいと感じている学生がかなりいるため、Teams のチャット、メールの他、出席カードに質問、感想欄を設けることで、ひとりひとりとかなり交流ができた。

その他

各回、15 分から 20 分のビデオを 3、4 本用意したのであるが、学生から、「遠隔授業で先生の負担も増えるところと思いますが、きちんとした内容でわかりやすく、Excel の初心者にもやさしい内容だったと思います。」とは嬉しい感想である。

授業改善書

科目名	民　法
担当者	宮島　薫

授業の概要

2008 年度秋期より、非常勤講師として埼玉学園大学にて授業の担当をさせていただいておりますが、現在は民法、法学入門の 2 科目の担当をさせていただいております。民法につきましては同一担当者の別科目の履修を済ませているケースもあり、授業の進行の仕方や学習に対する取り組み方など、学生本人たちの方が積極的に行動してくれることもあり、担当者としては授業内容に集中することが可能でこの点は助かります。教員志望の学生も受講生の中には存在いたしますので、授業のコントロールの仕方についても担当者としての力量が問われているものと認識しております。わかりやすさ、興味を抱かせる工夫、資料の用い方、時間配分など、自問自答する毎日です。

授業の問題点

担当者の側からの・授業のいわゆる制度設計は、受講対象者が２年次生以上ということで、新入生対象の科目とは異なり、大学生活にも慣れ、自分の学習ペースを有する者が大半であるとも思われますので、担当者自身のモチベーションの保ち方も、気をつけねばならない点かもしれません。少人数教育や資格取得という面からも、効率的な教育に対する受講生の側の努力をも期待することも必要かもしれません。正直者が馬鹿を見ないように。また、自分または自分たちの行動が、他の受講生の眼にはどのように映っているのか、ということも認識してもらう必要があるかもしれません。

学生の授業満足度

今回の集計結果によれば、出席「４．６０」→シラバスとの一致度「４．２７」→満足度「４．０７」とあり、例年と比べて若干ではありますが、厳しい内容・結果となりました。これを放置せず、更なる進化を目指そうと思います。一般に、使用教室による人口密度と不快指数は、なにがしかの関係もあるようなので、ゆったりとした環境で、資料を活用しながら、可能な限り個別の指導も交えつつ内容の定着を図るという方針を進めたいと思います。大学側のご理解とご協力に心から感謝いたしております。

授業改善の課題と方策

まずもって、教室は勉強・学習の場である、ということの再確認から始め、大学は自ら学ぼうとする者の集う場であり、かつ卒業後には学生各人がいわゆるプロフェッショナルとして社会から迎えられうるような人材を育成する場である、というところから話を始め、そのためにどのような形で授業に関わりを持つべきなのか、という点にも力点を置こうと心がけています。加えて具体的に書く作業、声に出して読む作業など、メリハリをつけるようにし、ある意味、正当なライバル意識などは、学習意欲の向上などに有益な場合も考えられますので、可能な限り多くのチャンスを受講生に提供できるように心がけるようにしています。法律を扱う科目である、という科目の特性上、将来の社会人としてのマナーの一つではある、という認識をどう伝えるべきか、可能な限りソフトな対応を心がけたいと思います。

その他

今回は、社会的にはコロナ禍といわれる状況で、かつ緊急時底宣言下という情勢の下、自分の居場所を見失っているような学生も存在したかもしれず、これが例えば履修登録はしたものの出席も課題の送信もしない者の存在が物語っているかもしれません。すべての人の不安を取り除くことは困難を伴いますが、専任・非常勤を問わず、学内での情報の共有化と対応の一元化など、今後の検討課題とすべき問題も存在しているかもしれません。

授業改善書

科目名	情報資源組織演習
担当者	村上郷子

授業の概要

資料の組織化は、大きく記述目録法と主題目録法の 2 部から成り立っている。後期は主に日本十進分類法による分類作業を中心に、主題目録法の実際についてのスキルを学ぶ。毎回授業の初めに、前回の授業の簡単な確認テストを行うことにより、知識の定着をはかる。

授業の問題点

「この授業に対するあなたの学習態度」について、「ノートやメモ等を取りましたか」は 4.80 と高率であったが、授業中の質問や発言の項目は 4.20 と相対的に低かった。

・授業について相対的に学生の評価が低かった項目は、「授業の方法や資料はわかりやすかったですか)」は 3.80 と「毎回の授業は適切な内容や量でしたか」は 3.80 であった。

学生の授業満足度

「授業の内容はあなたにとって得るところのあるものでしたか」は 4.20、「全体的に振り返って、授業に満足できましたか」は 4.20 であった。
　よりいっそう学生の授業満足度を高める努力をしていきたい。

授業改善の課題と方策

・本授業は十進分類法の演習であるため、宿題として指定された箇所についての説明は求めたが、今後は自発的な発言を促す工夫をしていきたい。

・本授業は学生にとってはなじみの薄い授業であるため、授業内容の分量やスピード等は、分かりやすい授業と学生の理解度を確認しながら、適切かつ有効に授業をすすめていきたい。

その他

授業改善書

科目名	書誌学
担当者	山口恭子

授業の概要

日本の古典籍についての基礎的事項を講義する。今年度は、遠隔授業と対面授業とを組み合わせての授業であったため、テーマを絞り、写本に関する歴史と用語、古筆切と手鑑、和紙の種類を主にとりあつかった。
また、古典籍を扱うに際して書くことのできない、くずし字の解読も行った。

授業の問題点

アンケートの集計結果を見ると、授業に積極的に取り組んでくれた受講生が少なくないことはうかがえる。だが、今年度、新型コロナ感染症流行に伴い、通常とは異なる授業形態で行ったことで、例年に比して講義内容を削らざるを得なかったことが悔やまれる。

学生の授業満足度

アンケートの集計結果からは、学生の満足度が低くないことがうかがえた。今後も、課題や質問に対するフィードバックや解説を丁寧に行いたい。

授業改善の課題と方策

今後もしばらくは感染症の流行が続く可能性は高い。今年度の経験と反省を生かし、授業の内容や対応に工夫をしたい。遠隔授業の課題の工夫や、質問をしやすい雰囲気作りなどに配慮したい。

その他

授業改善書

科目名	環境心理学
担当者	山下利之

授業の概要

環境心理学は，環境と人間の相互作用を研究する心理学である．人間の心の状態や行動は環境から多大な影響を受けると同時に，環境に働きかけ，環境を変えていく．環境は人間の作った物理的環境や自然環境のみならず，個人もまた他者における環境の一つである．本講義では，環境心理学の考え方，研究方法，研究分野，現在得られている知見などを知り，環境の観点から人間の理解を深める．

授業の問題点

本年度は新型コロナ感染拡大の影響で，対面授業に出席できない学生も生じることを想定して，あらかじめ講義資料を PowerPoint 形式で作成し，Teams に upload した．対面授業に出席できない場合には資料を読んで課題をメールで提出することを求めた．対面授業の出席者に対しては，その PowerPoint スライド（プリントアウトしたものを資料として配布）を中心に進めた．PowerPoint による授業の進行は確かに効率的であったが，どうしても聴くだけになり，注意が集中できなくなってしまうので，板書による講義も合わせて行った．スライドと板書の兼ね合いが難しく，今後は工夫がいるだろう．

学生の授業満足度

授業評価は 5 件法の評価で 2 項目を除いて 4 以上であった．評価 3 が neutral point であるので，ある程度は満足してもらえたのではないかと思う．

授業改善の課題と方策

授業評価は“授業外学習(予習や復習など)をしましたか”，“質問や発言をしましたか”の 2 項目のみが 4 未満であった．高学年における少人数のゼミや演習では，発表する学生が十分に準備をしたり，学生が意見や質問をしたり，ディスカッションすることが多くなるが，人数の多い講義形式の授業では，この 2 点を改善することがなかなか難しい．しかし，学生が質問をしたり意見を言える状況を作っていく必要があろう．

その他

今年は新型コロナ感染拡大に伴い，学生も出席できない状況が生じたりしたので，授業の進行がスムーズにいかない面も多かった．それにもかかわらず，学生は適応的に授業，学習に参加してくれたので有り難かった．

授業改善書

科目名	認知心理学
担当者	山下利之

授業の概要

人間の情報処理は低次から高次なものへ，感覚，知覚，認知と分類される．すなわち，認知とは人間の最も高次な情報処理を意味しており，認知心理学は主として情報処理の観点から人間の認知過程を論じる研究領域である．本講義では，感覚・知覚・認知の関係，言語・概念，記憶，感情，問題解決を中心に論じ，人間に対する理解を深める．

授業の問題点

本年度は新型コロナ感染拡大の影響で，クラスを 2 グループに分けて，自宅学習グループ（オンデマンド型）と対面授業グループを隔週で交代して授業を進めた．前期でも同様の形式の授業を経験しているので，スムーズに進められたと思う．資料を PowerPoint 形式で詳細に作成したので，おおむね分かりやすいという評価であった．学生によって情報環境が異なるので，自宅学習グループに対する課題設定を比較的単純なものにしてメール提出としたが,今後はより考えさせる課題を設定することが望ましいと思われる．対面講義は，Teams にアップした PowerPoint スライド（配布資料も作成）を中心に進めた．PowerPoint による授業の進行は確かに効率的であったが，どうしても聴くだけになってしまうので，板書による講義の比率も今後はより増やすようにした方がよいと思われる．

学生の授業満足度

認知心理学で取り上げる問題は我々の日常的な認知処理に関係していることが多いために，関心を持って授業に参加していたと思う．そのためにある程度の満足度を持ってくれたと思う．

授業改善の課題と方策

認知心理学は大きく分けると，言語・概念，記憶，問題解決，感情という研究領域に分けられる．しかし，今期は自宅学習と対面授業の 2 グループに分けて授業を進めたので，例年に比べて，認知心理学の全領域を講義することができなかった．今期のような状況が何度もあるとは思われないが，状況に応じて講義内容を厳選していくことも今後は必要であろう．
「質問や発言をしましたか？」に対する平均評定値が低くなっている．少人数のゼミや演習では学生による意見や質問，ディスカッションが成立しやすいが，多人数の講義形式の授業ではなかなかうまくいかないので，毎年の課題である．

その他

今年は新型コロナ感染拡大に伴うオンライン授業の導入，グループ分けした隔週参加の対面授業など，学生，教員ともに今まで経験したことがない授業展開であったにもかかわらず，学生は適応的に授業，学習に参加してくれたので有り難かった．

授業改善書

科目名	西洋思想史
担当者	山城貢司

授業の概要

本コースでは、古代ギリシア哲学の思想史的展開を重点的に学習した。通常あまり時間をかけることのないソクラテス以前の思想家について、割と詳しく解説したのが特色であると言えるだろう。その分ソクラテス・プラトン・アリストテレスの話がやや駆け足になってしまった。時折、古代ギリシア哲学以降の西洋思想の展開についても簡単に言及したが、体系的な説明を与えることは叶わなかった。加えて、初回と最終回では一神教の歴史と思想を概観した。

授業の問題点

シラバスでは、西洋思想史を古代から現代に到るまで一通り学ぶ予定にしていたが、本コース開始後まもなく、それが授業進度の関係上、実現不可能な計画であることが判明した。結果として、近現代哲学に関心のある学生の希望を満たすことができなくなってしまったのは、完全な見込み違いだったと言わざるを得ない。しばしば説明のペースが早くなりすぎたことや、必ずしも要領を得ない解説をしてしまうことがあったことは否めないだろう。パワーポイントや配布資料についても、必ずしも学生にわかりやすい形で提示できていなかったようである。もともと気分にムラのある性格のせいか、体調が悪い日の講義の質が明らかに落ちてしまったことも反省点である。インテラクティブな形での学びを志向したものの、その場の流れで授業を進めてしまいがちだった。

学生の授業満足度

一応及第点には達したと判断するが、まだまだ改善する余地はあると思われる。内容自体は興味深いと思ってもらえたようであるが、伝え方には関しては少々不満の残る形になってしまったのかもしれない。

授業改善の課題と方策

基本的なことではあるが、まずは落ち着いてはっきり話すことを心がけるべきだろう。コースの内容に関しては、無理のない形で計画を立てることが必要であるのは疑いない。そのためにも、論点を絞って各回の講義を組み立てていくことに留意したい。また（ある程度柔軟性を犠牲にしてでも）授業で話す内容をもう少しきっちり決めてかかった方が良いだろう。パワーポイント資料をもっとわかりやすい形に作り直すことも必須であると思われる。学生がよりスムーズに理解することができるように、議論の流れや具体例を工夫するなどして、話の内容をもっと噛み砕くように努力したい。

その他

もとより大学で講義を担当すること自体初めてで、秋学期を通じて試行錯誤の連続であったが、問題点も改善策も共にはっきり認識することができた。この経験を踏まえた上で、来年度以降の授業づくりに生かしていく所存である。

授業改善書

科目名	異文化コミュニケーション
担当者	吉村貴之

授業の概要

現代の国際社会を考えるうえで、異文化接触や多民族共生の問題は重要である。本講座では、異文化コミュニケーション論の理論を学んだうえで、ユーラシアにあった前近代の世界帝国や近代の多民族国家の歴史を紐解きながら、様々な出自を持つ人々の共存のあり方を探る。

授業の問題点

この講座は専門科目でありながら、言語・コミュニケーション領域、史学・文化領域双方にまたがるばかりでなく、年度によっては他学科の受講生も出席するため、いずれの領域の学生にも関心をもってもらうよう配慮しないといけない点が難しい。

学生の授業満足度

年々満足度が上昇していることがアンケートからうかがえるが、さらに学生の興味を引き付けるような視聴覚教材を増やすつもりである。

授業改善の課題と方策

昨年度あたりから、視聴覚教材を使う回数を増やしたものの、今年度は機材のトラブルが多く、時間を浪費し、その分、後半の事例研究は、講師が一方的に話すことが多かったうえに、最後は駆け足の解説となった。実際、視聴覚教材は、学生からも反応が良かったので、今後は多少解説事項を減らしてでも、無理のない講義運営を心掛けたい。

その他

授業改善書

科目名	東洋史特論Ⅱ
担当者	呂　夢

授業の概要

講義は、古代から近世までの中国の歴史を、王朝の正統性がいかに構築されてきたかに焦点をあてて進めていく。中国では、いつの時代においても為政者たちは自らの支配体制の正統性を証明する必要に迫られており、その「正統性の構築」という視角を軸に、中国の前近代史を政治史と物質文化史という二つの視点から時代背景とともに捉えていく。講義は「古代から中世へ」（第2回～第5回）、「多元と統一」（第6回～第8回）、「中国と東アジア」（第9回～第11回）、「中世から近世へ」（第12回～第14回）というように、大きく四つのテーマに分け、正統観念の変化とともに起きた社会動向と制度の変遷、さらに物質文化の変化を明らかにしつつ、正統観念および関連する制度の東アジア周辺諸国への拡散と受容についても触れる。

授業の問題点

本授業はオンデマンド型授業であるため、授業時の学生とのインタラクションが十分ではないことがある。この問題を解決するために、平常点として学生が授業に関する質問や感想をコメントペーパーに記入してメールで送り、教員が返信するという形で交流の体制を整えている。しかし、対面授業に比べメールによる交流には限度があり、授業のビデオを視聴している学生の反応をリアルタイムで把握できない。コロナ禍が収束して来年度の授業が対面授業に戻れば、この問題は自然に解決できると考えている。

さらに、中国史に関する内容がやや多いため、授業内容について再検討する必要がある。特に、近世部分の歴史を詳しく話すためには、3回の授業では足りない。一部の内容をほかの部分に移動し、まとめて話せるように準備する必要がある。

学生の授業満足度

授業アンケート集計結果により、授業中の質問・発言と授業外学習の部分が弱いことが分かった。既述のように、オンデマンド型授業には限界があり、授業中に学生とのインタラクションが不十分である。来年度の授業では、学生の反応に十分注意して、この欠点を補う必要がある。さらに、本授業には指定の教科書がなく、毎回授業のレジュメと参考資料によって予習や復習をする仕組みであるが、授業外学習に対しては内容が不十分であると考えている。

授業改善の課題と方策

改善すべき課題は以下の3点である。

まず、授業中のインタラクションについて、来年度の対面授業では学生が発言をする機会を意図的に設け、インタラクションが活発な授業を目指す。

次に、授業外学習について、参考資料としての書籍や番組、動画をさらに紹介するつもりである。単純な予習や復習ではなく、興味があれば、学生が自分でも関連資料にアクセスできる仕組みを整える。

さらに、授業内容の配分について、1月に提出した令和3年度のシラバスに示したように、近世部分の授業計画を少し変更した。第12回の「唐宋変革」の内容を第8回あるいは第9回の唐代部分に移しても問題ない。さらに、「まとめ」の部分を少し省略して、第14回の「宋代以降の物質文化」を第15回の授業に移しても問題ない。このように、近世部分を増やして、授業内容のバランスをとるつもりである。

その他

特になし。

非常勤講師

経済経営学部

授業改善書

科目名	宿泊業経営論
担当者	李　孝連

授業の概要

本講義は、宿泊産業(主にホテル)の経営に関する理解を高めることが目的であった。そのため、日本のホテルと海外のホテルの事例を比較しながら宿泊業におけるビジネス環境について考察し、各ホテルの特質に応じた経営政策について学習した。また、ホテルが持つ機能の理解と、経営システム及びマーケティング戦術等について理解を深めるとともに、宿泊業のホスピタリティーやマナーについて具体的な事例を用いて講義を行った。

授業の問題点

・学生の授業外学習（予習や復習など）の時間が想定より少なかった点
・授業中、学生の質問や発言が少なかった点

学生の授業満足度

・「授業の内容はあなたにとって得るところのあるものだったか」⇒　4.17
・「全体的に振り返って、授業に満足できたか」⇒　4.25

上記のアンケート結果からみると、学生の授業満足度は、比較的に高いほうであると考えられる。実際、授業では学生の反応や授業内容の理解度合を把握しながら授業を行ったが、授業中の態度をみても、学生の殆どが目をキラキラしながら授業に参加していた。今回の結果を参考に、来年度の授業に備え、既存の授業方法を活かしつつ、さらに学生が授業に集中できるよう、授業内容を補完していきたい。

授業改善の課題と方策

・学生の授業外学習（予習や復習など）の時間が想定より少なかった点
→　学生が予習と復習に時間を使う習慣を身につけるよう、可能な限り課題を提出し、課題に対するフィードバックを行う時間を設ける。

・授業中、学生の質問や発言が少なかった点
→　毎回の授業で質問を与えて発言を誘導してはいたものの、学生の自主的な質問や発言が少なかったことに対する方策として、授業の流れを崩さない範囲で、まず、教員の質問に対し、学生が発言するまで、十分な時間を設ける。

その他

・「スライドを回すのが早く、追いつけなかった。」という学生の意見
→　毎回の授業の最後に、その日の授業に関する学生からのフィードバックを書いてもらっているが、このようなコメントがあったため、その学生のためにスライドを少しゆっくり回したら、逆に他の学生から「スライドを回すのが遅い」という意見が出た。何十人の学生を対象に行う授業であることを常に考えながら、その都度、学生の反応を察知しつつ、授業進行の速度を調節していきたい。

授業改善書

科目名	**情報科学史**
担当者	**伊藤 裕二**

授業の概要

授業では、現在身の回りにある情報科学・技術及び近い将来主流となり得るものを中心にその歴史的背景としくみについて講義した。コロナ感染防止のため対面・オンライン講義を交互に行うハイブリッド型を採用したのに伴い、従来のシラバスを必要に応じて修正した。特に、例年実施していたマルチメディア分野の体験学習(ホームページ制作、初級プログラミング、フォトレタッチから選択)は学習内容から除外した。

授業の問題点

本年度は授業内容、授業方法、授業全体に関して平均評価点 4.3 ポイント程度の比較的高いレベルを維持できた。昨年度の平均評価点 4.0 ポイントを上回る結果となったが、評価が低かった項目について早急に対策が必要である。問題点として以下２点を採り上げる。

1) 学習態度の「質問や発言をしましたか」の点数が昨年度同様 2.98 と低かった。実際、自発的に質問する学生は例年通り一回の講義で一名もしくは皆無であった。昨年評価が大きく下がった「授業内容への関心」(評価 3.57→4.35)、「授業・資料の分かり易さ」(評価 3.65→4.31)については改善策の効果が出てきていると考えられる。

2) アンケート結果に反映されていないが、今期コロナ感染防止策として完全オンラインコースを設け 8 名が履修したが修了したのは２名のみであった。主体であるハイブリッド型授業の方を優先したため完全オンライン履修生へのフォローは疎かになっていたと認めざるを得ない。次年度以降も同様の感染状況が続き同コースを設ける場合は中途脱落を抑えるための策を講じる必要がある。

学生の授業満足度

「授業で得るものがあったか」「授業に満足できたか」の質問に対して学生から平均 4.2 ポイントと比較的高い評価を得た。昨年度の平均評価点 3.7 ポイントからは改善傾向にあり、次年度以降引き続き改善に努める。

授業改善の課題と方策

上欄授業の問題点に対する授業改善策を以下のように考える。
1) 一連の現象を[講義内容が分からない→関心がなくなる→質問・発言しない]という連鎖の結果であると仮定して複数年取り組んだが成果が見られなかった。次年度は、従来のインプット主体の講義から積極的にアウトプットを取り入れる。具体的には毎回講義でオンライン小テストを活用して理解度を把握することから始める。また、小テスト終了即正解を示すことで質問・発言に匹敵する学習効果を狙う。

2) 完全オンラインコースでは対面授業で用いている講義資料を提示して関連する課題レポートを計８編提出する方式で進めた。修了できなかった６名(コース履修者の 75%)の学生は全て 1 回目の課題で脱落しており、1 回目の課題をクリアした２名はその後難なく修了した。このことから次年度は講義資料の補足説明を追加する等の対策を講じ、初期導入時のフォローを心がける。

その他

年々出席率の二極化が顕著になってきている。本年度は出席回数不足の理由で期末定期試験を受験できなかった学生が過去最高 40%に達した(111 人中 44 人)。シラバス情報開示により受講ミスマッチを防止するとともに次年度も講義開始・導入時期の雰囲気づくりに努める。

授業改善書

科目名	キャリアデザインⅡ
担当者	井島由佳

授業の概要

企業研修・公務員研修の実務経験とキャリアカウンセラーとしての実務経験から、就職や公務員、教員試験などに向け、「就職活動」の準備期間として必要な知識や情報を取り入れていけるよう講義と演習を行います。そして、就職活動を始めることを目的として、その先に必要なことを考えるために、ワークやグループディスカッションなどを行っていきます。最終的に、自分の目標設定が明確となっていくよう指導をしていきます。

授業の問題点

今期は全てオンライン（オンデマンド）で実施しました。毎回実施される「出席アンケート」の項目に質問欄を設けていましたが、質問は非常に少なかったです。オンデマンドであったという特性もありますが、もう少し誘導してもよかったのではないかと考えます。
個別にメールで来たものには全て対応しました。
課題について、出席者の多くは提出しました。書いている場面に立ち会えないため、全体へのフィードバックに留まったところが残念でした。

学生の授業満足度

アンケートの回答者が少ないため、断言はできませんが、回答者の多くは授業内容・方法ともに比較的満足であったと言えるポイントでした。3 年生にとっては、就職活動目前であり、2 年生にとっては準備として受け取っていただけたと考えます。
毎回、何がテーマであるかを示していたことも要因であったのではないかと推測します。

授業改善の課題と方策

オンデマンドと対面での大きな違いは、グループワークとロールプレイができないことです。キャリアデザインⅡは、グループディスカッションや集団面接のロールプレイをするように組んでいましたが、今期はそれができませんでした。各自、想定質問に対する回答を考えてもらう形で実施しました。3 年生を対象にリアルタイムオンラインで面接演習を募集しましたが、応募者はいませんでした。
教室で安全に実施できるようになりましたら、再開したいと考えます。

その他

今回から、各自に自覚を持ってもらうために、「欠席は自分で管理すること」と伝え、自分が「何回欠席していますか？」という質問は受け付けることはできないとしました。その結果、1 名は管理不足の学生がいましたが、大勢の学生がきちんと管理できていました。
社会人になれば、自分の欠席は有給を越えれば給与削減に関わってきます。それを人事に毎回確認することは評価が下がるため、学生のうちに自覚を促すことは大切だと考えます。

授業改善書

科目名	原価計算論Ⅱ
担当者	江頭幸代

授業の概要

前期の「原価計算論Ⅰ」の授業では、費目別計算として材料費、労務費、経費の計算、部門別計算（直接配賦法、相互配賦法、階梯式配賦法）を学習した。それに引き続き、後期の「原価計算論Ⅱ」の授業では、主に「総合原価計算」について学習する。大量生産の製品に適用される「総合原価計算」では、仕掛品原価と完成品原価の計算が授業のメインテーマとなる。応用場面として、工程別総合原価計算、組別総合原価計算についても学習する。

授業の問題点

学生の出席状況も授業態度もよかったので特に問題ない。

学生の授業満足度

学生の満足度も高いので、次年度以降も同じペースで授業をしようと思う。

授業改善の課題と方策

特になし。

その他

特になし。

授業改善書

科目名	**スポーツ文化論**
担当者	**齋藤　うい**

授業の概要

本授業の目的は、最広義に理解されるスポーツ（気晴らし、遊びを含む）について、スポーツと文化の関係性から、スポーツが社会的に構成される文化であることの理解を深め、今後のスポーツのあり方や可能性、課題などを自発的に見出すことです。特に心がけている点は、現代スポーツの諸問題に焦点を当て、学生が現代スポーツの成立から社会におけるスポーツのあり方について、視野を広げられるような授業展開を考えていることです。

授業の問題点

日常生活では、「する・みる」の観点からスポーツと関わりをもっていると思いますが、本授業では、座学を通してスポーツの歴史や文化を「学ぶ」という観点を重視し、社会や文化と、様々な関係性からスポーツの理解度を高めることを心がけています。しかし、スポーツの歴史は古代時代にまで遡るほど深く、また社会とスポーツ、制度とスポーツ、政治とスポーツ、教育とスポーツなど、スポーツを扱うテーマは広範囲であるため、授業内で例示する事例や事象が広義になってしまう点が問題点です。

学生の授業満足度

今年度は、新型コロナウィルスの影響から、オンラインでの自己学習型にて行いました。資料は、なるべく対面授業での質を保つよう、授業スライドをただ公開するだけでなく、対面授業の際に口頭で説明していた内容をなるべく全て文字に起こし、スライドに記載しました。オンラインでは学生の対応等、すぐに確認はできませんが、メールでの問い合わせにはなるべく早く回答するよう心がけました。アンケート結果では、授業内容・授業方法については比較的満足しているとの意見がでていました。

授業改善の課題と方策

今年度オンラインでの自己学習型という授業スタイルをとりましたが、さほど対面授業と変わりなく、例年通りに授業を行えることがわかりました。毎回の授業ごとに学生に提出を依頼していたリアクションペーパーにおいても、授業内の限られた時間で書かせるより、内容が充実していたと思います。しかし、本授業は最広義に理解されるスポーツがテーマであるため、通常の対面授業でも、学生の理解度を高めていくことに試行錯誤しています。したがって、また自己学習型で実施する際には、その点について検討していきたいと思います。

その他

例年の対面授業同様に、自己学習型においてもリアクションペーパーを提出させました。座学でのスポーツは、スポーツの事例・事象から「何が読み解けるのか」という観点が非常に重要であり、授業から得られた知識をどのように自分自身の考え（問い）として導きだすかが問われます。そのため、リアクションペーパーに取り組ませることは、自分自身の考え（問い）を再考する良い機会だと考えています。対面授業では、授業の残り時間を使って書かせていましたが、今年度は提出に 1 週間という長い時間を設けました。その結果、リアクションペーパーの内容が、例年よりも充実していたように感じます。提出期限まで時間がある分、学生もゆっくりと問題に取り組めたようです。この点に関しては、今後もこの質を維持できるよう継続していきたいと思います。

授業改善書

科目名	マーケティング・リサーチ
担当者	佐藤　正弘

授業の概要

全体的に数値が高く、特に問題はないものと思われる。

授業の問題点

強いて挙げれば、授業外学習時間が他の項目よりも数値が低かったこと。

学生の授業満足度

授業満足度は 4.56 と非常に高い数値だった。

授業改善の課題と方策

来年度は、授業外学習時間を増加させるために、小レポートの回数を増やすなどの対策を行っていく。

その他

授業改善書

科目名	人的資源管理
担当者	高橋哲也

授業の概要

労働全般に関して講義した。特に企業において我々がどのような立場であり、どのように管理されるのか、そのことについて学生目線からで理解できるように映像資料を用いて説明した。経営学というと管理主体側の説明が多いが、管理対象としての労働者自身の立場から考えなければならないことの理解を促した。

授業の問題点

15 回という半期の内容であるため、講義内容をかなり圧縮して行わなければならない。個人的な見解であるが、通年 30 回で伝えるべき内容になっていると思われる。半期では短大水準の内容にとどまってしまっている。重要箇所は押さえているが、やはり説明不足になっている可能性は否めない。講義は映像資料と配付資料を用いて行っており、出席している学生は集中して取り組んでいると思われる。

学生の授業満足度

授業アンケートを見ても、概ね良好な反応であった。就職活動を控えた学生にとってはこれからの自分の選択に関わる内容であるため真剣に聞いており、質疑の反応も良かった。また企業や仕事への間違った思い込みもあったが、そのあたりの誤解も解くことができていると思われる。

授業改善の課題と方策

今年度に関して言えば、留学生のリモート受講があったが、学力不足もあり最後までたどり着けない結果となってしまった。配付資料には音声配信も含め手厚いフォローも行ったが、残念な結果となってしまった。このあたりは学生への個別対応だけでなく、全学的なフォローがどのようになっているのかお聞きしたい点であった。

その他

「働く」という話題に対して毛嫌いしている学生がどうしてもいるように思われる。そのあたりを解きほぐす工夫はしていきたいと思う。

授業改善書

科目名	財政学
担当者	野村容康

授業の概要

租税政策、公債発行、社会保障、公共投資といった日本の財政問題を考えていく際の手掛かりとなるように、現実の制度を前提として、市場経済における財政の機能とその背後にある理論的な考え方について講義する。

授業の問題点

・「質問や発言した」のポイントが質問項目の中で最低のポイント（2.81）であった。
学生の発言を促す工夫が足りないとみられるものの、今学期はあえてコロナ感染対策として学生への質問を控えたため、想定内の結果であるともいえる。

学生の授業満足度

アンケートの結果、
「授業の内容はあなたにとって得るところのあるものでしたか」：4.35
「全体的に振り返って、授業に満足できましたか」：4.23
であったので、満足度は決して低くないものと推定される。

授業改善の課題と方策

2021 年度秋学期にコロナ感染状況が相当程度収束していれば、
① 受講者の理解度を把握するためにも、受講者への発問を促す
② 演習用の資料をより多く用意し、一人一人から回答と意見を聞くことで、双方向の議論を増やす
といった点を心掛けたい。

その他

授業改善書

科目名	生涯スポーツ論
担当者	馬場宏輝

授業の概要

スポーツ基本法においてスポーツは「国民が生涯にわたり心身ともに健康で文化的な生活を営む上で不可欠のものとなっている」と述べられているように、私たちは生涯に渡ってスポーツを楽しむ権利を有している。

そこで、生涯スポーツとは何か、生涯スポーツ社会とは何か、どのような背景によってその概念が生まれてきたのか、生涯にわたってスポーツを楽しむためにどのような環境整備が行われているのか等、生涯スポーツ実践のためにどのような知識や技能を備えておかなければいけないのかについて講義する。

授業の問題点

授業アンケートの回答項目の中で評価が低かったものは「２．授業外学習(予習や復習など)をしましたか」の、3.75　であった。

学生に大きな負担になるような授業外学習を課すことを避け、大きな負担にならない程度の授業外学習を課した為、このような結果になったと思われる。

学生の授業満足度

大学全体の平均値が提示されていないので比較はできないが、「１．授業の内容はあなたにとって得るところのあるものでしたか」は、4.58　であり、「２．全体的に振り返って、授業に満足できましたか」は、4.58　であったことから学生の授業満足度は高かったのではないかと推測する。

授業改善の課題と方策

今回の授業アンケートの回答項目の中で評価が低かったものは、「２．授業外学習(予習や復習など)をしましたか」の 3.75　であった。コロナ禍でオンライン授業等も実施されている中で、学生に大きな負担をかけない程度の授業外学習を心がけたが、次年度は、学習効果を高めるような授業外学習課題をさらに課していきたい。

その他

授業改善書

科目名	管理会計論Ⅱ
担当者	藤井博義

授業の概要

管理会計は、経営者が組織や個人の業績評価を行うために有用な会計情報を提供する会計である。本講義は管理会計の基礎的な知識の習得を目的として講義する。
　本講義ではただ単に管理会計の技法を扱うだけでなく、管理会計が歴史的にどのように発展してきたのか、組織や経営の変化とどういう関係にあるのかという観点も含めて説明する。できるだけ毎回講義に関する課題を課し、受講生の理解を深める予定である。

授業の問題点

今年度はオンライン（オンデマンド型）で実施したが、予想に反し、問題点は特になく概ね順調に進んだ。また、成果についてもアンケート、期末試験を見る限り、特段の問題点はない。

学生の授業満足度

今年度はオンライン（オンデマンド型）で実施したが、学生からの満足度も高く、また、対面講義より学生も必死に課題に取り組む姿勢が見られるなど、オンライン講義の良さを発見できた。

授業改善の課題と方策

上述のとおり、大きな問題点はないが、オンライン講義に 1～２回の対面での質問受付の日を加えることで、より学生の満足度が高まるのではと考える。

その他

授業改善書

科目名	経済政策論
担当者	舩木惠子

授業の概要

この授業は国民の生活を守るセイフティーネットとしての経済政策の仕組みや目的、その役割を基礎的学習からわかりやすく学び考える。特に後半では第二次世界大戦後の日本の経済政策の特徴を世界経済の影響や為替の変動、経済危機などの歴史的背景を加味して講義する。

授業の問題点

A.B.グループ分けにより対面授業が隔週となり、会話やディカッションの場が持ちづらかった。
オンライン授業の時には、毎回課題提出を義務付けたが、理解度の把握をするのが難しかった。

学生の授業満足度

メールを使用して課題提出を促したり、出席を促したり、時には提出物の内容について指摘したりとしたので、比較的個別にはコミュニケーションを持てたように自分では思っている。また学生の評価もそれほど低くはなかった。

授業改善の課題と方策

コロナ禍が収まった後は、具体的な政策を学生に提示して、学習内容に沿って分析、ディスカッションするなどの、アクティヴ・ラーニングを取り入れることを課題としたい。

その他

授業改善書

科目名	企業法Ⅱ
担当者	松田和久

授業の概要

株式会社に関する法規制（運営機関、組織再編）について、PowerPoint の配付資料を配付したうえで、講義担当者が解説した。また Teams のテストにより、講義内容の理解度を受講者自身が把握できるようにした。

授業の問題点

昨年度まではプロジェクターに映写した内容をノートに書き写し、講義担当者の説明を聞く形式で実施していたが、今年度は感染対策上受講者が 2 グループに分かれ、2 回分の講義内容を隔週で受講していたため、講義担当者の一方的な説明に終始した。

学生の授業満足度

アンケートを見る限り、受講者の満足度が高いように思われる。

授業改善の課題と方策

高い授業満足度を維持できるよう、今後も努めたい。

その他

授業改善書

科目名	観光マーケティング論
担当者	宮越雅明

授業の概要

マーケティングの基本を観光業界の事例に学び、どうすれば多くの人々を誘客・集客でき、観光関連消費額を増やすことができるのか、またそれらがどのように地域経済に貢献できるのかを考えます。あわせてマーケティング理論そのものも解説します。

授業の問題点

やはり対面・遠隔半々の授業は進み具合も含めていろいろ問題はありますが、コロナ下では仕方のないことと思います。学生にとっても課題はあっても次回対面まで１週間が空いてしまうため、大変だと思いますが不自由ながらよく授業に参加していました。

学生の授業満足度

「葉っぱビジネス」や「富士宮焼きそば」「道の駅」、アニメや映画の舞台・星空などによる地域活性化の例を、映像・画像の多いパワーポイントを使用し授業を実施しました。その結果がⅢの４．５２と４．３４のポイントと、一定の成果があったものと思います。
また授業方法についてもそれぞれの項目で４．４４以上の評価となっているのも良かったと判断します。

授業改善の課題と方策

パワーポイントの改善や映像を利用したことは、ある程度飽きない、興味がある授業になったのではないかと判断しますが、さらに研究して工夫したいと思います。
また予習・復習がうまく習慣化できるようにはどうすれば良いか検討中です。

その他

今後とも少しでも興味をもって授業に参加してもらえるよう心がけます。

授業改善書

科目名	エコツーリズム
担当者	宮越雅明

授業の概要

自然環境の保護・保全と観光ビジネスの両立の現状・問題点をいろいろな例（日本や海外のエコツーリズムの実態・国際的な環境保護関連団体の活動状況、観光関連企業および世界的な企業の環境への取り組み、オーバー・ツーリズムなど）を検討しながら、持続可能な観光とは何か、また SDG s について学びます。

授業の問題点

コロナ下での３密を避けるためのクラス分級は下段にも書きましたが、課題提出と授業の進み具合が連動しなくて正直苦労しました。
さらに対話形式が取れず、授業が一方通行になったきらいがあります。今回は特例のため仕方がないかもしれませんが。

学生の授業満足度

授業の内容・満足度は４．４４と４．２８で、一定の成果はあったのではないかと思います。エコツーリズムを含む環境問題は地球温暖化、食品ロス、海洋汚染、ゴミなどと身近な事柄であり、結構興味を持って参加していたように思います。

授業改善の課題と方策

環境問題というと堅苦しい印象を与えてしまうため、出来るだけ画像の多いパワーポイントを、時には映像も使用し、飽きないように進めました。多分その回答が、Ⅱ授業方法についての１、４．５０と２、４．５８ではないかと推察します。
コロナ下で分級になり、同じ授業を対面 A・B、半分は遠隔授業で実施するため、進み具合が十分ではなかったと思います。
今後の課題は対面・遠隔併用プラス一部オンライン希望にどのように対応すればいいのか考える必要があります。

その他

これからも学生が飽きない、わかりやすい授業を心掛けたいと思っています。

授業改善書

科目名	スポーツ心理学
担当者	向井香瑛

授業の概要

どうしたらスポーツ技術を習得できるか？といった基本的な問いから、熟練者と非熟練者の身体の使い方はどのように違うのだろうか？有効な練習方法は？メンタルトレーニングがスポーツ場面に及ぼす効果は？といった実践的な問いについて、一流選手と一般的な選手との比較や科学的実験に基づいたエビデンスを紹介しながら講義を行う。

授業の問題点

今年度は、全講義を遠隔授業で行った。したがって、学生とのコミュニケーションを最低限（課題の提出に関するやりとり）しか行うことができなかった。これは、「質問や発言をしましたか」の得点が低かった結果にも反映されている。また、第一回目の講義で学生の興味のある領域についてアンケートを取り、特に興味のある領域のみを取り扱って授業を行った。したがって、履修学生すべての興味を網羅するような講義づくりはできていない。

学生の授業満足度

「授業の内容はあなたにとって得るところのあるものでしたか」の得点は 4.86 点、「全体的に振り返って、授業に満足できましたか」の得点は 4.71 点と、比較的高い得点となっていた。これは、履修学生の多くがスポーツ競技の経験をもち、自分の体験と照らし合わせながら講義を受けることができたことが一因であると考えている。毎回の授業で提出を求めた小レポートにも、「現役の時に知っていれば、もう少し競技力を上げられたかもしれない」などのコメントが複数あったことからも、履修学生の興味と講義内容が合致していた可能性がある。

授業改善の課題と方策

遠隔授業により学生との密なコミュニケーションをとることができなかったことに対しては、もう少し気軽に学生・教員がやりとりすることができるような場（例えば、Zoom などで実際に対面して話しをする場）を設定する必要があると感じている。また、履修学生すべての興味を網羅するような講義づくりは、授業のところどころにコラムを織り交ぜるなどの工夫することができると考えている。

その他

特になし

授業改善書

科目名	情報機器の操作
担当者	劉　博

授業の概要

本授業では、情報機器とセキュリティ、オフィスソフトによる文章作成・データ処理・プレゼンテーション、インターネットを活用する情報収集・発信のための基本知識と技能を体系的に学べるように指導しました。

授業の問題点

アンケートの結果から、「質問や発言をしましたか」が比較的低い点数であることがわかりました。

学生の授業満足度

アンケートの結果から、「授業の満足度」に関する点数が 4 点以上となっており、学生がおおむね満足していると見て取れます。

また、受講生から「毎回の資料も先生の説明もわかりやすいと感じました。また、生徒への受け答えもとても丁寧だと感じました。」や「間に少し休憩タイムを入れて、間に合わなかったところをやったり、休めたりできて、スムーズに授業を進められた。」などのコメントをいただきました。

授業改善の課題と方策

アンケートの結果から、「質問や発言をしましたか」が比較的低い点数であったため、本授業の到達目標の（1）情報機器とセキュリティの基本を理解すること、（2）オフィスソフトによるビジネス文章作成・データ処理・プレゼンテーションを習得すること、（3）インターネットを活用する情報収集・発信のための基本知識と技能を習得すること、の３つに加えてよりアクティブに学習できる環境が実現できるよう、授業構成と教授方法の改善を積み重ねてまいります。

その他

特にありません。

授業改善書

科目名	経営財務論Ⅱ
担当者	劉　博

授業の概要

本授業では、金融システムと関連法規、株式会社の財務制度とその資金調達にかかわる基礎知識・計算技法および最新の動向を体系的学べるように講義しました。

授業の問題点

アンケートの結果から、「ノートやメモ等を取りましたか」が比較的低い点数であることがわかりました。

学生の授業満足度

アンケートの結果から、「授業の満足度」に関する点数が 4 点以上となっており、学生がおおむね満足していると見て取れます。

授業改善の課題と方策

アンケートの結果から、「ノートやメモ等を取りましたか」が比較的低い点数であったため、本授業の到達目標の「金融システムと関連法規を理解すること」、「株式会社の財務制度およびその資金調達にかかわる基礎知識・計算技法を習得すること」、の２つに加えてよりアクティブに学習できる環境が実現できるよう、授業構成と教授方法の改善を積み重ねてまいります。

その他

特にありません。

授業改善書

科目名	経営分析論
担当者	劉　博

授業の概要

本授業では、財務諸表（決算書）としての貸借対照表・損益計算書・キャッシュ・フロー計算書の基本知識および、企業の成長性・収益性・安全性など財務諸表分析の基本技法を体系的に学べるように講義しました。

授業の問題点

アンケートの結果から、「質問や発言をしましたか」が比較的低い点数であることがわかりました。

学生の授業満足度

アンケートの結果から、「授業の満足度」に関する点数が 4 点以上となっており、学生がおおむね満足していると見て取れます。

授業改善の課題と方策

アンケートの結果から、「質問や発言をしましたか」が比較的低い点数であったため、本授業の到達目標の（1）インターネットを活用して財務諸表をはじめとする企業経営情報の収集方法を習得すること、（2）財務諸表の基本用語と計算構造を理解すること、（3）財務諸表を用いた経営分析の基本技法を習得すること、の３つに加えてよりアクティブに学習できる環境が実現できるよう、授業構成と教授方法の改善を積み重ねてまいります。

その他

特にありません。

授業改善書

科目名	マクロ経済学
担当者	黒沢　義孝

授業の概要

マクロ経済学の内容や基本的事項について、現在の日本経済・金融の問題（長期経済停滞・アベノミクス）や世界がかかえる問題（米国トランプ大統領の経済政策及び FRB 議長・ECB 総裁の金融政策、EU の経済・新興国問題）を踏まえながら、GDP、インフレ/デフレ、財政政策、金融政策などの基礎知識及び主要なテーマについて経済学の分析ツールを使って日本や世界のマクロ経済を観察できるようにすることを目的として講義をすすめました。講義の理解を深めるために、毎回その日の復習としてライティング（ミニットペーパーと呼びます）をおこないました。

授業の問題点

今年度は学生にとっては対面授業と Teams による学習が各週ごとに行われましたので対面授業を受けなかった部分についての学生の理解が十分ではなかった。

学生の授業満足度

対面授業については学生が十に理解できたかどうかを確認しながら進め、理解できない部分については丁寧に繰り返し説明したので質問した学生の満足度は高かったのではないかと思う。

授業改善の課題と方策

質問をする学生は限られており、ミニットペーパーにはよく理解できていないことが判明していても質問しない学生が何人か（２０～３０%程度）いるので、このような学生にどのように対処するかについて考えてみたい。遅刻する学生が毎回３～４人おり、その学生の理解力が極めて低い（最初に講義内容の概要を説明してから詳細講義に入るので）ので遅刻しないようにする対策について何か工夫をしたい。

その他

授業アンケート集計に出ている各項目の点数をどのように理解すれば良いのか（何点くらいであれば学生の満足度は満たされているのいないのか）についてご連絡いただければ幸甚です。

授業改善書

科目名	生産管理論
担当者	菰田文男

授業の概要

本講義の基本的コンセプトは企業の競争戦略としての低価格戦略と高付加価値戦略のメリットとデメリットを解説したうえで、今日、矛盾するこの両者を同時に達成することが企業に求められていること、この矛盾を解決するために、人工知能、IOT、ブロックチェーンなどの新技術が導入されつつある現状を論じることである。
そのために、まず自動車業界の CASE 化の動き、銀行の新しい取り組みという二つの事例をとりあげて解説した。
次に、現在の IOT、ブロックチェーン、５G、人工知能などの動向について解説し、将来の全ての産業のシステムを大きく変えるであろうことを論じた。
さらにそれと関連して人工知能が奪うであろう仕事、逆に奪われない仕事などについても言及した。

授業の問題点

本講義では学生の理解が容易になるように、必ずパワーポイントを利用した。スライドも可能な限り一目でその意味が理解できるように、エッセンスを画像化して示すように努めた。さらに毎回、講義の内容を自宅で復習できるように紙媒体の資料を配付した。また、企業、新聞社等がアップロードしている動画は大変分かりやすく、資料的価値が大きいので、例年のように重視しているが、有線で接続するなどの煩雑性があり、十分に活用できない点もあったので、無線 LAN 接続なども検討したい。さらに、パワーポイントについてはプロジェクターが古いこともあり、解像度が悪いため、学生にとって見づらいことがあったようである。また、配付資料については、分かりやすく表現するために、図、写真などを利用したが、そうすると含めるべき情報量が制限されてしまうという問題もあり、バランスの取り方に工夫が必要である

学生の授業満足度

学生に対する授業評価アンケートについては、概ね例年のとおりであった。総体的に高く評価した回答および低く評価した回答と、勉学意欲の強さとの間には、かなり強い相関関係がみられると予想されるが、勉学意欲の強い学生と強くない学生の両者にとって同時に満足度を高めるように講義内容を設定することは、容易ではないことをあらためて痛感する。どうしても勉学意欲の強い学生を念頭においた講義内容になることは避けられないが、意欲に欠けている学生に対しても有益な講義内容とすることに努める必要がある。また、本アンケートとは別に、学期末テストでのフリー記述の中に、「自分自身の将来の進路を考える上で役立った」という叙述があり、このような姿勢の大切さを再認識した。

授業改善の課題と方策

パワーポイントの利用､配付資料、動画像の利用などは､初期の目的をある程度は達成できているようであるので､これをさらに改善し利用を続け､学生の企業経営への関心をさらに強く持ってもらうことを目指す。

その他

なし

授業改善書

科目名	証券市場論
担当者	米山徹幸

授業の概要

授業では、①日本や世界におけるお金の動き、②金融・証券市場の仕組みや役割、③株式や債券など証券の発行市場と流通市場、③投資信託の仕組み、その流通市場などの基本を学び、④企業と投資家の動向を追って、その課題を考えます。

授業の問題点

① 授業は対面式で行われました。各回とも講義向けの資料（PPT）を用意して基本をまとめ、関連する市場のトピックスや事例を紹介しながら進行しました。
⇒アンケートを見ると、「テキストなどの資料は適切でしたか」や「毎回の授業でテーマは明確にしめされましたか」は高い評価です。
⇒独自に作成した PPT 配布資料や関連資料の効用を確認できます。
② 「ノートを取りましたか」も高いスコアです。
⇒授業内容を熱心に追う学生が多くなっています。
③ 「授業外学習（予習や復習など）をしましたか」では、予習・復習に向けてレポートを複数回求め、授業でも取り上げていますが、学生は課外学習と思っていないのかもしれません。

学生の授業満足度

① 最初の授業で「関心のある企業」を書いてもらい、授業ではできるだけ名前の出た企業を取り上げました。
② 「毎回の授業は適切な内容や量でしたか」での高い評価は「授業の内容はあなたにとって得るところのあるものでしたか」や「全体的に振り返って、授業に満足できましたか」での満足度の高い数字として出ているようです。
③ 日経/ダウ平均、円ドル相場、日米企業の株価、日米 10 年国債の金利などを追うレポートで金融・証券市場の具体的な情報アクセスを学び、株式・債券・投信や投資家などについて小テストで理解を確認し、学習の結果が分かることから、高い関心が保たれたのでしょう。

授業改善の課題と方策

① さらなる授業改善のポイントは、「授業の進度を確認」しながら、授業内容の理解を図る点にあります。
② 具体的には、もっと学生たちが授業内容に沿って自ら発表や討論する場を用意し、参加するスタイルをめざします。
③ 「楽しい」授業で、証券市場の基本を学んでいきます。

その他